

茨城県教育財団文化財調査報告第441集

小馬様台遺跡 山王前遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和2年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第441集

こ ま さ ま だ い
小馬様台遺跡
さん の う ま え
山王前遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和2年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団



第40号炉穴



出土した茅山下層式土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業に伴って実施した、茨城県牛久市の小馬様台遺跡と山王前遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、小馬様台遺跡においては、これまで周知されていなかった古墳時代後期の古墳1基を検出することができました。また、山王前遺跡においては、縄文時代早期の竪穴建物跡や炉穴が多数確認でき、同時期の生活の一端を窺い知ることができました。

本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会をはじめ、御指導、御協力いただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 小野 寺 俊

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成29・30年度に発掘調査を実施した茨城県牛久市中町小馬塚台1616-3番地ほかに所在する小馬塚台遺跡、及び茨城県牛久市中町山王前310-3番地ほかに所在する山王前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成30年1月1日～3月31日
平成30年4月1日～12月31日
整理 平成31年4月1日～令和2年3月31日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
平成29年度
首席調査員兼班長 奥沢 哲也
次席調査員 作山 智彦
調査員 澤邊 雄太
平成30年度
首席調査員兼班長 本橋 弘巳
首席調査員 獅子内一成
次席調査員 野内智一郎
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。
首席調査員 獅子内一成
- 5 本書の執筆担当は、下記のとおりである。
首席調査員 獅子内一成 第1章～第4章第3節1(3)、(4)編集、(5)～第4節
バリノ・サーヴェイ株式会社 第4章第3節1(4)、(6)SK52補足、2(1)SI7・19補足
- 6 骨貝同定、塊状耳飾の石材鑑定、炭化材の樹種同定を、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果は、第4章第3節1(4)、(6)SK52、2(1)SI7・19に掲載した。
- 7 本書の作成にあたり、山王前遺跡の第22号土坑出土の土器型式について、牛久市文化財保護審議会副会長の齊藤弘道氏にご指導いただいた。
- 8 本書の作成にあたり、山王前遺跡の第1号遺物包含層68番の剥片、第1号道路跡の石祠の石材について、茨城大学名誉教授田切美智雄氏にご指導いただいた。
- 9 本書の作成にあたり、山王前遺跡の縄文時代早期の土器型式について、栃木県茂木町教育委員会生涯学習課埋蔵文化財調査員中村信博氏にご指導いただいた。
- 10 本遺跡の実測図・写真等の資料は、茨城県埋蔵文化財センターにて、出土遺物は牛久市教育委員会にて保管されている。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、小馬様台遺跡については $X = -4.160\text{ m}$ 、 $Y = +26.880\text{ m}$ の交点、山王前遺跡については $X = -4.400\text{ m}$ 、 $Y = +27.080\text{ m}$ の交点を基準点（A1a）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 FP - 炉穴 HG - 遺物包含層 PG - ビット群 SD - 溝跡 SF - 道路跡
SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TM - 古墳 TP - 陥し穴
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は小馬様台遺跡は500分の1、山王前遺跡は400分の1で、各遺構の実測図については原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・釉・被熱痕		火床面・燃焼部・繊維土器断面・黒色処理
	粘土・窠部材		柱当り・煤
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
----	硬化面		

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は[]を付して示した。
(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉、窠を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

山王前遺跡

変更 FP 1 → F35、PG 2 P 1 → PG 1 P 2、PG 2 P 2 → PG 1 P 1、PG 4 P 1 → SK126、PG 5 P 1
→ SI26 P 9、PG 5 P 2 → SI26 P 4、SX 1（平成29年度）→ 第1号段切欠遺構、SX 1（平成30年度）
→ SK127、石積塚 → SF 1

欠番 SI12、SK54、SK67、SK71、SK118、SK124

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
小馬様台遺跡・山王前遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 小馬様台遺跡	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	15
1 古墳時代の遺構と遺物	15
古 墳	15
2 江戸時代の遺構と遺物	19
道路跡	19
3 時期不明の遺構	20
(1) 土 坑	20
(2) 溝 跡	23
(3) 遺構外出土遺物	23
第4節 総 括	27
第4章 山王前遺跡	29
第1節 調査の概要	29
第2節 基本層序	29
第3節 遺構と遺物	30
1 縄文時代の遺構と遺物	30
(1) 竪穴建物跡	30
(2) 炉 穴	53
(3) 炉 跡	126
(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について	135
(5) 陥し穴	136
(6) 土 坑	137
第52号土坑 球状耳飾の自然科学分析	140

(7) 遺物包含層	158
2 古墳時代の遺構と遺物	168
(1) 竪穴建物跡	168
第7号竪穴建物跡の炭化材の分析	187
第19号竪穴建物跡の炭化材の分析	193
(2) 土坑	196
3 鎌倉・室町時代の遺構と遺物	198
(1) 段切状遺構	198
(2) 溝跡	200
(3) 土坑	201
4 江戸時代の遺構と遺物	202
道路跡	202
5 時期不明の遺構と遺物	205
(1) 炉跡	205
(2) 土坑	206
(3) 溝跡	207
(4) ビット群	209
(5) 遺構外出土遺物	209
第4節 総括	213
写真図版	PL 1～PL38
抄録	
付図	

こまさまだい さんのおまえ 小馬様台遺跡・山王前遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

小馬様台遺跡・山王前遺跡は牛久市南西部、牛久沼に注ぐ稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約24mの台地部及び谷津傾斜部に位置しています。一般国道6号牛久土浦バイパス新設に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成29・30年度に小馬様台遺跡の4,173㎡、山王前遺跡の7,904㎡について発掘調査を行いました。



小馬様台遺跡の調査の内容と成果

古墳時代の古墳1基、江戸時代の道路跡1条などが見つかりました。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器などです。

古墳は、周溝を含む外径が26mほどの円墳です。埋葬施設は1か所で、石



小馬様台遺跡・山王前遺跡 調査区遠景（南東から）

材が抜き取られていました。埋葬施設が墳丘南側の裾部近くに構築されていることから、古墳時代後期のいわゆる「変則的古墳」と考えられます。古墳の立地からみて、眼下に低地を望む台地縁辺部に位置していることも分かりました。当遺跡の周辺には、明神塚古墳や山王塚古墳などが築造されており、この地も古墳時代の墓域として利用されていることが分かりました。



古墳全景（鉛直）

山王前遺跡の調査の内容と成果

当遺跡は、台地部及び谷津傾斜部に位置しています。台地部を中心に、縄文時代早期の堅穴建物跡 15 棟、炉穴 95 基、隔し穴 1 基のほか、古墳時代中・後期の堅穴建物跡 10 棟、江戸時代の道路跡 2 条などが見つかりました。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、銭貨などです。

今回の調査で、縄文時代早期の堅穴建物跡と炉穴が同じ場所に存在する集落跡であることが分かり、特筆されます。炉穴は同じ場所に数回作り変えているものや、天井部が残っている煙道付炉穴も見つかりました。また、炉穴使用後の窪地に、食した貝を廃棄した地点貝塚や、石製品の球状耳飾けつじゅうみみかぎが出土した土坑など、この時代の集落を考える上で貴重な資料となりました。



検出した炉穴群

谷津傾斜部については、遺物包含層が大部分を占めていました。中世から江戸初期に機能していた牛久城の外部施設の一部にあたり、防御施設とみられる段切状遺構の一部も確認することができました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、牛久市において、一般国道6号牛久土浦バイパス新設に係る整備事業を進めている。

平成24年3月28日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに一般国道6号牛久土浦バイパス新設地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成24年4月17日に現地踏査を実施した。また、同委員会は、平成27年2月24日、平成28年3月1日、平成29年7月12・19日、9月14日、11月16日に試掘調査を実施した。

平成27年5月20日、平成28年3月23日、平成29年11月25日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに事業地内に小馬様台遺跡、山王前遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成29年11月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成29年11月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成29年11月28日及び平成30年2月26日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道6号牛久土浦バイパス新設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成29年11月28日及び平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、小馬様台遺跡、山王前遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成30年1月1日から3月31日まで及び平成30年4月1日から12月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

小馬様台遺跡の調査は、平成30年1月1日から3月31日までの3か月間と平成30年9月18日から11月29日までの約3か月間、山王前遺跡の調査は平成30年1月1日から12月31日の12か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成29年度

工程	期間		
	1月	2月	3月
調査準備 土構除 去確認	■		
遺構調査	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■
撤収			

平成30年度

工程	期間											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
調査準備 土構除 去確認		■	■	■	■							
遺構調査			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
撤収												■

■ 小馬様台遺跡 ■ 山王前遺跡

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

小馬塚台遺跡は茨城県牛久市中町小馬塚台 1616 - 3 番地ほかに、山王前遺跡は茨城県牛久市中町山王前 310 - 3 番地ほかに所在している。

牛久市は、茨城県の南部に位置し、標高 25 ~ 28 m の洪積台地である筑波・稲敷台地と、稲荷川や小野川、乙戸川、桂川水系の沖積低地からなっている。筑波・稲敷台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が樹枝状に入り込み、台地は複雑な地形となっている。牛久市の西部を北から南へ流れる稲荷川は、小野川からつくば市内で分流し、市の西端に形成されている牛久沼に流れ込み、更に小貝川へと合流している。

筑波・稲敷台地は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積し、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤としている。その層の上にシルト礫や軽石を有し、斜交葉理のある砂層・礫層である竜ヶ崎層、さらに粘着性の高い青灰色から灰色の火山灰質粘土層である常総粘土層、褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

両遺跡は、牛久市の南西部、牛久沼に注ぐ稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約 24 m の舌状台地上に位置している。遺跡が立地する台地の縁辺部には、樹枝状に入り込んだ谷津が発達した環境であるため、水利の便に富み、人々の生活活動の舞台として土地利用されたものと考えられる。調査前の遺跡の現況は、畑地、山林である。

第2節 歴史的環境

小馬塚台遺跡及び山王前遺跡が所在する稲荷川と根古屋川に挟まれた台地上や牛久沼東部の低地部、また、当遺跡から南西に位置する稲敷台地の端部が半島状に張り出した標高約 20m の若柴地区（龍ヶ崎市）は、古くから人々の生活が営まれてきた地域である。ここでは、「茨城県遺跡地図」²⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡の南西部、根古屋川の対岸に位置する城中 B 遺跡³⁾ (52) が挙げられる。平成 22 年に発掘調査が行われ、AT 層より下位の可能性をもつ珪質頁岩製のナイフ形石器が出土している。また、牛久沼西岸の細長い台地先端部に位置する泊崎城址⁴⁾ (77) では、黒曜石のナイフ形石器などが出土している。隣接する龍ヶ崎市の沖積遺跡⁵⁾ においては、頁岩を素材とした石器（船底形石器、搔器、削器）などが出土している。これら旧石器時代の遺跡は、小野川や稲荷川沿いの小支谷付近に多くみられ、その谷沿いか谷頭近辺に多い。このような場所は、人々が水を得るだけでなく動物などもよく集まる場所であり、水場は同時に狩猟場であったとも考えられる⁶⁾。

縄文時代の遺跡は、稲荷川左岸から牛久沼東部にかけての台地縁辺部で、縄文前期から晩期の土器が表面採取されている。城中貝塚⁷⁾ (11) では縄文早期から晩期の土器や石器、貝刃が出土している。また、山中貝塚⁸⁾ (59) においても、早期から前期の縄文鳥台式、茅山式、浮島式、諸磯 b 式などの土器が採取されている。当遺跡北部の田宮平遺跡⁹⁾ では、縄文時代中・後期（大木式・五領ケ台式・称名寺式）の土器片、石斧、磨石などを表面採取している。小野川・稲荷川流域の天寶喜貝塚、天寶喜 C 遺跡、小茎貝塚では、縄文前期から晩期の土

器が表面採取され、中でも天宮喜C遺跡では、広い範囲で縄文中期の土器（阿玉台式・加曾利E式）が確認された。また天宮喜C遺跡、小基貝塚では、呪術具と考えられる土版が出土している。

弥生時代の遺跡は、中期の遺構は少数であり、桜川村飯内遺跡で確認された再葬墓がある。また、中期後半以降の集落遺跡としては、美浦村笹山遺跡や龍ヶ崎市屋代遺跡、長峰遺跡がみられる程度である。当遺跡周辺では城中B遺跡があり、南関東系土器2点が出土している。

古墳時代の遺跡は、東城台遺跡〔51〕、湯崎遺跡〔55〕、勘定遺跡〔58〕、天神台遺跡〔60〕、市北部下根東彌穴地区のヤツノ上遺跡〔10〕、馬場遺跡〔11〕において、古墳時代中期の集落跡が確認され、この頃に突如いくつもの大集落が形成される様子が伺える。また、山王塚古墳〔3〕、明神塚古墳群〔4〕は古墳時代後期の築造として周知されており、明神塚古墳群では、複合口縁壺が後円部西側の周溝で確認され、本古墳の築造時期を示すものと推測された。大明神西遺跡〔17〕では、古墳時代前期から後期の土師器片が採集されている。古墳時代の遺跡は、大部分が河川あるいは河川から入り込んでいる支谷に面した舌状台地上や台地縁部に存在している。このことは水田を営営していた河川の後背湿地や、谷津に面した高燥の地を選んだことによると考えられる。牛久市域における集落の継続性をみると、古墳時代を通じて継続する集落はわずか2か所と少ない。発掘調査の行われた北部ニュータウンの遺跡群は、中期から後期初頭までの間に250棟の堅穴建物がつくられたが、その前後の時期の住居は10棟未満である。一方、牛久市の南部に位置する姥神遺跡〔12〕では、前期・後期の集落は存在するものの、中期の遺構は確認されていない。このような状況から、古墳時代の生産活動の中心は、稲作であったと思われるが、先祖代々の土地を守り続けるというのではなく、様々な契機に離合集散を繰り返してきた当時の人々の様子が伺える。

奈良・平安時代の当地域は、平安時代の承和年間（931年～938年）に源順によって撰修された『和名類聚抄』によると、河内郡河内郷に属していたと推定されている。牛久市域はその他に、信太群の子方郷、志万郷に属していたと推定されている。この頃の遺跡としては、城中B遺跡があり、堅穴建物跡が6棟確認され、当該期の土師器や須恵器も出土している。奥原に存在する姥神遺跡では、弥生時代から平安時代にかけての堅穴建物跡156棟や掘立柱建物跡が確認され、「仲止夫」「夫」「門」などの墨書土器や灰軸陶器宝珠硯などが出土している。また、稲荷川右岸から牛久沼東部にかけての一本榎遺跡〔18〕、大明神西遺跡、稲荷台遺跡〔10〕では、集落跡は確認されなかったが、土師器片・須恵器片が表面採取されている。

鎌倉時代になると河内郡は、公領の河内郡と大井荘に分かれ、当遺跡周辺は公領河内郡に属することになるが、その後、南北朝時代から室町時代にかけて小田氏の支配下となる。さらに時代を経ると、小田氏一族の岡見氏が台頭し、当遺跡から南南西へわずか約1kmほどのところに位置する牛久城を居城として、当地域を支配していく。岡見氏の支城として当遺跡周辺では、稲荷川左岸に東林寺城跡〔79〕、高崎城跡がある。戦国期、当地域は北条・岡見氏と反対勢力の佐竹・多賀谷氏が激しく対立した境目であり、戦国末期に至るまで合戦のやむことのない地域であった。また、中世の遺跡として明神遺跡〔12〕〔5〕では、16世紀から17世紀初頭までの掘立柱建物跡、堀跡、溝跡が検出されており、その時期に当たる施軸陶器が確認されている。この中世の遺構群は、牛久城の外郭部を構成する曲輪の一つである。台地を縦横に区切る薬研堀が確認され、その内側には建物の柱跡や土坑が密集している状況である。

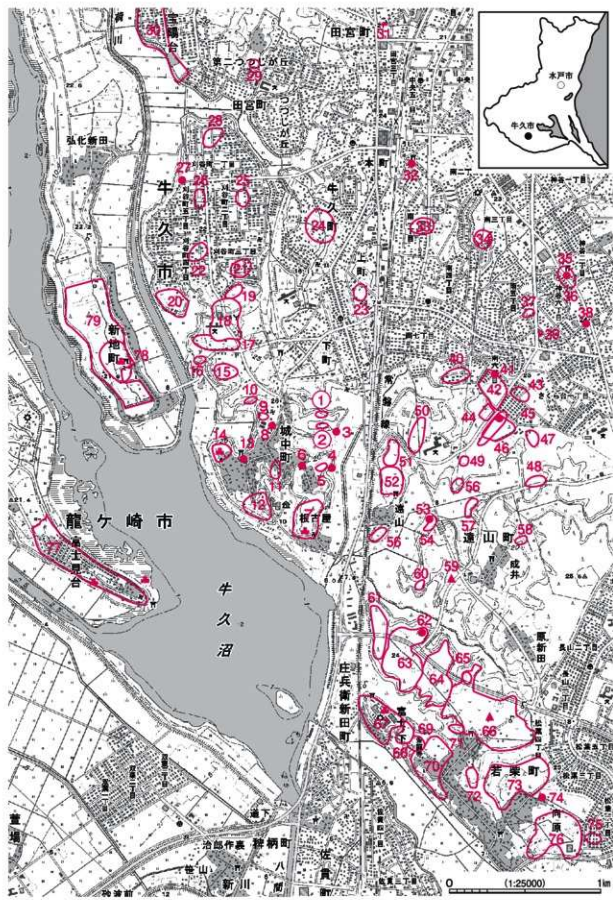
近世になると当地域は牛久藩となる。慶長6年（1601年）には、牛久城主であった由良氏に代わり、山口重政が初代牛久藩主となった。その後、重政は大久保長安事件で改易となるが、大阪の夏の陣などの功績により、再度牛久藩に任命される。寛文9年（1669年）には牛久藩二代藩主の山口弘隆によって、稲荷川左岸に牛久陣屋が築かれた。明治時代には、一時牛久県庁として利用されたが、新治県との統合によりその役目を終

える。現在は降屋城跡¹⁴⁾として土塁や空堀が見られ、当時の様子を偲ぶことができる。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の該当番号と同じである。

註

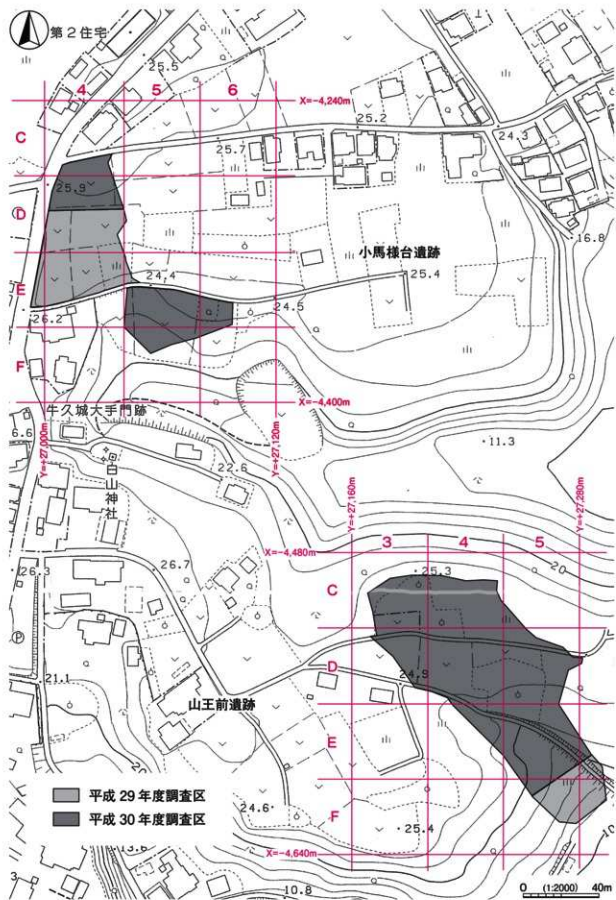
- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図 地図編』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 牛久市教育委員会「城中B遺跡 アンテナ基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『牛久市文化財調査報告第1集』2010年10月
- 4) 聖崎町史編さん委員会『聖崎町史』聖崎町 1994年3月
- 5) 渡辺俊夫『沖餅遺跡 竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書3』茨城県教育財団文化財調査報告第3集 1980年3月
- 6) 茨城県史編集委員会『茨城県史 原始古代編』茨城県 1985年3月
- 7) 牛久市史編さん委員会『牛久市史 原始古代中世』牛久市 2004年3月
- 8) 牛久市史編さん委員会『牛久市史料 原始・古代-考古資料編-』牛久市 1999年8月
- 9) 兼子博史『田宮平遺跡 都市計画道路田宮・中柏田線整備事業地内埋蔵文化財報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第410集 2016年3月
- 10) 小高五十二『ヤツノ上遺跡 牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（I）』茨城県教育財団文化財調査報告第81集 1993年3月
- 11) 白田正子『馬場遺跡・行人田遺跡 牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（IV）』茨城県教育財団文化財調査報告第106集 1996年3月
- 12) 註8と同じ
- 13) 牛久市教育委員会『明神遺跡 太陽光発電設備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』牛久市文化財調査報告第10集 2010年10月
- 14) 牛久市史編さん委員会『牛久市史料 近世I（牛久助郷一揆）』牛久市 2001年1月



第1図 小馬塚台遺跡・山王前遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の1「牛久」)

表1 小馬塚台遺跡・山王前遺跡周辺遺跡一覽表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	小馬塚台遺跡				○			41	甲塚古墳				○			
②	山王前遺跡	○			○			42	甲塚遺跡		○					
3	山王塚古墳				○			43	藤窪遺跡		○					
4	明神塚古墳群				○		○	44	甲塚B遺跡		○					
5	明神遺跡	○			○		○	45	桜塚古墳				○			
6	水神塚古墳				○			46	桜塚遺跡		○		○			
7	牛久城跡						○	47	中ノ台A遺跡		○	○	○			
8	愛宕神社古墳				○			48	中ノ台B遺跡		○					
9	谷田部宿遺跡	○						49	鳳王前B遺跡		○		○			
10	稲荷台遺跡	○						50	向台遺跡		○		○			
11	城中貝塚				○	○	○	51	東城台遺跡		○	○				
12	衛門廓遺跡				○			52	城中B遺跡	○	○	○	○	○	○	○
13	稲荷塚古墳				○	○		53	杉下古墳				○			
14	陣屋城跡						○	54	杉下遺跡		○					
15	水井神台遺跡	○			○			55	湯崎遺跡				○			
16	新地貝塚	○			○		○	56	鳳王前A遺跡		○					
17	大明神西遺跡	○			○	○		57	反町遺跡		○		○			
18	一本榎遺跡	○			○	○	○	58	勸定遺跡				○			
19	梶窪遺跡				○	○		59	山中貝塚		○					
20	弥平太遺跡				○	○		60	天神台遺跡		○		○			
21	刈谷遺跡	○			○			61	馬場台第3遺跡		○		○	○		
22	六万部B遺跡					○	○	62	馬場台古墳群				○			
23	北浦遺跡	○						63	馬場台第2遺跡		○		○	○		
24	大流遺跡	○						64	馬場台第1遺跡		○		○	○		
25	六万部A遺跡				○			65	馬場台塚							○
26	城中A遺跡	○	○					66	宮後貝塚		○					
27	刈谷古墳				○			67	八幡台城跡							○
28	石瓦遺跡	○			○			68	八幡作遺跡		○		○	○		
29	笹塚遺跡	○						69	八幡作貝塚		○					
30	天寶喜西遺跡	○						70	上町、見塚遺跡				○	○		
31	田宮一里塚						○	71	宮後、尾ノ作遺跡				○	○		
32	富士山古墳				○			72	砂田遺跡				○	○		
33	富士塚古墳	○						73	野中遺跡				○	○		
34	牛久遺跡	○	○		○			74	林古墳群				○			
35	蛇喰古墳				○			75	松葉塚群							○
36	河原代原遺跡	○						76	林遺跡跡		○		○	○		
37	貝塚台遺跡	○						77	泊崎城址	○	○			○	○	○
38	貝塚台古墳	○			○			78	身上遺跡		○		○		○	
39	神谷遺跡	○						79	東林寺城跡							○
40	南A遺跡	○														



第2図 小馬塚台遺跡・山王前遺跡調査区設定図（牛久市計画図2500分の1から作成）

第3章 小馬様台遺跡

第1節 調査の概要

小馬様台遺跡は、牛久市南西部、稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約23mの台地上に所在している。調査は2次に分かれて実施されており、平成29年度の調査面積は2091㎡、平成30年度の調査面積は2082㎡である。調査前の現況は畑地である。

調査の結果、古墳1基（古墳時代）、土坑20基（時期不明）、溝跡4条（時期不明）、道路跡1条（江戸時代以降）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に5箱分が出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高坏・器台・壺・甕）、須恵器（甕・提瓶）、土師質土器（内耳鍋）、陶器（碗・天目茶碗・皿・鉢・楕鉢・御神酒徳利）、磁器（碗）、土製品（管状土錘・土器片錘・紡錘車・泥面子）、石器（細石刃・敲石）、石核、剥片、板石片、金属製品（煙管）、銭貨（寛永通寶）、人骨片などである。

第2節 基本層序

調査区北東部（D4e0区）、調査区北西部（E6h3区）の台地平坦部にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

第1層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は15～25cmである。

第2層は、明褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～35cmである。

第3層は、明褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～30cmである。

第4層は、黄褐色を呈するハードローム層である。明黄褐ハードロームブロックを少量含む。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～35cmである。

第5層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は15～35cmである。

第6層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は20～35cmである。

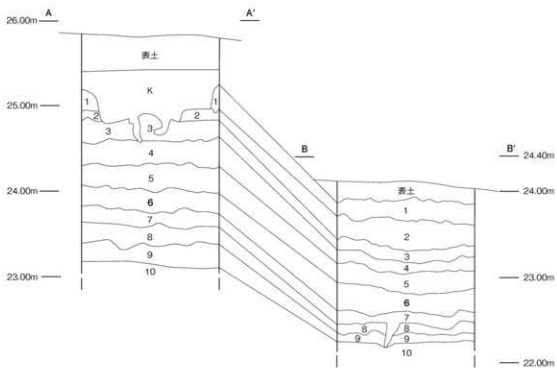
第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～40cmである。

第8層は、黄褐色を呈するハードローム層である。シルトを少量含む。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は10～30cmである。

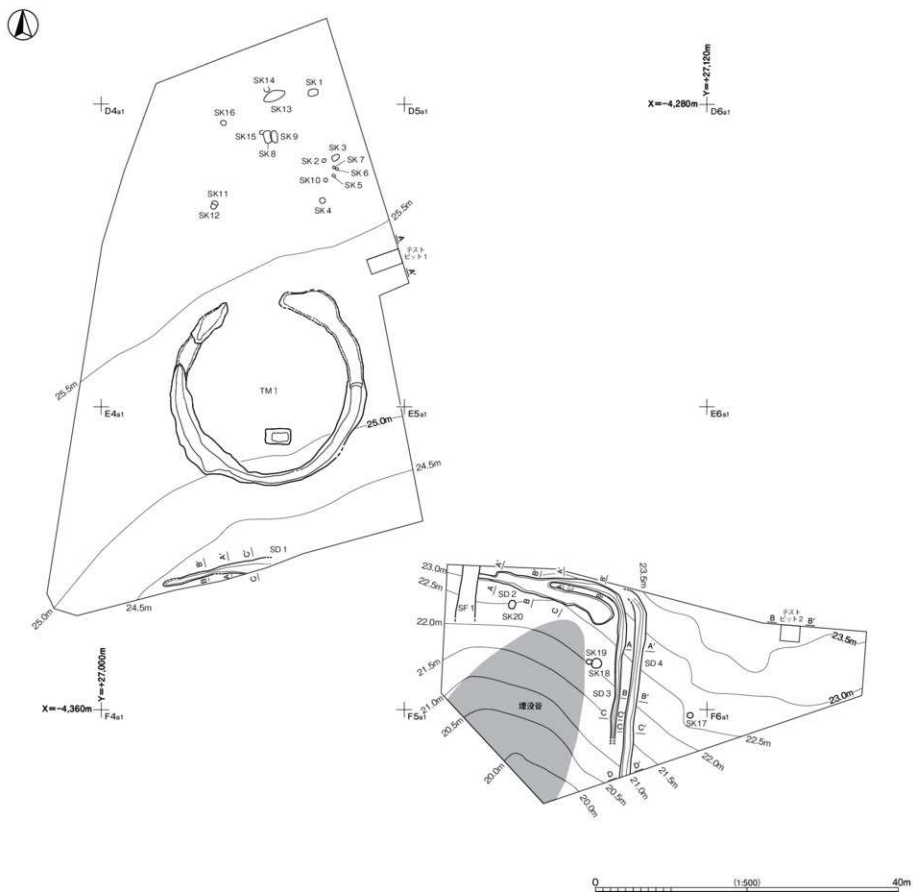
第9層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は7～30cmである。

第10層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。第10層の下層は未掘であるため、本来の層厚は不明である。

遺構は、主に第1層上面で確認した。



第3图 基本土层图



第4図 小馬塚台遺跡遺構全体図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では、調査区中央部において古墳1基を確認した。周辺には、古墳がいくつか確認されているが、当遺跡に古墳が存在することは、周知されていなかった。以下、遺構と遺物について記述する。

古墳

第1号墳（第5～7図 PL 2）

調査年度 平成29年度

位置 調査区中央部のD4g4～E4c8区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 墳丘から周溝上部にかけて削平されている。埋葬施設は、後世の土地改変によって攪乱され、石片が散乱している状況であった。

規模と形状 墳丘は失われているが、周溝の形状から円墳と考えられる。確認できた規模は、内径206m、外径260mである。

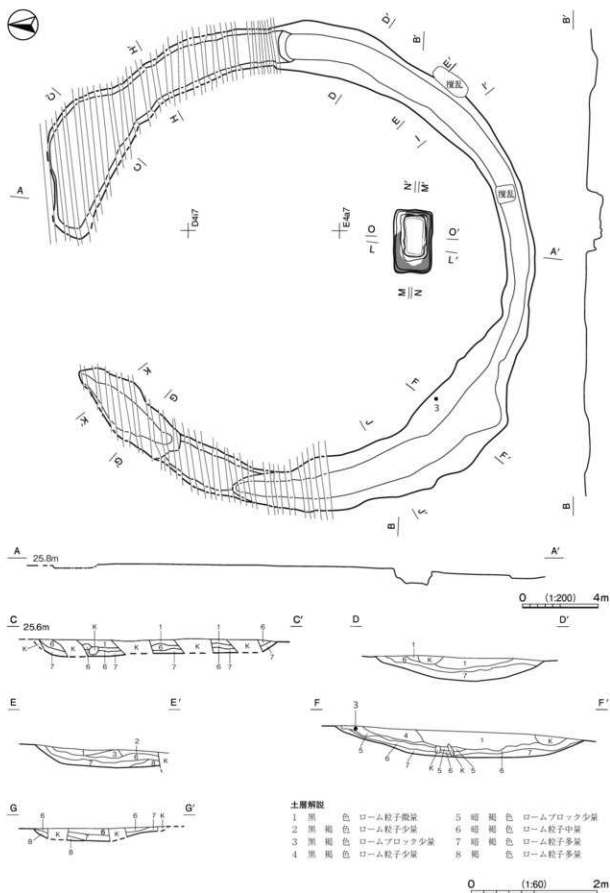
周溝 北部を除き、周回している。上幅1.5～4.0m、下幅0.5～3.4mで、深さは10～28cmである。外縁部は北東部及び南西部で大きく膨らみ、北東軸で3.90m、南西軸で4.10mと広がっている。底面は平坦である。壁は外傾しており、断面は浅いU字状である。

覆土 8層に分層できる。周囲から土砂が流れ込んだ堆積状況を示していることから、自然堆積である。第4・5層は墳丘からの流入土である。

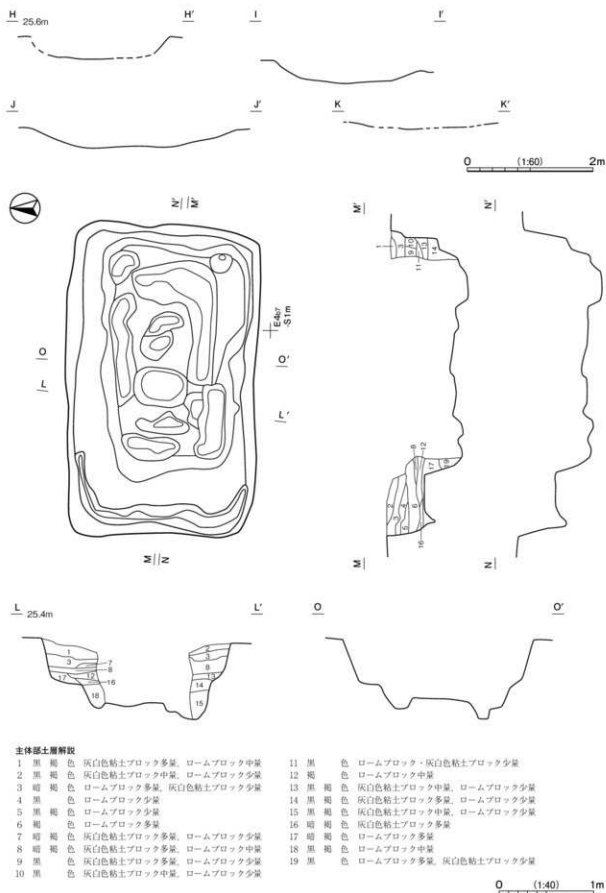
埋葬施設 墳丘南側の裾部近くに位置している。中央部は攪乱を受け、石材が抜き取られている状況であるが、箱式石棺であったとみられる。副石、床石等の状況は不明であるが、棺を固定していた層の断面から、副石はほぼ直角に立ち上がっているとみられる。掘方の規模と形状は、内法で長軸2.10m、短軸1.10mの長方形で、長軸方向は、N-92°-Eである。確認面から底面までの深さは73～84cmである。石材は雲母片岩を厚さ2～5cm程の板状に加工したものを使用し、周囲に粘土を充填している。掘方は、中に段を有し、確認面から40cmまでのところで北側と西側に平坦な面をもち、長軸3.28m、短軸2.02mの長方形に掘りくぼめている。さらに長軸2.50m、短軸1.38mの長方形に25cmほど掘り込まれている。壁際では副石を立てるために溝状に15cm掘り下げている。

遺物出土状況 土師器片49点（坏12、壺1、甕類36）、須恵器片4点（甕1、提瓶1、甕類2）、土師質土器片1点（内耳鐏）、板石片386点（雲母片岩）が出土している。1・2は周溝東側覆土中から、3は周溝西側の覆土上層から出土している。

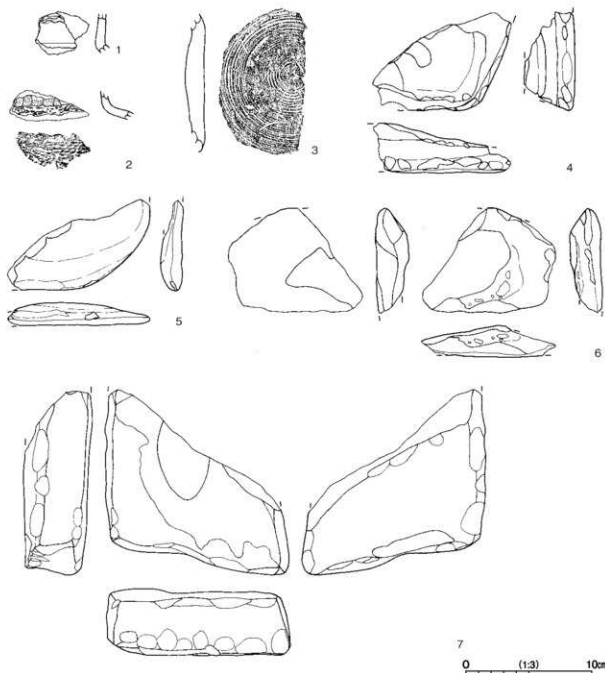
所見 墳丘は失われているが、主体部は南側の裾部に位置しており、いわゆる変則的古墳である可能性が考えられる。主体部の旧状は不明であるが、出土した石材と遺構の形状から箱式石棺が構築されていたと考えられる。副葬品については不明である。築造年代は埋葬施設の構築形態や周溝の出土遺物から後期の6世紀後半と思われる。6世紀末から7世紀前葉にかけて造営された変則的古墳の時期とも重なってくる。



第5図 第1号墳実測図(1)



第6図 第1号墳実測図(2)



第7図 第1号墳出土遺物実測図

第1号墳出土遺物観察表(第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須臾器	罎	-	(3.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	頸部に轆轤状工具による波状文	同墓東側 覆土中	5% PL. 3
2	土師器	壺	-	(2.4)	-	長石・石英	橙	普通	附加糸之種の縄文 頸部の左側に懸垂糸文	同墓東側 覆土中	5%
3	須臾器	提瓶	-	(10.9)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外面カキ目 内面に指痕	同墓内側 覆土上層	5% PL. 3
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	板石	(7.8)	(11.0)	(4.0)	(290.10)	雲母片岩	縞線部剥離痕		土体部 覆土中	PL. 3	
5	板石	(7.0)	(11.3)	1.8	(122.42)	雲母片岩	縞線部剥離痕		土体部 覆土中	PL. 3	
6	板石	(8.3)	(10.6)	(2.6)	(202.34)	雲母片岩	縞線部剥離痕		土体部 覆土中	PL. 3	
7	板石	(14.7)	14.7	5.4	(403.0)	雲母片岩	縞線部剥離痕		土体部 覆土中		

2 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、道路跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

道路跡

第1号道路跡（第8図 PL.2）

調査年度 平成30年度

位置 調査区南部のE5f2～E5h3区、標高22～23mほどの台地斜面部に位置している。

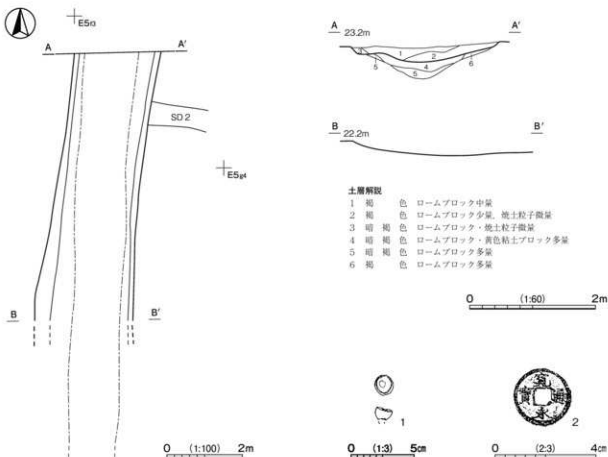
重複関係 第2号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外に延び、南側が削平されているため、長さは10.4mしか確認できなかった。浅いU字状に掘り下げられ、上幅2.10～2.56m、下幅1.85～2.05m、深さ48cmで路面の深さは28cmである。E5f2区から南方向（N-172°-W）に直線状に延びている。硬化面は幅1.25～1.40mを確認した。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4～6層は不規則な粘土ブロックの堆積であることから掘方で、人為に埋め戻された可能性がある。第4層上面は踏み固められ路面として使用されている。

遺物出土状況 金属製品1点（煙管）、銭貨2点（寛永通寶）が覆土中から出土している。

所見 硬化面は北側から南側に向かって緩やかに低くなっている。南方向へ直線状に延びる硬化面を確認していることから、道路跡と考えられる。地界を道として使用しており、時期は出土遺物から江戸時代と考えられる。



第8図 第1号道路跡・出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表(第8図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	標管	(1.5)	1.6	(1.0)	(1.7)	銅	火痕部	覆土中	

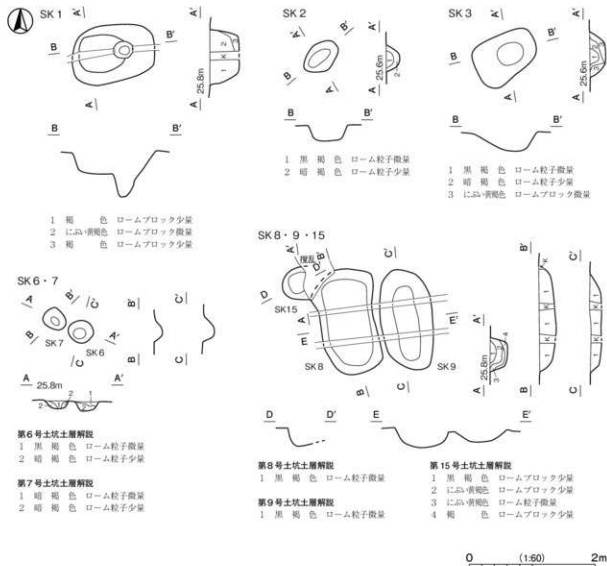
番号	種族	径	孔距	厚さ	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
2	黄水滲管	2.3	0.6	0.15	(9.5)	鉄	1739	元文開電戸銭	覆土中	PL 3

3 時期不明の遺構

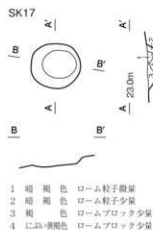
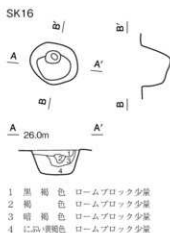
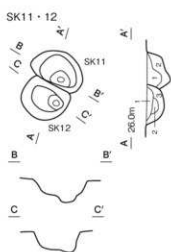
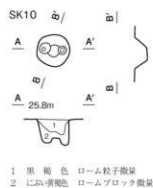
時期が明確にできなかった土坑 20 基、溝跡 4 条を確認した。以下、遺構について記述する。

(1) 土坑

今回の調査で、時期や性格が不明な土坑については、実測図(第9～12図)、土層解説及び一覧表を掲載する。



第9図 時期不明の土坑実測図(1)

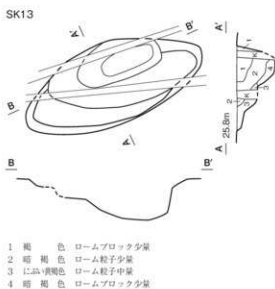


第 11 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 に灰・黄褐色 ロームブロック少量

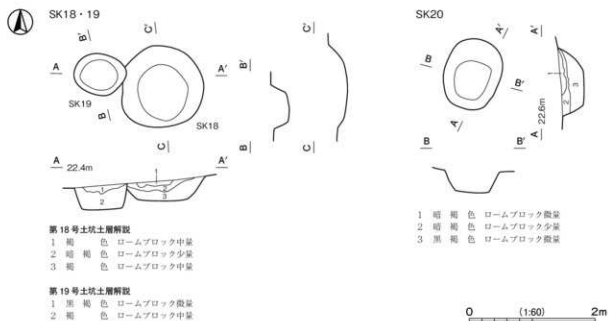
第 12 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 に灰・黄褐色 ロームブロック少量



第 10 図 時期不明の土坑実測図 (2)

0 (1:60) 2m



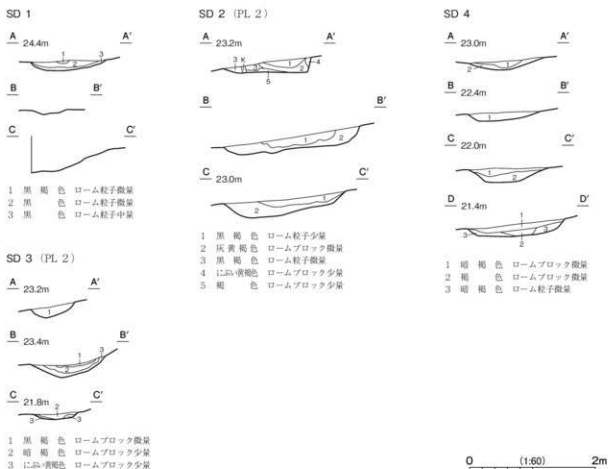
第11図 時期不明の土坑実測図(3)

表2 時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	縦横		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 4 j8	N-80°-E	隅丸長方形	1.32 × 0.88	74	有段	11[?]直立 外堀	自然	土師器	
2	D 4 b8	N-47°-E	楕円形	0.62 × 0.40	24	平坦	外堀	自然		
3	D 4 b8	N-65°-E	隅丸長方形	1.02 × 0.68	30	凹状	縦斜	自然	縄文土器	
4	D 4 d8	-	円形	0.78 × 0.74	32	凹状	外堀 縦斜	自然		
5	D 4 c8	N-62°-W	楕円形	0.48 × 0.38	18	凹状	縦斜	自然		
6	D 4 c8	-	円形	0.40 × 0.38	18	凹状	縦斜	自然		
7	D 4 c8	N-57°-W	楕円形	0.40 × 0.30	12	凹状	縦斜	自然		
8	D 4 b6	N-12°-W	隅丸長方形	1.68 × 0.85	30	凹状	縦斜	自然	土師器	SK15と重複
9	D 4 b6	N-10°-W	楕円形	1.60 × 0.83	20	凹状	縦斜	自然		
10	D 4 c8	-	円形	0.52 × 0.50	20	有段	外堀 縦斜	自然		
11	D 4 d4	N-57°-W	[楕円形]	0.86 × (0.54)	38	有段	外堀	自然		本跡→SK12
12	D 4 d4	N-60°-W	楕円形	0.76 × 0.56	34	有段	外堀	自然		SK11→本跡
13	C 4 j6	N-68°-E	楕円形	3.00 × 1.32	66	平坦	11[?]直立 外堀	自然		
14	C 4 j6	-	[円形・楕円形]	0.72 × (0.60)	64	有段	縦斜	自然	縄文土器	
15	D 4 a6	-	[円形・楕円形]	0.53 × (0.34)	29	平坦	外堀	自然		SK 8と重複
16	D 4 a5	N-65°-W	楕円形	0.78 × 0.64	46	有段	11[?]直立 外堀	自然	縄文土器	
17	F 5 a0	-	円形	0.78 × 0.72	16	平坦	縦斜	自然		
18	E 5 i7	-	円形	1.30 × 1.30	22	凹状	縦斜	自然		本跡→SK19
19	E 5 i7	N-90°	楕円形	0.84 × 0.66	26	平坦	外堀	自然		SK18→本跡
20	E 5 g1	N-30°-E	楕円形	1.12 × 0.88	32	平坦	縦斜	自然		

(2) 溝 跡

今回の調査で、時期や性格が不明な溝跡については、実測図（第12図）、土層解説及び一覧表を掲載する。



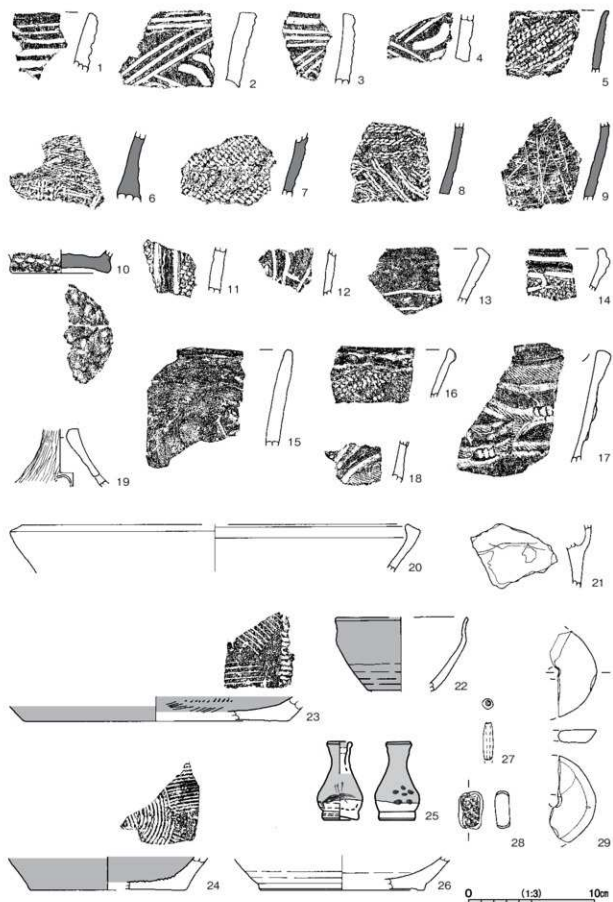
第12図 時期不明の溝跡実測図

表3 時期不明の溝跡一覧表

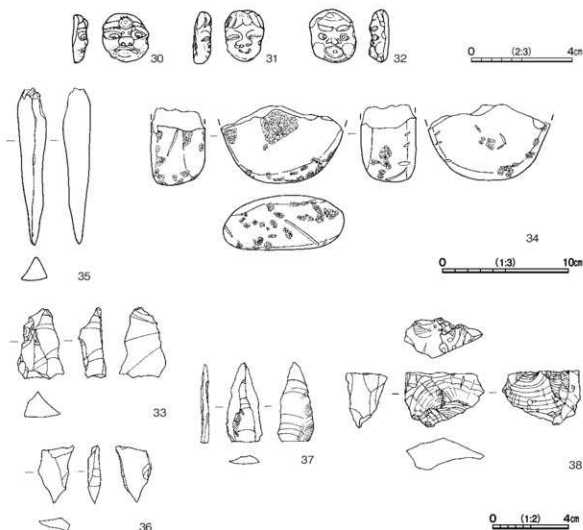
番号	位置	方向	平面形	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	E 4a - E 4b	N - 88° - E	直線	(13.60)	0.64 - 1.48	0.20 - 0.98	36	浅い L字状	織斜	自然	縄文土器	
2	E 5a - E 5b	N - 105° - E	直線	(18.54)	0.72 - 2.04	0.36 - 2.52	32	浅い L字状	織斜	自然	縄文土器, 土師質土器	本跡→SF 1 SD 3と重複
3	E 5c - F 5a	N - 181° - E	L字状	(28.16)	0.54 - 1.16	0.18 - 0.64	20	浅い L字状	織斜	自然	土師質土器	SD 2と重複
4	E 5a - F 5c	N - 190° - E	[L字状]	(22.80)	1.16 - 1.52	0.28 - 0.72	22	浅い L字状	織斜	自然	土師質土器, 陶器	

(3) 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない遺物については、実測図（第13・14図）及び観測表を掲載する。



第13图 遗物出土实物实测图(1)



第14図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第13・14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・赤母	靑灰	普通	手載竹管による沈線	表土	5% 早期染織文式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい靑	普通	手載竹管による沈線	SD 1 覆土中	5% PL.3 早期染織文式
3	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	手載竹管による沈線	SD 2 覆土中	5% 早期染織文式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・赤母	黒靑	普通	手載竹管による沈線	SD 2 覆土中	5% 早期染織文式
5	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	靑	普通	華輪結糸帯1種 軸：右捻り 巻き縄：右捻り	TM 1 覆土中	5% 彫刻式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・繊維	にぶい靑	普通	華輪結糸帯1種 軸：右捻り 巻き縄：右捻り	SD 2 覆土中	5% 彫刻式
7	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・赤母・繊維	明靑	普通	華輪縄文LR	TM 1 覆土中	5% 彫刻式
8	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・赤母・繊維	明靑	普通	華輪結糸帯1種 軸：右捻り 巻き縄：右捻り	表土	5% PL.3 彫刻式
9	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・赤母	靑	普通	沈線による格子目文	表土	5% 彫刻式
10	縄文土器	深鉢	-	(1.9)	[7.8]	長石・石英・繊維・針状物質	靑	普通	刺突文 底部指頭痕	TM 1 覆土中	5% 彫刻式
11	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・赤母	靑	普通	華輪縄文RLに施文後、沈線開すり消し	TM 1 覆土中	5% 加型刺突式
12	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・赤母	黄靑	普通	沈線に刺突文	SK15 覆土中	5% 刺突式
13	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・赤母	にぶい靑	普通	沈線に刺突文	表土	5% 刺突式
14	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい靑	普通	施文に華輪縄文 RLを施文後、懸垂文	表土	5% 彫之内式
15	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	口縁部十字調整	表土	5% 後期前式

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい陶	普通	単節縄文LR	表土	5% 出層目B1式
17	縄文土器	深鉢	-	(88)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	上縁部縁起帯に単節縄文RL 貼付文に縦線の刷み	TM 1覆土中	5% 実行2式 PL 3
18	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	単節縄文RL 工具による沈澱	TM 1覆土中	5% 実行2式
19	土師器	器台	-	(42)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	脚部外面磨き 脚部再孔4か所	SD 2覆土中	30% PL 3
20	土師器土器	内耳鍋	[306]	(37)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	外・内面ナデ調整	SD 4覆土中	5%
21	土師器土器	内耳鍋	-	(51)	-	長石・石英・赤色粒子	黒陶	普通	外・内面ナデ調整	SD 2覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
22	陶器	天目茶碗	[104]	(59)	-	長石・石英・黒にぶい黄陶	外・内面口クロナデ 外面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	SD 4覆土中	10%
23	陶器	深鉢	-	(19)	[210]	長石・石英・明赤陶	外・内面ハケ目調整 6条の横目。	-	産地	表土	5%
24	陶器	深鉢	-	(21)	[124]	長石・石英・赤色粒子 黒陶	口クロ成形 外・内面施軸 8条の横目。	鉄軸	瀬戸・美濃	表土	10% PL 3
25	陶器	酒味器形	1.7	6.2	2.7	長石 灰口 にぶい黄陶	口クロ成形 外・内面施軸	長石軸	瀬戸・美濃	表土	100% PL 3
26	陶器	鉢	-	(28)	[130]	長石・石英・灰口	口クロ成形 外・内面施軸	灰軸	瀬戸・美濃	表土	5%

番号	器種	径	口径	器高	底径	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
27	管状土師	0.8	(3.0)	0.3	(1.9)	長石・石英	灰陶	ナデ調整	表土	
29	紡錘車	[68]	1.0	[1.0]	(27.0)	長石・雲母	陶灰	全面ナデ調整	表土	PL 3

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
28	土器片鉢	2.9	1.9	1.1	6.65	長石・石英	にぶい陶	周縁部縁起 両端に刷み	表土	
30	泥面子	1.9	1.8	0.6	1.40	長石・石英	橙	天狗。	表土	PL 3
31	泥面子	2.1	1.5	0.7	2.00	長石	橙	おかめ。	表土	PL 3
32	泥面子	2.1	1.8	0.8	1.97	長石・雲母	にぶい陶	ひょっとこ。	表土	PL 3

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
33	細石刃	3.7	2.5	1.5	8.96	石英	使用前 二次調整前	表土	
34	磁石	(6.2)	(9.2)	4.4	(37.0)	安山岩	周縁部に敲打痕	表土	
35	割片	12.5	2.2	1.9	44.35	頁岩	厚みのある二次調整の縦長割片 上端部に打痕痕	表土	
36	割片	3.1	1.9	0.7	2.30	頁岩	縦長割片	表土	
37	割片	4.2	1.9	0.5	2.86	チャート	上端縁部に使用痕	表土	
38	石核	2.9	4.1	2.1	17.32	黒曜石	不定形の割片の調整前	表土	

第4節 総括

1 はじめに

調査の結果、古墳時代の古墳1基、江戸時代の道路跡1条、時期不明の土坑20基、溝跡4条を確認した。ここでは、確認できた遺構と遺物について時代ごとに概観し、若干の考察を加えてまとめたい。

2 各時代の様相

(1) 縄文時代

当該期の遺構は確認できなかったが、調査区域内の古墳や台地斜面部の表土中において、縄文時代早期から後期までの土器片が出土している。縄文時代早期の土器片は、沈線文系や貝殻条痕文（茅山下層式）であり、これらは後述する山王前遺跡から出土している土器と同時期である。年代の詳細は、山王前遺跡の総括において述べることにするが、出土遺物から当遺跡の周辺に縄文時代の生活域があったものとみられる。

(2) 古墳時代

ア 古墳について

調査の結果、古墳1基を確認し、周溝と主体部を検出した。墳丘及び埋葬施設の上層辺りまで削平されているが、その周溝の形状から円墳と推定される。周溝は北側において途切れているが削平により湮滅したかは不明であるが、規模は外径で26mと想定される。築造年代を判断する出土遺物は須恵器（甕、提瓶）と土師器（壺）のみであった。当遺跡の周辺を見てみると、南方約2.5kmに山王塚古墳、水神塚古墳と首長墓と目される明神塚1号墳があり、これらは台地先端に位置しており、当遺跡は根古屋川流域の古墳を支える集落と考えられる。

イ 埋葬施設について

埋葬施設は墳丘の南側の裾に位置し、その規模は内法で長軸2.10m、短軸1.10mの広さがあり、高さはその封土下にあったと思われる。埋葬施設の長軸は円墳の中心に対して直角であった。これらのことは、合葬（追葬）を前提に構築されたいわゆる変則的古墳の可能性も考えられる。埋葬施設の規模については、十分な大きさを持ち、成人の伸展葬が可能な容量をもっている。また、埋葬施設の石材は抜き取られており、石棺内からは人骨片と石材の雲母片岩の一部が遺存していた。埋葬施設の掘方は、段をもつような構造が検出され、確認面から40cmのところまで一度、平坦な面を作り、そこからさらに約25cm掘りくぼめて底部に至る形状が確認された。期例として田宮古墳群と大谷貝塚が挙げられる。新治郡新治村大字高岡内山（現在の土浦市高岡）の田宮古墳群において、第7号墳の墳丘は削平により失われているが、規模は残存する周溝から推測された外径で、約25mの古墳と報告されている。その埋葬主体部は、本墳の南西側に片寄って検出されており、長軸3.10m、短軸2.15mの長方形を呈し、雲母片岩の板石を組み合わせた箱式石棺である。時期は主体部の箱式石棺という型式および検出位置、出土遺物から、古墳時代後期の6世紀代と比定している¹¹。また、茨城県南部、霞ヶ浦南岸の輪敷郡美浦村大字大谷の大谷貝塚の第1号墳において、地山を掘り込んだ地下式の箱式石棺が検出され、その掘方は2段の構造となっている。上段の掘り込みは、長軸3.05m、短軸2.29mの長方形で、深さ26～35cmである。壁は直立し、底面はほぼ平坦である。その内側の下段の掘り込みは、長軸2.41m、短軸1.27

mの長方形で、上段の底面からの深さは8～21cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。東壁と北壁の一部に沿って、4～6条の溝状の掘り込みが認められ、石棺を構成した板石を据えた痕跡と考えられるものがある。時期は古墳時代後期の7世紀後半と推測している²⁾。これらの調査報告も併せると、小馬塚台遺跡の古墳は、埋葬施設の構造や箱式石棺と比定できることから、同時期の古墳時代後期6世紀後半と考えられる。

(3) 江戸時代

道路跡について

今回の調査で道路跡1条を確認している。今回の調査では、調査区域外に延びるため、硬化面の長さを10.4 m、幅210～256 mしか確認できなかった。出土遺物は、金属製品（煙管）、錢貨（寛永通寶）のみである。錢貨は鉄製であり、書体の跳ねに独特な特徴をもつ元工期亀戸銭に比定される。道路跡は構造と出土遺物から、時期は江戸時代のものと考えられる。

3 おわりに

当遺跡に周知されていなかった古墳の存在を確認し、それに伴う埋葬施設の構造を捉えられた点は、今回の貴重な成果であった。当該期における古墳構築に係る解明の一助となれば幸いである。また、道路跡についても、形状、年代や用途などの調査結果を加えられた点は、一つの成果といえる。今後の周辺調査例の増加を待ち、さらに小馬塚台遺跡の全容が明らかになっていくことを期待したい。

註

- 1) 齊藤弘道 『田宮古墳群 一般国道125号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第57集 1990年3月
- 2) 駒澤悦郎 『大谷貝塚 国道125号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2』茨城県教育財団文化財調査報告第317集 2009年3月

第4章 山王前遺跡

第1節 調査の概要

山王前遺跡は、牛久市の西部、根古屋川右岸の谷津傾斜部標高約24mと台地部に所在している。調査は二次に渡って実施されており、平成29年度は調査面積は800㎡、平成30年度は調査面積は7,104㎡である。調査前の現況は畑地、山林である。

調査の結果、竪穴建物跡26棟（縄文時代16、古墳時代10）、炉穴95基（縄文時代）、炉跡35基（縄文時代34、時期不明1）、陥し穴1基（縄文時代）、土坑124基（縄文時代102、古墳時代3、鎌倉・室町時代2、時期不明15）、段切状遺構1か所（鎌倉・室町時代）、溝跡7条（鎌倉・室町時代2、時期不明5）、道路跡2条（江戸時代）、ピット群2か所（時期不明）、遺物包含層2か所（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に59箱分が出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（杯・椀・高台付杯・罎・高坏・壺・小形壺・有段口縁壺・甕・小形甕・甗）、須恵器（杯・取鍋・匙）、陶器（播鉢）、土製品（勾玉・土玉・支脚・紡錘車・泥面子）、石器（スクレイパー・石刃・鏃・磨製石斧・磨石・凹石・砥石）、石製品（有孔円板・珠状耳飾・石祠）、銅片、銭貨（文久永寶）などである。

第2節 基本層序

調査区北東部の台地平坦部（C512区）、北部の緩斜面部（C4d9区）にテストピットを設定し、基本土層（第15図）の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は12～50cmである。

第2層は、黄褐色を呈する表土層である。粘性は普通で、締まりはやや弱く、層厚は18～38cmである。

第3層は、黒褐色を呈する表土層である。粘性は普通で、締まりはやや弱く、層厚は12～48cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は25～50cmである。

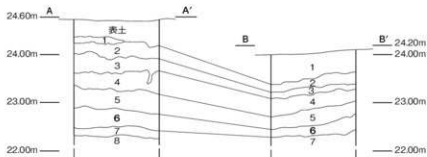
第5層は、明黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は28～48cmである。

第6層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は18～48cmである。

第7層は、黄褐色を呈するハードローム層である。砂質粒子を少量含み、粘性は普通で、締まりは強い。下層は未掘であるため、本来の層厚は不明である。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。下層は未掘であるため、本来の層厚は不明である。

遺構は、主に第4層上面で確認した。



第15図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴建物跡16棟、炉穴95基、炉跡34基、陥し穴1基、土坑102基、遺物包含層2か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。また、口縁部片で茅山下層式土器の古段階・新段階が分かるものは出土点を記載した。

(1) 竪穴建物跡

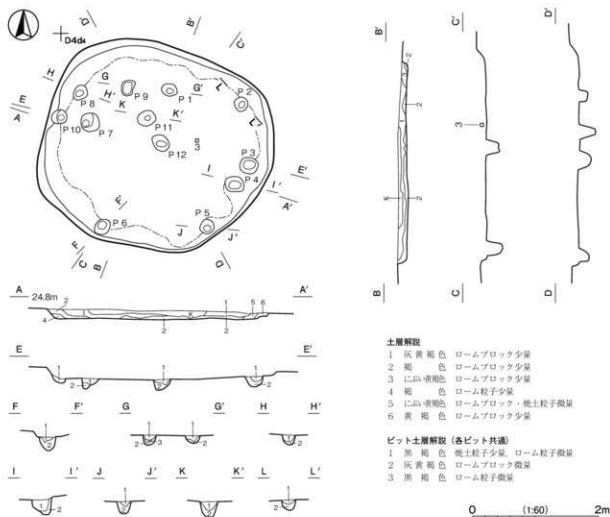
第8号竪穴建物跡 (第16・17図 PL 5)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4 d4区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.64 m、短径3.25 mの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。壁は高さ4~14 cmで、外傾している。

床 は平坦で、全体的に踏み固められている。



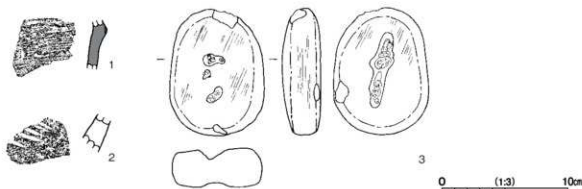
第16図 第8号竪穴建物跡実測図

ピット 12 か所。深さ 10～25cm の柱穴である。ただし、P10 は深さ 10cm ほどと浅いため、補助柱穴とも考えられる。P11・P12 については性格不明である。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 35 点（深鉢、口縁部片は古段階 1・新段階 3）、石器 1 点（凹石）、剥片 1 点が出土している。3 は中央部の覆土中層から、1 は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。2 は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第 17 図 第 8 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 磁石	にぶい肌	普通	縁部に棒状の工具による刻み	覆土中	5% PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英	にぶい肌	普通	斜位の細沈線 尖底土器	覆土中	5% PL23 三戸式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	凹石	10.1	7.5	3.1	(315.19)	安山岩	表面両面に凹み	覆土中層	PL33

第 9 号竪穴建物跡（第 18・19 図 PL 5）

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区中央部の D 5d1 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 86・87 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 短径 4.10 m、長径は 5.24 m の楕円形で、長径方向は N - 32° - W と推定できる。壁は高さ 5～10cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

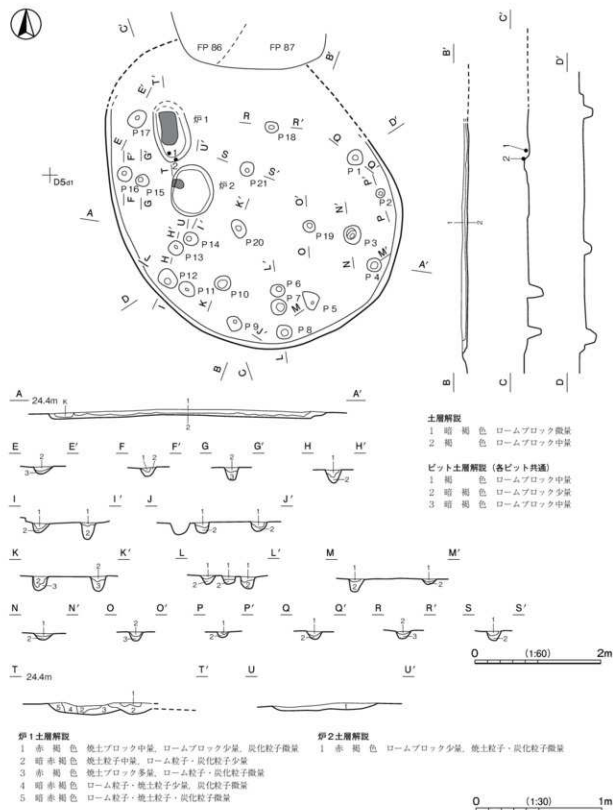
炉 2 か所。炉 1 は北西部に付設されている。長径 1.00 m、短径 0.56 m の楕円形で、深さ 10cm の地床炉である。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。炉 2 は炉 1 の南側に位置し、長径 0.82 m、短径 0.68 m の楕円形で、深さ 6cm の地床炉である。炉床面は火熱を受けわずかに赤変硬化している。新旧関係は不明である。

ピット 21 か所。P 1～P 17 は、深さ 10～25cm の柱穴である。P 18～P 21 については、性格不明である。

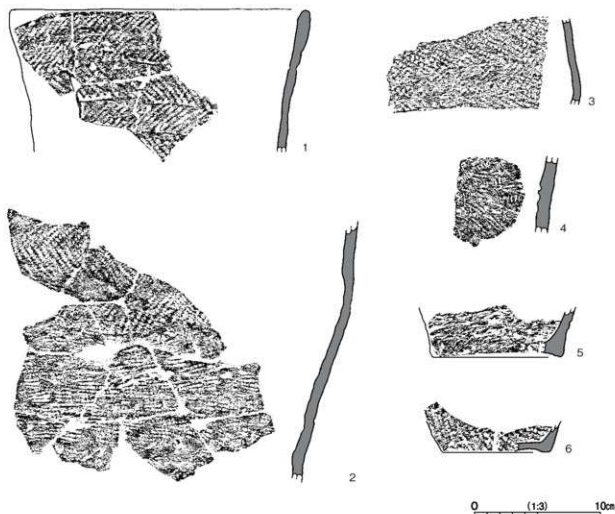
覆土 2 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄土器片 143 点（深鉢、口縁部片は古段階 1・新段階 13）、石器 1 点（磨石）、剥片 1 点が出土している。1 は炉 1 覆土中層から、2 は炉 1 覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 18 図 第 9 号竪穴建物跡実測図



第19図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(232)	(113)	-	長石・石英・ 織部	にぶい・靑	普通	華箭羽状縄文	伊1覆土中層	5%・PL23 黒点式
2	縄文土器	深鉢	-	(207)	-	長石・石英・ 織部	にぶい・靑	普通	華箭羽状縄文	伊1覆土上層	5%・PL23 黒点式
3	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英・ 織部	にぶい・赤靑	普通	華箭羽状縄文	覆土中	5% 黒点式
4	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・ 織部	明赤靑	普通	赫条体圧痕文	覆土中	5% 早期赫条
5	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	102	長石・石英・ 織部	赤靑	普通	外・内面ナゲ調整	覆土中	5%・PL33 黒点式
6	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	8.6	長石・石英・ 織部	にぶい・靑	普通	外面華箭RL縄文 内面ナゲ調整	覆土中	5%・PL33 黒点式

第10号竪穴建物跡(第20図 PL5)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5e1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物、第17・36・37・40・41・44・94・95号が穴に掘り込まれている。

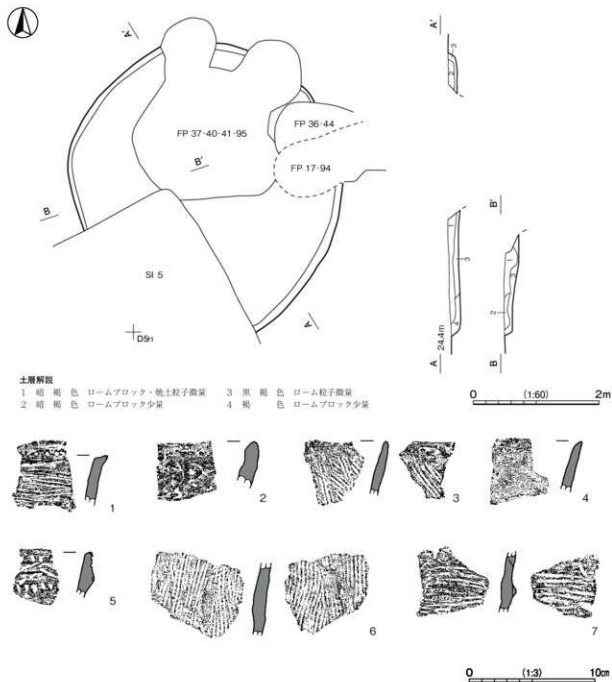
規模と形状 長径4.38m、短径4.10mの楕円形で、長径方向はN-43°-Wと推定できる。また、炉跡やピットは確認できなかった。壁は高さ12~14cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 91点（深鉢、口縁部片は古段階3・新段階11）が出土している。遺物は主に北西側の覆土中から多く出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。本跡を掘り込んでいる第40・41号炉穴からも同じ早期後葉の土器が出土していることから、土器形式による時期差は認められない。



第20図 第10号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黄褐色	普通	口唇部外に割み 外面貝殻染痕文 内面に指痕	覆土中	5% PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい赤褐色	普通	口唇部外に割み 外・内側にナゲ調整	覆土中	5% PL23 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐色	普通	外・内面貝殻染痕文	覆土中	5% PL23 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・ 繊維	灰褐色	普通	外・内面ナゲ調整	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	灰褐色	普通	口唇部外に割み 隆帯に棒状の工具による割み	覆土中	5% PL23 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	明赤褐色	普通	外・内面貝殻染痕文	覆土中	5% PL23 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・ 繊維	赤褐色	普通	外面隆帯貼付後ナゲ調整 外・内面貝殻染痕文	覆土中	5% PL23 茅山下層式

第11号竪穴建物跡(第21・22図 PL 6)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4c0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部は攪乱を受けているため、長径2.72m、短径は1.36mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。壁は高さ20～23cmで、外傾している。

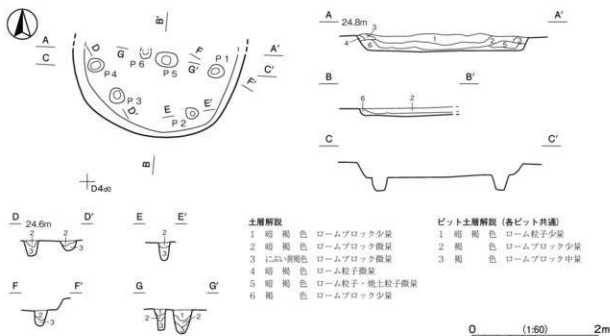
床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 6か所。P1～P4は深さ15～40cmの柱穴である。P5・P6は性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢、口縁部片は新段階1)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第21図 第11号竪穴建物跡実測図



第22図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・石英・ 長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	外・内面に幾条痕文	覆土中	5% PL23 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐	普通	外・内面に幾条痕文	覆土中	5% 子山下層式

第13号竪穴建物跡（第23・24図 PL 6）

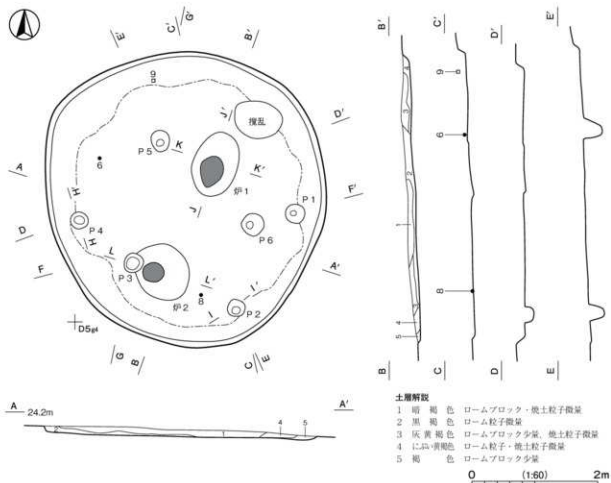
調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5f4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.76m、短径4.46mの円形である。壁は高さ8～12cmで、外傾している。

床 は平坦で、全体的に踏み固められている。

炉 2か所。炉1は北東部に位置している。長径1.05m、短径0.70mの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。



第23図 第13号竪穴建物跡実測図

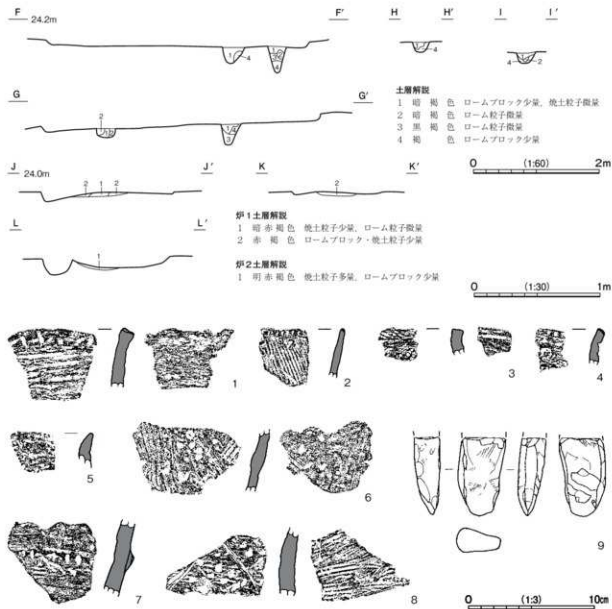
第2層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。炉2は炉1の南西側に位置し、長径1.00m、短径0.8mの楕円形で、深さ7.5cmの地床炉である。第1層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。炉2を廃棄してから、P3の柱穴を付設したと考えられ、炉1はその作り替えの可能性がある。

ピット 6か所。P1～P6は、深さ15～40cmの柱穴である。P3は炉2の廃棄後の浅い柱穴であることから、補助柱穴の可能性も考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片118点(深鉢、口縁部片は古段階2・新段階4)、石器1点(磨製石斧)が出土している。8は南部の床面から、6は北西部の覆土下層から、9は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。1～5は北西部、7は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第24図 第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	口唇部に格子状の刻み 外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL23 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 炭母・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部に細い沈線の刻み 外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.0)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黄褐色	普通	口唇部内側状 口唇部上に斜位の条痕	覆土中	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	-	長石・石英・ 繊維	褐色	普通	口唇部に刻み 口縁部に刺突	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐色	普通	口縁部ナゲ調整	覆土中	5% 子山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・ 炭母・繊維	にぶい褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL23 子山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい黄褐色	普通	縁部に棒状の工具による刻み 工具による凹線	覆土中	5% PL23 子山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐色	普通	外面に沈線・刺突 内面貝殻条痕文	床面	5% PL23 子山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	磨製石斧	(6.2)	3.8	2.1	(67.96)	砂岩	表面外側に磨製痕	覆土上層	PL34

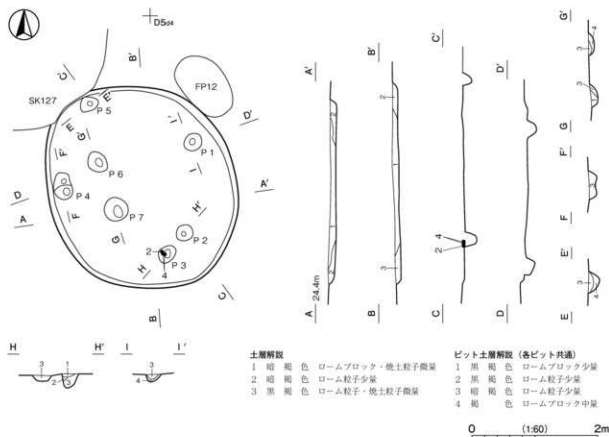
第14号竪穴建物跡（第25・26図 PL6）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5d3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第127号土坑に掘り込まれている。第12号竪穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径3.50m、短径3.02mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。壁は高さ5~12cmで、外傾している。



第25図 第14号竪穴建物跡実測図

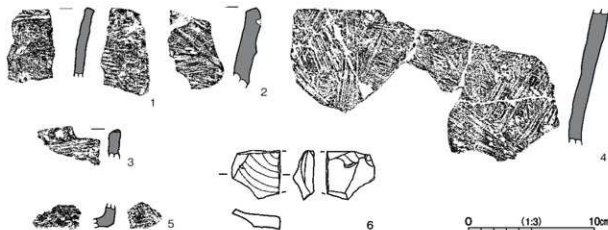
床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P1～P7は深さ10～25cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。P4は底面にくぼみが2か所確認できることから、立て替えの可能性がある。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片45点(深鉢、口縁部片は古段階1・新段階6)、剥片1点が出土している。2・4は南部の覆土下層から、1・3・5・6は北東部の覆土中から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第26図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図

第14号竪穴建物跡出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部に竹管による刻み 指頭痕	覆土中	5% P124 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	赭灰	普通	口縁部に幅広い凹線	覆土下層	5% P124 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	-	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	口唇部に竹管による刻み ナデ調整	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・繊維	灰黄褐色	普通	外面棒状の工具による沈線 内面貝殻敷文	覆土下層	5% P124 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(1.9)	-	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	内面貝殻敷文	覆土中	5% 茅山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	剥片	3.9	(3.8)	1.7	(21.30)	滑石	右側面に割れ面	覆土中	

第15号竪穴建物跡(第27図 PL7)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5E3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 径約3.0mのほぼ円形である。壁は高さ8～14cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

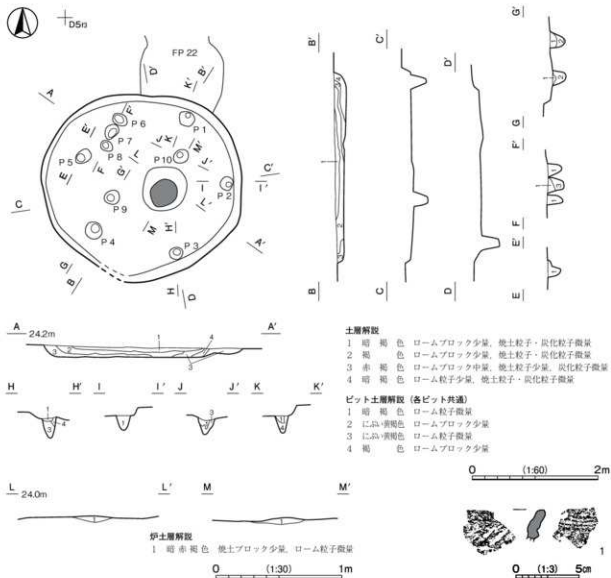
炉 中央部やや東側に位置している。径0.7mの円形の地床炉である。第1層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。

ピット 10か所。P1～P6は深さ46～60cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。P7～P10については性格不明である。P6～P8の3か所が近接していることから、立て替えの可能性はある。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢、口縁部片は古段階1)が出土している。1はP8の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第27図 第15号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(26)	-	長石・石英・繊維	褐	普通	口縁部に棒状の工具による沈線	P 8 覆土中	5% 子山下層式

第17号竪穴建物跡 (第28・29図 PL 7)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC 5j1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.85m、短径3.27mの楕円形で、長径方向はN-62°-Wである。壁は高さ5~12cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

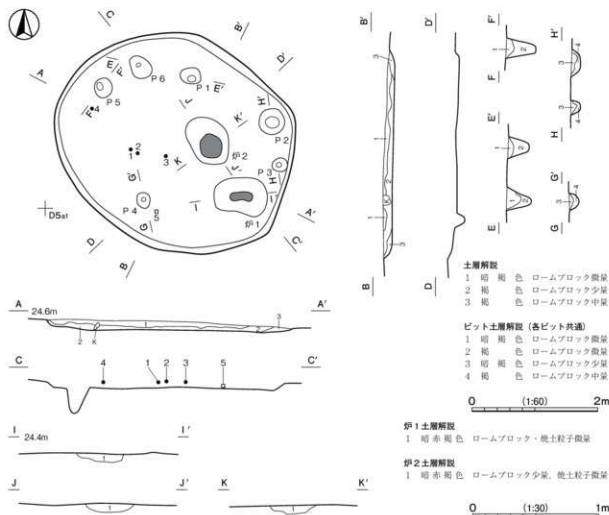
炉 2か所。炉1は南東部に位置している。長径0.85m、短径0.55mの楕円形の地床炉である。第1層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。炉2は炉1の北西に位置している。長径0.86m、短径0.62mの楕円形の地床炉である。第1層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。新旧関係は不明である。

ピット 6か所。P1~P6は深さ15~20cmで、壁際を弧状に巡っていることから柱穴と考えられる。

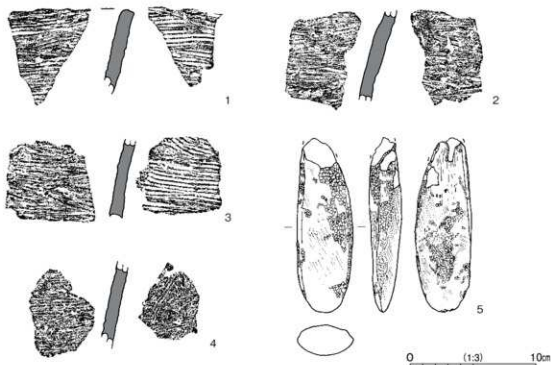
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢、口縁部片は新段階1)、石器1点(磨製石斧)が出土している。5は南部の床面から、1~3は中央部、4は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第28図 第17号竪穴建物跡実測図



第29図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい靑	普通	外・内面貝殻条痕文を施した後外面ナデ調整	覆土中層	5% PL24 季山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤靑	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5% 季山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい靑	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5% PL24 季山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤靑	普通	内面に板状の工具によるナデ調整	覆土中層	5% 季山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	磨製石斧	(139)	4.5	2.6	(24.10)	安山岩	乳棒状 上部右側の側縁部に敲打痕	床面	PL33

第18号竪穴建物跡（第30図 PL7）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4j0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48・56号竪穴に掘り込まれている。

規模と形状 径3.74mの不整形である。壁は高さ8～13cmで、緩やかに外傾している。

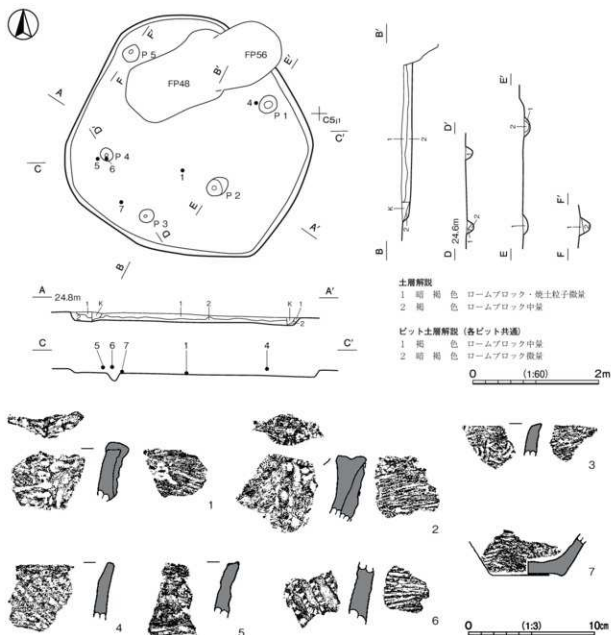
床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 5か所。P1～P5は深さ8～16cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片94点（深鉢、口縁部片は古段階5・新段階4）が出土している。1は中央部の床面、7は南西部の覆土下層から、4は北東部、5・6は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。2は南東部、3は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第30図 第18号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第18号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・ 繊維	赭灰	普通	縦の條帯に棒状の工具による刷み		床面	5% P1,24 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・ 赤砂・繊維	赤褐色	普通	縦の條帯に棒状の工具による刷み 外周工具による凹線 内周貝殻条痕文		覆土中	5% P1,24 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・ 繊維	褐色	普通	外周凹線文		覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐色	普通	口縁部に竹管文 内周貝殻条痕文		覆土上層	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい褐色	普通	外周凹線による凹線		覆土上層	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・ 赤砂・繊維	にぶい赤褐色	普通	縦行状に刺突		覆土上層	5% P1,24 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	(5.5)	長石・石英・ 赤砂・繊維	明赤褐色	普通	外周貝殻條帯圧痕文 底部ナゲ調整		覆土下層	5% P1,33 茅山下層式

第20号竪穴建物跡（第31図 PL 8）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4a7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号竪穴建物跡、第72・75号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.90m、短軸は2.48mの隅丸方形で、長軸方向はN-81°-Wである。壁は高さ8～13cmで、外傾している。

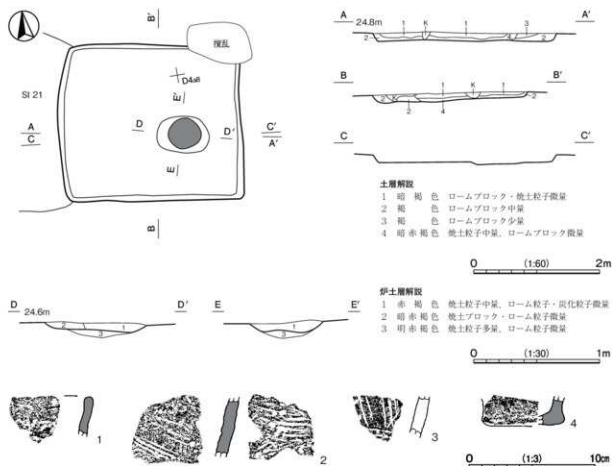
床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部やや東側に位置している。長径0.84m、短径0.58mの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。第3層上面が炉床面であり、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片26点（深鉢、口縁部片は新段階3）が出土している。2は南東部、1・4は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。3は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第31図 第20号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表(第31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・ 炭屑・繊維	明赤褐色	普通	棒状の工具による種多数の穴。	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・ 炭屑・繊維	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL24 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英	橙	普通	縦・横位の細孔線	覆土中	5% PL24 三式
4	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	(6.6)	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	底部内側にナデ調整	覆土中	5% PL23 茅山下層式

第21号竪穴建物跡(第32・33図 PL 8)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4a7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第72～75号竪穴を掘り込み、第20号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第20号竪穴建物に掘り込まれているため、長径3.15mで、短径は2.65mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。壁は高さ6～9cmで、外傾している。

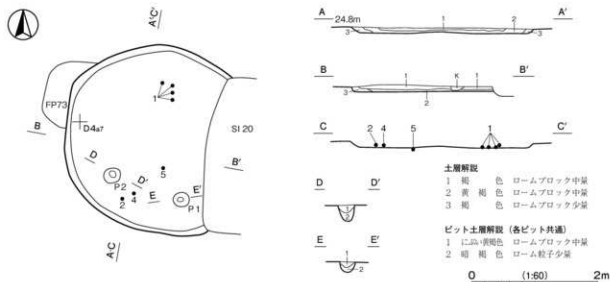
床 ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 2か所。P1・P2は深さ15・25cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

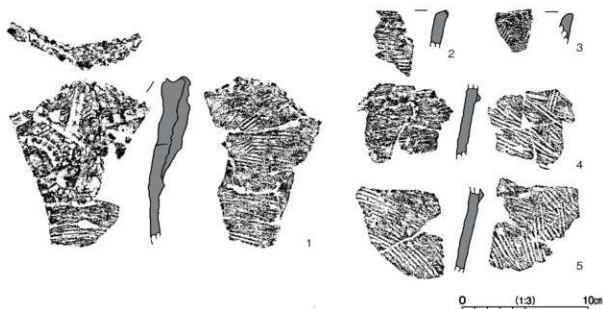
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片47点(深鉢、口縁部片は古段階3・新段階3)が出土している。1は北部、5は中央部の床面から、2・4は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。3は南西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第32図 第21号竪穴建物跡実測図



第33図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図

第21号竪穴建物跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(133)	-	長石・石英 織	灰褐色	普通	刷磨状文	床面	5% P124 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(29)	-	長石・石英 織	灰褐色	普通	口唇部棒状の工具による刷み 外面貝殻条痕文	覆土下層	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(25)	-	長石・石英 織	灰褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(60)	-	長石・石英 半糸織子・織	明褐色	普通	横位の段帯 内面貝殻条痕文	覆土下層	5% P124 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英 器母・織	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	床面	5% 子山下層式

第22号竪穴建物跡（第34図）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD3b7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第62・63・68・80号炉穴に掘り込まれている。第64・71号炉穴との重複関係は不明である。

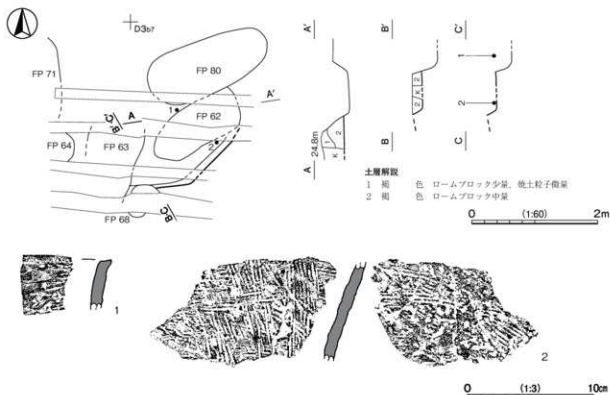
規模と形状 中央部・西部が攪乱されており、中央から北東部を第62・63・80号炉穴に掘り込まれているため、南東部の壁しか確認できなかった。平面形は不明である。壁は高さ18～32cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

覆土 2層に分层できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片11点（深鉢、口縁部片は新段階1）、石器1点（磨石）が出土している。1・2は床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第34図 第22号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第22号竪穴建物跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	型種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	黒褐色	普通	外面貝殻条痕文	床面	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	に灰・赤褐色	普通	板状工具によるナメ調整 外・内面貝殻条痕文	床面	5% 茅山下層式

第23号竪穴建物跡（第35図 PL 8）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4i6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.10m、短径3.84mの円形である。壁は高さ8～12cmで、外傾している。

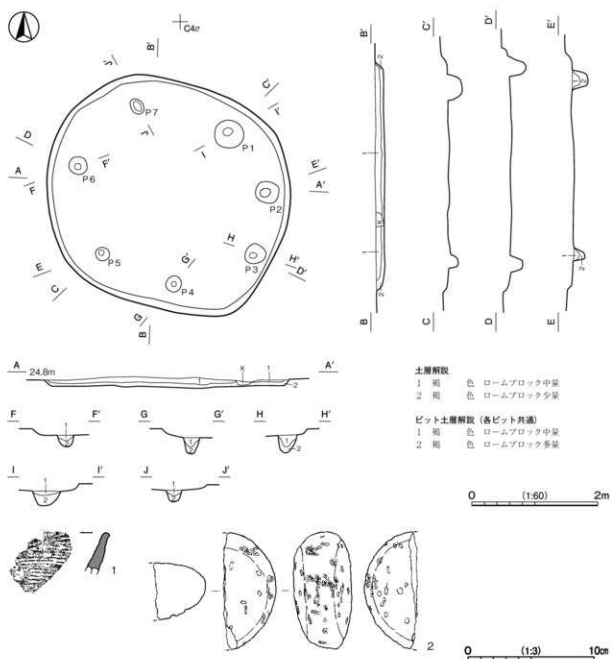
床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P1～P7は、深さ15～30cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢、口縁部片は新段階1）、石器1点（磨石）が出土している。1は北東部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第35図 第23号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表(第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	瓦文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・ 磁鉄	にがい赤褐色	普通	外・内面貝殻染痕文	覆土中	5% PL24 柔山下層式
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	磨石	(9.3)	(4.2)	(4.7)	(194.7g)	安山岩	磨石としても併用		覆土中	PL34	

第24号竪穴建物跡(第36図 PL9)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC38区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第84号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.52m、短軸4.34mの隅丸方形で、長軸方向はN-12°-Wである。壁は高さ10～12cmで、外傾している。

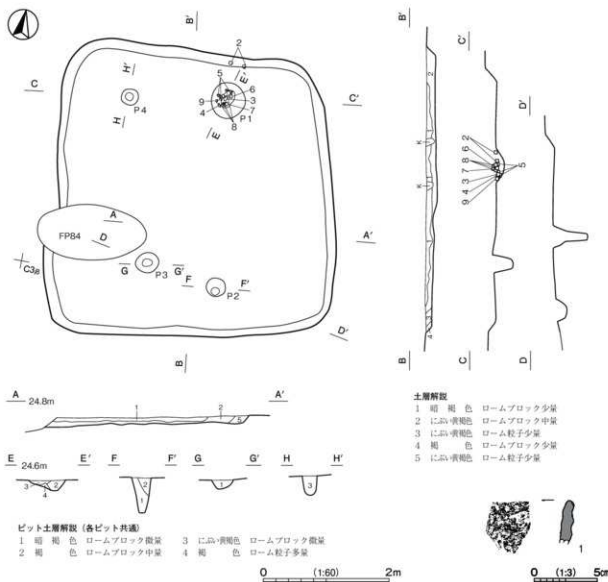
床 ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 4か所。P1～P4は、深さ15～56cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。P1は使用后、被熱を受けて破棄された礫を充填している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片35点（深鉢、口縁部片は古段階1・新段階1）、礫8点が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。また、P1の壁面は焼けていないことから、礫は使用後にP1へ破棄されたかと推定できる。



第36図 第24号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英・磁鉄	明赤褐色	普通	口唇部に棒状の工具による折み 口縁部に沈線	覆土中	5% 子山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	焼酎罐	11.2	7.3	5.4	(4332)	安山岩	被熱痕	覆土下層	計測のみ
3	焼酎罐	9.1	5.5	4.4	(2142)	安山岩	被熱痕 被熱による割れ	P 1 覆土中層	PL33 計測のみ
4	焼酎罐	(5.9)	6.2	5.1	(2064)	泥岩	被熱痕	P 1 覆土中層	PL33 計測のみ
5	焼酎罐	8.6	4.7	5.5	(3648)	安山岩	被熱痕 被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
6	焼酎罐	(6.7)	5.2	(4.2)	(1600)	チャート	被熱痕 被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
7	焼酎罐	(7.2)	(6.8)	(3.5)	(2150)	泥岩	被熱痕 被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
8	焼酎罐	(4.2)	(2.9)	(3.5)	(600)	頁岩	被熱痕	P 1 覆土中層	計測のみ
9	焼酎罐	(5.7)	(6.6)	5.2	(1852)	安山岩	被熱痕 被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ

第 25 号竪穴建物跡 (第 37・38 図 PL 9)

調査年度 平成 30 年度

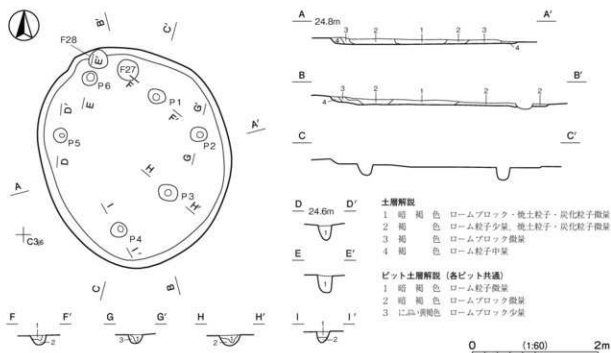
位置 調査区中央部の C 36 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 27・28 号跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.54 m, 短径 2.98 m の楕円形で, 長径方向は N - 19° - W である。壁は高さ 3 ~ 9 cm で, 外傾している。

床 はほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

ピット 6 か所。P 1 ~ P 6 は深さ 15 ~ 25 cm で, 位置と形状から柱穴と考えられる。



第 37 図 第 25 号竪穴建物跡実測図

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。1・2は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、遺構の重複から早期後葉と考えられる。



第38図 第25号竪穴建物跡出土遺物実測図

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(第38図)

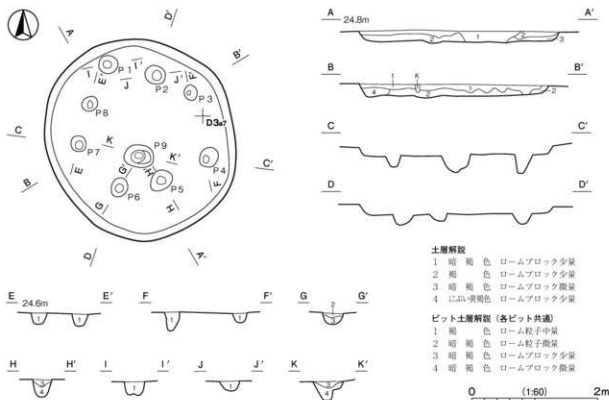
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(2.1)	-	長石・石英・炭素	にんべい褐色	普通	細沈線	覆土中	5% 三戸式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	(5.4)	長石・石英・炭素	明赤褐色	普通	華路縄文RL	覆土中	5% 三戸式

第26号竪穴建物跡(第39・40図 PL.9)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD3a6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径約3.1mのほぼ円形である。壁は高さ10~20cmで、外傾している。



第39図 第26号竪穴建物跡実測図

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 9か所。P1～P8は深さ15～30cmで、位置と形状から柱穴と考えられる。P9は深さ30cmで柱穴の可能性もあるが、ほぼ中央部にあり性格不明である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢)が出土している。3は南西部の覆土中から出土している。1・2・4は表土からの流れ込みみである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第40図 第26号竪穴建物跡出土遺物実測図

第26号竪穴建物跡出土遺物観察表(第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(33)	-	長石・石英・赤色粒子	に白っぽい	普通	口唇部から口縁部にかけて条痕	覆土中	5% P124 下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	横位の細沈線	覆土中	5% P124 下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	隆帯に棒状の工具による刷目	覆土中	5% P124 下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(30)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	成状貝殻文	覆土中	5% P124 下層式

表4 縄文時代竪穴建物跡一覧表

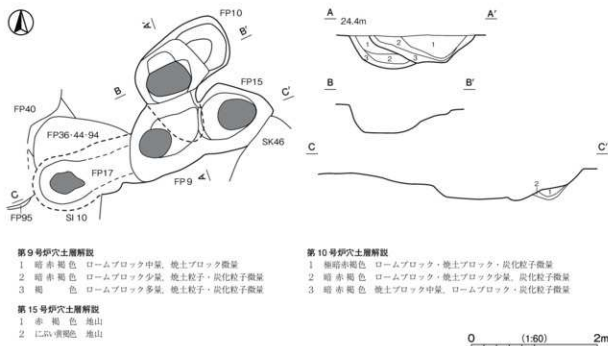
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長さ×幅(m)	(cm)				柱	土間口	ピット	炉				
8	D 464	N-71°-W	楕円形	3.64×3.25	4-14	平阻	-	10	-	2	-	-	人為	縄文土器(三内式・茅山下層式)、石貯、土器	早期後葉	
9	D 541	N-32°-W	[楕円形]	5.24×4.10	5-10	平阻	-	17	-	4	地床跡2	-	自然	縄文土器(奥山式・早期終末)、石貯、土器	前期後半	本跡→FF96・87
10	D 5e1	N-43°-W	[楕円形]	4.38×4.10	12-14	平阻	-	-	-	-	-	-	人為	縄文土器(茅山下層式)	早期後葉	本跡→S1・S11・S15・S16・S17・S18・S19・S20
11	D 4c0	-	円形	2.72×(1.36)	20-23	平阻	-	4	-	2	-	-	人為	縄文土器(茅山下層式)	早期後葉	
13	D 5f4	-	円形	4.46×4.76	8-12	平阻	-	6	-	-	地床跡2	-	人為	縄文土器(茅山下層式)、石貯	早期後葉	
14	D 5d3	N-38°-W	楕円形	3.50×3.02	5-12	平阻	-	7	-	-	-	-	自然	縄文土器(茅山下層式)、土器	早期後葉	本跡→SK127
15	D 5f5	-	円形	径3.00	8-14	平阻	-	6	-	4	地床跡	-	人為	縄文土器(茅山下層式)	早期後葉	FF22→本跡
17	C 5f1	N-62°-W	楕円形	3.85×3.27	5-12	平阻	-	6	-	-	地床跡2	-	人為	縄文土器(茅山下層式)、石貯	早期後葉	
18	C 4j0	-	不整形	径3.74	8-13	平阻	-	5	-	-	-	-	人為	縄文土器(三内式・茅山下層式)、土器	早期後葉	本跡→FF48・56
20	D 4a7	N-81°-W	楕円形	2.90×2.48	8-13	平阻	-	-	-	-	地床跡	-	人為	縄文土器(三内式・茅山下層式)	早期後葉	S21、FF72、73→本跡
21	D 4a7	-	不整形	3.15×(2.65)	6-9	平阻	-	2	-	-	-	-	人為	縄文土器(茅山下層式)	早期後葉	FF72→75→本跡→S20
22	D 3a5	-	不明	-	18-32	平阻	-	-	-	-	-	-	人為	縄文土器(茅山下層式)	早期後葉	本跡→FF62・63・66・80
23	C 4f6	-	円形	径3.84×4.10	8-12	平阻	-	7	-	-	-	-	自然	縄文土器(茅山下層式)、石貯	早期後葉	
24	C 3f8	N-12°-W	楕円形	4.52×4.34	10-12	平阻	-	4	-	-	-	-	人為	縄文土器(三内式・茅山下層式)	早期後葉	本跡→FF84
25	C 3f6	N-19°-W	楕円形	3.54×2.98	3-9	平阻	-	6	-	-	-	-	人為	縄文土器(三内式・奥山式)	早期後葉	本跡→F27・28
26	D 3a6	-	円形	径3.10	10-20	平阻	-	8	-	1	-	-	人為	縄文土器(三内式・茅山下層式)、土器	早期後葉	

(2) 炉穴

炉穴 95 基を確認した。その中で、重複関係にあるものや形状が明確なものについては本文と実測図を掲載する。炉穴のまどまりは位置の中で、所見はまどまりの最後に記述する。また、その他の炉穴については、実測図（第 128・129 図）、土層解説及び一覧表で掲載する。

第 9・10・15・17 号炉穴

位置 調査区中央部の D 5 d2～D 5 e1 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。4 基を 1 つのまどまりとして捉えて記述する。



第 41 図 第 9・10・15・17 号炉穴実測図

第 9 号炉穴（第 41・42 図 PL14）

調査年度 平成 30 年度

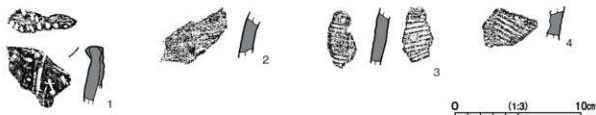
重複関係 第 15・36・44 号炉穴を掘り込み、第 10 号炉穴に掘り込まれている。第 17 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 北部が第 10 号炉穴に掘り込まれているため、長径 1.14 m、短径は 1.10 m しか確認できなかった。長径方向は $N-69^{\circ}-E$ の楕円形と推定できる。南西部が燃焼部、北東部が足場である。足場は第 10・15 号炉穴と重複しているため、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 50 cm で、外傾している。

燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。長径 0.56 m、短径 0.46 m の楕円形である。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 4 点（深鉢）が出土している。覆土中からそれぞれ出土している。



第42図 第9号炉穴出土遺物実測図

第9号炉穴出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	口縁部・隆帯に丸棒状の工具による刷み	覆土中	5% PL26 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐	普通	角棒状の工具による十字調整	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	灰黄褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(28)	-	長石・ 繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式

第10号炉穴 (第41・43図 PL14)

調査年度 平成30年度

重複関係 第9・15号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.68m, 短径0.93mの不定形で、長径方向はN-50°-Eである。南西部が燃焼部、北東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は深さ44cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。長径0.76m, 短径0.50mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片28点(深鉢)が出土している。1-5は覆土中から出土している。



第43図 第10号炉穴出土遺物実測図

第10号炉穴出土遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	口縁部に半截竹管による刷突	覆土中	5% 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・ 繊維	褐	普通	隆帯に竹管による刷み	覆土中	5% 字山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(25)	[64]	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式

第15号炉穴(第41・44図)

調査年度 平成30年度

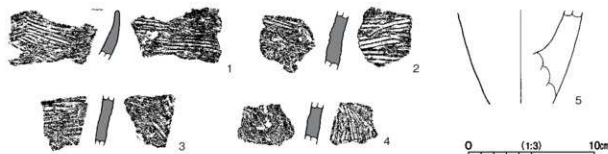
重複関係 第9・10号炉穴、第46号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第9・10号炉穴に掘り込まれているため、短径1.10m、長径は1.20mしか確認できなかった。長径方向はN-73°-Eの楕円形と推定できる。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部より深い。第9・10号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測され、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ51cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 東壁寄りに位置している。長径0.62m、短径0.46mの楕円形である。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。第1・2層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。1~5は覆土中から出土している。5は表土からの流れ込みである。



第44図 第15号炉穴出土遺物実測図

第15号炉穴出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻染灰文	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	明赤陶	普通	外・内面貝殻染灰文	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻染灰文	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・ 繊維	明赤陶	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整 内面貝殻染灰文	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整 平底土器	覆土中	5% 茅山下層式

第17号炉穴(第41図 PL15)

調査年度 平成30年度

重複関係 第10号竪穴建物跡、第36・44・94・95号炉穴を掘り込んでいる。第9・37号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第9号炉穴と重複し、また遺存状態が悪いため、長径は1.62m、短径は0.84mしか確認できなかった。長径方向はN-72°-Eの楕円形と推定できる。南西部が燃焼部、北東部が足場と推定できる。足場は遺存状態が悪いため、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ18cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 南西壁寄りに位置している。長径0.58m、短径0.36mの楕円形である。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。

所見 4基の炉穴は、土層の切り合いと調査の状況から、初めに第15号炉穴を作り、使用後に足場として利用し西側に第9号炉穴が作られている。その後、北側に第10号炉穴が作られたと考えられる。また、第17号炉穴は遺存状態が悪く、第9号炉穴との新旧関係は不明である。時期は、出土土器から早期後葉である。

第17・36・37・40・41・44・94・95号炉穴

位置 調査区中央部のD5e1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。8基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

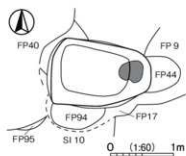
第17号炉穴（第41図）

第17号炉穴については、「第9・10・15・17号炉穴」の項に記載

第36号炉穴（第45図）

調査年度 平成30年度

重複関係 第10号竪穴建物跡、第94・95号炉穴を掘り込み、第9・17・44号炉穴に掘り込まれている。



第45図 第36号炉穴実測図

規模と形状 第17・94号炉穴と重複しているため、長径は1.60m、短径は1.04mしか確認できなかった。長径方向はN-83°-Wの楕円形と推定できる。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は、第44号炉穴に掘り込まれているため、燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ52cmしか確認できず、外傾している。

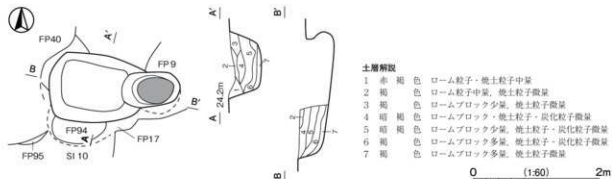
燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.38m、短径0.34mの不整楕円形である。

覆土 複数の炉穴に掘り込まれているため、堆積状況は不明である。

第44号炉穴（第46図）

調査年度 平成30年度

重複関係 第10号竪穴建物跡、第36・94・95号炉穴を掘り込み、第9・17号炉穴に掘り込まれている。



第46図 第44号炉穴実測図

規模と形状 長径 2.08 m、短径 1.08 m の不整楕円形で、長径方向は N-87°-W である。東部が燃焼部、西部が足場と推定でき、足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 56cm で、内彎して袋状を呈し、底面から約 34cm のところで直立している。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.58 m、短径 0.46 m の楕円形である。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

第 37 号炉穴 (第 47 図)

調査年度 平成 30 年度

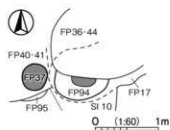
重複関係 第 10 号竪穴建物跡、第 40・41・95 号炉穴を掘り込んでいる。

第 17・94 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 燃焼部しか残存していないため、長径は 0.42 m、短径は 0.38 m しか確認できなかった。長径方向、平面形は不明である。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢) が出土している。1・2 は燃焼部から出土している。



第 47 図 第 37・94 号炉穴・第 37 号炉穴出土遺物実測図

第 37 号炉穴出土遺物観察表 (第 47 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による工具による刷み 外・内面	燃焼部	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・赤褐色・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻赤褐色	燃焼部	5% 茅山下層式

第 94 号炉穴 (第 47 図)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 10 号竪穴建物跡、第 40・41・95 号炉穴を掘り込み、第 17・36・44 号炉穴に掘り込まれている。

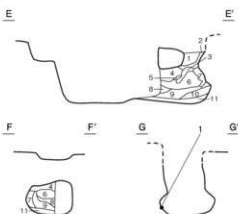
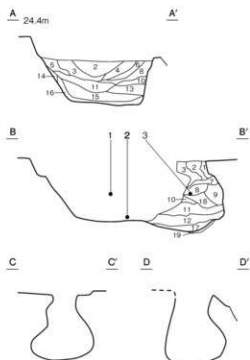
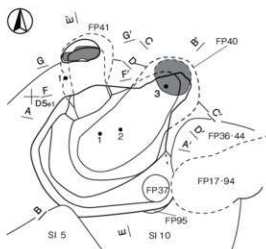
第 37 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 複数の炉穴と重複しているため、長径 0.85 m、短径は 0.37 m しか確認できなかった。長径方向は不明である。円形あるいは楕円形と推定できる。南部が燃焼部と推定できる。第 17・36・44 号炉穴と重複

しているため、足場は不明である。壁は高さ58cmである。

燃焼部 南壁寄りに位置している。第36・44号炉穴と重複しているため、長径0.40m、短径0.16mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。



第40号炉穴土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック微量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 にい・黄褐色 ロームブロック微量
- 10 暗褐色 ロームブロック多量
- 11 褐色 ロームブロック多量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量
- 13 暗褐色 ロームブロック少量
- 14 褐色 ロームブロック中量
- 15 にい・黄褐色 ロームブロック少量
- 16 にい・黄褐色 ロームブロック中量
- 17 赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量
- 18 にい・黄褐色 ロームブロック少量
- 19 赤褐色 地山

第41号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 9 赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量
- 10 赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量
- 11 暗赤褐色 ロームブロック中量、ロームブロック少量

第48図 第40・41号炉穴実測図

0 (1:60) 2m

第40号炉穴 (第48・49図 PL15)

調査年度 平成30年度

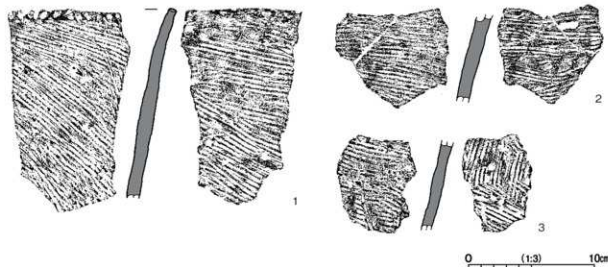
重複関係 第10号堅穴建物跡、第95号炉穴を掘り込み、第5号堅穴建物、第17・37・94号炉穴に掘り込まれている。第41号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 288 m、短径 234 m の不定形で、長径方向は N-47°-E である。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 112cm で、壁は内彎して袋状を呈し、底面から約 85cm のところで内傾している。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.64 m、短径 0.58 m の楕円形である。

覆土 18 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 19 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 29 点（深鉢）が出土している。2 は覆土下層、1・3 は覆土中層から出土している。



第 49 図 第 40 号炉穴出土遺物実測図

第 40 号炉穴出土遺物観察表（第 49 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(15.1)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子・繊維	明褐色	普通	口縁頂部に刻み 外・内面貝殻染灰文	覆土中層	5% 円形 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐色	普通	外・内面貝殻染灰文	覆土下層	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	褐色	普通	外・内面貝殻染灰文	覆土中層	5% 茅山下層式

第 41 号炉穴（第 48・50 図 PL15）

調査年度 平成 30 年度

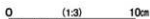
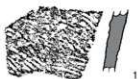
重複関係 第 10 号竪穴建物跡、第 95 号炉穴を掘り込み、第 5 号竪穴建物、第 17・37・94 号炉穴に掘り込まれている。第 40 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第 40 号炉穴と重複しているため、短径 0.56 m、長径は 1.18 m しか確認できなかった。長径方向は N-11°-W の楕円形と推定できる。北部に天井部が遺存している。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は、第 40 号炉穴と重複しているため、燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 114cm で、内彎して袋状を呈し、底面から約 60cm のところで外傾している。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.60 m、短径 0.20 m の楕円形である。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。1 は覆土下層から出土している。



第50図 第41号炉穴出土遺物実測図

第41号炉穴出土遺物観察表(第50図)

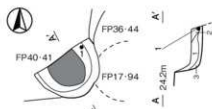
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・ 編成	明期	普通	外面貝殻条痕文 内面角棒状の工具によるナデ	覆土下層	5% 5% 子山下層式

第95号炉穴(第51図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第10号竪穴建物跡を掘り込み、第17・36・37・40・41・44・94号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 複数の炉穴に掘り込まれているため、長径1.06m、短径は0.71mしか確認できなかった。長径方向は不明である。円形または楕円形で、南東部が燃焼部、北西部が足場と推測される。足場は複数の炉穴に掘り込まれているため、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ45cmで、外傾している。



土層解説

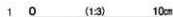
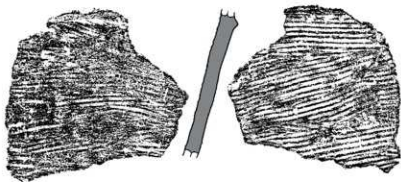
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量



燃焼部 南壁寄りに位置している。第40・41号炉穴と重複しているため、長径0.54m、短径0.52mしか確認できなかったが、楕円形と推定できる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中層から出土している。



第51図 第95号炉穴・出土遺物実測図

第95号炉穴出土遺物観察表(第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・ 雲母・編成	にびい編	普通	横位の段帯 外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5% PL30 子山下層式

所見 8基の炉穴は、土層の切り合いと調査の状況から、3つの構築に使用されていたと想定できる。ひとつは、初めに第95号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第40・41号炉穴が作られている。第40・41号炉穴の新旧関係は不明である。さらに第40・41号炉穴の使用後に、南部に第37・94号炉穴が作られている。もうひとつは、使用後の第95号炉穴を掘り込んで、北東側に第36号炉穴が作られ、使用後に第44号炉穴を作り、さらに第36・44・94・95号炉穴を掘り込んで第17号炉穴が作られている。また、第40・41号炉穴の2基については、残存する遺構の形状から煙道をともなう炉穴とみられる。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第11・13・14号炉穴

位置 調査区中央部のD5d2～D5e2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。3基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第11号炉穴（第52図 PL16）

調査年度 平成30年度

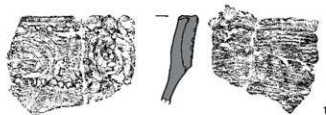
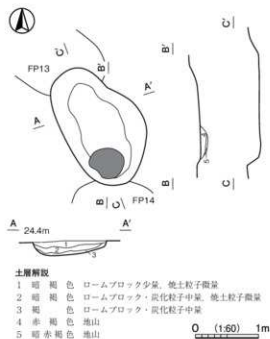
重複関係 第13・14号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径200m、短径1.22mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。南部が燃焼部、北西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ22cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.56m、短径0.48mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4・5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。1は覆土中から出土している。



第52図 第11号炉穴・出土遺物実測図

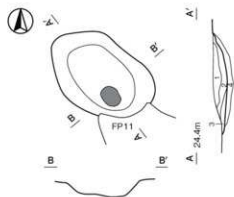
第11号炉穴出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄緑	普通	口唇部隆帯に竹管による刷み 凹面による凹線	覆土中	5% 四角 字山下層式

第13号炉穴 (第53図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第11号炉穴に掘り込まれている。



土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 地山

0 (1:60) 1m



第53図 第13号炉穴・出土遺物実測図

規模と形状 長径1.80m、短径1.15mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。南東部が燃焼部、北西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ22cmで、緩やかに立ち上がっている。
燃焼部 南壁寄りに位置している。長径0.34m、短径0.28mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4・5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。

1・4は表土からの流れ込みである。2・3は覆土中から出土している。

第13号炉穴出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	格子目状の細凹線	覆土中	5% 三戸式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	丸棒状の工具による刷突	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	明赤褐	普通	外面棒状の工具による凹線	覆土中	5% 字山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	横位の粗凹線	覆土中	5% 三戸式

第14号炉穴 (第54図 PL16)

調査年度 平成30年度

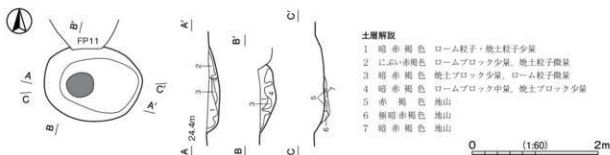
重複関係 第11号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.54 m、短径は1.18 mの楕円形で、長径方向はN-77°-Wである。西部が燃焼部、東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ16 cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 中央部からやや西壁寄りに位置している。長径0.44 m、短径0.38 mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第5～7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。



第54図 第14号炉穴実測図

所見 3基の炉穴は、土層の切り合いと調査の状況から、初めに第13号あるいは第14号炉穴をそれぞれ使用後、両方を掘り込むように第11号炉穴が作られている。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第19～21・27・81・82号炉穴

位置 調査区中央部のD4 g3区～D4 h4区、標高24 mほどの台地緩斜面部に位置している。6基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第19号炉穴 (第55図)

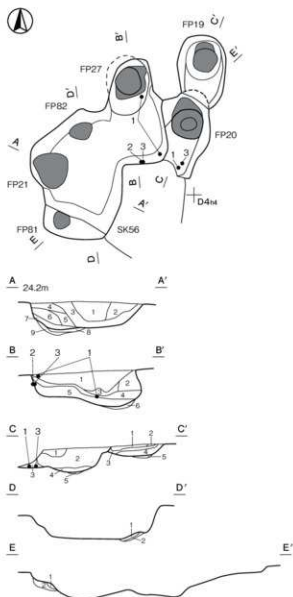
調査年度 平成30年度

重複関係 第20号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第20号炉穴に掘り込まれているため、短径0.74 m、長径は1.06 mしか確認できなかった。長径方向はN-0°の楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は第20号炉穴と重複しているが、燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ20 cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.48 m、短径0.36 mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5層は被熱を受けた地山である。



第55図 第19～21・27・81・82号炉穴実測図

第20号炉穴 (第55・56図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第19号炉穴を掘り込み、第27号炉穴、第56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第27号炉穴、第56号土坑に掘り込まれているため、長径は1.22m、短径は0.86mしか確認できなかった。長径方向はN-19°-Eの楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦と推定できる。壁は高さ40cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.80m、短径0.50mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片17点(深鉢)が出土している。1・3は覆土下層、2・4・5は覆土中から出土している。

第19号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子微量
- 4 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 5 赤褐色 地山

第20号炉穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 赤褐色 地山

第21号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 8 赤褐色 地山
- 9 暗赤褐色 地山

第27号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量
- 5 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量
- 6 赤褐色 地山

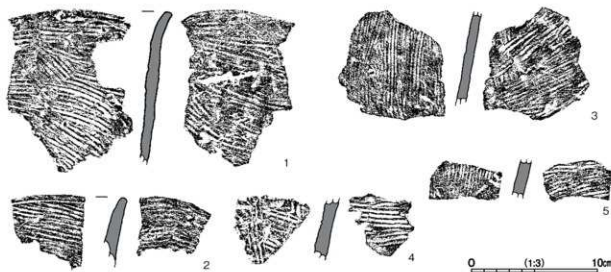
第81号炉穴土層解説

- 1 におい赤褐色 地山
- 2 暗赤褐色 地山

第82号炉穴土層解説

- 1 赤褐色 地山
- 2 暗赤褐色 地山

0 (1:60) 2m



第56図 第20号炉穴出土遺物実測図

第20号炉穴出土遺物観察表(第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(122)	-	長石・石英・ 緑泥	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・ 緑泥	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・ 緑泥	褐	普通	外面貝殻条痕文 角棒状の工具による十字調整 内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL26 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・ 滑石・緑泥	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・ 緑泥	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式

第21号炉穴(第55・57・58図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第81号炉穴、第56号土坑を掘り込んでいる。第82号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第81・82号炉穴と重複しているため、規模、長径方向は不明である。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ42cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 北西壁寄りに位置している。長径0.56m、短径0.52mの不整形である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第8・9層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片25点(深鉢)が出土している。1～5は覆土中から出土している。3は埋め戻しの混入である。



第57図 第21号炉穴出土遺物実測図(1)



第58図 第21号炉穴出土遺物実測図(2)

第21号炉穴出土遺物観察表(第57・58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	黒	普通	口唇部に角棒状の工具による筋み 口縁部に山形状に押しき	覆土中	5% 円蓋 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母・繊維	黒	普通	内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	明赤褐	普通	縦位の細洗線	覆土中	5% 三戸式
4	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕文	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英・繊維	黒褐	普通	指頭による円線で円文を施す	覆土中	5% 子山下層式

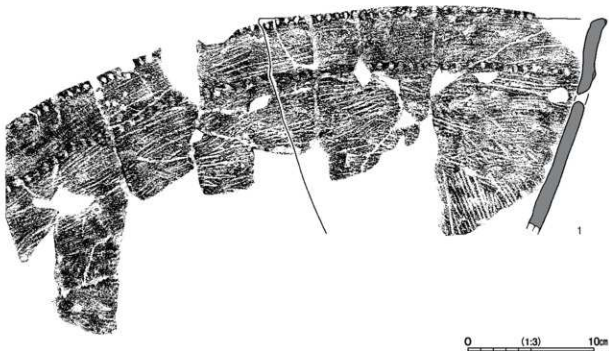
第27号炉穴(第55・59・60図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第20号炉穴、第56号土坑を掘り込んでいる。第82号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第82号炉穴と重複しているため、短径0.92m、長径は1.63mしか確認できなかった。長径方向はN-9°-Wの楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は深さ56cmで、北側が内傾している。その他の壁は、外傾している。

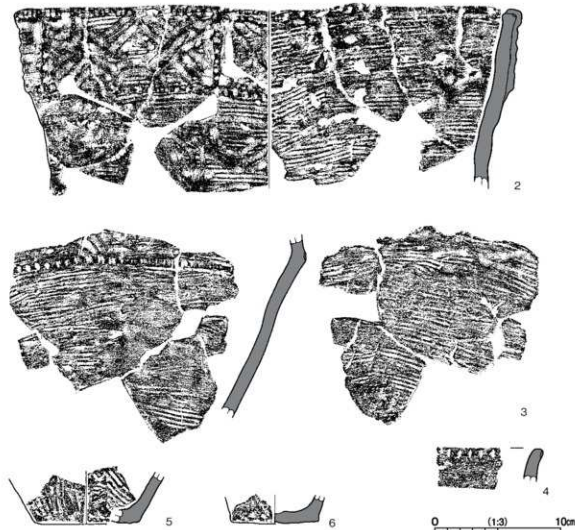
燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.42m、短径0.38mの楕円形である。



第59図 第27号炉穴出土遺物実測図(1)

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片59点(深鉢)が出土している。1は燃焼部上層と覆土下層から出土した破片が接合されたものである。2・3は覆土中層、4～6は覆土中から出土している。



第60図 第27号炉穴出土遺物実測図(2)

第27号炉穴出土遺物観察表(第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	27.5	(17.2)	-	長石・石英・ 織成	橙	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み。口縁部に板状工具による凹線を残す。施修孔1ヶ所。	燃焼部上層 覆土下層	5%、P1.25 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	[38.6]	(14.3)	-	長石・石英・ 織成	橙	普通	隆帯に竹管の管、後による刻み。外・内面貝殻敷文。3と同一器体。	覆土中層	5%、P1.27 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(14.6)	-	長石・石英・ 織成	橙	普通	隆帯に竹管による刻み。外・内面貝殻敷文。2と同一器体。	覆土中層	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・ 織成	におい肌	普通	口唇部に棒状の工具による刻み	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	[8.2]	長石・石英・ 赤砂・織成	明褐色	普通	外・内面貝殻敷文	覆土中	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	[6.8]	長石・石英・ 織成	明赤褐色	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第 81 号炉穴 (第 55 図)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 56 号土坑を掘り込み、第 21 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第 21 号炉穴に掘り込まれているため、規模、長径方向は不明である。北西部が燃焼部、南東部が足場と推定できる。燃焼部までの傾斜は不明である。壁は深さ 24cm で、外傾している。

燃焼部 北西壁寄りに位置している。第 21 号炉穴に掘り込まれているため、長径 0.36 m、短径は 0.26 m の円形または楕円形である。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。第 1・2 層は被熱を受けた地山である。

第 82 号炉穴 (第 55 図)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 56 号土坑を掘り込んでいる。第 21 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第 21 号炉穴、第 56 号土坑と重複しているため、規模、長径方向は不明である。北西部が燃焼部、南東部が足場と推定できる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は深さ 45cm で、外傾している。

燃焼部 北西壁寄りに位置している。長径 0.42 m、短径は 0.28 m の楕円形である。

覆土 遺存状態が悪く、堆積状況は不明である。第 1・2 層は被熱を受けた地山である。

所見 6 基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から、2 つの構築順が想定できる。ひとつは、初めに第 19 号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第 20 号炉穴が作られている。もうひとつは、第 81 号炉穴が作られ、その後北側に移動するように第 21・82・27 号炉穴へと作り替えられていると推定できる。足場は、いずれも燃焼部の南東部あるいは南側の平場と考えられる。時期は、出土土器から早期後葉である。

第 24・25・28 号炉穴

位置 調査区中央部の D 3h9 区～D 3g9 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。3 基を 1 つのまとまりとして捉えて記述する。

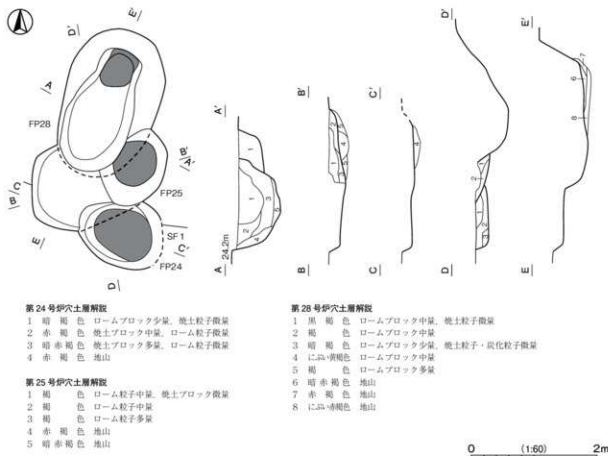
第 24 号炉穴 (第 61・62 図 PL16)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 25 号炉穴、第 1 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第 25 号炉穴、第 1 号道路に掘り込まれているため、短径 1.08 m、長径は 1.36 m しか確認できなかった。長径方向は N - 75° - W の楕円形と推定できる。南東部が燃焼部で足場は不明である。壁は高さ 21cm で、外傾している。

燃焼部 中央部に位置している。長径 0.96 m、短径 0.76 m の楕円形である。



第61図 第24・25・28号炉穴実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。1～5は覆土中から出土している。



第62図 第24号炉穴出土遺物実測図

第24号炉穴出土遺物観察表(第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・繊維	に黒・褐	普通	口唇部に細い刻み	覆土中	5%、F1.26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	口唇部両端に竹管による刻み 指頭による凹線	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母・繊維	に黒・赤褐色	普通	外面貝殻条痕文を施文化後、洗線・刺突を施す	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰褐色	普通	外・内面角棒状の工具によるナメ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第25号炉穴 (第61・63図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第24号炉穴を掘り込み、第28号炉穴、第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第28号炉穴、第1号道路に掘り込まれているため、長径2.33m、短径は1.43mしか確認できなかった。長径方向はN-62°-Eの楕円形と推定できる。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ20cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。第28号炉穴に掘り込まれているため、長径0.78m、短径0.63mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4・5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。1~4は覆土中から出土している。2は表土からの流れ込みである。



第63図 第25号炉穴出土遺物実測図

第25号炉穴出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(22)	-	長石・石英・ 金雲母・繊維	暗褐色	普通	口径部内端に竹管による刷み	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	明赤褐色	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5% 三戸式
3	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	にぶい褐色	普通	外面貝殻象嵌文	覆土中	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(26)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	赤褐色	普通	外・内面貝殻象嵌文	覆土中	5% 子山下層式

第28号炉穴 (第61・64・65図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第25号炉穴を掘り込んでいます。

規模と形状 長径2.40m、短径1.50mの楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ64cmで、外傾している。

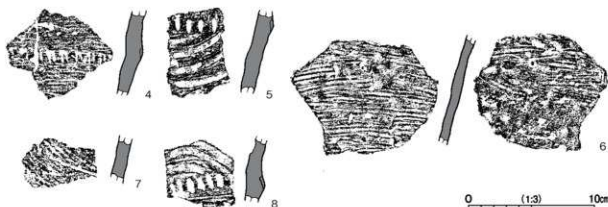
燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.60m、短径0.48mの不整楕円形である。



第64図 第28号炉穴出土遺物実測図(1)

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6～8層は、被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片16点(深鉢)が出土している。1～8は覆土中から出土している。



第65図 第28号炉穴出土遺物実測図(2)

第28号炉穴出土遺物観察表(第64・65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	灰褐色	普通	口唇部に棒状の工具による刻み 外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% PL26 芋山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母・繊維	暗褐色	普通	口唇部両面に竹管による刻み 口縁部に指頭による凹線の弧線文	覆土中	5% PL26 芋山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部に竹管による刻み 口縁部に竹管による押引き・刺突	覆土中	5% PL26 芋山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	褐色	普通	隆帯に竹管による刻み 外面具段条痕文	覆土中	5% 芋山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	暗褐色	普通	隆帯に竹管による刻み 指頭による凹線の弧線文	覆土中	5% 芋山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	明赤褐色	普通	外面具段条痕文 内面棒状の工具による条痕。	覆土中	5% 芋山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	にぶい赤褐色	普通	外面具段条痕文	覆土中	5% 芋山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	暗褐色	普通	隆帯に竹管による刻み 指頭による凹線の弧線文	覆土中	5% 芋山下層式

所見 3基の炉穴は、土層の切り合いと調査の状況から、初めに南西側の平場を足場として第24号炉穴を、使用後に北側へ燃焼部を作り替えて第25号炉穴が作られている。その後、さらに北側を掘り込んで第28号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第29～35号炉穴

位置 調査区中央部のD4g1～D4h1区、標高24mほどの台地緩斜面部に位置している。7基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

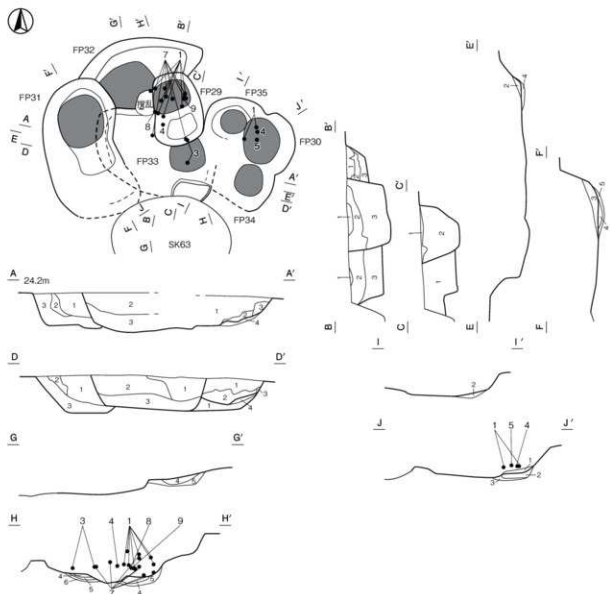
第29号炉穴(第66～68図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第32・33・35号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.15m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ62cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.62m、短径0.48mの不整楕円形である。



第29号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中層, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中層, 焼土ブロック微量

第30号炉穴土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中層, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 地山
- 3 に凹凸褐色 地山

第31号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中層, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中層
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中層, ローム粒子少量
- 4 赤褐色 地山
- 5 に凹凸褐色 地山

第32号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗赤褐色 地山
- 5 赤褐色 地山

第33号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック中層, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 地山
- 5 赤褐色 地山
- 6 に凹凸褐色 地山

第34号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量
- 3 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 赤褐色 地山

第35号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 地山

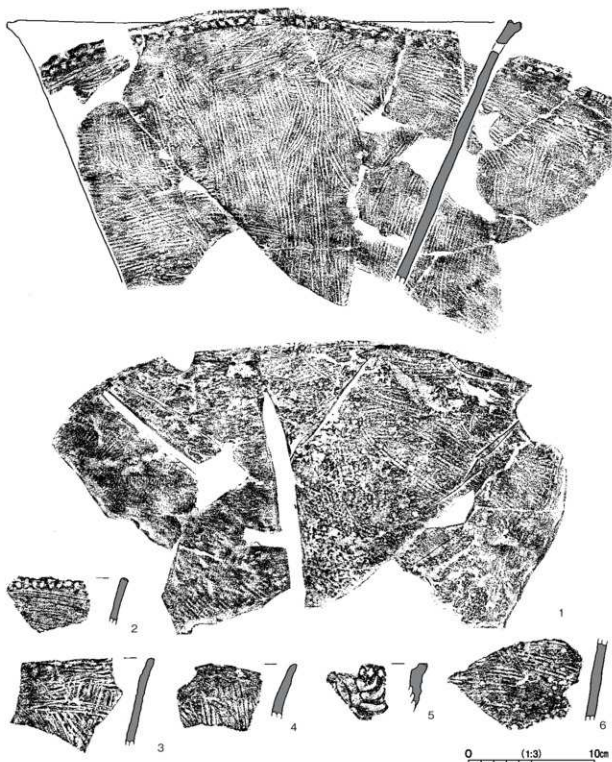
0 (1:60) 2m

第66図 第29～35号炉穴実測図

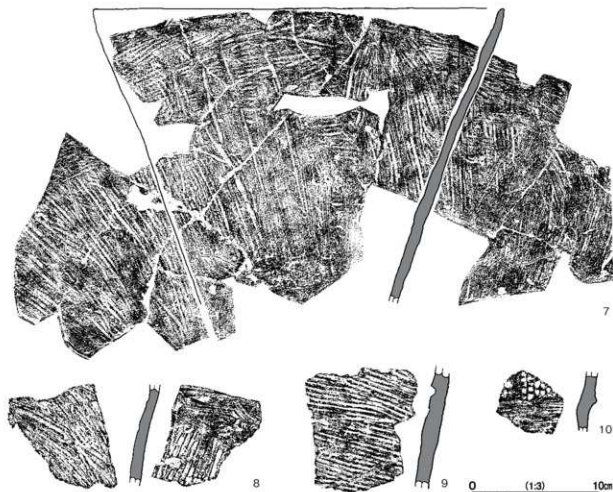
覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 88 点（深鉢）が出土している。7 は燃焼部から覆土中層にかけて出土している。

1 は第 32 号炉穴の覆土中層と、覆土下層から中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合している。3 は覆土下層と第 33 号炉穴の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合している。4・8・9 は覆土下層、2・5・6・10 は覆土中から出土している。



第 67 図 第 29 号炉穴出土遺物実測図(1)



第 68 図 第 29 号炉穴出土遺物実測図 (2)

第 29 号炉穴出土遺物観察表 (第 67・68 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	〔39.2〕	(21.0)	-	長石・石英・ 繊維	褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み 外・内面貝殻 条痕文・棒刺孔 1か所	覆土下層~中層 FP32 覆土中層	30% PL25 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・ 繊維	褐灰	普通	口唇部に竹管による刻み 外面棒状の工具による 条痕文	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	-	長石・石英・ 繊維	灰褐色	普通	外面貝殻条痕文、内面棒状の工具による条痕	覆土下層 FP23 覆土下層	5% PL27 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・ 繊維	灰黄褐	普通	口唇部に竹管による刻み 指頭による凹窪で弧 線文を施す	覆土中	5% PL27 子山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
7	縄文土器	深鉢	〔32.4〕	(23.5)	-	長石・石英・ 繊維	灰褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	凹底部~ 覆土中層	30% PL25 子山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL27 子山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・ 繊維	褐灰	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% 子山下層式
10	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	竹管による押引き・刺突 内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式

第 30 号炉穴 (第 66・69 図 PL16)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 33・34・35 号炉穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

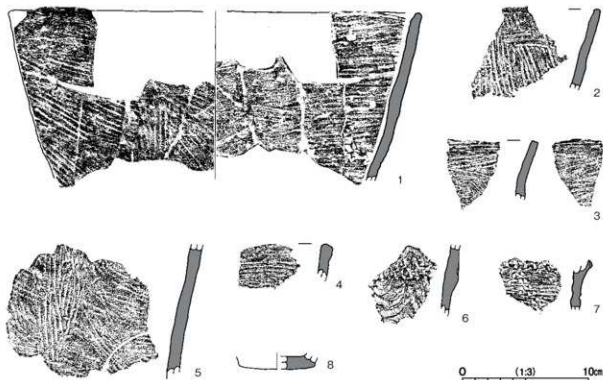
規模と形状 第 34・35 号炉穴と重複しているため、長径は 0.95 m、短径は 0.82 m しか確認できなかった。平

面形は不明である。壁は高さ50cmで、外傾している。

燃焼部 西壁寄りに位置している。長径0.72m、短径0.58mの楕円形である。

覆土 単一層である。ロームブロックが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2・3層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片90点(深鉢)が出土している。1・4・5は覆土下層、2・3・6~8は覆土中から出土している。



第69図 第30号炉穴出土遺物実測図

第30号炉穴出土遺物観察表(第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[324]	(13.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	にぶい黄褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	10% 下2層 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・繊維	黒	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰黄褐色	普通	外面貝殻条痕文。内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 下2層 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰褐色	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土下層	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(10.7)	-	長石・石英・雲母・繊維・織	明赤褐色	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土下層	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母・繊維	黒褐色	普通	條帯に管管による刻み 節頭による凹線で弧線文を施す	覆土中	5% 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	にぶい黄褐色	普通	口縁部に山形状に連続刺突	覆土中	5% 下2層 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(1.3)	(6.1)	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐色	普通	外面ナメ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第31号炉穴(第66・70図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第32号炉穴に掘り込み、第33号炉穴、第63号土坑に掘り込まれている。

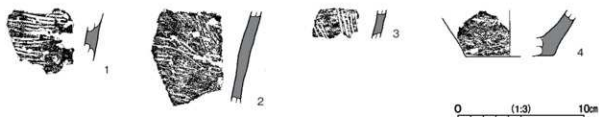
規模と形状 北側の燃焼部の配置から短径1.18m、長径は2.18mで、長径方向はN-17°-Wの楕円形と推

定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦であるが、第33号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推定でき、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ60cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.86m、短径0.72mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4・5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。1~4は覆土中から出土している。



第70図 第31号炉穴出土遺物実測図

第31号炉穴出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	灰褐色	普通	外面貝殻染斑文	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰褐色	普通	外面貝殻染斑文	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	黒褐色	普通	外面棒状の工具による染斑	覆土中	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	(7.0)	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5% 子山下層式

第32号炉穴(第66図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第29・31・33号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第29・31・33号炉穴に掘り込まれているため、長径は1.65m、短径は1.05mしか確認できなかった。長径方向と形状は不明である。南西部が燃焼部、北東部が足場と考えられる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ17cmで、外傾している。

燃焼部 南西壁寄りに位置している。第29・31号炉穴との重複と攪乱を受けていることから、長径は0.78m、短径は0.74mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4・5層は被熱を受けた地山である。

第33号炉穴(第66図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第31・32・34・35号炉穴を掘り込み、第29号炉穴、第63号土坑に掘り込まれている。第30号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 複数の炉穴と重複しているため、長径は2.00 m、短径は1.20 mしか確認できなかった。長径方向はN-78°-Wの楕円形と推定できる。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ58cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。第29号炉穴に掘り込まれているため、長径0.58 m、短径は0.54 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4～6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。

第34号炉穴 (第66図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第35号炉穴を掘り込み、第33号炉穴に掘り込まれている。第30号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 複数の炉穴と重複しているため、長径は1.20 m、短径は0.70 mしか確認できなかった。長径方向と形状については不明である。南東部が燃焼部、北西部が足場と推定できる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ45cmで、外傾している。

燃焼部 東壁寄りに位置している。長径0.48 m、短径0.44 mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4層は被熱を受けた地山である。

第35号炉穴 (第66図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第29・33・34号炉穴に掘り込まれている。第30号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 複数の炉穴と重複しているため、長径は0.70 m、短径は0.95 mしか確認できなかった。長径方向と形状については不明である。北部が燃焼部、南部が足場である。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ45cmで、外傾している。

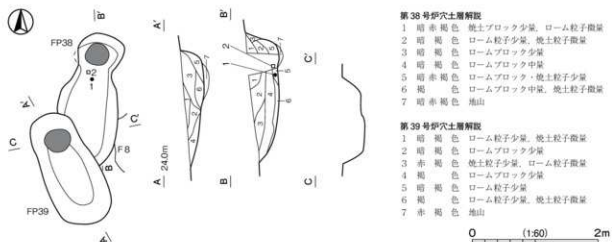
燃焼部 北壁寄りに位置している。長径0.44 m、短径0.38 mの楕円形である。

覆土 単一層である。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2層は被熱を受けた地山である。

所見 7基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から、3つの構築順が想定できる。1つ目は、最初に第32号炉穴を、使用後に南西側を掘り込んで第31号炉穴が作られている。2つ目として、最初に第35号炉穴を、その後南側へ移動するように第30・34号炉穴へと作り替えられている可能性が高い。3つ目として、第31・34号炉穴を掘り込んで第33号炉穴を、使用後に北側へ移動し第29号炉穴が作られていると推定できる。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第38・39号炉穴

位置 調査区中央部のD4h7区、標高23mほどの台地緩斜面部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第71図 第38・39号炉穴実測図

第38号炉穴（第71・72図 PL16）

調査年度 平成30年度

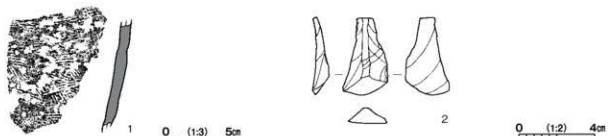
重複関係 第39号炉穴に掘り込まれている。第8号が跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 第39号炉穴に掘り込まれているため、短径0.97m、長径は1.72mしか確認できなかった。長径方向はN-11°-Eの不整楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ50cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.38m、短径0.36mの円形である。

覆土 6層に分類できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、剥片1点が出土している。1・2は燃焼部近くの覆土下層から出土している。



第72図 第38号炉穴出土遺物実測図

第38号炉穴出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英・磁鉄	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% 子山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	割片	4.1	2.4	0.8	5.50	頁岩	縦長割片・使用痕有	覆土下層	

第39号炉穴 (第71図 PL16)

調査年度 平成30年度

重複関係 第38号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.87m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ40cmで、緩やかに立ち上がっている。

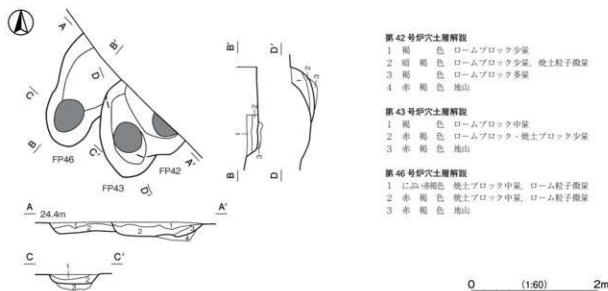
燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.44m、短径0.36mの楕円形である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第7層は被熱を受けた地山である。

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から初めに第38号炉穴を、使用後に北西側を掘り込んで第39号炉穴が作られている。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第42・43・46号炉穴

位置 調査区中央部のC5h1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。3基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第73図 第42・43・46号炉穴実測図

第42号炉穴 (第73図 PL17)

調査年度 平成30年度

重複関係 第43・46号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外のため、長径は1.40 m、短径は0.60 mしか確認できなかった。長径方向はN-39°-Wの楕円形と推定できる。南東部が燃焼部、北西部が足場である。足場から燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ25cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の南東壁寄りに位置している。北東部が調査区域外のため、長径0.52 m、短径は0.22 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定される。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4層は被熱を受けた地山である。

第43号炉穴（第73図 PL17）

調査年度 平成30年度

重複関係 第46号炉穴に掘り込み、第42号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第42号炉穴に掘り込まれているため、長径は1.50 m、短径は0.78 mしか確認できなかった。長径方向はN-8°-Wの楕円形と推定できる。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ35cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.50 m、短径0.46 mの楕円形である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第3層は被熱を受けた地山である。

第46号炉穴（第73図 PL17）

調査年度 平成30年度

重複関係 第42・43号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第42・43号炉穴に掘り込まれているため、長径は1.45 m、短径は0.95 mしか確認できなかった。長径方向はN-26°-Eの楕円形と推定できる。南西部が燃焼部、北東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ18cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。長径0.54 m、短径0.44 mの楕円形である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第3層は被熱を受けた地山である。

所見 3基の炉穴は、土層の切り合いと調査の状況から初めに第46号炉穴が作られ、使用後に南東側を掘り込んで第43・42号炉穴の順に作られている。時期は、遺構の形状から早期後葉である。

第45・69号炉穴、第16号炉跡

位置 調査区中央部のC5h1区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。3基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第45号炉穴 (第74図 PL17)

調査年度 平成30年度

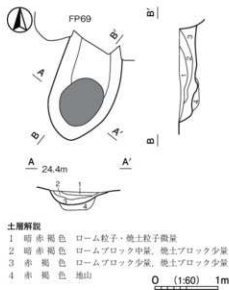
重複関係 第69号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第69号炉穴に掘り込まれているため、短径1.02m、長径は1.58mしか確認できなかった。長径方向はN-15°-Eの楕円形と推定できる。南部が燃焼部、北部が足場である。足場から燃焼部まではほぼ平坦である。壁は高さ32cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.80m、短径0.62mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片21点(深鉢)が出土している。2・3は表土からの流れ込みである。



第74図 第45号炉穴・出土遺物実測図

第45号炉穴出土遺物観察表 (第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・炭母・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刷み 外面角棒状の工具による凹線	覆土中	5% PL27 予山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・炭母	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 三好式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・炭母・繊維	明赤褐	普通	区画内に沈線と光線 円形竹管文を刺突	覆土中	5% 網ヶ島白式

第69号炉穴 (第75図)

調査年度 平成30年度

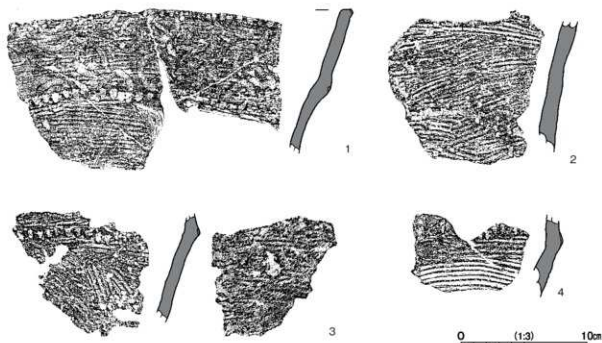
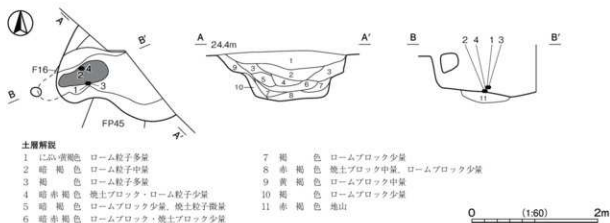
重複関係 第45号炉穴を掘り込み、第16号炉跡に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外のため、長径は1.68m、短径は1.40mしか確認できなかった。長径方向はN-70°-Eの不定形である。南西部に天井部が遺存している。西部が燃焼部、東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ67cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の西壁寄りに位置している。長径0.82m、短径0.30mの不整楕円形である。

覆土 10層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第11層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片28点(深鉢)が出土している。1~4は覆土下層から出土している。



第75図 第69号炉穴・出土遺物実測図

第69号炉穴出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.5)	-	長石・石英・ 織部	灰褐色	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み 外面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL29 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(10.4)	-	長石・石英・ 織部	にじい褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL29 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英・ 織部	にじい褐色	普通	隆帯に竹管による刻み 条痕 内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL29 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・ 織部	褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5% 子山下層式

第16号炉跡 (第76図 PL21)

調査年度 平成30年度

重複関係 第69号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.82m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eの地床炉である。壁は高さ14cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.46 m、短径0.34 mの楕円形である。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第2・3層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片6点（深鉢）が出土している。1・2は燃焼部から出土している。



第76図 第16号炉跡・出土遺物実測図

第16号炉跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(13.9)	-	長石・石英・磁鉄	黒	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み・刺突 断面による凹線で内文を施す	燃焼部	5% PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・磁鉄	にぶい橙	普通	外面に縦条痕文	燃焼部	5% 茅山下層式

所見 2基の炉穴と1基の炉跡は、土層の切り合いと遺構の状況から初めに第45号炉穴が作られ、使用後に北側を掘り込んで、第69号炉穴、第16号炉跡の順に作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第47・51号炉穴

位置 調査区中央部のD 5a3区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第47号炉穴（第77図 PL17）

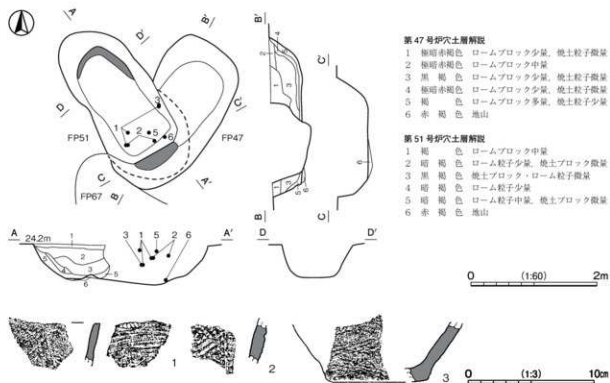
調査年度 平成30年度

重複関係 第67号炉穴を掘り込み、第51号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.50 m、短径1.28 mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。南西部が燃焼部、北東部が足場である。足場から燃焼部まではほぼ平坦である。壁は高さ48cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。第51号炉穴に掘り込まれているため、長径は0.72 m、短径は0.20 mしか確認できなかった。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6層は被熱を受けた地山である。



第77図 第47・51号炉穴・第47号炉穴出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片59点(深鉢)が出土している。1～3は覆土中から出土している。

第47号炉穴出土遺物観察表(第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・長石織	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕と指痕によるナテ 内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・長石織	灰黒	普通	沈澱による区画内に、竹管による押引きを充填	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	(8.2)	長石・石英・長石織	にぶい赤黒	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式

第51号炉穴(第77・78図 PL18)

調査年度 平成30年度

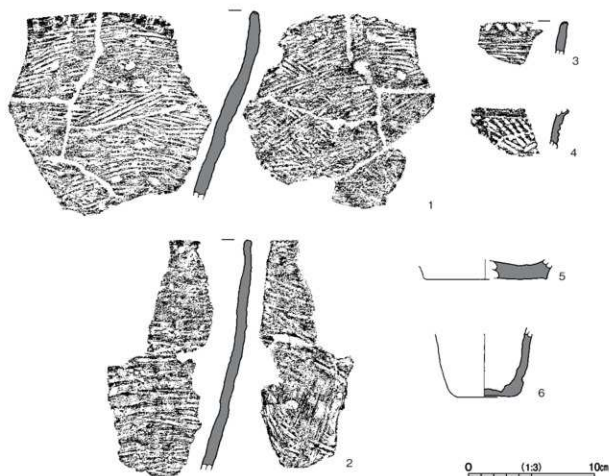
重複関係 第47号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 第47号炉穴と重複しているため、短径1.08m、長径は2.80mしか確認できなかった。長径方向はN-35°-Wの楕円形と推定できる。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ51cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.80m、短径0.62mの楕円形である。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片57点(深鉢)が出土している。6は覆土下層、1～3・5は覆土中層、4は覆土中から出土している。



第78図 第51号炉穴出土遺物実測図

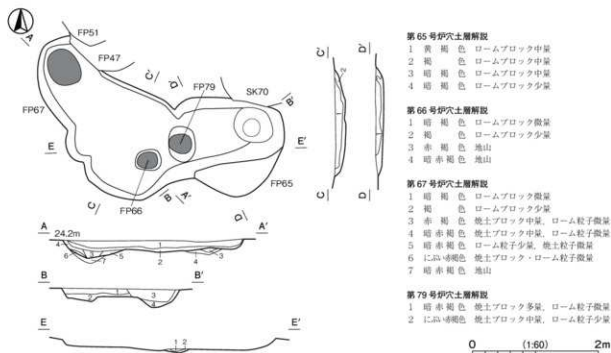
第51号炉穴出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(15.0)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	外面棒状の工具による条痕 内面棒状の工具による条痕	覆土中層	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(18.3)	-	長石・石英・赤色・繊維	褐	普通	外面に貝殻条痕文・指頭によるナツ調整	覆土中層	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・繊維	にぶい青黒	普通	口縁部に竹管による刻み 口縁部に棒状の工具による条痕	覆土中層	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	口縁部に丸棒状の工具による連続刻突	覆土中	5% PL28 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(1.6)	[9.8]	長石・石英・繊維	褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土中層	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	4.4	長石・石英・繊維	にぶい青黒	普通	外底面に指頭痕 内面貝殻条痕文	覆土下層	5% 茅山下層式

所見 2基の炉穴は、遺構の状況から初めに第47号炉穴を、使用後に北西側を掘り込んで第51号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第65～67・79号炉穴

位置 調査区中央部のD5a2～D5b4区、標高24mほどの台地緩斜面部に位置している。4基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第79図 第65～67・79号炉穴実測図

第65号炉穴 (第79・80図 PL18)

調査年度 平成30年度

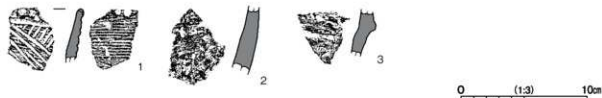
重複関係 第70号土坑に掘り込まれている。第79号炉穴とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第79号炉穴と重複しているため、規模、形状、長径方向は不明である。東部が燃焼部、西部が足場と推定できる。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ28cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 東壁寄りに位置している。長径0.30m、短径0.28mの円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土 4層に分层できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。1～3は覆土中から出土している。1は埋め戻しの混入である。



第80図 第65号炉穴出土遺物実測図

第65号炉穴出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・長石繊維	におい褐色	普通	口唇部に竹管による筋目 口縁部に沈澱を充填	覆土中	5% PL28 野島式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・長石繊維	におい褐色	普通	外面角棒状の工具によるナツ調整	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・長石繊維	明褐色	普通	横位の発帯 内面貝殻炭灰文	覆土中	5% 茅山下層式

第66号炉穴(第79図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第67・79号炉穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第67・79号炉穴と重複しているため、規模、長径方向は不明である。東部が燃焼部、西部が足場と推定できる。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ18cmで、外傾している。

燃焼部 東壁寄りに位置していると推定できる。長径0.32m、短径0.26mの楕円形である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第3・4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。

第67号炉穴(第79・81図 PL18)

調査年度 平成30年度

重複関係 第47号炉穴に掘り込まれている。第66号炉穴とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第66号炉穴と重複しているため、規模は不明で、長径方向はN-30°-Wである。形状は楕円形と推定できる。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ16cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.34m、短径0.26mの楕円形である。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。1~3は覆土中から出土している。



第81図 第67号炉穴出土遺物実測図

第67号炉穴出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(2.5)	-	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部に竹管による刻み	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい灰	普通	外面無文 内面具絞糸痕文	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい灰	普通	外・内面角棒状の工具による条痕	覆土中	5% 茅山下層式

第79号炉穴(第79図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第65・66号炉穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第65・66号炉穴と重複しているため、規模、長径方向、燃焼部と足場の位置は不明である。

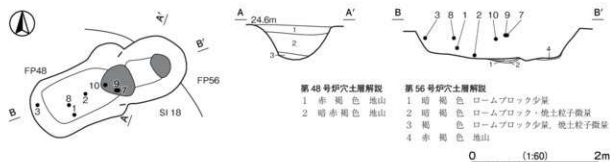
燃焼部 長径0.36 m、短径0.30 mの楕円形である。

覆土 2層に分層できる。ローム粒子を含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

所見 4基の炉穴の新旧関係は、覆土の堆積状況では判断できないため、構築順は不明である。

第48・56号炉穴

位置 調査区中央部のC410区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第82図 第48・56号炉穴実測図

第48号炉穴 (第82・83図 PL18)

調査年度 平成30年度

重複関係 第18号竪穴建物跡を掘り込み、第56号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第56号炉穴に掘り込まれているため、短径0.96 m、長径は1.79 mしか確認できなかった。長径方向はN-63°-Eの楕円形と推定できる。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ47cmで、外傾している。

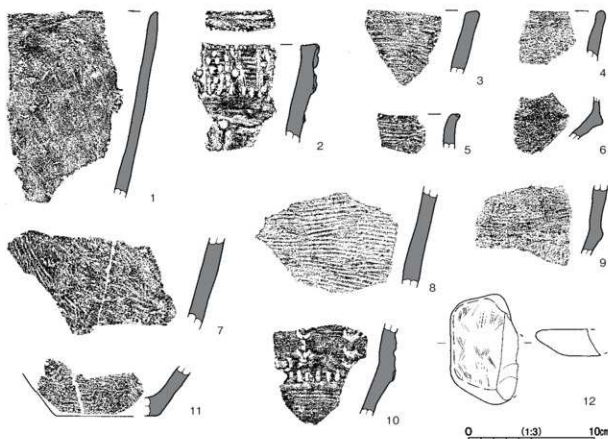
燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.54 m、短径0.42 mの不整楕円形である。

覆土 第56号炉穴に掘り込まれているため、堆積状況は不明である。第1・2層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片61点(深鉢)、石器1点(砥石)が出土している。1・2は覆土下層、3・8・10は覆土中層、7・9は覆土上層、4~6・11・12は覆土中から出土している。

第48号炉穴出土遺物観察表 (第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(14.8)	-	長石・石英・ 礫	にぶい褐色	普通	外面無文 内面棒状の工具によるナゲ調整	覆土下層	5% PL28 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・ 礫	暗赤褐色	普通	口唇部に竹管による削み 口縁部に縦位の隆帯 による区別	覆土下層	5% PL28 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・ 礫	にぶい褐色	普通	外面貝殻条痕文を施文後、指痕によるナゲ調整	覆土中層	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 礫	褐色	普通	外面指痕によるナゲ調整	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・ 礫	褐色	普通	口唇部に竹管による削み 外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・ 礫	明黄褐色	普通	内面に棒状の工具による沈積	覆土中	5% 子山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・ 礫	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土上層	5% 子山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・ 礫	褐色	普通	外面貝殻条痕文 内面内棒状の工具によるナゲ 調整	覆土中層	5% PL28 子山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・ 礫	赤褐色	普通	横位の隆帯 外面棒状の工具による条痕。	覆土上層	5% PL28 子山下層式



第 83 図 第 48 号炉穴出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母・織部	褐	普通	太い手織竹管による刺突文 胎土に多量の雲母を含む	覆土中層	5% 平山下層式
11	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	(8.0)	長石・石英・赤色粘土・織部	明赤褐	普通	外・内面角棒状の工具によるナゲ調整	覆土中	3% 平山下層式
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
12	砥石	8.3	(5.5)	2.2	162.10	砂岩	砥石一面	片面のみ使用	覆土中		

第 56 号炉穴 (第 82 図)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 18 号竪穴建物跡、第 48 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 第 48 号炉穴と重複しているため、短径 0.95 m、長径は 1.12 m しか確認できなかった。長径方向は N-69°-E の楕円形と推定できる。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 47cm で、外傾している。

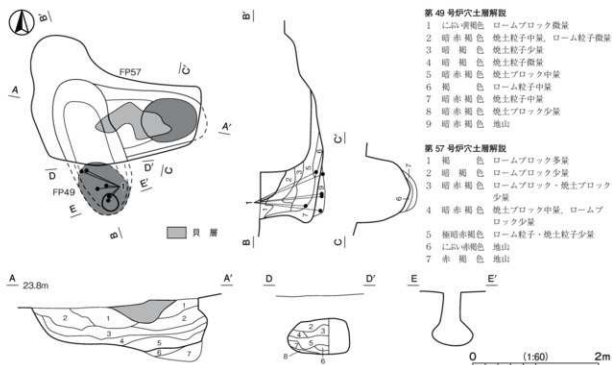
燃焼部 長径方向の北東部寄りに位置している。長径 0.42 m、短径 0.28 m の楕円形である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 4 層は被熱を受けた地山である。

所見 2 基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 48 号炉穴を、使用後に北東側を掘り込んで第 56 号炉穴が作られている。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第49・57号炉穴

位置 調査区中央部のC 4e8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第84図 第49・57号炉穴実測図

第49号炉穴 (第84・85図 PL17)

調査年度 平成30年度

重複関係 第57号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.96m、短径0.99mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。南部に天井部が遺存している。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ92cmで、内彎して袋状を呈し、底面から約25cmのところまで直立している。

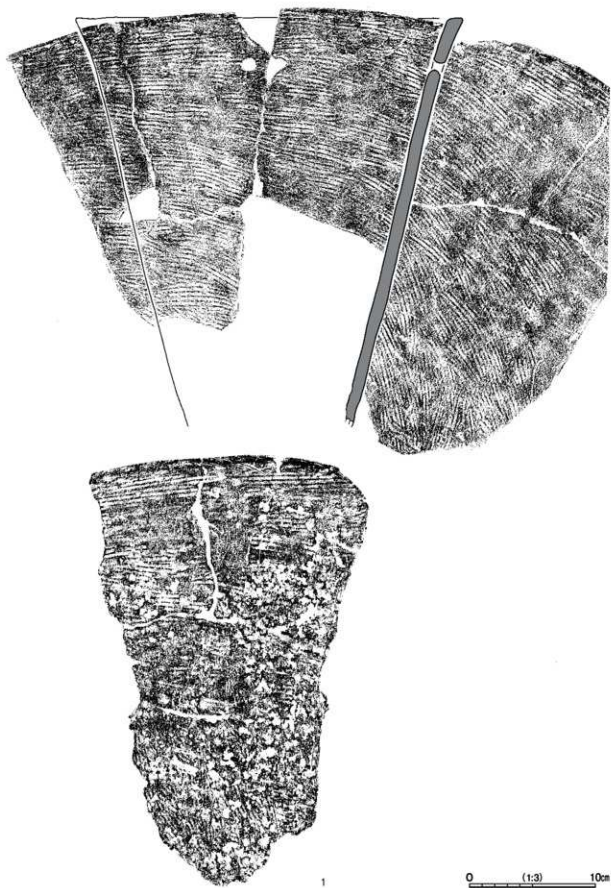
燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.90m、短径0.72mの楕円形である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第9層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。1は燃焼部から出土している。

第49号炉穴出土遺物観察表 (第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[306]	[326]	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・炭粒	明褐色	普通	外・内面貝殻条痕 補修孔1か所	燃焼部	5%、PL25 子山下層式



第 85 図 第 49 号竈穴出土遺物実測図

第57号炉穴（第84・86図 PL17）

調査年度 平成30年度

重複関係 第49号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.64m、短径1.25mの不定形で、長径方向はN-89°-Wである。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ82cmで、内増して袋状を呈し、底面から約52cmのところまで外傾している。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.92m、短径は0.70mの楕円形である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第6・7層は、被熱を受けた地山である。貝層は、覆土上層で確認され、厚さは38cmである。

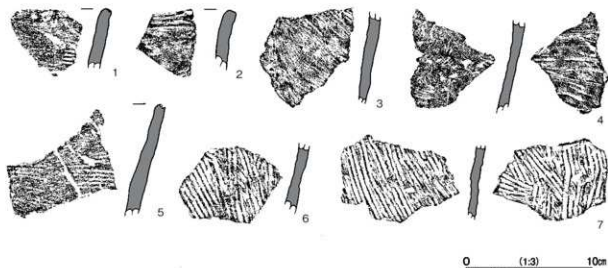
遺物出土状況 縄文土器片21点（深鉢）のほか貝が出土している。2～7は貝層から出土している。1は覆土中から出土している。11種類の貝類が確認され、総個体数は3672個である。体数別の比率は、表の通りで内湾の砂質や干潟を生息域とする貝類が出土している。また、サンプルの微細物を洗い出したところ、不明な骨または貝と思われるものが確認でき、自然科学分析を行った。結果は哺乳類の歯の可能性があることが分かった。詳細については、「(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について」で述べることにする。

第57号炉穴出土貝類集計表

種別	個体数	個体数比(%)
シオフキ	1023	27.9
ハマグリ	977	26.7
アサリ	852	23.2
マガキ	297	8.0
オキシジミ	180	4.9
ハイガイ	143	3.9
スガイ	60	1.6
アカニシガイ	53	1.4
ウネナシマヤガイ	49	1.3
レイシ	32	0.9
ウミニナ	6	0.2
総量	3672	100.0

※-は0.1%未満

所見 2基の炉穴の新旧関係については、土層の切り合いから初めに第49号炉穴が構築され、使用後に西側を掘り込み、第57号炉穴が作られたと考えられる。時期は、出土土器から早期後葉である。



第86図 第57号炉穴出土遺物実測図

第57号炉穴出土遺物観察表(第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外面角棒状の工具による凹線 内面貝殻条痕文	貝層中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・ 繊維	黒褐色	普通	内面貝殻条痕文	貝層中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	外面角棒状の工具による凹線	貝層中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	口唇部に竹管による刻み	貝層中	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	貝層中	5% 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・ 繊維	灰褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	貝層中	5% 茅山下層式

第54・55号炉穴

位置 調査区中央部のC4d2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第54号炉穴(第87図)

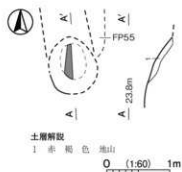
調査年度 平成30年度

重複関係 第55号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 遺存状態が悪いため、長径方向、規模は不明である。南部が燃焼部、北部が足場と推定できる。足場の傾斜は不明である。

燃焼部 南壁寄りに位置していると推定できる。遺存状態が悪いため、長径は0.56m、短径は0.40mの楕円形と推定できる。

覆土 遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。第1層は被熱を受けた地山である。



第87図 第54号炉穴実測図

第55号炉穴(第88図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第54号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第54号炉穴に掘り込まれているため、短径0.92m、長径は1.81mしか確認できなかった。長径方向はN-0°の楕円形と推定できる。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ47cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。径0.50mの円形と推定できる。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第2層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。2は覆土中から出土している。1・3は表土からの流れ込みである。



第88図 第55号炉穴実測図



第 89 図 第 55 号炉穴出土遺物実測図

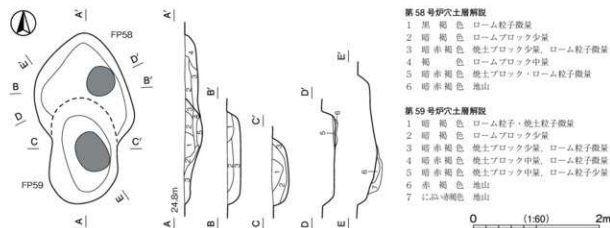
第 55 号炉穴出土遺物観察表 (第 89 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い赤褐色	普通	口唇部に竹管による刷目	覆土中	5% 三戸式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・繊維	に濃い褐色	普通	外面舟椀状の工具による凹線	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(2.2)	-	長石・石英	灰褐色	普通	横位の細沈線	覆土中	5% 三戸式

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から初めに第55号炉穴を、使用後に南側を掘り込んで第54号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第 58・59 号炉穴

位置 調査区中央部のD4a6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第 90 図 第 58・59 号炉穴実測図

第 58 号炉穴 (第 90 図 PL18)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 59 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第 59 号炉穴に掘り込まれているため、短径 0.90 m、長径は 1.02 m しか確認できなかった。長径方向は N-4°-W の楕円形と推定できる。北東部が燃焼部、南部が足場である。足場は、第 59 号炉穴に掘り込まれているため、燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 25cm で、外傾している。

燃焼部 北東壁寄り位置している。長径 0.50 m、短径 0.46 m の円形である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

第6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。

第59号炉穴 (第90図 PL18)

調査年度 平成30年度

重複関係 第58号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 第58号炉穴と重複しているため、短径1.04m、長径は1.68mしか確認できなかった。長径方向はN-0°の楕円形と推定できる。中央やや東寄りが燃焼部、足場は不明である。壁は高さ30cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 中央やや東寄りに位置している。長径0.64m、短径0.46mの楕円形である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第6・7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いから初めに第58号炉穴を、使用後に南側を掘り込んで第59号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第62～64・68・70・71・80号炉穴

位置 調査区中央部のD3b6～D3b7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。7基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第62号炉穴 (第91図 PL18)

調査年度 平成30年度

重複関係 第22号竪穴建物跡を掘り込み、第80号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.50m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ42cmで、外傾している。

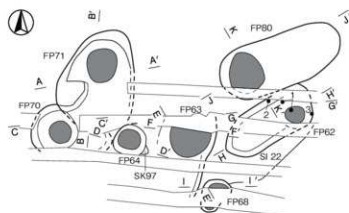
燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.34m、短径0.28mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。1・3は覆土中層、2は覆土上層から出土している。4は表土からの流れ込みである。

第62号炉穴出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	長石・石英・ 繊維	灰褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5% PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黄褐色	普通	外面貝殻条痕文 内面貝殻条痕文	覆土上層	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・ 繊維	明褐色	普通	外面貝殻条痕文 内面棒状の工具による条痕	覆土中層	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	靱皮の沈線後、棒状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 三白式



第62号炉穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第63号炉穴土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 4 赤褐色 地山

第64号炉穴土層解説

- 1 赤褐色 地山
- 2 暗赤褐色 地山

第68号炉穴土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 地山

第70号炉穴土層解説

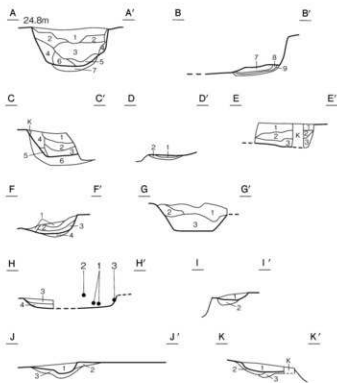
- 1 黄褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黄褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 赤褐色 地山

第71号炉穴土層解説

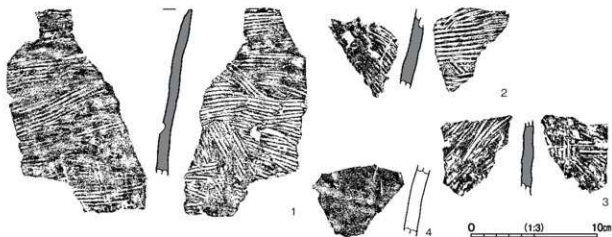
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 7 赤褐色 地山
- 8 2B赤褐色 地山
- 9 暗赤褐色 地山

第80号炉穴土層解説

- 1 2B赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 赤褐色 地山
- 3 暗赤褐色 地山



0 (1:50) 2m



第91図 第62・64・68・70・71・80号炉穴・第62号炉穴出土遺物実測図

第 63 号炉穴 (第 91・92 図 PL18)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 64 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 攪乱を受けているため、規模は不明である。長径方向は N-20°-E の楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場の傾斜は不明である。壁は高さ 42cm で、外傾している。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。攪乱を受けているため、短径 0.42 m、長径は 0.64 m しか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 4 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 14 点 (深鉢) が出土している。

1 は覆土中から出土している。



第 92 図 第 63 号炉穴出土遺物実測図

第 63 号炉穴出土遺物観察表 (第 92 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・緑泥	にぶい褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式

第 64 号炉穴 (第 91・93 図 PL19)

調査年度 平成 30 年度

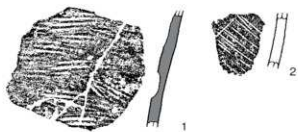
重複関係 第 22 号竪穴建物跡、第 97 号土坑を掘り込んでいる。第 63-70-71 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 複数の炉穴と重複や攪乱を受けているため、長径は 0.78 m、短径は 0.45 m しか確認できなかった。規模、長径方向は不明である。西部が燃焼部、東部が足場と推定できる。遺存状態が悪いため、燃焼部までの傾斜と壁の高さは不明である。

燃焼部 長径方向の西壁寄りに位置している。長径 0.38 m、短径 0.32 m の楕円形である。

覆土 遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。第 1・2 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 3 点 (深鉢) が出土している。1 は覆土中から出土している。2 は表土からの流れ込みである。



第 93 図 第 64 号炉穴出土遺物実測図

第 64 号炉穴出土遺物観察表 (第 93 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・緑泥	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	棒状の工具による細沈線	覆土中	5% 三戸式

第68号炉穴（第91図 PL19）

調査年度 平成30年度

重複関係 第22号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 攪乱を受けているため、規模、長径方向、足場の位置は不明である。壁は高さ16cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃烧部 攪乱を受けているため、長径0.54m、短径0.40mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土 単一層である。覆土の残りがわずかであり、堆積状況は不明である。第2層は被熱を受けた地山である。

第70号炉穴（第91図）

調査年度 平成30年度

重複関係 第71号炉穴に掘り込まれている。第64号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 第64・71号炉穴と重複や攪乱を受けているため、長径は1.38mで、短径は0.75mしか確認できなかった。長径方向はN-75°-Wの楕円形と推定できる。西部が燃烧部、東部が足場である。第71号炉穴に掘り込まれているため、足場から燃烧部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ36cmで、外傾している。

燃烧部 長径方向の西壁寄りに位置している。径0.36mの円形である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第6層は被熱を受けた地山である。

第71号炉穴（第91図 PL19）

調査年度 平成30年度

重複関係 第70号炉穴を掘り込んでいる。第64号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 北側のみ残存しているため、長径は1.56m、短径は1.24mしか確認できなかった。長径方向はN-25°-Eの楕円形と推定できる。北部が燃烧部、南部は足場と推定できる。足場は、燃烧部より低くなっている。壁は高さ60cmで、外傾している。

燃烧部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.56m、短径0.48mの楕円形である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第7～9層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式の土器に比定できる。

第80号炉穴（第91図）

調査年度 平成30年度

重複関係 第22号竪穴建物跡、第62号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.00m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。南西部が燃烧部、北東部が足場である。足場は燃烧部に向かって平坦である。壁は高さ10cmで、緩やかに立ち上がっている。

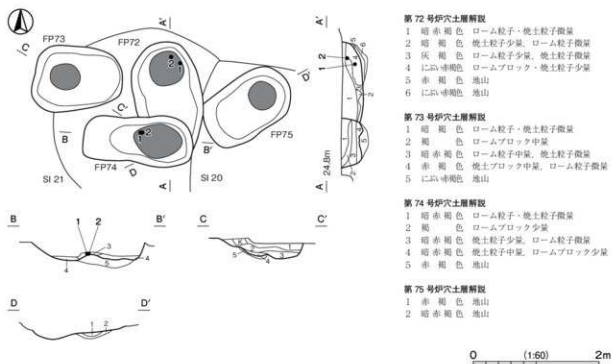
燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。長径0.66 m、短径0.54 mの楕円形と推定できる。

覆土 単一層である。ローム粒子が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2・3層は被熱を受けた地山である。

所見 7基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から2つ以上の構築順が想定できる。ひとつは、初めに第62号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第80号炉穴が作られている。もうひとつは、初めに第70号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第71号炉穴が作られている。第63・64・68号炉穴は他の4基との新旧関係が不明であり、構築順を想定することができない。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第72～75号炉穴

位置 調査区中央部のC4j7～D4a7区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。4基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第94図 第72～75号炉穴実測図

第72号炉穴 (第94・95図 PL19)

調査年度 平成30年度

重複関係 第20・21号竪穴建物、第74号炉穴に掘り込まれている。第75号炉穴とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第20・21号竪穴建物、第74号炉穴に掘り込まれているため、短径1.08 m、長径は1.20 mしか確認できなかった。長径方向はN-9°-Wの楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場

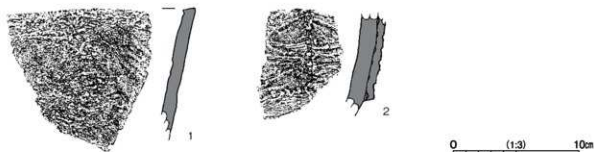
は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ32cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.56 m、短径0.52 mの円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

第5・6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1は燃焼部の覆土下層、2は覆土中層から出土している。



第95図 第72号炉穴出土遺物実測図

第72号炉穴出土遺物観察表(第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(106)	-	長石・石英・ 粘岩	橙	普通	口径部に細い筋目	覆土下層	5% PL20 名山下層穴
2	縄文土器	深鉢	-	(81)	-	長石・石英・ 粘岩	明赤褐	普通	隆帯に竹管による筋目 区画内に微隆起線文	覆土中層	5% PL20 名山下層穴

第73号炉穴(第94図 PL19)

調査年度 平成30年度

重複関係 第21号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.42 m、短径1.02 mの楕円形で、長径方向はN-88°-Wである。西部が燃焼部、東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ28cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 中央からやや西壁寄りに位置している。長径0.50 m、短径0.40 mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

第5層は被熱を受けた地山である。

第74号炉穴(第94・96図 PL19)

調査年度 平成30年度

重複関係 第72号炉穴を掘り込み、第21号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.75 m、短径0.84 mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ32cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.80 m、短径0.56 mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片36点(深鉢)が出土している。1・2は燃焼部、3は覆土中から出土している。



第96図 第74号炉穴出土遺物実測図

第74号炉穴出土遺物観察表(第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・ 磁鉄	にぶい橙	普通	口縁部に刺突 外面棒状の工具による凹線	燃焼部	5% P128 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・ 磁鉄	灰黒	普通	隆帯に竹管による割み 外面貝殻条痕文	燃焼部	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢		(4.5)		長石・石英・ 磁鉄	にぶい橙	普通	外・内面ナテ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第75号炉穴(第94図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第20号竪穴建物に掘り込まれている。第72号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.48m、短径0.89mの楕円形で、長径方向はN-54°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ21cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.46m、短径0.44mの円形である。

覆土 覆土の残りがわずかであり、堆積状況は不明である。第1・2層は被熱を受けた地山である。

所見 4基の炉穴は、初めに第72号炉穴を、使用後に南側を掘り込んで第74号炉穴が作られている。第73・75号炉穴は他の2基との新旧関係が不明であり、構築順を想定することができない。時期は、遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第76・77号炉穴

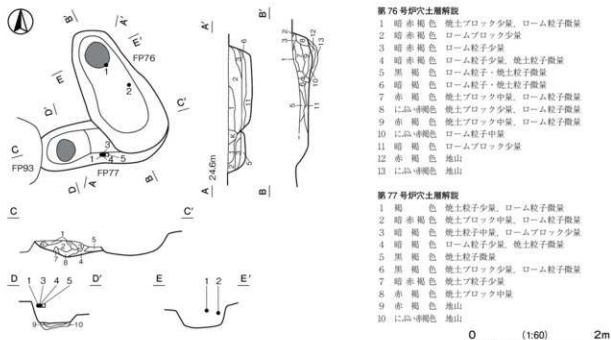
位置 調査区中央部のD4b0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第76号炉穴(第97・98図)

調査年度 平成30年度

重複関係 第77号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.12m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ35cmで、外傾している。



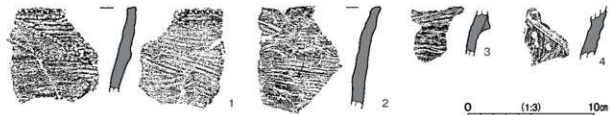
第97図 第76・77号炉穴実測図

燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.44m、短径0.38mの楕円形である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

第12・13層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片28点(深鉢)が出土している。1・2は覆土上層, 3・4は覆土中から出土している。



第98図 第76号炉穴実測図

第76号炉穴出土遺物観察表(第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・ 珪石	褐灰	普通	円形の細竹管によるモチーフを描く 土層	覆土上層	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・ 珪石	灰	普通	口唇部に細い刻み 竹管による押し引き	覆土上層	5% P1-29 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・ 珪石	褐灰	普通	横位の発帯 外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% P1-29 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・ 珪石	灰褐色	普通	外面角棒状の工具による凹陥・刺突	覆土中	5% 子山下層式

第77号炉穴(第97・99図)

調査年度 平成30年度

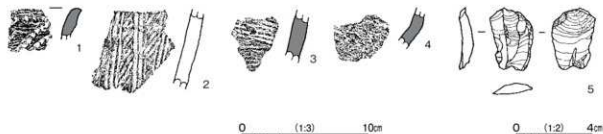
重複関係 第76・93号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第76・93号炉穴に掘り込まれているため、短径0.67 m、長径は2.12 mしか確認できなかった。長径方向がN-81°-Eの楕円形と推定できる。西部が燃焼部、東部が足場である。足場は燃焼部より浅いが、第76号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測でき、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ28cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の西壁寄りに位置している。長径0.34 m、短径0.30 mの楕円形である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第9・10層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢)、剥片1点が出土している。1・3~5は覆土上層から出土している。2は埋め戻しの混入である。



第99図 第77号炉穴出土遺物実測図

第77号炉穴出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・ 磁器	にじい褐	普通	口唇部に竹管による刻み 丸棒状の工具による 押引	覆土上層	5% 芋山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 三ツ式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・ 磁器	靑	普通	外・内面貝殻兼衝文	覆土上層	5% 芋山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・ 磁器	赤褐色	普通	外面角棒状の工具によるナゲ調整	覆土上層	5% 芋山下層式
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	剥片	3.3	2.3	0.8	4.47	チャート	石礫未製品。			覆土上層	

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いから初めに第77号炉穴を、使用後に北西側を掘り込んで第76号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第83・85号炉穴

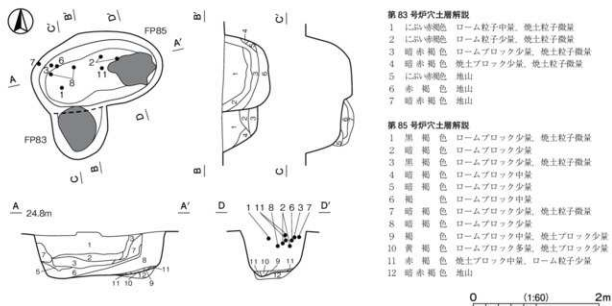
位置 調査区中央部のC3h8区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。

第83号炉穴(第100・101図 PL19)

調査年度 平成30年度

重複関係 第85号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第85号炉穴に掘り込まれているため、短径0.86 m、長径は0.84 mしか確認できなかった。長径



第 100 図 第 83・85 号炉穴実測図

方向が $N-7^{\circ}-W$ の楕円形と推定できる。南部が燃焼部, 北部が足場である。足場は燃焼部より深い, 第 85 号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測され, 燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 60cm で, 外傾している。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.72 m, 短径 0.56 m の楕円形である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

第 5~7 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 48 点 (深鉢) が出土している。1~3・5 は覆土中から出土している。4 は埋め戻しの混入である。



第 101 図 第 83 号炉穴出土遺物実測図

第 83 号炉穴出土遺物観察表 (第 101 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英・赤母・繊維	にがい褐	普通	無文	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英・繊維	黒	普通	口縁部に角棒状の工具による凹線。	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻象嵌文	覆土中	5% 11.29 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英・赤母	黄褐	普通	竹管による象嵌	覆土中	5% 浮島式
5	縄文土器	深鉢	-	(27)	-	長石・石英・繊維	にがい赤褐	普通	隆帯に竹管による割み 内面貝殻象嵌文	覆土中	5% 11.29 子山下層式

第 85 号炉穴 (第 100・102 図 PL19)

調査年度 平成 30 年度

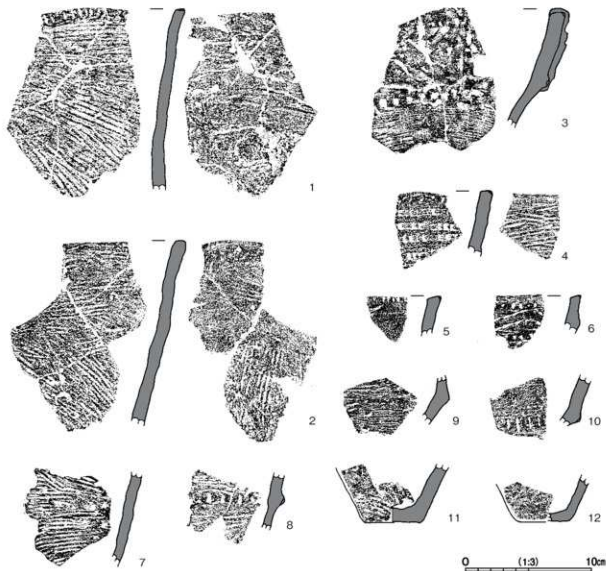
重複関係 第 83 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.10 m、短径 1.18 m の楕円形で、長径方向は N - 80° - E である。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 74cm で、外傾している。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.76 m、短径 0.48 m の不定形である。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 12 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 132 点 (深鉢) が出土している。2・8 は覆土中層、1・3・6・7・11 は覆土上層、4・5・9・10・12 は覆土中から出土している。



第 102 図 第 85 号炉穴出土遺物実測図

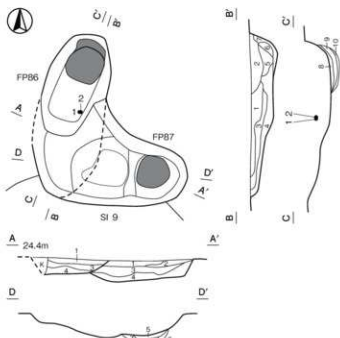
第 85 号炉穴出土遺物観察表 (第 102 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(14.4)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	口唇部に細い刷み 外面貝殻条痕文	覆土上層	5% P129 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(14.8)	-	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土上層	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	隆帯に竹管による刷み 外面貝殻条痕文	覆土上層	5% P129 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部に竹管による刷み 外面角棒状の工具による押し刷み 内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・繊維	褐	普通	隆帯に竹管による刷み 棒状の工具による条痕	覆土中	5% 子山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刷み 口縁部に山形状に押入れ	覆土上層	5% 子山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土上層	5% 子山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に細い刷み 外面角棒状の工具によるナ	覆土中層	5% 子山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・赤母・繊維	にぶい褐	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 子山下層式
10	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	隆帯に竹管による刷み	覆土上層	5% 子山下層式
11	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	4.4	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土上層	5% P133 子山下層式
12	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	(4.0)	長石・石英・繊維	褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いから初めに第83号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第85号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第 86・87 号炉穴

位置 調査区中央部のD5b1～D5c1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。2基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第 86 号土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 靑 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 7 赤 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 8 暗赤褐色 地山
- 9 赤 褐色 地山
- 10 にぶい褐色 地山

第 87 号炉穴土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 4 靑 褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック微量
- 5 暗赤褐色 地山
- 6 にぶい褐色 地山
- 7 暗赤褐色 地山

第 103 図 第 86・87 号炉穴実測図

第86号炉穴 (第103・104図 PL20)

調査年度 平成30年度

重複関係 第9号竪穴建物跡、第87号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.65m、短径1.02mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eである。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ40cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.70m、短径0.57mの不整楕円形である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第8～10層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。1・2は覆土中層から出土している。3・4は、埋め戻しの混入である。



第104図 第86号炉穴出土遺物実測図

第86号炉穴出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	明褐色	普通	外面角棒状の工具による押引き 内面は口唇部まで貝殻燻灰文を施す	覆土中層	5% PL20 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐色	普通	口唇部に細い割み	覆土中層	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維・赤色コリア	明赤褐色	普通	格子目状の細沈線	覆土中	5% 三戸式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	縦・斜位の沈線	覆土中	5% 三戸式

第87号炉穴 (第103・105図)

調査年度 平成30年度

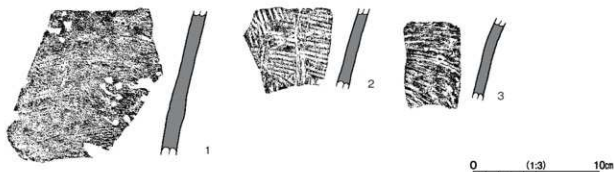
重複関係 第9号竪穴建物跡を掘り込み、第86号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 第86号炉穴に掘り込まれているため、短径1.35m、長径は1.85mしか確認できなかった。長径方向がN-80°-Wの楕円形と推定できる。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は第86号炉穴に掘り込まれているが、燃焼部に向かって緩やかに傾斜していると考えられる。壁は高さ35cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.56m、短径0.50mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第5～7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢)が出土している。1～3は覆土中から出土している。



第105図 第87号炉穴出土遺物実測図

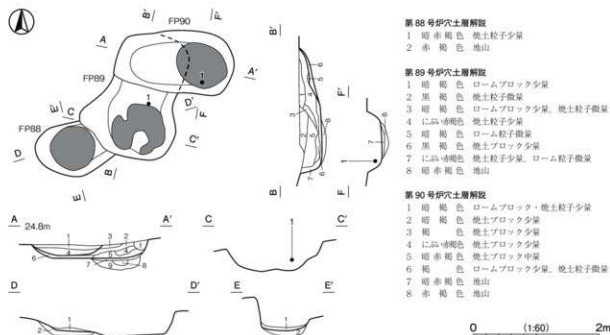
第87号炉穴出土遺物観察表 (第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母・輝・磁鉄	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% PL30 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・磁鉄	褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% PL30 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・雲母・磁鉄	褐色	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 子山下層式

所見 2基の炉穴は、土層の切り合いから初めに第87号炉穴を、使用後に北側を掘り込んで第86号炉穴が作られている。時期は、出土土器から早期後葉である。

第88～90号炉穴

位置 調査区中央部のD4c6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。3基を1つのまとまりとして捉えて記述する。



第106図 第88～90号炉穴実測図

第88号炉穴土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 2 赤褐色 地山

第89号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 にじみ褐色 焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック少量
- 7 にじみ褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 8 暗赤褐色 地山

第90号炉穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量
- 3 褐色 焼土ブロック少量
- 4 にじみ褐色 焼土ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 地山
- 8 赤褐色 地山

第 88 号炉穴 (第 106・107 図 PL20)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 89 号炉穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第 89 号炉穴と重複しているため、短径 0.88 m、長径は 0.95 m しか確認できなかった。長径方向は $N-63^{\circ}-E$ の楕円形と推定できる。南西部が燃焼部、北東部が足場である。第 89 号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推定でき、燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 54cm で、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南西壁寄りに位置している。長径 0.72 m、短径 0.70 m の円形である。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 2 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 2 点 (深鉢) が出土している。1 は覆土中から出土している。



第 107 図 第 88 号炉穴出土遺物実測図

第 88 号炉穴出土遺物観察表 (第 107 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・緑泥	明赤褐色	普通	内面棒状の工具による条痕・貝殻条痕文	覆土中	3% 茅山下層式

第 89 号炉穴 (第 106・108 図)

調査年度 平成 30 年度

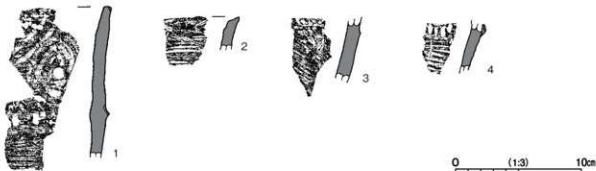
重複関係 第 90 号炉穴を掘り込んでいる。第 88 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.02 m、短径 1.20 m の不整楕円形で、長径方向は $N-18^{\circ}-E$ である。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 45cm で、外傾している。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.90 m、短径 0.86 m の不定形である。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第 8 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 17 点 (深鉢) が出土している。1 は覆土下層、2~4 は覆土中から出土している。



第 108 図 第 89 号炉穴出土遺物実測図

第 89 号炉穴出土遺物観察表 (第 108 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(120)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黒	普通	口縁部に指頭による凹線で円文・刺突を施す	覆土下層	5% PL30 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(26)	-	長石・石英・ 繊維	灰黒	普通	外面棒状の工具による条痕、内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(52)	-	長石・石英・ 繊維	褐灰	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黒	普通	口縁部に指頭による凹線、外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 字山下層式

第 90 号炉穴 (第 106・109 図 PL20)

調査年度 平成 30 年度

重複関係 第 89 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.86 m、短径 0.98 m の楕円形で、長径方向は N-85°-W である。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は第 89 号炉穴と重複しているが、燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 24cm で、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の東寄り位置している。長径 0.90 m、短径 0.66 m の楕円形である。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 7・8 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が覆土下層から出土している。



0 (1:3) 10cm

第 109 図 第 90 号炉穴出土遺物実測図

第 90 号炉穴出土遺物観察表 (第 109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(96)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	にぶい黒	普通	条痕によるモチーフを強く	覆土下層	5% 字山下層式

所見 3 基の炉穴は、土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 90 号炉穴を、使用後に南側を掘り込んで第 89 号炉穴が作られている。第 88 号炉穴は、新旧関係が不明であり、構築順を想定することができない。時期は、出土土器から早期後葉である。

第 4 号炉穴 (第 110 図)

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区中央部の D 4 d9 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第39号土坑に掘り込まれている。

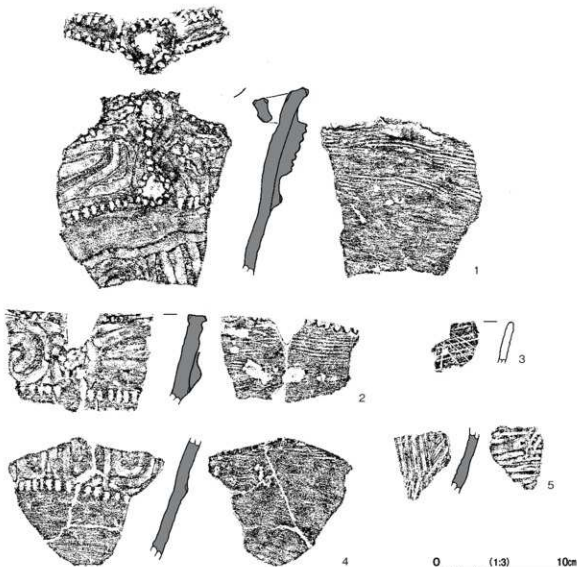
規模と形状 長径1.73m、短径1.15mの楕円形で、長径方向はN-17°-Wである。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ18cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.46m、短径0.35mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。1・2・4は北部の覆土上層、5は覆土中から出土している。3は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第110図 第4号炉穴・出土遺物実測図

第4号炉穴出土遺物観察表 (第110図)

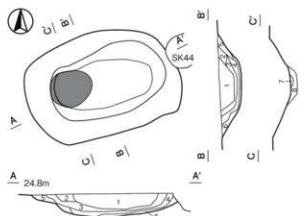
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(15.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	靑	普通	除常に棒状の工具による刷み 区画内を総行状	覆土上層	5% PL26 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	靑	普通	口唇部内面に刷み 指頭による凹線	覆土上層	5% PL26 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	靑	普通	棒状の工具による横・斜位の細沈線	覆土中	5% PL26 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	靑	普通	除常に丸棒状の工具による刷み 内面に板状の	覆土上層	5% PL26 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	靑	普通	外・内面に段条横文	覆土中	5% PL26 子山下層式

第5号炉穴 (第111図 PL20)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4d3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

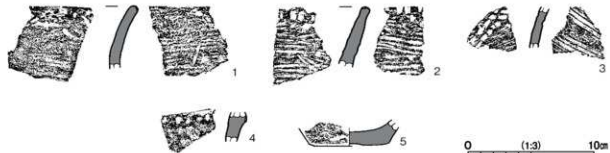
重複関係 第44号土坑に掘り込まれている。



土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 7 暗 赤 褐色 地山
- 8 赤 褐色 地山

0 (1:60) 1m



第111図 第5号炉穴・出土遺物実測図

第5号炉穴出土遺物観察表 (第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・繊維	靑	普通	口唇部に丸棒状の工具による刷み	覆土中	5% PL26 子山下層式

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黄褐色	普通	口唇部に竹管による刻み 外面貝殻象嵌文	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	灰褐色	普通	山形状に連続刻文	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい赤褐色	普通	縁部に丸棒状の工具による刻み	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(2.0)	[5.6]	長石・石英・ 繊維	明黄褐色	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第7号炉穴 (第112図 PL20)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4d9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

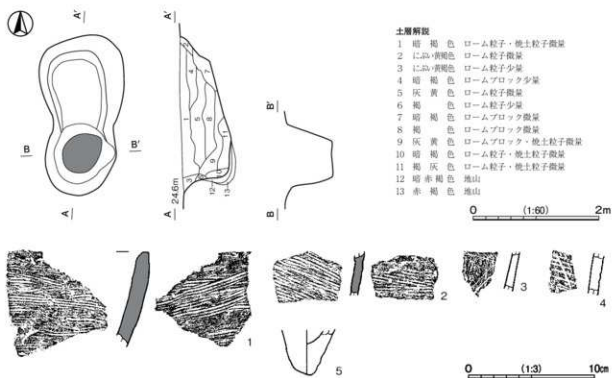
規模と形状 長径2.52m、短径1.34mの不整楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ80cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.74m、短径0.54mの楕円形である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第12・13層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片35点(深鉢)が出土している。1・2・5は覆土中から出土している。3・4は埋め戻しの混入である。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。

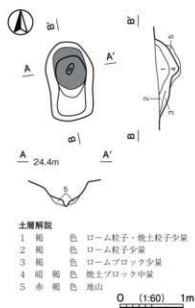


第112図 第7号炉穴・出土遺物実測図

第7号炉穴出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・ 繊維	黒黒	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL26 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい黒	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	棒状の工具による粗沈線	覆土中	5% 三戸式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黒	普通	棒状の工具による粗沈線	覆土中	5% 三戸式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整 尖底土器	覆土中	5% 縄文早期

第16号炉穴（第113図 PL20）



調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.25m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ40cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.72m、短径0.52mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。1～3は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第113図 第16号炉穴・出土遺物実測図

第16号炉穴出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 赤母・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・赤母・ 赤色粒子・繊維	にぶい黒	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整 補修孔1か	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・赤母・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文・角棒状の工具によるナデ調整 内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式

第18号炉穴（第114図 PL20）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4g8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

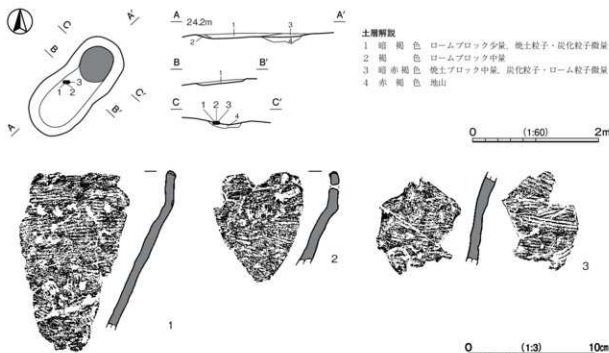
規模と形状 長径1.83 m、短径0.78 mの楕円形で、長径方向はN-42°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ9 cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.62 m、短径0.50 mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。1～3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第114図 第18号炉穴・出土遺物実測図

第18号炉穴出土遺物観察表(第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	暗	普通	口唇部に斜位の刷み 口縁直下の外面部に刺突を施す	覆土下層	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部に丸棒状の工具による刷み 外面貝殻染	覆土下層	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母・繊維	暗	普通	外・内面貝殻染痕文	覆土下層	5% 茅山下層式

第22号炉穴(第115図 PL20)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD53区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号竪穴建物に掘り込まれている。

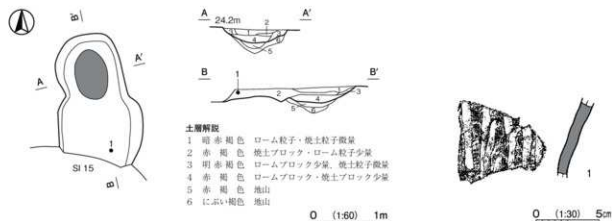
規模と形状 第15号竪穴建物に掘り込まれているため、短径0.98 m、長径は2.06 mしか確認できなかった。長径方向はN-12°-Wの不整楕円形と推定できる。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ22 cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.80 m、短径0.54 mの楕円形である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5・6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。

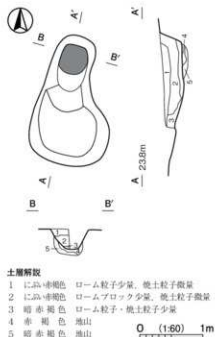


第115図 第22号炉穴・出土遺物実測図

第22号炉穴出土遺物観察表(第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・磁鉄	灰褐色	普通	指頭による凹線	覆土上層	5% 手山下層式

第23号炉穴(第116・117図 PL21)



第116図 第23号炉穴実測図

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5h4区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.02m、短径1.26mの不整形円形で、長径方向はN-11°-Eである。北部が燃焼部、南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ35cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.45m、短径0.44mの円形である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4・5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。1・2・4は覆土中から出土している。3は埋め戻しの混入である。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第117図 第23号炉穴出土遺物実測図

第23号炉穴出土遺物観察表(第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 燧石	にぶい橙	普通	指頭による凹線	覆土中	5% PL26 不山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 燧石	橘	普通	外・内面角棒状の工具によるナゲ調整	覆土中	35% 不山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	格子目状の細沈線	覆土中	5% 三戸式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・ 燧石	普通	普通	外面に棒状の工具による刺突 内面貝殻条痕文	覆土中	35% 不山下層式

第26号炉穴(第118図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5c1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.18m、短径1.45mの不整楕円形で、長径方向はN-43°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ20cmで外傾している。

燃焼部 中央部やや北東壁寄りに位置している。長径0.55m、短径0.40mの楕円形である。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第2・3層は被熱を受けた地山である。

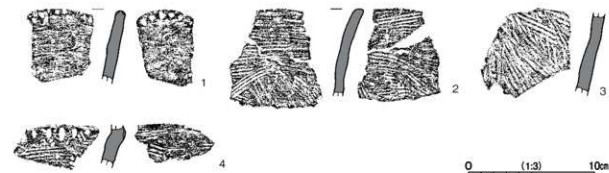
遺物出土状況 縄文土器片46点(深鉢)が出土している。1~4は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
2 暗赤褐色 地山
3 にぶい赤褐色 地山



第118図 第26号炉穴・出土遺物実測図

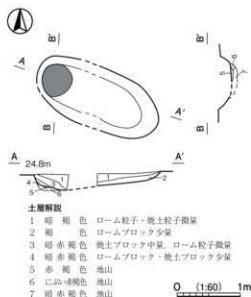
第26号炉穴出土遺物観察表 (第118図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・ 輝・磁鉄	にぶい赤褐色	普通	口唇部内面に竹管による刷み	覆土中	5% 四層 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・ 磁鉄	にぶい褐色	普通	外面目録条痕文・角棒状の工具によるナツ調整 内面に段条痕文	覆土中	5% 四層 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・ 磁鉄	褐色	普通	外・内面に段条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・ 雲母・磁鉄	赤褐色	普通	除常に竹管による刷み 外・内面に段条痕文	覆土中	5% 茅山下層式

第52号炉穴 (第119図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4h5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第119図 第52号炉穴実測図

規模と形状 攪乱を受けているが、長径2.04m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。北西部が燃焼部、南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ25cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の北西壁寄りに位置している。長径0.52m、短径0.48mの円形である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第5～7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式に比定できる。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。

第53号炉穴 (第120図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4j6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

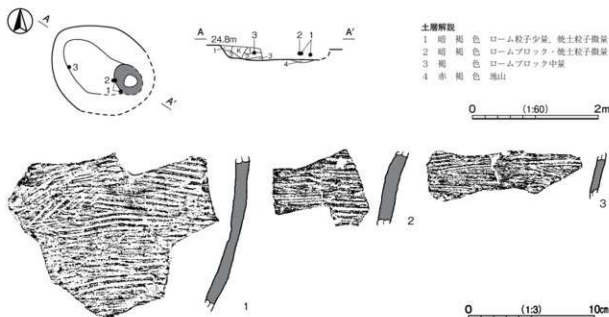
規模と形状 南東部が削平されているため、短径1.38m、長径は1.60mしか確認できなかった。長径方向がN-56°-Wの楕円形である。南東部が燃焼部、北西部が足場である。足場から燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ18cmで、外傾している。

燃焼部 長径方向の南東壁寄りに位置している。長径0.50m、短径0.40mの楕円形である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。1～3は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第120図 第53号炉穴・出土遺物実測図

第53号炉穴出土遺物観察表(第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(12.3)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中層	5%、円形 手山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 雲母・繊維	灰褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中層	5% 手山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	灰褐色	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中層	5% 手山下層式

第60号炉穴(第121・122図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4e5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

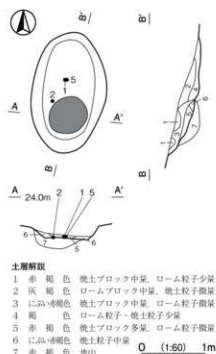
規模と形状 長径1.92m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eである。南部が燃焼部、北部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ22cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の南壁寄りに位置している。径0.62mの円形である。

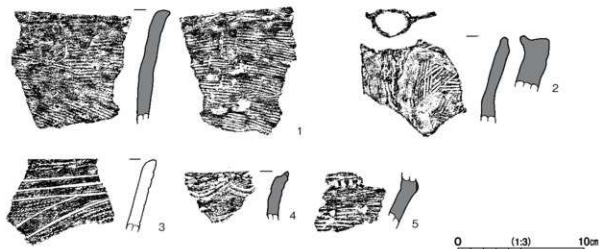
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。1・2・5は覆土下層から、4は覆土中から出土している。3は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第121図 第60号炉穴実測図



第122図 第60号炉穴出土遺物実測図

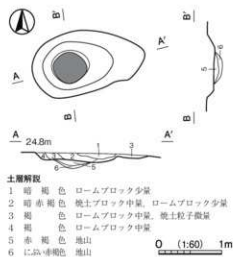
第60号炉穴出土遺物観察表(第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL28 予山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	縦位の母帯、外面貝殻条痕文を施した後、衝面に よる凹線を施す	覆土下層	5% PL28 予山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	北縁の区画に貝殻条痕文を光焼	覆土中	5% PL28 山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	口縁部に竹管による刻み 口縁部に流状に沈澱 を施す	覆土中	5% PL28 山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	明赤褐色	普通	隆帯に竹管による刻み 外面貝殻条痕文	覆土下層	5% PL28 予山下層式

第61号炉穴(第123・124図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4c5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第123図 第61号炉穴実測図

規模と形状 長径1.78m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-76°-Eである。西部が燃焼部、東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ12cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 中央部からやや西壁寄りに位置している。長径0.52m、短径0.48mの円形である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5・6層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1は覆土中から出土している。2は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第124図 第61号炉穴出土遺物実測図

第61号炉穴出土遺物観察表(第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	黒	普通	口縁部に連続列突		覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	棒状の工具による格子目状の縦比刺		覆土中	5% 3層式

第78号炉穴(第125・126図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4a5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第92号土坑を掘り込んでいる。

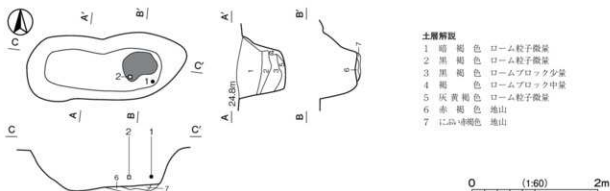
規模と形状 長径2.56m、短径1.05mの楕円形で、長径方向はN-83°-Eである。東部が燃焼部、西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ65cmで、外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径方向の東壁寄りに位置している。長径0.56m、短径0.32mの不整形円形である。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6・7層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、剥片1点が覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。

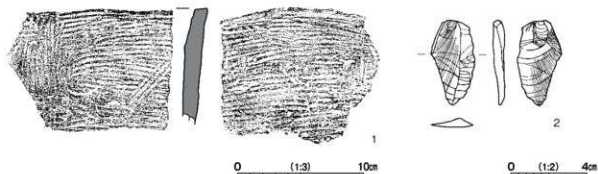


第125図 第78号炉穴実測図

第78号炉穴出土遺物観察表(第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・雲母・繊維	明赤黒	普通	染灰によるモチーフを描く		覆土下層	5% 茅山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	剥片	4.5	2.4	0.7	4.41	黒曜石	縦長剥片	覆土下層	信州産



第126図 第78号炉穴出土遺物実測図

第96号炉穴（第127図）

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD3g0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

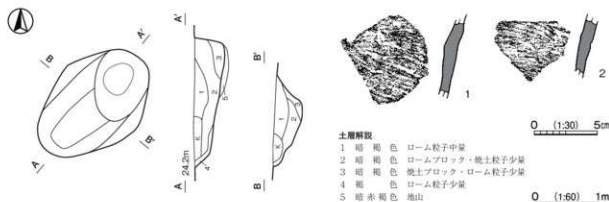
規模と形状 長径2.04m、短径1.47mの楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。北東部が燃焼部、南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ48cmで、外傾あるいは直立している。

燃焼部 長径方向の北東壁寄りに位置している。長径0.52m、短径0.46mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第5層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。

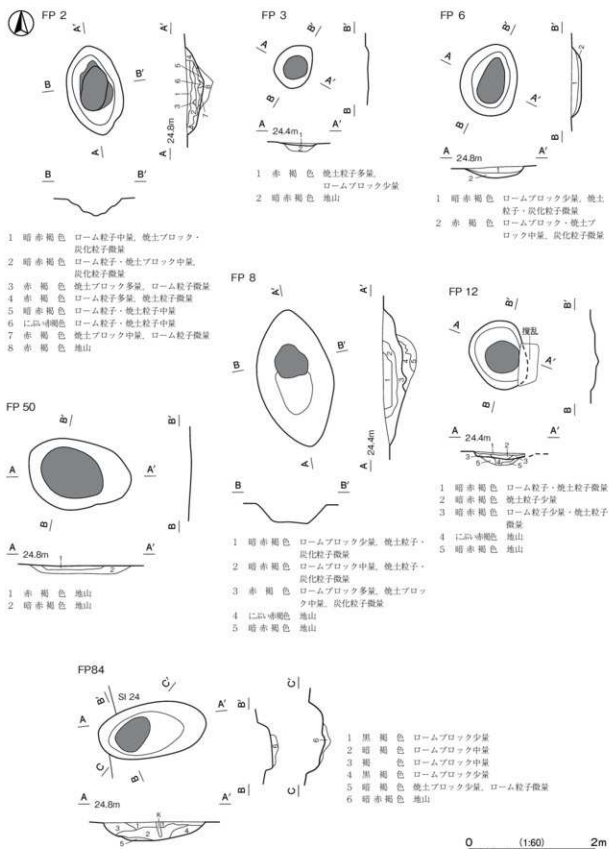


第127図 第96号炉穴・出土遺物実測図

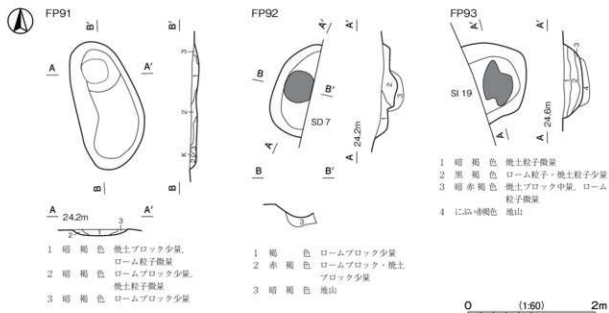
第96号炉穴出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・ 磁石	橙	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 円30 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(52)	-	長石・石英・ 赤色粒子・磁石	に灰・赤黄	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5% 字山下層式

その他の炉穴 10 基は、実測図及び一覧表を掲載する。



第 128 図 縄文時代炉穴実測図 (1)



第129図 縄文時代炉穴実測図(2)

表5 縄文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 格		燃焼部	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2	D 4d6	N-10°-W	楕円形	1.42 × 0.87	28	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式・黒沢式)	
3	D 4f6	N-33°-E	楕円形	0.72 × 0.58	4	平坦	縦斜	自然	-	
4	D 4d9	N-17°-W	楕円形	1.73 × 1.15	18	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	本跡→SK39
5	D 4d3	N-74°-E	楕円形	2.42 × 1.65	32	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→SK44
6	D 4c2	N-18°-E	楕円形	1.12 × 0.90	16	皿状	縦斜	自然	-	
7	D 4d9	N-2°-W	不整形四角形	2.52 × 1.34	80	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式・ 縄文早期)	
8	D 5f2	N-11°-W	楕円形	2.19 × 1.19	31	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
9	D 5e2	N-69°-E	[楕円形]	(1.14) × (1.10)	50	皿状	外傾	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP3・8・9・10→ FP13土層
10	D 5d2	N-50°-E	不定形	1.68 × 0.93	44	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP9・15→本跡
11	D 5d2	N-30°-W	楕円形	2.00 × 1.12	22	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP13・14→本跡
12	D 5d4	N-21°-W	楕円形	1.08 × 0.84	12	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	SI12と重複
13	D 5d2	N-58°-W	楕円形	1.80 × 1.12	22	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	本跡→FP11
14	D 5e2	N-77°-E	楕円形	1.54 × 1.18	16	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→FP11
15	D 5e2	N-73°-E	[楕円形]	(1.20) × 1.10	51	皿状	縦斜	-	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→FP 9・10 SK9
16	D 4g2	N-6°-W	楕円形	1.25 × 0.74	40	有段	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
17	D 5e1	N-72°-E	[楕円形]	(1.62) × (0.84)	18	平坦	縦斜	-	縄文土器 (茅山下層式)	SI17・FP10・FP11 →FP 9・10土層
18	D 4g8	N-42°-E	楕円形	1.83 × 0.78	9	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
19	D 4g3	N-0°	[楕円形]	(1.06) × 0.74	20	平坦	縦斜	自然	-	本跡→FP20
20	D 4g3	N-19°-E	[楕円形]	(1.22) × (0.86)	40	平坦	外傾	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP10→本跡→FP27, SK36
21	D 4g3	-	-	-	42	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	FP21, SK36→本跡 FP22と重複
22	D 5f3	N-12°-W	[不整形四角形]	(2.06) × 0.98	22	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→SI15
23	D 5b4	N-11°-E	不整形四角形	2.02 × 1.26	35	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	
24	D 3b9	N-75°-W	[楕円形]	(1.36) × 1.08	21	皿状	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→FP25, SF 1
25	D 3b9	N-62°-E	楕円形	2.33 × (1.43)	20	平坦	外傾	自然	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	FP21→本跡→FP28, SF 1

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		築地部	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
26	D 5c1	N-43°-E	精円形	218×145	20	皿状	外植	自然	縄文土器(芋山下層式)	
27	D 4g3	N-9°-W	[精円形]	(1.63)×0.92	56	皿状	外植 内壁	自然	縄文土器(芋山下層式)	FP20、SK56→本跡 FP52と重複
28	D 3g9	N-20°-E	精円形	240×150	64	皿状	外植	自然	縄文土器(芋山下層式)	FP25→本跡
29	D 4h1	N-12°-W	精円形	115×0.76	62	皿状	外植	自然	縄文土器(芋山下層式)	FP32・33・35→ 本跡
30	D 4h1	-	-	(0.95)×(0.82)	50	平皿	外植	人為	縄文土器(芋山下層式)	FP33・34・35と 重複
31	D 4h1	N-17°-W	[精円形]	[2.18]×1.18	60	平皿	外植	人為	縄文土器(芋山下層式)	FP2→本跡→FP51 SK63
32	D 4g1	-	-	(1.65)×(1.05)	17	平皿	外植	人為	-	本跡→FP29・31・ 33
33	D 4h1	N-78°-W	[精円形]	[2.00]×[1.20]	58	有段	外植	人為	縄文土器(芋山下層式)	FP5・32・33・48 +FP6・FP7・FP8・FP9 +FP10・FP11・FP12・FP13 +FP14・FP15・FP16・FP17・FP18 +FP19・FP20・FP21・FP22 +FP23・FP24・FP25・FP26 +FP27・FP28・FP29・FP30 +FP31・FP32・FP33・FP34 +FP35・FP36・FP37・FP38 +FP39・FP40・FP41・FP42 +FP43・FP44・FP45・FP46 +FP47・FP48・FP49・FP50 +FP51・FP52・FP53・FP54 +FP55・FP56・FP57・FP58 +FP59・FP60・FP61・FP62 +FP63・FP64・FP65・FP66 +FP67・FP68・FP69・FP70 +FP71・FP72・FP73・FP74 +FP75・FP76・FP77・FP78 +FP79・FP80・FP81・FP82 +FP83・FP84・FP85・FP86 +FP87・FP88・FP89・FP90 +FP91・FP92・FP93・FP94 +FP95・FP96・FP97・FP98 +FP99・FP100・FP101・FP102 +FP103・FP104・FP105・FP106 +FP107・FP108・FP109・FP110 +FP111・FP112・FP113・FP114 +FP115・FP116・FP117・FP118 +FP119・FP120・FP121・FP122 +FP123・FP124・FP125・FP126 +FP127・FP128・FP129・FP130 +FP131・FP132・FP133・FP134 +FP135・FP136・FP137・FP138 +FP139・FP140・FP141・FP142 +FP143・FP144・FP145・FP146 +FP147・FP148・FP149・FP150 +FP151・FP152・FP153・FP154 +FP155・FP156・FP157・FP158 +FP159・FP160・FP161・FP162 +FP163・FP164・FP165・FP166 +FP167・FP168・FP169・FP170 +FP171・FP172・FP173・FP174 +FP175・FP176・FP177・FP178 +FP179・FP180・FP181・FP182 +FP183・FP184・FP185・FP186 +FP187・FP188・FP189・FP190 +FP191・FP192・FP193・FP194 +FP195・FP196・FP197・FP198 +FP199・FP200・FP201・FP202 +FP203・FP204・FP205・FP206 +FP207・FP208・FP209・FP210 +FP211・FP212・FP213・FP214 +FP215・FP216・FP217・FP218 +FP219・FP220・FP221・FP222 +FP223・FP224・FP225・FP226 +FP227・FP228・FP229・FP230 +FP231・FP232・FP233・FP234 +FP235・FP236・FP237・FP238 +FP239・FP240・FP241・FP242 +FP243・FP244・FP245・FP246 +FP247・FP248・FP249・FP250 +FP251・FP252・FP253・FP254 +FP255・FP256・FP257・FP258 +FP259・FP260・FP261・FP262 +FP263・FP264・FP265・FP266 +FP267・FP268・FP269・FP270 +FP271・FP272・FP273・FP274 +FP275・FP276・FP277・FP278 +FP279・FP280・FP281・FP282 +FP283・FP284・FP285・FP286 +FP287・FP288・FP289・FP290 +FP291・FP292・FP293・FP294 +FP295・FP296・FP297・FP298 +FP299・FP300・FP301・FP302 +FP303・FP304・FP305・FP306 +FP307・FP308・FP309・FP310 +FP311・FP312・FP313・FP314 +FP315・FP316・FP317・FP318 +FP319・FP320・FP321・FP322 +FP323・FP324・FP325・FP326 +FP327・FP328・FP329・FP330 +FP331・FP332・FP333・FP334 +FP335・FP336・FP337・FP338 +FP339・FP340・FP341・FP342 +FP343・FP344・FP345・FP346 +FP347・FP348・FP349・FP350 +FP351・FP352・FP353・FP354 +FP355・FP356・FP357・FP358 +FP359・FP360・FP361・FP362 +FP363・FP364・FP365・FP366 +FP367・FP368・FP369・FP370 +FP371・FP372・FP373・FP374 +FP375・FP376・FP377・FP378 +FP379・FP380・FP381・FP382 +FP383・FP384・FP385・FP386 +FP387・FP388・FP389・FP390 +FP391・FP392・FP393・FP394 +FP395・FP396・FP397・FP398 +FP399・FP400・FP401・FP402 +FP403・FP404・FP405・FP406 +FP407・FP408・FP409・FP410 +FP411・FP412・FP413・FP414 +FP415・FP416・FP417・FP418 +FP419・FP420・FP421・FP422 +FP423・FP424・FP425・FP426 +FP427・FP428・FP429・FP430 +FP431・FP432・FP433・FP434 +FP435・FP436・FP437・FP438 +FP439・FP440・FP441・FP442 +FP443・FP444・FP445・FP446 +FP447・FP448・FP449・FP450 +FP451・FP452・FP453・FP454 +FP455・FP456・FP457・FP458 +FP459・FP460・FP461・FP462 +FP463・FP464・FP465・FP466 +FP467・FP468・FP469・FP470 +FP471・FP472・FP473・FP474 +FP475・FP476・FP477・FP478 +FP479・FP480・FP481・FP482 +FP483・FP484・FP485・FP486 +FP487・FP488・FP489・FP490 +FP491・FP492・FP493・FP494 +FP495・FP496・FP497・FP498 +FP499・FP500・FP501・FP502 +FP503・FP504・FP505・FP506 +FP507・FP508・FP509・FP510 +FP511・FP512・FP513・FP514 +FP515・FP516・FP517・FP518 +FP519・FP520・FP521・FP522 +FP523・FP524・FP525・FP526 +FP527・FP528・FP529・FP530 +FP531・FP532・FP533・FP534 +FP535・FP536・FP537・FP538 +FP539・FP540・FP541・FP542 +FP543・FP544・FP545・FP546 +FP547・FP548・FP549・FP550 +FP551・FP552・FP553・FP554 +FP555・FP556・FP557・FP558 +FP559・FP560・FP561・FP562 +FP563・FP564・FP565・FP566 +FP567・FP568・FP569・FP570 +FP571・FP572・FP573・FP574 +FP575・FP576・FP577・FP578 +FP579・FP580・FP581・FP582 +FP583・FP584・FP585・FP586 +FP587・FP588・FP589・FP590 +FP591・FP592・FP593・FP594 +FP595・FP596・FP597・FP598 +FP599・FP600・FP601・FP602 +FP603・FP604・FP605・FP606 +FP607・FP608・FP609・FP610 +FP611・FP612・FP613・FP614 +FP615・FP616・FP617・FP618 +FP619・FP620・FP621・FP622 +FP623・FP624・FP625・FP626 +FP627・FP628・FP629・FP630 +FP631・FP632・FP633・FP634 +FP635・FP636・FP637・FP638 +FP639・FP640・FP641・FP642 +FP643・FP644・FP645・FP646 +FP647・FP648・FP649・FP650 +FP651・FP652・FP653・FP654 +FP655・FP656・FP657・FP658 +FP659・FP660・FP661・FP662 +FP663・FP664・FP665・FP666 +FP667・FP668・FP669・FP670 +FP671・FP672・FP673・FP674 +FP675・FP676・FP677・FP678 +FP679・FP680・FP681・FP682 +FP683・FP684・FP685・FP686 +FP687・FP688・FP689・FP690 +FP691・FP692・FP693・FP694 +FP695・FP696・FP697・FP698 +FP699・FP700・FP701・FP702 +FP703・FP704・FP705・FP706 +FP707・FP708・FP709・FP710 +FP711・FP712・FP713・FP714 +FP715・FP716・FP717・FP718 +FP719・FP720・FP721・FP722 +FP723・FP724・FP725・FP726 +FP727・FP728・FP729・FP730 +FP731・FP732・FP733・FP734 +FP735・FP736・FP737・FP738 +FP739・FP740・FP741・FP742 +FP743・FP744・FP745・FP746 +FP747・FP748・FP749・FP750 +FP751・FP752・FP753・FP754 +FP755・FP756・FP757・FP758 +FP759・FP760・FP761・FP762 +FP763・FP764・FP765・FP766 +FP767・FP768・FP769・FP770 +FP771・FP772・FP773・FP774 +FP775・FP776・FP777・FP778 +FP779・FP780・FP781・FP782 +FP783・FP784・FP785・FP786 +FP787・FP788・FP789・FP790 +FP791・FP792・FP793・FP794 +FP795・FP796・FP797・FP798 +FP799・FP800・FP801・FP802 +FP803・FP804・FP805・FP806 +FP807・FP808・FP809・FP810 +FP811・FP812・FP813・FP814 +FP815・FP816・FP817・FP818 +FP819・FP820・FP821・FP822 +FP823・FP824・FP825・FP826 +FP827・FP828・FP829・FP830 +FP831・FP832・FP833・FP834 +FP835・FP836・FP837・FP838 +FP839・FP840・FP841・FP842 +FP843・FP844・FP845・FP846 +FP847・FP848・FP849・FP850 +FP851・FP852・FP853・FP854 +FP855・FP856・FP857・FP858 +FP859・FP860・FP861・FP862 +FP863・FP864・FP865・FP866 +FP867・FP868・FP869・FP870 +FP871・FP872・FP873・FP874 +FP875・FP876・FP877・FP878 +FP879・FP880・FP881・FP882 +FP883・FP884・FP885・FP886 +FP887・FP888・FP889・FP890 +FP891・FP892・FP893・FP894 +FP895・FP896・FP897・FP898 +FP899・FP900・FP901・FP902 +FP903・FP904・FP905・FP906 +FP907・FP908・FP909・FP910 +FP911・FP912・FP913・FP914 +FP915・FP916・FP917・FP918 +FP919・FP920・FP921・FP922 +FP923・FP924・FP925・FP926 +FP927・FP928・FP929・FP930 +FP931・FP932・FP933・FP934 +FP935・FP936・FP937・FP938 +FP939・FP940・FP941・FP942 +FP943・FP944・FP945・FP946 +FP947・FP948・FP949・FP950 +FP951・FP952・FP953・FP954 +FP955・FP956・FP957・FP958 +FP959・FP960・FP961・FP962 +FP963・FP964・FP965・FP966 +FP967・FP968・FP969・FP970 +FP971・FP972・FP973・FP974 +FP975・FP976・FP977・FP978 +FP979・FP980・FP981・FP982 +FP983・FP984・FP985・FP986 +FP987・FP988・FP989・FP990 +FP991・FP992・FP993・FP994 +FP995・FP996・FP997・FP998 +FP999・FP1000・FP1001・FP1002 +FP1003・FP1004・FP1005・FP1006 +FP1007・FP1008・FP1009・FP1010 +FP1011・FP1012・FP1013・FP1014 +FP1015・FP1016・FP1017・FP1018 +FP1019・FP1020・FP1021・FP1022 +FP1023・FP1024・FP1025・FP1026 +FP1027・FP1028・FP1029・FP1030 +FP1031・FP1032・FP1033・FP1034 +FP1035・FP1036・FP1037・FP1038 +FP1039・FP1040・FP1041・FP1042 +FP1043・FP1044・FP1045・FP1046 +FP1047・FP1048・FP1049・FP1050 +FP1051・FP1052・FP1053・FP1054 +FP1055・FP1056・FP1057・FP1058 +FP1059・FP1060・FP1061・FP1062 +FP1063・FP1064・FP1065・FP1066 +FP1067・FP1068・FP1069・FP1070 +FP1071・FP1072・FP1073・FP1074 +FP1075・FP1076・FP1077・FP1078 +FP1079・FP1080・FP1081・FP1082 +FP1083・FP1084・FP1085・FP1086 +FP1087・FP1088・FP1089・FP1090 +FP1091・FP1092・FP1093・FP1094 +FP1095・FP1096・FP1097・FP1098 +FP1099・FP1100・FP1101・FP1102 +FP1103・FP1104・FP1105・FP1106 +FP1107・FP1108・FP1109・FP1110 +FP1111・FP1112・FP1113・FP1114 +FP1115・FP1116・FP1117・FP1118 +FP1119・FP1120・FP1121・FP1122 +FP1123・FP1124・FP1125・FP1126 +FP1127・FP1128・FP1129・FP1130 +FP1131・FP1132・FP1133・FP1134 +FP1135・FP1136・FP1137・FP1138 +FP1139・FP1140・FP1141・FP1142 +FP1143・FP1144・FP1145・FP1146 +FP1147・FP1148・FP1149・FP1150 +FP1151・FP1152・FP1153・FP1154 +FP1155・FP1156・FP1157・FP1158 +FP1159・FP1160・FP1161・FP1162 +FP1163・FP1164・FP1165・FP1166 +FP1167・FP1168・FP1169・FP1170 +FP1171・FP1172・FP1173・FP1174 +FP1175・FP1176・FP1177・FP1178 +FP1179・FP1180・FP1181・FP1182 +FP1183・FP1184・FP1185・FP1186 +FP1187・FP1188・FP1189・FP1190 +FP1191・FP1192・FP1193・FP1194 +FP1195・FP1196・FP1197・FP1198 +FP1199・FP1200・FP1201・FP1202 +FP1203・FP1204・FP1205・FP1206 +FP1207・FP1208・FP1209・FP1210 +FP1211・FP1212・FP1213・FP1214 +FP1215・FP1216・FP1217・FP1218 +FP1219・FP1220・FP1221・FP1222 +FP1223・FP1224・FP1225・FP1226 +FP1227・FP1228・FP1229・FP1230 +FP1231・FP1232・FP1233・FP1234 +FP1235・FP1236・FP1237・FP1238 +FP1239・FP1240・FP1241・FP1242 +FP1243・FP1244・FP1245・FP1246 +FP1247・FP1248・FP1249・FP1250 +FP1251・FP1252・FP1253・FP1254 +FP1255・FP1256・FP1257・FP1258 +FP1259・FP1260・FP1261・FP1262 +FP1263・FP1264・FP1265・FP1266 +FP1267・FP1268・FP1269・FP1270 +FP1271・FP1272・FP1273・FP1274 +FP1275・FP1276・FP1277・FP1278 +FP1279・FP1280・FP1281・FP1282 +FP1283・FP1284・FP1285・FP1286 +FP1287・FP1288・FP1289・FP1290 +FP1291・FP1292・FP1293・FP1294 +FP1295・FP1296・FP1297・FP1298 +FP1299・FP1300・FP1301・FP1302 +FP1303・FP1304・FP1305・FP1306 +FP1307・FP1308・FP1309・FP1310 +FP1311・FP1312・FP1313・FP1314 +FP1315・FP1316・FP1317・FP1318 +FP1319・FP1320・FP1321・FP1322 +FP1323・FP1324・FP1325・FP1326 +FP1327・FP1328・FP1329・FP1330 +FP1331・FP1332・FP1333・FP1334 +FP1335・FP1336・FP1337・FP1338 +FP1339・FP1340・FP1341・FP1342 +FP1343・FP1344・FP1345・FP1346 +FP1347・FP1348・FP1349・FP1350 +FP1351・FP1352・FP1353・FP1354 +FP1355・FP1356・FP1357・FP1358 +FP1359・FP1360・FP1361・FP1362 +FP1363・FP1364・FP1365・FP1366 +FP1367・FP1368・FP1369・FP1370 +FP1371・FP1372・FP1373・FP1374 +FP1375・FP1376・FP1377・FP1378 +FP1379・FP1380・FP1381・FP1382 +FP1383・FP1384・FP1385・FP1386 +FP1387・FP1388・FP1389・FP1390 +FP1391・FP1392・FP1393・FP1394 +FP1395・FP1396・FP1397・FP1398 +FP1399・FP1400・FP1401・FP1402 +FP1403・FP1404・FP1405・FP1406 +FP1407・FP1408・FP1409・FP1410 +FP1411・FP1412・FP1413・FP1414 +FP1415・FP1416・FP1417・FP1418 +FP1419・FP1420・FP1421・FP1422 +FP1423・FP1424・FP1425・FP1426 +FP1427・FP1428・FP1429・FP1430 +FP1431・FP1432・FP1433・FP1434 +FP1435・FP1436・FP1437・FP1438 +FP1439・FP1440・FP1441・FP1442 +FP1443・FP1444・FP1445・FP1446 +FP1447・FP1448・FP1449・FP1450 +FP1451・FP1452・FP1453・FP1454 +FP1455・FP1456・FP1457・FP1458 +FP1459・FP1460・FP1461・FP1462 +FP1463・FP1464・FP1465・FP1466 +FP1467・FP1468・FP1469・FP1470 +FP1471・FP1472・FP1473・FP1474 +FP1475・FP1476・FP1477・FP1478 +FP1479・FP1480・FP1481・FP1482 +FP1483・FP1484・FP1485・FP1486 +FP1487・FP1488・FP1489・FP1490 +FP1491・FP1492・FP1493・FP1494 +FP1495・FP1496・FP1497・FP1498 +FP1499・FP1500・FP1501・FP1502 +FP1503・FP1504・FP1505・FP1506 +FP1507・FP1508・FP1509・FP1510 +FP1511・FP1512・FP1513・FP1514 +FP1515・FP1516・FP1517・FP1518 +FP1519・FP1520・FP1521・FP1522 +FP1523・FP1524・FP1525・FP1526 +FP1527・FP1528・FP1529・FP1530 +FP1531・FP1532・FP1533・FP1534 +FP1535・FP1536・FP1537・FP1538 +FP1539・FP1540・FP1541・FP1542 +FP1543・FP1544・FP1545・FP1546 +FP1547・FP1548・FP1549・FP1550 +FP1551・FP1552・FP1553・FP1554 +FP1555・FP1556・FP1557・FP1558 +FP1559・FP1560・FP1561・FP1562 +FP1563・FP1564・FP1565・FP1566 +FP1567・FP1568・FP1569・FP1570 +FP1571・FP1572・FP1573・FP1574 +FP1575・FP1576・FP1577・FP1578 +FP1579・FP1580・FP1581・FP1582 +FP1583・FP1584・FP1585・FP1586 +FP1587・FP1588・FP1589・FP1590 +FP1591・FP1592・FP1593・FP1594 +FP1595・FP1596・FP1597・FP1598 +FP1599・FP1600・FP1601・FP1602 +FP1603・FP1604・FP1605・FP1606 +FP1607・FP1608・FP1609・FP1610 +FP1611・FP1612・FP1613・FP1614 +FP1615・FP1616・FP1617・FP1618 +FP1619・FP1620・FP1621・FP1622 +FP1623・FP1624・FP1625・FP1626 +FP1627・FP1628・FP1629・FP1630 +FP1631・FP1632・FP1633・FP1634 +FP1635・FP1636・FP1637・FP1638 +FP1639・FP1640・FP1641・FP1642 +FP1643・FP1644・FP1645・FP1646 +FP1647・FP1648・FP1649・FP1650 +FP1651・FP1652・FP1653・FP1654 +FP1655・FP1656・FP1657・FP1658 +FP1659・FP1660・FP1661・FP1662 +FP1663・FP1664・FP1665・FP1666 +FP1667・FP1668・FP1669・FP1670 +FP1671・FP1672・FP1673・FP1674 +FP1675・FP1676・FP1677・FP1678 +FP1679・FP1680・FP1681・FP1682 +FP1683・FP1684・FP1685・FP1686 +FP1687・FP1688・FP1689・FP1690 +FP1691・FP1692・FP1693・FP1694 +FP1695・FP1696・FP1697・FP1698 +FP1699・FP1700・FP1701・FP1702 +FP1703・FP1704・FP1705・FP1706 +FP1707・FP1708・FP1709・FP1710 +FP1711・FP1712・FP1713・FP1714 +FP1715・FP1716・FP1717・FP1718 +FP1719・FP1720・FP1721・FP1722 +FP1723・FP1724・FP1725・FP1726 +FP1727・FP1728・FP1729・FP1730 +FP1731・FP1732・FP1733・FP1734 +FP1735・FP1736・FP1737・FP1738 +FP1739・FP1740・FP1741・FP1742 +FP1743・FP1744・FP1745・FP1746 +FP1747・FP1748・FP1749・FP1750 +FP1751・FP1752・FP1753・FP1754 +FP1755・FP1756・FP1757・FP1758 +FP1759・FP1760・FP1761・FP1762 +FP1763・FP1764・FP1765・FP1766 +FP1767・FP1768・FP1769・FP1770 +FP1771・FP1772・FP1773・FP1774 +FP1775・FP1776・FP1777・FP1778 +FP1779・FP1780・FP1781・FP1782 +FP1783・FP1784・FP1785・FP1786 +FP1787・FP1788・FP1789・FP1790 +FP1791・FP1792・FP1793・FP1794 +FP1795・FP1796・FP1797・FP1798 +FP1799・FP1800・FP1801・FP1802 +FP1803・FP1804・FP1805・FP1806 +FP1807・FP1808・FP1809・FP1810 +FP1811・FP1812・FP1813・FP1814 +FP1815・FP1816・FP1817・FP1818 +FP1819・FP1820・FP1821・FP1822 +FP1823・FP1824・FP1825・FP1826 +FP1827・FP1828・FP1829・FP1830 +FP1831・FP1832・FP1833・FP1834 +FP1835・FP1836・FP1837・FP1838 +FP1839・FP1840・FP1841・FP1842 +FP1843・FP1844・FP1845・FP1846 +FP1847・FP1848・FP1849・FP1850 +FP1851・FP1852・FP1853・FP1854 +FP1855・FP1856・FP1857・FP1858 +FP1859・FP1860・FP1861・FP1862 +FP1863・FP1864・FP1865・FP1866 +FP1867・FP1868・FP1869・FP1870 +FP1871・FP1872・FP1873・FP1874 +FP1875・FP1876・FP1877・FP1878 +FP1879・FP1880・FP1881・FP1882 +FP1883・FP1884・FP1885・FP1886 +FP1887・FP1888・FP1889・FP1890 +FP1891・FP1892・FP1893・FP189

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		燃焼部	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
72	C 4 J7	N-9°-W	[楕円形]	(1.20) × 1.08	32	平坦	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→SD20・21 FF14、FF15と重複
73	C 4 J7	N-88°-W	楕円形	1.42 × 1.02	28	皿状	外傾 縦斜	人為	-	本跡→SD21
74	D 4 a7	N-87°-W	楕円形	1.75 × 0.84	32	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FF72→本跡 →SD21
75	D 4 a7	N-54°-E	楕円形	1.48 × 0.89	21	皿状	縦斜	-	-	本跡→SD20 FF72と重複
76	D 4 b0	N-27°-W	楕円形	2.12 × 1.12	35	平坦	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FF77→本跡
77	D 4 b0	N-81°-E	[楕円形]	(2.12) × (0.67)	28	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式、瀬片)	本跡→FF76・93
78	D 4 a5	N-83°-E	楕円形	2.56 × 1.05	65	平坦	外傾 縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)、瀬片	SK92→本跡
79	D 5 b4	-	-	-	-	平坦	-	人為	-	FF85・66と重複
80	D 3 b7	N-65°-E	楕円形	2.00 × 0.84	10	平坦	縦斜	人為	-	SD22、FF82→本跡
81	D 4 b3	-	-	-	24	皿状	外傾	-	-	SK56→本跡→FF23
82	D 4 g3	-	-	-	45	皿状	外傾	-	-	SK56→本跡 FF21と重複
83	C 3 b8	N-7°-W	[楕円形]	(0.84) × 0.86	60	平坦	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式・浮島式)	本跡→FF85
84	C 3 j8	N-77°-E	楕円形	1.82 × 0.84	24	平坦	外傾 縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式・浮島式)	SD24→本跡
85	C 3 b8	N-80°-E	楕円形	2.10 × 1.18	74	平坦	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FF83→本跡
86	D 5 b1	N-17°-E	楕円形	2.65 × 1.02	40	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	SI 9、FF87→本跡
87	D 5 c1	N-80°-E	[楕円形]	(1.85) × 1.25	35	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	SI 9→本跡→FF86
88	D 4 c6	N-63°-E	[楕円形]	(0.95) × 0.88	54	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FF89と重複
89	D 4 c6	N-18°-E	不整楕円形	2.02 × 1.20	45	平坦	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FF90→本跡 FF88と重複
90	D 4 c6	N-85°-W	楕円形	1.86 × 0.98	24	平坦	外傾 縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	本跡→FF89
91	D 5 c5	N-17°-W	楕円形	2.00 × 0.92	10	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	-
92	D 5 d7	N-15°-E	楕円形	1.50 × 0.56	42	平坦	外傾	人為	-	本跡→SD 7
93	D 4 b0	N-18°-W	[楕円形]	1.26 × (0.7)	30	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FF77→本跡 →SD19
94	D 5 e1	-	[円形・楕円形]	(0.85) × (0.37)	38	-	-	-	-	SD 19・18・17・16 →SD 19・18・17・16 →SD 19・18・17・16
95	D 5 e1	-	[円形・楕円形]	(1.00) × (0.71)	45	平坦	外傾	自然	縄文土器 (茅山下層式)	SD 19・18・17・16 →SD 19・18・17・16
96	D 3 g0	N-30°-E	楕円形	2.04 × 1.47	48	平坦	外傾 直立	自然	縄文土器 (茅山下層式)	-

(3) 炉跡

炉跡は 34 基を確認した。その中で、特徴的な炉跡 9 基を記載し、その他の炉跡については実測図 (第 138 ~ 140 図)、土層解説及び一覧表で掲載する。

第 7 号炉跡 (第 130 図)

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区中央部の D 5 j2 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.18 m、短径 1.02 m の楕円形で、長径方向が N-12°-E の地床炉である。壁は高さ 18 cm で、外傾している。

燃焼部 長径 0.56 m、短径 0.26 m の不定形である。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 4・5 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片 2 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第130図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表(第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面板状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% PL30 茅山下解式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・繊維	靑灰	普通	外面板状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 茅山下解式

第11号炉跡(第131図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5e4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第79号土坑を掘り込んでいる。

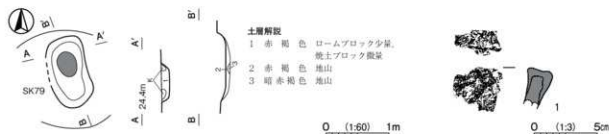
規模と形状 長径1.12m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wの地床炉である。壁は深さ12cmで、外傾している。

燃焼部 長径0.42m、短径0.30mの楕円形である。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2・3層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第131図 第11号炉跡・出土遺物実測図

第11号炉跡出土遺物観察表(第131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	明褐色	普通	口縁部に指痕による凹線	覆土中	5% PL30 茅山下解式

第12号炉跡 (第132図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5d4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号竪穴建物と重複しているが、新旧関係は不明である。

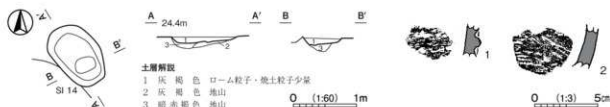
規模と形状 長径1.04m、短径0.71mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wの地床炉である。壁は高さ8cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.18m、短径0.08mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2・3層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第132図 第12号炉跡・出土遺物実測図

第12号炉跡出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	口径	器底	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(27)	-	長石・石英・ 礫質	褐	普通	横位の隆帯 竹筥による連続刺突	覆土中	5% PL30 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(36)	-	長石・石英・ 礫質	明赤褐	普通	外面貝殻染斑文・角棒状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 字山下層式

第14号炉跡 (第133図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4e6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.42m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-70°-Eの地床炉である。壁は高さ12cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径1.05m、短径0.94mの楕円形である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第3層は被熱を受けた地山である。第1層からは、貝を多量に含む暗赤褐色の層を覆土上層で確認した。厚さは10cmである。

遺物出土状況 縄文土器片21点(深鉢)のほか貝が出土している。1は覆土下層、2は覆土中から出土している。貝は4種類で、大半はハマグリである。いずれも、淡水の影響を受ける内湾性の海

第14号炉跡出土貝類集計表

種別	個体数	個体数比(%)
ハマグリ	536	94.9
オキシジミ	23	4.1
ハイガイ	4	0.7
シオフキ	2	0.3
総量	565	100.0

※-は0.1%未満

の砂や泥底に生息する貝類である。総個体数は565個で、比率は左表の通りである。また、碎片の中から、骨または貝と見られる微細物が検出されたため、骨貝同定の分析を行った。その結果、骨の可能性のある碎片や焼けた痕跡の残るスガイの蓋であることが分かった。詳細については、「(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について」で述べることとする。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第133図 第14号炉跡・出土遺物実測図

第14号炉跡出土遺物観察表(第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・ 緑泥	明褐色	普通	外面貝殻条状文	覆土下層	5% 不山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・ 緑泥	にぶい赤褐色	普通	角棒状の工具による凹線	覆土中	3% 縄文早期

第16号炉跡(第76図)

第16号炉跡については、「第45・69号炉穴、第16号炉跡」の項に記載している。

第19号炉跡(第134図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC4e9区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.04m、短径0.72mの楕円形で、長径方向はN-24°-Eの地床炉である。壁は高さ15cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.70m、短径0.54mの楕円形である。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第2層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第134図 第19号炉跡・出土遺物実測図

第19号炉跡出土遺物観察表(第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・ 緑泥	に深い橙	普通 均煎	外・内面貝殻象嵌文 外面角棒状の工具による	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	(9.8)	長石・石英・ 緑泥	に深い赤黄	普通	外面貝殻象嵌文	覆土中	5% 茅山下層式

第23号炉跡(第135図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC-42区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

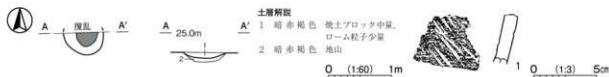
規模と形状 攪乱を受けているため、長径は0.64m、短径は0.36mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる地床炉である。壁は高さ10cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 攪乱を受けているため、長径は0.34m、短径は0.22mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土 単一層である。堆積状況から自然堆積と考えられる。第2層は、被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが、茅山下層式と比定できる。1は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第135図 第23号炉跡・出土遺物実測図

第23号炉跡出土遺物観察表(第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	明赤黄	普通	斜位の組沈線	覆土中	5% 三戸式

第31号炉跡 (第136図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4b6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号道路に掘り込まれている。

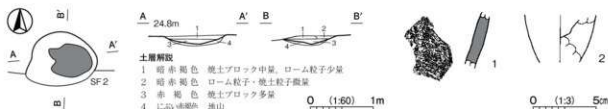
規模と形状 長径1.15m、短径0.87mの楕円形で、長径方向はN-70°-Eの地床炉である。壁は高さ14cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.74m、短径0.52mの不定形である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第4層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が覆土中から出土している。1は覆土中から出土している。2は埋め戻しの混入である。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第136図 第31号炉跡・出土遺物実測図

第31号炉跡出土遺物観察表 (第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・ 磁石	橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	3% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英	明褐	普通	縦位の細沈線 尖底土器	覆土中	5% 3戸式

第34号炉跡 (第137図 PL21)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 5il区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

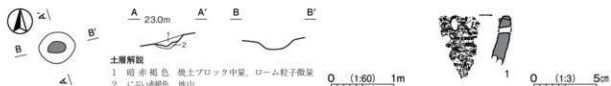
規模と形状 長径0.58m、短径0.48mの楕円形で、長径方向はN-77°-Eの地床炉である。壁は高さ12cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.32m、短径0.18mの楕円形である。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第2層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。

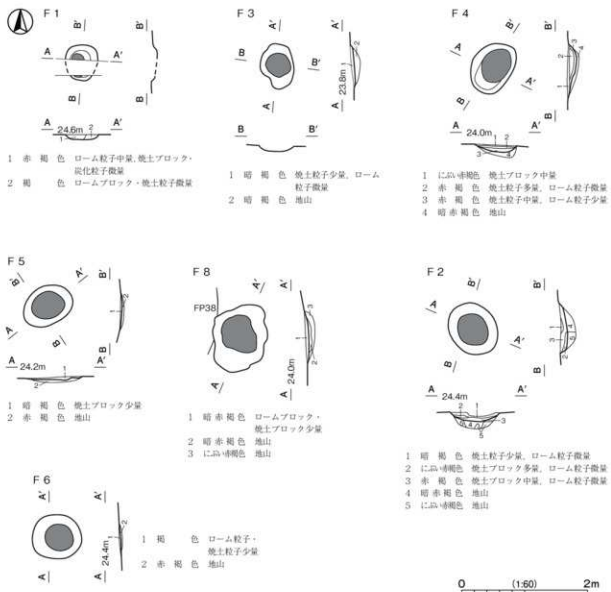


第137図 第34号炉跡・出土遺物実測図

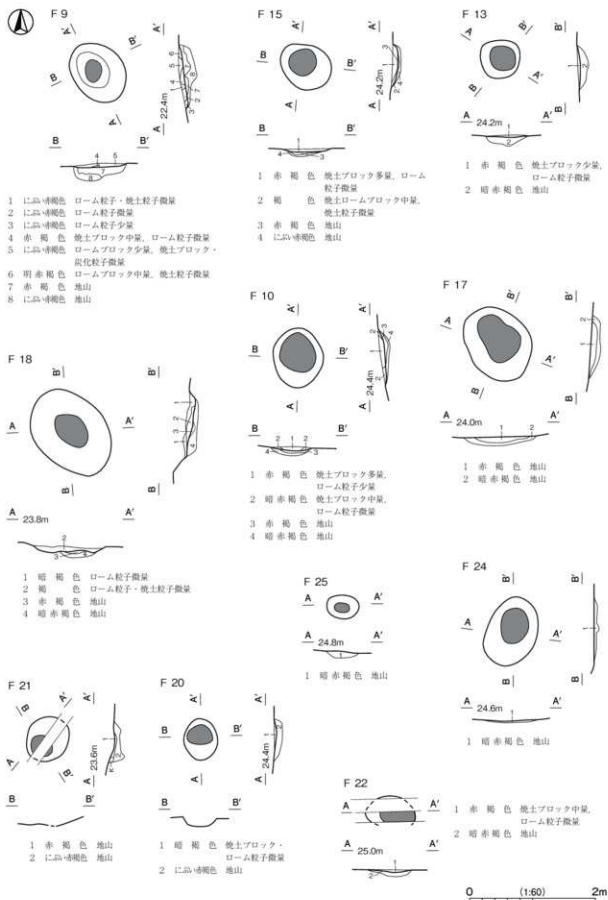
第34号炉跡出土遺物観察表 (第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・磁鉄	明赤褐	普通	口唇部に竹管による削み 口縁部に円孔文	覆土中	5% 四角形 山下第式

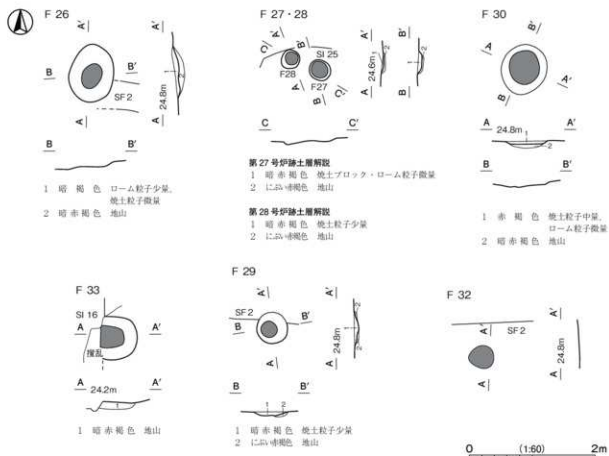
その他の炉跡25基は、実測図及び一覧表を掲載する。



第138図 縄文時代炉跡実測図(1)



第 139 図 縄文時代炉跡実測図 (2)



第140図 縄文時代炉跡実測図(3)

表6 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	概 概		燃焼部	断面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	D 3b5	N-0°	楕円形	0.56×0.50	8	平坦	縦斜	人為	縄文土器(茅山下層式)	
2	D 5e3	N-30°-W	楕円形	0.84×0.74	23	皿状	縦斜	人為	縄文土器(茅山下層式)	
3	D 4t9	N-3°-E	不整形円形	0.68×0.50	12	皿状	縦斜	自然	-	
4	D 4g4	N-26°-E	楕円形	0.84×0.62	12	皿状	縦斜	自然	-	
5	D 4g3	N-48°-E	楕円形	0.80×0.52	6	凸凹	縦斜	自然	-	
6	D 4f4	N-0°	楕円形	0.78×0.68	2	平坦	-	自然	-	
7	D 5j2	N-12°-E	楕円形	1.18×1.02	18	平坦	外傾	自然	縄文土器(茅山下層式)	
8	D 4h7	N-23°-E	不整形円形	1.12×0.86	5	平坦	-	人為	-	
9	E 5a2	N-34°-W	楕円形	1.02×0.78	5	平坦	縦斜	人為	-	
10	D 4j9	N-0°	楕円形	0.95×0.78	5	平坦	縦斜	自然	-	
11	D 5e4	N-12°-W	楕円形	1.12×0.60	12	平坦	外傾	人為	縄文土器(茅山下層式)	SK79→本跡
12	D 5d4	N-35°-W	楕円形	1.04×0.71	8	平坦	縦斜	人為	縄文土器(茅山下層式)	SI14と重複
13	D 5g1	-	円形	0.62×0.60	4	皿状	-	自然	縄文土器(茅山下層式)	
14	D 4e6	N-12°-W	楕円形	1.42×0.60	12	平坦	縦斜	人為	縄文土器(茅山下層式・縄文早期)、瓦	
15	C 4f7	N-36°-W	楕円形	0.86×0.68	10	平坦	縦斜	人為	-	
16	C 4g0	N-17°-E	楕円形	0.82×0.63	14	平坦	縦斜	自然	縄文土器(茅山下層式)	FI60→本跡
17	C 4f8	N-35°-W	楕円形	1.26×1.02	-	皿状	-	-	-	
18	C 4e3	N-42°-W	楕円形	1.50×1.08	10	凸凹	縦斜	人為	縄文土器(三戸式・茅山下層式)	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		燃焼部	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
19	C 4e9	N-24°-E	精円形	1.04 × 0.72	15	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
20	C 4g5	N-27°-W	精円形	0.68 × 0.54	2	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
21	C 4e4	N-36°-E	精円形	0.74 × 0.63	-	平皿	-	-	-	
22	C 4j2	N-86°-W	[精円形]	0.80 × (0.40)	2	皿状	縦斜	自然	-	
23	C 4j2	-	[円形・精円形]	0.64 × (0.36)	10	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	
24	C 4g3	N-20°-E	精円形	1.10 × 0.80	-	平皿	-	-	-	
25	C 4j2	N-83°-W	精円形	0.52 × 0.38	-	皿状	-	-	-	
26	D 3a0	N-57°-E	精円形	0.94 × 0.68	8	平皿	縦斜	人為	-	
27	C 3g6	-	円形	0.34 × 0.32	2	皿状	縦斜	自然	-	SI25→本跡
28	C 3g6	-	円形	0.30 × 0.29	4	平皿	縦斜	自然	-	SI25→本跡
29	D 4b6	-	円形	0.50 × 0.47	7	平皿	-	-	-	本跡→SF 2
30	D 4b6	N-21°-E	精円形	0.82 × 0.72	7	平皿	縦斜	自然	-	
31	D 4b6	N-70°-E	[精円形]	1.15 × (0.87)	14	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	本跡→SF 2
32	D 4b6	-	[円形]	(0.40) × (0.38)	-	平皿	-	-	-	本跡→SF 2
33	D 5b3	N-84°-W	[精円形]	0.68 × (0.60)	-	平皿	-	-	-	本跡→SI16
34	D 5i1	N-77°-E	精円形	0.58 × 0.48	12	皿状	縦斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	

(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について

ア 分析方法

試料は、1mm、3mmのフルイ分けによって得られた骨とみられる5試料と貝類2試料であり、これらの試料の中には、1試料中に複数点の破片が含まれている場合もある。これらの試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、貝類の生態等に関しては、奥谷ほか(2000)、奥谷編著(2004)などを参考とする。

イ 結果

以下、試料ごとに結果を示す。

骨貝同定結果

番号	採取地	記 載	種 類	部位	状態等	数	被熱	備考
①	第14号炉跡	3mmから	骨。1点	骨。	不明	破片	1	○
②	第14号炉跡	3mmから	骨。1点	マテガイ科。	殻。	破片	1	○
③	第14号炉跡	1mmから	骨。1点	貝。	殻。	破片	1	
④	第14号炉跡	1mmから	193.26 骨。1点	不明	不明	破片		
⑤	第57号炉穴	1mmから	193.27 骨。2点	哺乳類。	歯牙。	破片	1	
				不明	不明	破片	1+	
	第57号炉穴	1mmから	貝。1点	カワザンショウガイ科。	殻	破片	1	○
	第14号炉跡	3mmから	貝蓋。4点	スガイ	蓋	略定	2	○
						破片	1	○

<骨試料>

・番号① 第14号炉跡(3mmから) 骨の可能性のある破片であるが、詳細不明である。焼けている可能性もある。

・番号② 第14号炉跡(3mmから)

マテガイ科の殻の可能性のある破片である。焼けている可能性がある。

・番号③ 第14号炉跡(貝サンプル)(1mmから) 貝の可能性のある破片であるが、詳細不明である。

・番号④ 第14号炉跡(1mmから)

種類不明の破片で、詳細不明である。

・番号⑤ 第57号炉穴(1mmから)

1点は、厚さ0.15mm程度のエナメル質状の構造がみられることから、哺乳類の歯牙の可能性はある。残りの破片は、種類不明の破片で詳細不明である。

<貝試料>

・第57号炉穴(1mmから)

カワザンショウガイ科の可能性のある破片である。焼けている。

・第14号炉跡(1mmから)

スガイの蓋である。4片あり、1点がほぼ完形、2点が接合してほぼ完形、1点が破片である。いずれも焼けている。

ウ 考察

骨試料の番号①～⑤には、マテガイ科の可能性のある破片、あるいは哺乳類の歯牙の可能性のある破片などがみられたが、極めて微細な破片であるため、骨貝を断定できない試料が多い。一方、貝試料では、カワザンショウガイ科の可能性のある破片、スガイの蓋がみられた。いずれも焼けている。カワザンショウガイ科は、河口汽水域などに生育するものが多い。意図的に採取したものでなく、何かに付着していたものが焼かれたとみられる。また、スガイは、北海道南部～九州南部に分布し、潮間帯の岩礁域に棲息するとされる。食料となることから、食料資源として持ち込まれたと考えられる。

引用文献

- 奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・斎藤 寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷 巖・
逢水 格・堀 成夫・松隈明彦、2000、日本近海産貝類図鑑、奥谷喬司編、東海大学出版会、1173p
奥谷喬司編著、2004、改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類、株式会社世界文化社、399p

(5) 陥し穴

第1号陥し穴(第141図 PL22)

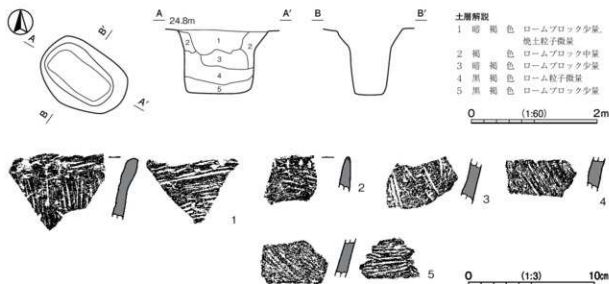
位置 調査区中央部のD 4 b4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.44m、短軸1.02mの隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Wである。深さは102cmで、底面は幅45cmと狭く平坦である。長軸方向の壁は直立して立ち上がっている。短軸方向の断面形は中位以下が壁が直立し、上位は逆ハの字状に広がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢)が出土している。1～5はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉と考えられる。



第141図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・繊維	暗褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL20 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・石英・繊維	灰褐	普通	口唇部に細い筋み	覆土中	5% PL20 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・赤色粘土粒子・繊維・繊維	橙	普通	外周貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	-	長石・石英・赤色粘土粒子・繊維	灰褐	普通	外周貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 茅山下層式

(6) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 102 基を確認した。覆土の堆積状況や遺物出土状況など特徴的な 9 基については記述し、その他の土坑については実測図（第 155～163 図）、土層解説及び一覧表で掲載する。

第 38 号土坑（第 142 図 PL22）

調査年度 平成 30 年度

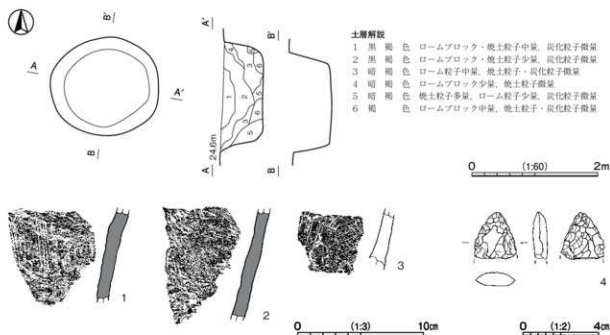
位置 調査区中央部の D 3e9 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.72 m、短径 1.58 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 62 cm である。壁はほぼ直立している。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 47 点（深鉢）、石器 1 点（鎌）が出土している。1・2・4 は覆土中から出土している。3 は表土からの流れ込みである。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第142図 第38号土坑・出土遺物実測図

第38号土坑出土遺物観察表(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・長石繊維	黒褐色	にぶい	外面貝殻染灰文 指頭によるナゲ調整	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	赤褐色	普通	外面貝殻染灰文を施した後、磨り消し。	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	縦・斜位の副洗線	覆土中	5% 三戸式

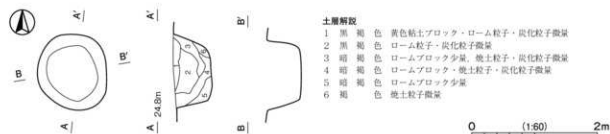
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	鏡	(2.5)	(2.3)	0.8	(4.52)	チャート	石鏡未製品	覆土中	PL34

第40号土坑(第143・144図 PL22)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD 4c9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.24m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。底面は平坦で、深さは60cmである。壁はほぼ直立している。



第143図 第40号土坑実測図

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。2・3は覆土中から出土している。1は埋め戻しの混入である。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第144図 第40号土坑出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表(第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 赤色粘土	赤褐色	普通	棒状の工具による条痕	覆土中	5% 浮島式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・ 織物	赤褐色	普通	外面板状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・ 織物	赤褐色	普通	外面板状の工具によるナゲ調整	覆土中	5% 茅山下層式

第52号土坑(第145～147図 PL22)

調査年度 平成30年度

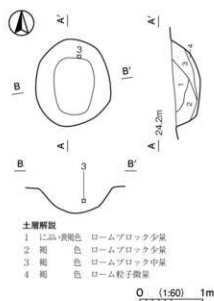
位置 調査区中央部のD4h2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.40m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-0°である。底面は皿状で、深さは38cmである。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、石製品1点(球状耳飾)が出土している。3は覆土中層、1・2は覆土中から出土している。

所見 球状耳飾が北側の覆土中層から検出され、周囲にも同規模の土坑が確認されていることから、土坑墓の可能性が高い。時期は、出土土器から早期後葉である。

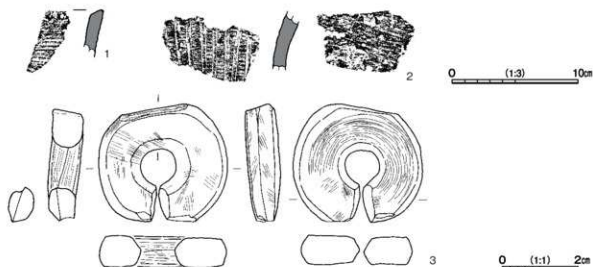


第145図 第52号土坑実測図

第52号土坑出土遺物観察表(第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・ 赤色粘土	赤褐色	普通	口唇部に棒状の工具による刻み	覆土中	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・ 織物	赤褐色	普通	外面角棒状の工具による条痕	覆土中	5% 茅山下層式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	球状耳飾	3.1	3.4	0.9	13.93	ホワイト	断面に同心円状の彫痕	覆土中層	PL24



第146図 第52号土坑出土遺物実測図

珠状耳飾の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 分析方法

セイコーインスツルメンツ（株）製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SEA2120L）を利用した非破壊分析により、化学組成を求める。本装置は、下面照射型の装置であり、X線管球はRh、コリメーターサイズは10mmφである。本調査における測定条件の詳細は、結果とともに第147図に掲げる。得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、FP法（ファンダメンタルパラメーター法）を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い、相対含有率（質量%）を求める。但し、算出された結果はあくまでも半定量的なものであることに留意する必要がある。一方、野外用ルーペを用いて行い、石材表面の鉱物や組織を観察し、蛍光X線分析の結果および五十嵐（2006）の分類基準に基づき、岩石名を付した。

2 結果・考察

蛍光X線分析により得られた値は、 SiO_2 に富み、ついで MgO 、 CaO 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 を伴う組成を示す。肉眼観察および上記の化学組成から、本試料は、トレモラ閃石（Tremolite）-アクチノ閃石（Actinolite） $(\text{Ca}_2(\text{Mg,Fe})_2\text{Si}_2\text{O}_{22}(\text{OH})_2)$ を主成分とするネフライト（Nephrite）と判断される。

鉄を全く含まないトレモラ閃石は透明、あるいは白色で、一般的に鉄の含有量が増えるにしたがって緑色が濃くなる。本試料は、白色を呈していることと、化学組成において鉄が僅少であることから、トレモラ閃石を主成分とするトレモラ閃石岩と推測される。ネフライトは、日本国内において、新潟県糸魚川平岩、長野県白馬八方尾根などの産地が知られている（飯塚、2012）。

引用文献

飯塚義之、2012、考古鉱物学：低真空走査型電子顕微鏡（LV-SEM）による玉器の分析とその成果、日本電子ニュース、44、23-39。五十嵐俊雄、2006、考古資料の岩石学、パリオ・サーヴェイ株式会社、194p

[定量結果]

MgO	24.10 (wt%)	176.634 (± 0.897) (cps)
Al ₂ O ₃	2.79 (wt%)	30.238 (± 0.399) (cps)
SiO ₂	58.68 (wt%)	1197.228 (± 2.308) (cps)
CaO	11.96 (wt%)	555.298 (± 1.585) (cps)
MnO	0.07 (wt%)	3.970 (± 0.209) (cps)
Fe ₂ O ₃	2.37 (wt%)	167.126 (± 0.879) (cps)
CuO	0.01 (wt%)	1.350 (± 0.194) (cps)
ZnO	0.01 (wt%)	2.084 (± 0.212) (cps)

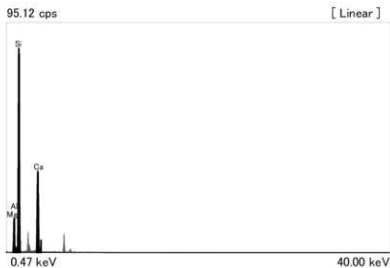
[測定条件]

測定装置	SEA2120L
管球ターゲット元素	Rh

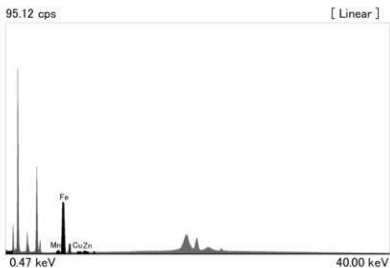
	測定条件 1	測定条件 2
測定時間 (秒)	300	300
有効時間 (秒)	226	224
コリメータ	φ10.0mm	φ10.0mm
励起電圧 (kV)	15	50
管電流 (μA)	62	10
フィルター	なし	なし
マイラー	OFF	OFF
雰囲気	真空	真空

[X線スペクトル]

<測定条件 1>

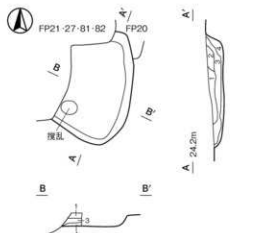


<測定条件 2>



第 147 図 第 52 号土坑球状耳飾の蛍光 X 線分析結果

第56号土坑 (第148図 PL16)



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 におい透明色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

0 (1:60) 1m

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4h3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

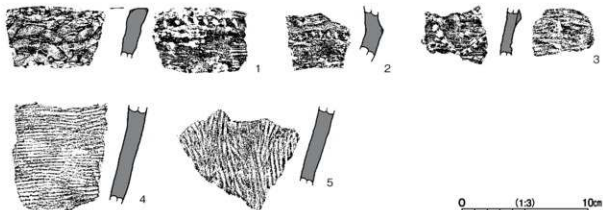
重複関係 第20号炉穴を掘り込み、第21・27・81・82号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状 複数の炉穴と重複しているため、長径1.81m、短径は1.00mしか確認できなかった。長径方向はN-17°-Eの楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは26cmである。壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢)が出土している。1~5は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第148図 第56号土坑・出土遺物実測図

第56号土坑出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・繊維	暗褐色	普通	口径部に竹管による刻み 指頭による円錐で弧線文を施す	覆土中	5% 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・礫・繊維	明赤褐色	普通	隆帯に竹管による刻み	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・繊維	におい褐色	普通	角棒状の工具による押引き	覆土中	5% 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・礫・繊維	明褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	におい褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式

第64号土坑 (第149図)

調査年度 平成30年度

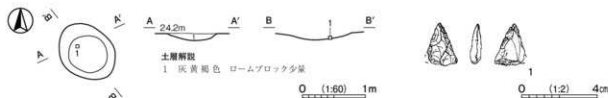
位置 調査区中央部のD5e3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.00 m、短径 0.78 m の楕円形で、長径方向は N-41°-W である。底面は皿状で、深さは 10 cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 石器 1 点（鏃）が出土している。1 は底面から出土している。

所見 時期は、周囲の遺構の状況と出土遺物から早期後葉である。



第 149 図 第 64 号土坑・出土遺物実測図

第 64 号土坑出土遺物観察表（第 149 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	鏃	2.2	(1.6)	0.6	(1.52)	流紋岩	微細網障痕	底面	Pl.34

第 72 号土坑（第 150・151 図 Pl.22）

調査年度 平成 30 年度

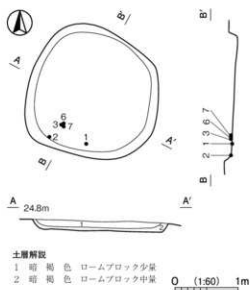
位置 調査区中央部の C 4 区 9 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.22 m、短径 2.20 m の不整形である。底面は平坦で、深さは 14 cm である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。1～3・6・7 は底面から、4・5・8・9 は覆土中から出土している。

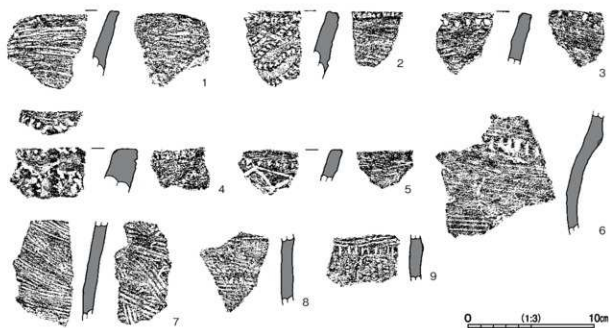
所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第 150 図 第 72 号土坑実測図

第 72 号土坑出土遺物観察表（第 151 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・繊維	褐色	普通	外面貝殻条痕文を施した後、磨り消し	底面	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	赤褐色	普通	口唇部に棒状の工具による刻み 口縁部に連続刻突	底面	5% 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部に竹管による刻み	底面	5% 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	口唇部・隆帯に棒状の工具による刻み	覆土中	5% 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・繊維	にぶい赤褐色	普通	口唇部に竹管による刻み 口縁部に棒状の工具による刻突	覆土中	5% 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み	底面	5% 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・繊維	黒褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	底面	5% 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	明褐色	普通	外面貝殻条痕文を施した後、磨り消し	覆土中	5% 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・繊維	褐色	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み 器底による円網	覆土中	5% 茅山下層式

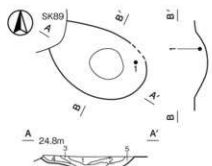


第151図 第72号土坑出土遺物実測図

第88号土坑 (第152図 PL.22)

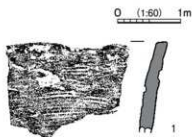
調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のC 49区, 標高24mほどの台地平坦部に位置している。



土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中層
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量



第152図 第88号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第89号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第89号土坑に掘り込まれているため, 短径1.02m, 長径は1.46mしか確認できなかった。長径方向はN-57°-Wの楕円形と推定できる。底面は皿状で, 深さは22cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。1は覆土中層から, 2は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から早期後葉である。

第 88 号土坑出土遺物観察表 (第 152 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・ 編織	灰褐色	普通	外面日線条痕文を極文後、磨り消し、内面板状の工具によるナゲ調整	覆土中層	5% 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 編織	灰褐色	普通	外面棒状の工具による凹線	覆土中	5% 茅山下層式

第 111 号土坑 (第 153 図)

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区中央部の D 5 b5 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

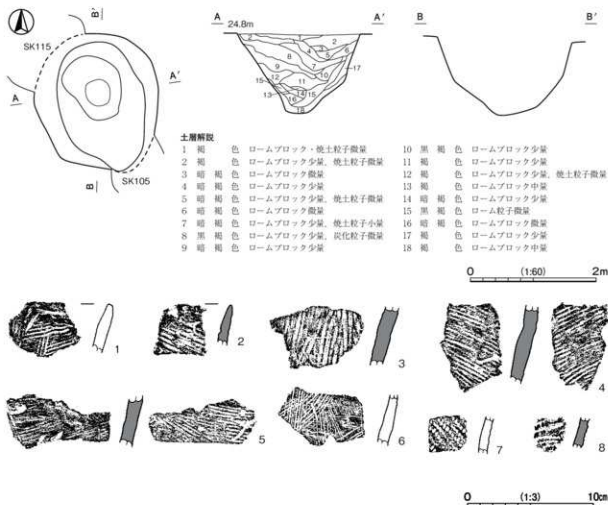
重複関係 第 105・115 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 2.14 m、短径 1.96 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 62 cm である。壁は外傾している。

覆土 18 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片 40 点 (深鉢) が出土している。2～5・8 は覆土中から出土している。1・6・7 は、埋め戻しの混入である。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。



第 153 図 第 111 号土坑出土遺物実測図

第 111 号土坑出土遺物観察表 (第 153 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(29)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 三丁式
2	縄文土器	深鉢	-	(33)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	口唇部に丸棒状の工具による刻み 外面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(63)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	外面棒状の工具による条痕 内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外面棒状の工具による縦・斜位の細沈線	覆土中	5% 三丁式
7	縄文土器	深鉢	-	(30)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	単線縄文図	覆土中	5% 深鉢式
8	縄文土器	深鉢	-	(25)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	貝殻線縦圧痕文	覆土中	5% 字山下層式

第 123 号土坑 (第 154 図)

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区中央部の D 4 b5 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

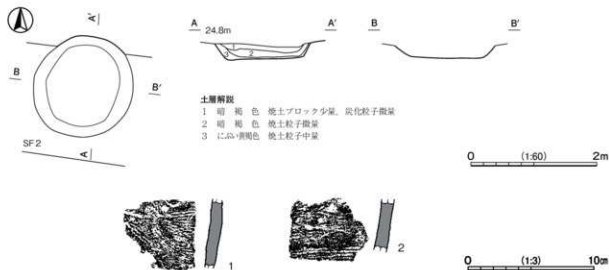
重複関係 第 2 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.62 m、短径 1.55 m のほぼ円形である。底面は平坦で、深さは 20 cm である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 6 点 (深鉢) が出土している。1・2 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後葉である。

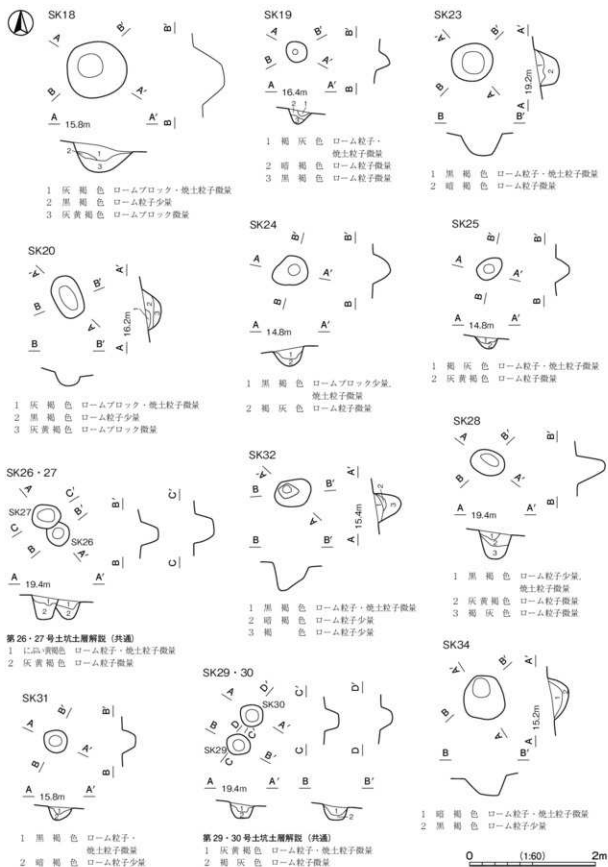


第 154 図 第 123 号土坑・出土遺物実測図

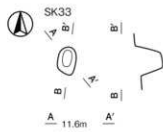
第 123 号土坑出土遺物観察表 (第 154 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英・ 繊維	明赤褐色	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 字山下層式

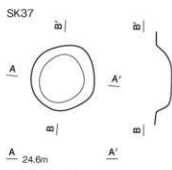
その他の土坑 93 基は、実測図及び一覧表を掲載する。



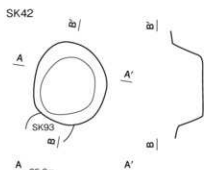
第 155 図 縄文時代土坑実測図 (1)



- 1 暗褐色 ローム粒子少量、
焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

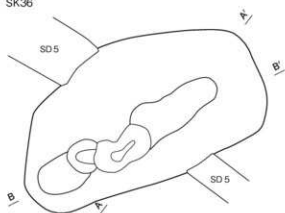


- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量



- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

SK36



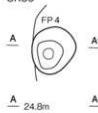
- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量

SK35



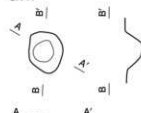
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

SK39



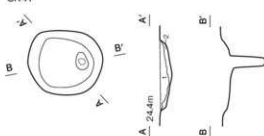
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

SK41



- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

SK47



- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

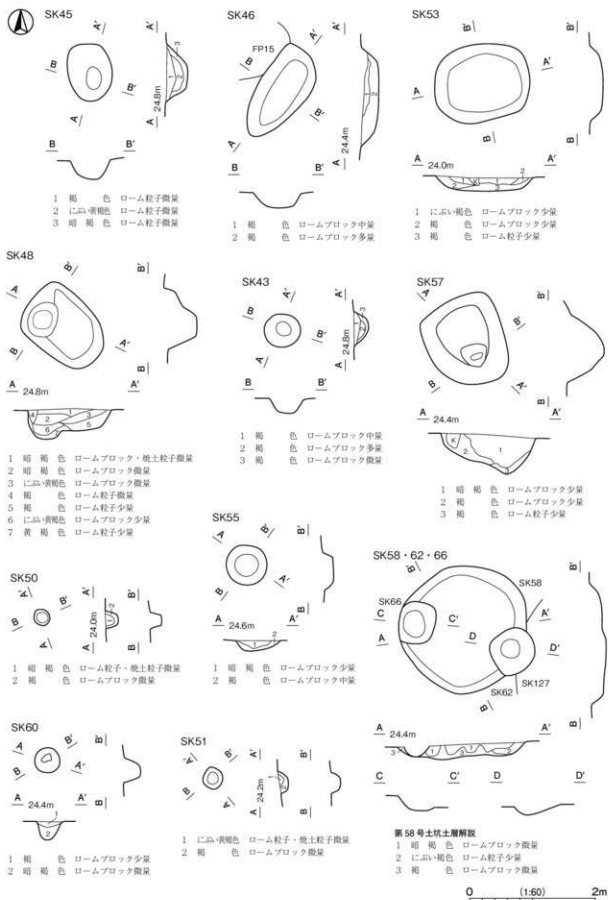
SK49



- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

0 (1:50) 2m

第156図 縄文時代土坑実測図(2)



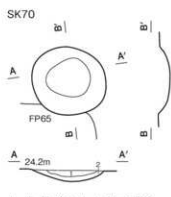
第157図 縄文時代土坑実測図(3)



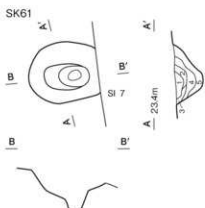
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量



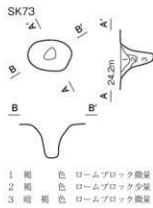
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量



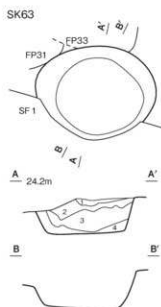
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量



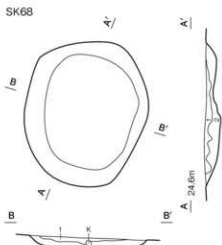
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 にごり・黄褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量



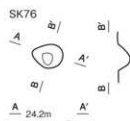
- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量



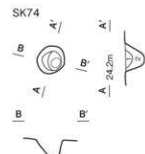
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量



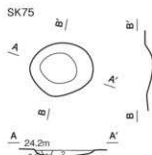
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 にごり・黄褐色 ロームブロック中量



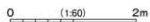
- 1 暗褐色 ローム粒子微量



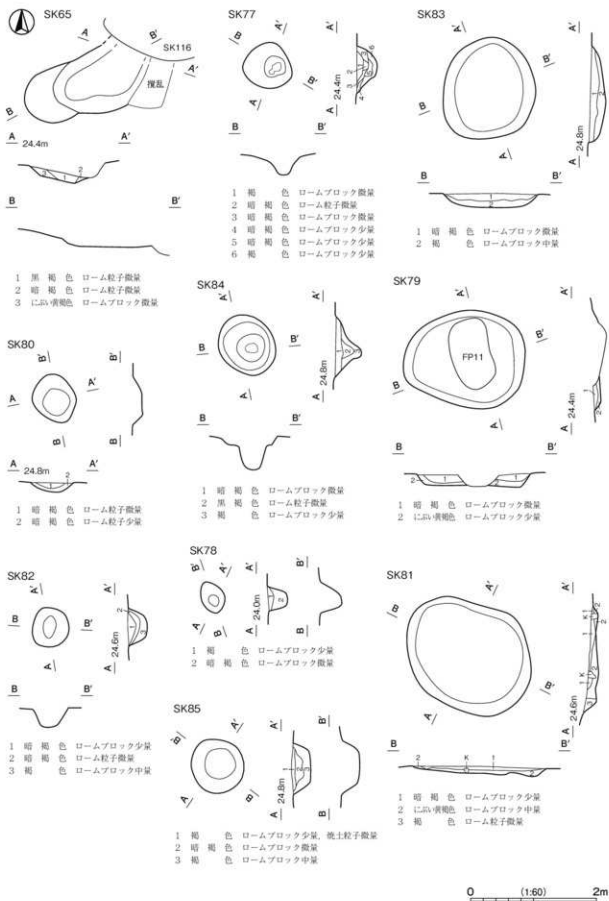
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量



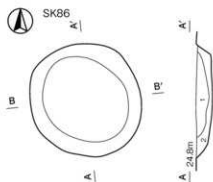
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量



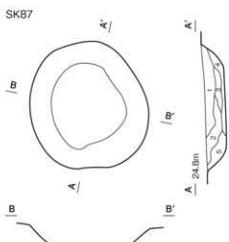
第158図 縄文時代土坑実測図(4)



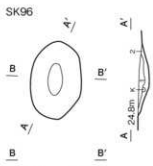
第159図 縄文時代土坑実測図(5)



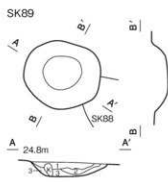
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黄褐色 ロームブロック少量



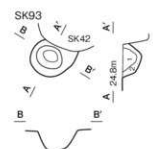
- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 黄褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量



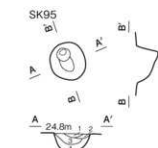
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量



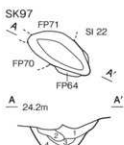
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量



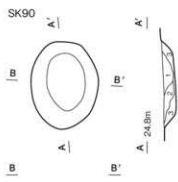
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量



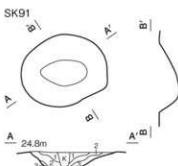
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黄褐色 ロームブロック多量



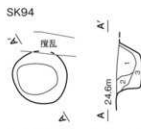
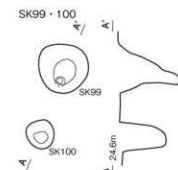
- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量



- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量



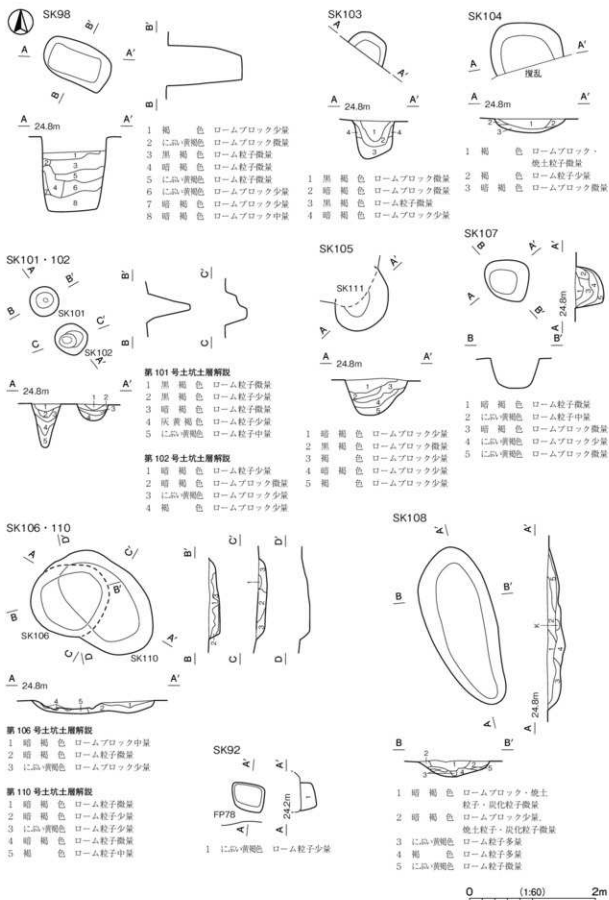
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 に似黄褐色 ロームブロック少量



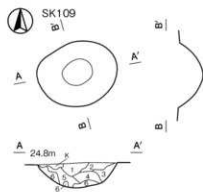
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 に似黄褐色 ローム粒子少量

0 (1:50) 2m

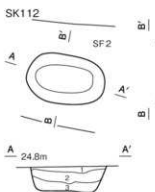
第160図 縄文時代土坑実測図(6)



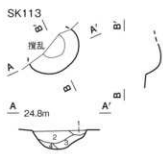
第161図 縄文時代土坑実測図(7)



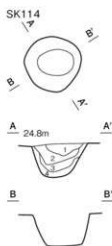
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 に灰・黄褐色 ローム粒子微量
- 3 に灰・黄褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 に灰・黄褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量



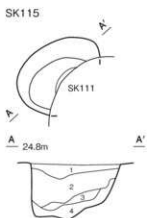
- 1 に灰・黄褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量



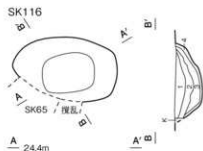
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量



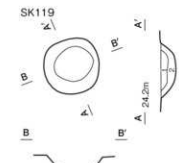
- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量



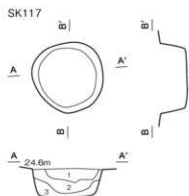
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 に灰・黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量



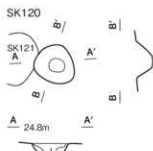
- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量



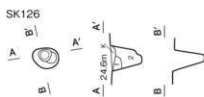
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量



- 1 に灰・黄褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

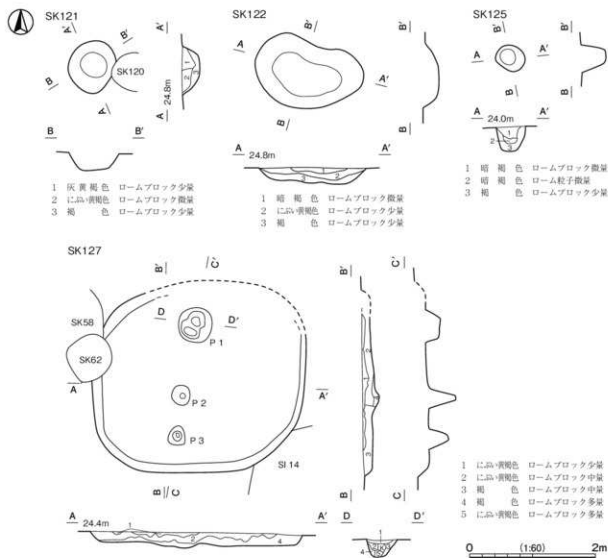


- 1 に灰・黄褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量



- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

0 (1:50) 2m



第163図 縄文時代土坑実測図(9)

表7 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
18	E 5β	-	円形	0.95 × 0.95	45	皿状	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡
19	E 5b4	-	円形	0.34 × 0.32	22	皿状	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡
20	E 5b4	N-27°-W	楕円形	0.62 × 0.44	22	皿状	外傾	自然	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡
23	E 4θ	-	楕円形	0.65 × 0.60	37	皿状	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡
24	E 5δ	N-67°-E	不整形円形	0.60 × 0.44	26	皿状	外傾	人為	-	HG 1→本跡
25	E 5δ	N-36°-E	楕円形	0.32 × 0.43	20	皿状	外傾	人為	-	HG 1→本跡
26	E 4ε	-	円形	0.37 × 0.36	30	平面	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡→SK27
27	E 4ε	N-88°-E	楕円形	0.45 × 0.38	32	平面	外傾 注1は直立	人為	縄文土器 (茅山下層式)	SK26, HG 1→本跡
28	E 4ε	N-72°-W	楕円形	0.54 × 0.40	45	皿状	外傾 注1は直立	人為	-	HG 1→本跡
29	E 4ε	-	円形	0.38 × 0.36	22	平面	外傾	自然	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡
30	E 4ε	-	円形	0.38 × 0.38	21	皿状	外傾	人為	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底部	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
31	E 5g	-	円形	0.36 × 0.34	20	皿状	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1 → 本跡
32	E 5h6	N - 58° - E	楕円形	0.60 × 0.44	44	皿状	外堀 ほぼ直立	自然	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1 → 本跡
33	E 5h6	N - 10° - E	楕円形	0.40 × 0.28	38	皿状	ほぼ直立	自然	縄文土器 (茅山下層式)	HG 1 → 本跡
34	E 5g8	N - 15° - W	楕円形	0.72 × 0.65	30	皿状	外堀	自然	-	HG 1 → 本跡
35	E 5g8	N - 40° - E	楕円形	0.58 × 0.52	23	皿状	外堀 底斜	自然	-	HG 1 → 本跡
36	E 5h9	N - 61° - E	楕円形	4.14 × 2.35	84	皿状	底斜	人為	縄文土器 (浮島式)	HG 1 → 本跡 → SD 5
37	D 4d0	-	円形	1.08 × 1.00	22	平皿	底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
38	D 3e9	-	円形	1.72 × 1.58	62	平皿	ほぼ直立	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	
39	D 4d9	N - 33° - E	楕円形	0.78 × 0.68	38	皿状	外堀	人為	-	FP 4 → 本跡
40	D 4e9	-	円形	1.24 × 1.12	60	平皿	ほぼ直立	人為	縄文土器 (茅山下層式・浮島式)	
41	D 4d0	N - 20° - W	楕円形	0.66 × 0.52	26	皿状	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
42	D 4c3	N - 3° - E	楕円形	1.30 × 1.15	45	平皿	外堀	人為	縄文土器 (西浜式)	SK93 → 本跡
43	D 4c2	-	円形	0.58 × 0.54	23	皿状	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
44	D 4c1	N - 13° - W	楕円形	0.90 × 0.68	30	皿状	外堀 底斜	人為	-	
45	D 5e2	N - 36° - E	楕円形	1.56 × 0.75	24	平皿	外堀 底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FP15 → 本跡
46	D 5f1	N - 89° - W	楕円形	1.17 × 1.02	24	皿状	底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
47	D 5e1	N - 89° - W	楕円形	1.17 × 1.02	24	皿状	底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
48	D 4e9	N - 48° - W	楕円形	1.38 × 1.00	20	有段	外堀	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
49	D 4g6	-	円形	0.38 × 0.36	25	平皿	外堀	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
50	D 4g0	-	円形	0.28 × 0.26	18	平皿	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
51	D 4g9	-	円形	0.35 × 0.34	14	皿状	外堀	自然	-	
52	D 4h2	N - 0°	楕円形	1.40 × 1.18	38	皿状	外堀	人為	縄文土器 (茅山下層式・石製土器 (球状瓦葺))	土坑墓。
53	D 4h2	N - 83° - E	楕円長方形	1.54 × 1.24	20	平皿	外堀	人為	-	土坑墓。
54	D 4e1	-	円形	0.62 × 0.62	14	平皿	外堀 底斜	人為	-	
55	D 4h3	N - 17° - E	[楕円形]	1.81 × (1.00)	26	平皿	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP20 → 本跡 → FP21・27・81・82
56	D 3g0	N - 44° - W	楕円形	1.40 × 1.20	54	平皿	外堀	人為	-	
57	D 5c2	-	[円形]	2.01 × (2.00)	24	平皿	底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	SK127 → 本跡 → SK62・66
58	D 5f1	N - 67° - W	[楕円形]	1.30 × (1.18)	28	平皿	底斜	人為	縄文土器 (茅山下層式)	
59	D 5d1	-	円形	0.39 × 0.39	24	皿状	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
60	D 5h5	N - 88° - E	[楕円形]	(1.10) × 0.95	67	有段	外堀	人為	縄文土器 (黒浜式・浮島式)	本跡 → SI 7
61	D 5c2	N - 13° - E	楕円形	0.80 × 0.72	16	皿状	底斜	-	-	SK58・127 → 本跡
62	D 4h1	N - 63° - W	楕円形	1.85 × 1.55	32	平皿	外堀	人為	縄文土器 (茅山下層式)	FP3 → 本跡 → SF 1
63	D 5e3	N - 41° - W	楕円形	1.00 × 0.78	10	皿状	底斜	自然	石器 (鏝)	
64	D 5d5	N - 60° - E	[楕円形]	(1.93) × 0.96	25	平皿	底斜	人為	縄文土器 (欄・高台式・茅山下層式)	本跡 → SK116
65	D 5c2	N - 70° - E	楕円形	0.68 × 0.54	12	皿状	底斜	-	-	SK58 → 本跡
66	D 4d0	N - 18° - E	楕円形	2.32 × 1.90	24	有段	底斜	人為	縄文土器 (早期終末)	
67	D 4g1	N - 23° - E	楕円形	1.98 × 1.22	30	有段	底斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	土坑墓。
68	D 5a1	-	円形	1.16 × 1.08	18	皿状	底斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	FP65 → 本跡
69	C 4f9	-	不整形円形	2.22 × 2.20	14	平皿	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
70	D 5h5	N - 73° - W	楕円形	0.64 × 0.50	48	平皿	ほぼ直立	人為	-	
71	D 5b4	-	円形	0.44 × 0.42	26	皿状	外堀	自然	-	
72	D 5d3	N - 76° - E	楕円形	1.00 × 0.84	5	皿状	底斜	人為	-	
73	D 5d3	N - 70° - W	楕円形	0.50 × 0.40	18	皿状	外堀	自然	-	
74	D 5a1	-	円形	0.74 × 0.70	30	平皿	外堀	人為	縄文土器 (三戸式・茅山下層式)	
75	D 5b6	N - 26° - W	楕円形	0.52 × 0.36	32	平皿	外堀	自然	縄文土器 (茅山下層式)	
76	D 5e1	N - 80° - W	楕円形	1.85 × 1.48	20	平皿	外堀 底斜	自然	縄文土器 (茅山下層式)	本跡 → FP11
77	C 4h8	N - 20° - W	楕円形	0.78 × 0.64	18	平皿	外堀 底斜	自然	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底部	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
81	C 4g5	N-60°-W	楕円形	214 × 171	18	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
82	D 4g0	N-16°-E	円形	0.62 × 0.54	30	皿状	外傾	自然	縄文土器 (芋山下層式)	
83	C 4b8	N-9°-W	楕円形	1.64 × 1.45	22	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (三戸式)	
84	C 4i7	N-40°-W	楕円形	0.98 × 0.86	32	皿状	外傾 (ほぼ直立)	自然	-	
85	C 4b6	-	円形	0.88 × 0.83	30	平坦	外傾	人為	-	
86	C 4i7	-	円形	1.86 × 1.74	30	平坦	外傾	自然	縄文土器 (芋山下層式)	
87	C 4i8	N-25°-W	楕円形	2.06 × 1.84	33	平坦	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
88	C 4j9	N-57°-W	[楕円形]	(1.46) × 1.02	22	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式)	本跡→SK89
89	C 4j9	N-80°-W	楕円形	1.20 × 1.08	25	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式)	SK88→本跡
90	D 4a8	N-1°-W	楕円形	1.37 × 1.07	19	平坦	縦斜	人為	縄文土器 (三戸式)	
91	C 4j8	N-57°-E	楕円形	1.32 × 1.10	30	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
92	D 4a5	N-76°-W	[隅丸長方形]	(0.54) × (0.43)	(23)	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器 (芋山下層式)	本跡→FP78
93	D 4c2	N-57°-E	[楕円形]	(0.62) × 0.58	32	皿状	外傾	自然	縄文土器 (芋山下層式)	本跡→SK42
94	D 3b7	-	[円形]	0.85 × 0.84	39	平坦	外傾 (ほぼ直立)	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
95	D 3b0	-	円形	0.60 × 0.54	34	平坦	外傾 (ほぼ直立)	人為	縄文土器 (竈・高台式・芋山下層式)	
96	C 4i6	N-6°-E	楕円形	1.24 × 0.82	18	皿状	縦斜	人為	-	
97	D 3b6	N-57°-W	楕円形	1.10 × 0.52	50	平坦	外傾	人為	-	本跡→FP64・70・71, SK22
98	C 4j3	N-66°-W	隅丸長方形	1.12 × 0.62	112	平坦	直立	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
99	D 4a8	-	円形	0.82 × 0.79	95	皿状	外傾 内傾	-	-	
100	D 4a8	-	円形	0.54 × 0.43	72	皿状	ほぼ直立	-	-	
101	D 3b4	-	円形	0.46 × 0.46	69	皿状	ほぼ直立	人為	-	
102	D 3b4	-	円形	0.50 × 0.47	34	皿状	外傾	自然	-	
103	D 3b4	-	[円形・楕円形]	0.66 × (0.34)	60	皿状	ほぼ直立	人為	縄文土器 (大木式)	
104	D 3b4	-	[円形・楕円形]	1.13 × (0.70)	23	皿状	外傾 縦斜	人為	-	
105	D 5b5	-	[円形・楕円形]	0.83 × (0.58)	58	皿状	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式)	SK111と重複
106	C 3i8	-	円形	1.20 × 1.10	14	平坦	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式)	SK110→本跡
107	C 3j9	N-67°-W	楕円形	0.78 × 0.64	44	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (三戸式・芋山下層式)	
108	D 3b4	N-20°-W	楕円形	2.58 × 1.08	26	凸凹	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式・浮島式)	
109	D 3a9	N-69°-E	楕円形	1.26 × 1.02	29	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
110	C 3i8	N-57°-W	[楕円形]	1.98 × 1.24	16	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK106
111	D 5b5	-	[円形]	2.14 × 1.96	62	平坦	外傾	人為	縄文土器 (三戸式・芋山下層式・浮島式)	SK105・115と重複
112	D 4b1	N-78°-W	楕円形	1.22 × 0.78	38	平坦	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式)	本跡→SF 2
113	D 3b9	N-54°-E	[円形・楕円形]	0.88 × (0.44)	25	皿状	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
114	D 3a9	-	円形	0.86 × 0.84	51	平坦	外傾 (ほぼ直立)	人為	縄文土器 (芋山下層式)	
115	D 5a4	-	[円形・楕円形]	1.43 × (0.60)	88	平坦	外傾	人為	縄文土器 (野島式・芋山下層式)	SK111と重複
116	D 3a9	N-77°-W	[楕円形]	1.65 × (1.00)	42	皿状	縦斜	人為	縄文土器 (野島式・芋山下層式)	SK65→本跡
117	C 3j4	-	円形	1.12 × 1.12	43	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (黒形式・浮島式)	
119	D 5d6	-	円形	0.90 × 0.88	25	平坦	外傾	自然	縄文土器 (黒形式・浮島式)	
120	D 3a7	N-28°-W	楕円形	0.65 × 0.57	27	平坦	縦斜	人為	-	SK121→本跡
121	D 3a7	N-23°-E	楕円形	0.85 × 0.71	28	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK120
122	D 3a6	N-70°-W	不整楕円形	1.70 × 1.06	25	凸凹	縦斜	自然	縄文土器 (芋山下層式)	
123	D 4b5	-	円形	1.62 × 1.55	30	平坦	縦斜	自然	縄文土器 (芋山下層式)	本跡→SF 2
125	D 5i5	N-61°-W	楕円形	0.46 × 0.38	40	平坦	外傾	人為	縄文土器 (芋山下層式・早期終末)	
126	D 3b6	N-76°-W	楕円形	0.43 × 0.32	50	平坦	ほぼ直立	人為	-	
127	D 5d3	N-0°	[隅丸方形]	3.34 × [3.04]	18	平坦	外傾	人為	縄文土器 (三戸式・芋山下層式)	SH1→本跡 →SK58・62

(7) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第164～170図)

調査年度 平成29・30年度

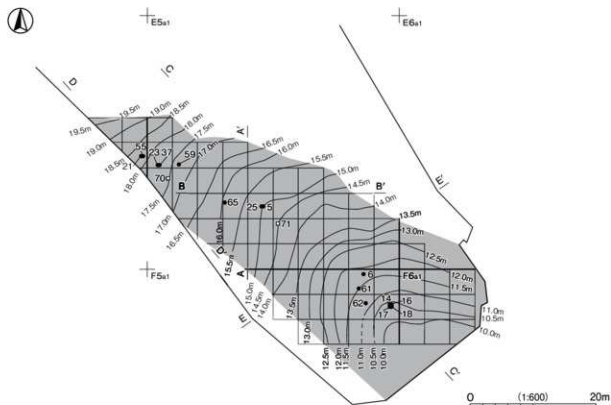
位置 調査区中央部の緩斜面部から南部にかけてのE4e9～F6d4区、標高10～20mの台地斜面部に位置している。

確認状況 調査区中央部の緩斜面部から南部にかけて、等高線に直交するようにC-C'ラインの土層を確認する中央ベルトを設定して、遺物包含層の所在を確認するとともに、その堆積状況の調査を行った。斜面上方で表土を約0.3m、下方で約1.8mの深さまで掘削したところ、褐色を呈し、遺物を多く含む包含層を確認した。この包含層は、斜面上であることから、上方では1層で約0.1mで、下方に行くに従い3層に増えて、約0.6m堆積している。

重複関係 第1・3号堅穴建物、第35号跡、第1～15・17～36号土坑、第1・2・4～6号溝、第1号段切状遺構に掘り込まれている。

調査の方法 包含層調査区域の中央ベルトを残し、F6e4区を南東隅の起点として、確認範囲を4mの基本グリッドで覆った。層位については、グリッドごとに1xを深さ15cmとして、2x、3xと掘り下げて、遺物の取り上げを行った。

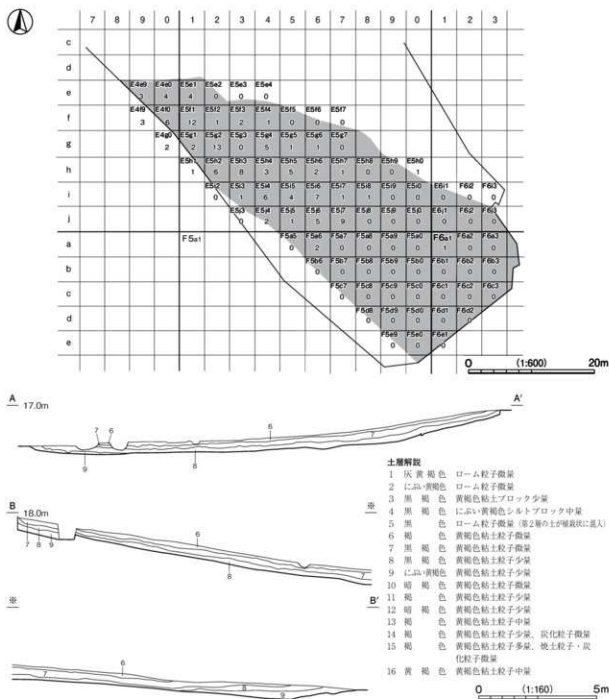
包含層の広がりと堆積状況 遺物の分布域は、北西から南東に向かって下っている斜面部に對し、弧状に広がる特徴を有している。東西の幅は約60m、南北の長さは約36mである。高低差は約10mで、確認面での傾斜角は約7度である。全体では16層に分層でき、全体の層厚は0.2～2.6mである。第1層は表土層、第2・3層は旧表土層、第5層は谷津堆積土である。第6層上面が包含層の上面で、褐色粘質シルトの層であり、第7・8層まで包含層となっている。



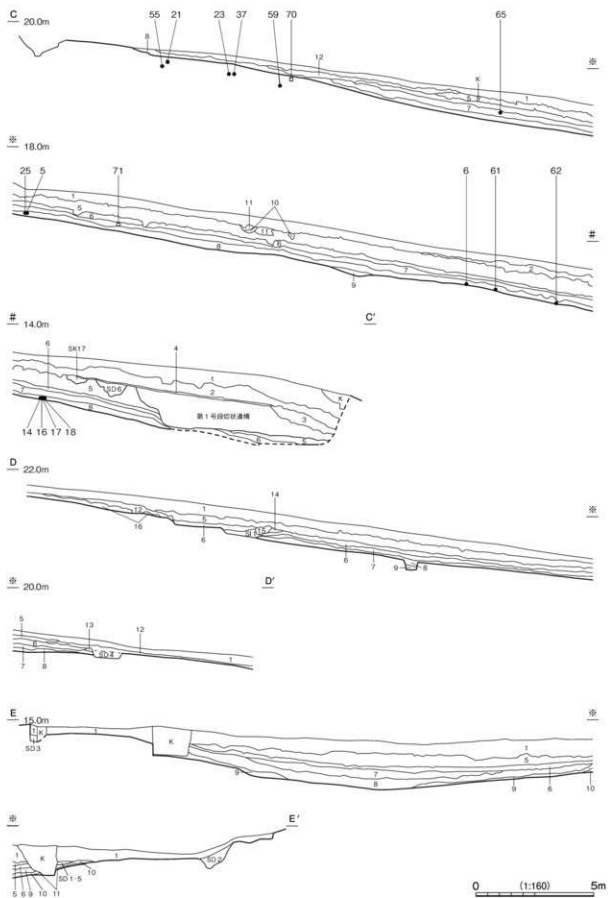
第164図 第1号遺物包含層実測図(1)

遺物出土状況 縄文土器を中心とする遺物が出土している。縄文土器片 2769 点（うち口縁部片 127）、土師器片 17 点（甕類 16、甌 1）、須恵器片 1 点（坏）、陶器片 1 点（不明）、磁器片 2 点（不明）、石器 27 点（磨石 1、スクレイパー 1、不明 25）、剥片 10 点である。土器の大半は小片であり、茅山下層式土器が多いもの、縄文早期の三戸式土器から後期後葉の安行式土器までが出土している。

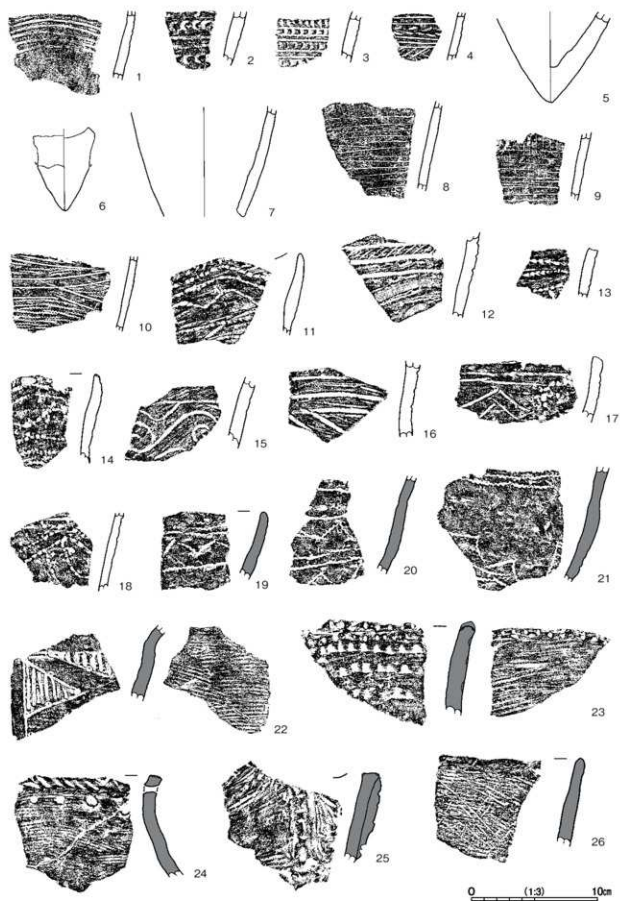
所見 遺物は、斜面上部の北西区域から多く出土し、東部側からは検出されていないことから、西側台地上や調査区中央部の南側辺縁部周辺からの流れ込みや廃棄行為がなされたものと考えられる。時期は、縄文時代早期中葉から後期後葉までの土器片が検出されており、この時期まで継続して形成されたものと推定できる。



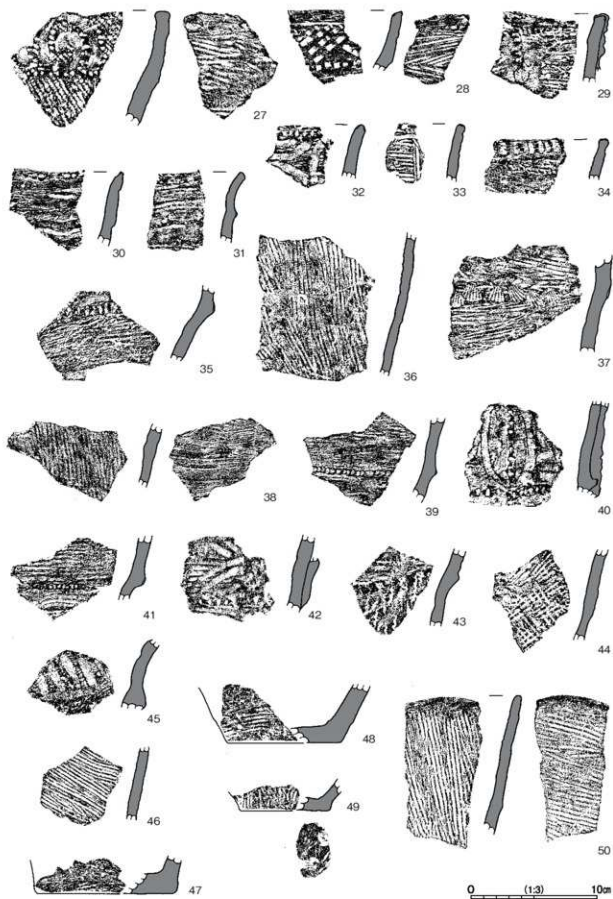
第 165 図 第 1 号遺物包含層実測図(2)



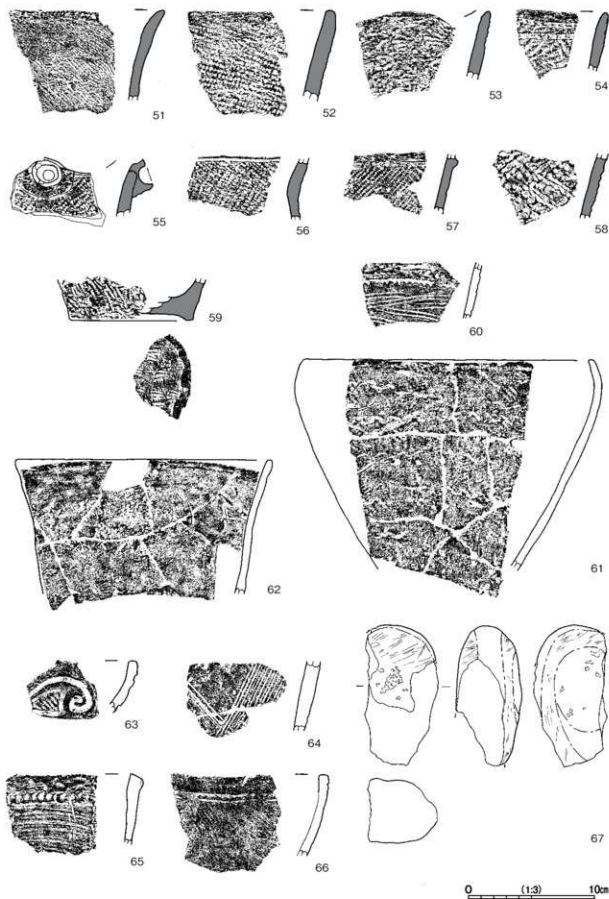
第166图 第1号遺物包含層実測图(3)



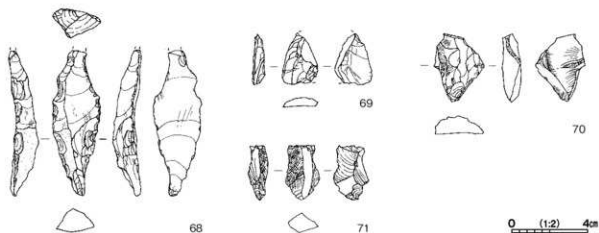
第 167 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 168 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)



第 169 圖 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)



第170図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(4)

第1号遺物包含層出土遺物観察表(第167~170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい	普通	横位の沈線 文様帯の最上部の破片	堆積土中層	5% 3丁式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英	にぶい	普通	横位の平行沈線間に平截竹管による刺交	堆積土中層	5% 3丁式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	横位の沈線間に多段の平截による竹管文	堆積土中層	5% 3丁式
4	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	平行沈線間に横位のハの字状の刺交	堆積土中層	5% 3丁式
5	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 実底土器	堆積土下層	5% 3丁式
6	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・ 赤母	橙	普通	外面ナデ 上部割離 実底土器	堆積土下層	5% 3丁式
7	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	外面ナデ 実底土器	堆積土中層	5% 3丁式
8	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・礫	褐色	普通	縦・横の細沈線 9と同一個体	堆積土中層	5% 出丁下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・礫	灰褐色	普通	縦・横の細沈線 8と同一個体	堆積土中層	5% 出丁下層式
10	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	沈線による区画内に貝殻腹縁を充填	堆積土中層	5% 出丁下層式
11	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面ベン先状工具の連続刺交による波状文	堆積土中層	5% 出丁下層式 明神義田式
12	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	-	長石・石英	赤褐色	普通	ベン先状工具の連続刺交 下部に凹縁	堆積土中層	5% 出丁下層式 明神義田式
13	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 明赤褐色	明赤褐色	普通	ベン先状工具による押引き沈線	堆積土中層	5% 明神義田式
14	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・ 赤母	明赤褐色	普通	ベン先状工具の押引き沈線による直条痕	堆積土下層	5% 明神義田式
15	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	赤褐色	普通	ベン先状工具による押引きで渦巻文	堆積土下層	5% 明神義田式
16	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・ 赤母	赤褐色	普通	条痕文。ベン先状工具による押引き沈線	堆積土下層	5% 明神義田式
17	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・ 赤母・礫	にぶい赤褐色	普通	ベン先状工具による押引き沈線と沈線の併用	堆積土中層	5% 明神義田式
18	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・ 赤母・礫	褐色	普通	押引き沈線による楕円形文	堆積土下層	5% 明神義田式
19	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・ 赤母・礫	明褐色	普通	貝殻腹縁による扇面状文 21と同一個体	堆積土中層	5% 出丁上層式
20	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・ 赤母	明褐色	普通	貝殻腹縁による扇面状文	堆積土中層	5% 出丁上層式
21	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英・ 赤母	明褐色	普通	貝殻腹縁による扇面状文 19と同一個体	堆積土中層	5% 出丁上層式
22	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・ 赤母	褐色	普通	区画内に沈線を充填 モチーフの裏面に凹形竹管文	堆積土中層	5% 出丁下層式 通・島方式
23	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英・ 赤母	明赤褐色	普通	口唇部に小突起 太い角棒状の工具による押し引き	堆積土上層	5% 出丁下層式
24	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・ 赤母・礫	褐色	普通	外面から内面に施した凹孔文	堆積土中層	5% 出丁下層式
25	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・ 赤母	明褐色	普通	方形突起から隆帯を垂下 隆帯上に筋目 横位隆帯との交点に指痕	堆積土下層	5% 出丁下層式
26	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口唇部内凹状	堆積土中層	5% 出丁下層式
27	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・ 赤母	橙	普通	口唇部内凹状 凹縁の縁による渦巻文に刺交を充填 隆帯上に刺交 凹縁文(5・1) 内面貝殻腹縁文	堆積土中層	5% 出丁下層式
28	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・ 赤母	褐色	普通	口唇部内凹状 外面角棒状の工具による押し引き 内面貝殻腹縁文	堆積土中層	5% 出丁下層式
29	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口唇部上を縁くようにして隆帯を垂下 隆帯上に刺交	堆積土中層	5% 出丁下層式
30	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 赤母	褐色	普通	口唇部に丸棒状の工具による筋目 外面板状の工具によるナデ	堆積土中層	5% 出丁下層式
31	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口唇部内凹状 口唇部外反 横位隆帯上に細い筋目	堆積土中層	5% 出丁下層式

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
32	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	口唇部外・内に刻み 指頭の凹線による弧線文	堆積土中層	5% 下層式
33	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤陶	普通	外面多方向の貝殻条痕文 内面貝殻条痕文	堆積土下層	5% PL31 赤山下層式
34	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤陶	普通	口唇部に棒状の工具による刻み	堆積土中層	5% 赤山下層式
35	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み 内面縦位の工具によるナゲ 横位の凹線	堆積土中層	5% PL31 赤山下層式
36	縄文土器	深鉢	-	(11.4)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み 内面縦位の工具によるナゲ 横位の凹線	堆積土中層	5% PL31 赤山下層式
37	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英・繊維	明赤陶	普通	隆帯上に貝殻管文 下部に板状の工具によるナゲ	堆積土中層	5% PL31 赤山下層式
38	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文 内面縦位の工具によるナゲ	堆積土中層	5% 赤山下層式
39	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・繊維	にぶい椀	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み	堆積土中層	5% 赤山下層式
40	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・繊維	にぶい赤陶	普通	垂下隆帯に沿って、弧状の凹線	堆積土中層	5% 赤山下層式
41	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・繊維	灰陶	普通	横位隆帯に丸棒状の工具による刻み	堆積土中層	5% 赤山下層式
42	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰陶	普通	縦・横の隆帯 横位隆帯には丸棒状の工具による刻み 凹線	堆積土下層	5% 赤山下層式
43	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	横位の隆帯上に丸棒状の工具による刻み 縦位の貝殻条痕文を並に施文 外・内面貝殻条痕文	堆積土中層	5% PL31 赤山下層式
44	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・繊維	にぶい赤陶	普通	外面貝殻管文 内面条痕	堆積土中層	5% 赤山下層式
45	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面指面による斜位の凹線	堆積土中層	5% 赤山下層式
46	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・繊維	赤陶	普通	外・内面貝殻条痕文	堆積土中層	5% 赤山下層式
47	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	[10.8]	長石・石英・繊維	にぶい赤陶	普通	外・内面ナゲ	堆積土中層	5% 赤山下層式
48	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	[8.8]	長石・石英・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	堆積土中層	5% 赤山下層式
49	縄文土器	深鉢	-	(2.5)	[7.0]	長石・石英・繊維	明赤陶	普通	外・内面、底面に条痕文	堆積土中層	5% 赤山下層式
50	縄文土器	深鉢	-	(11.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面縦位の貝殻条痕文 内面横位の貝殻条痕文	堆積土中層	5% PL31 赤山下層式
51	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤陶	普通	口唇頂部に刻み 口縁部外反 無筋シ	堆積土中層	5% 黒形式
52	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤陶	普通	口唇部角頂状 単筋縄文L	堆積土中層	5% 黒形式
53	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・繊維	黒灰	普通	縄文施文	堆積土中層	5% 黒形式
54	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部直下に2列の刻文 無筋縄文L	堆積土中層	5% 黒形式
55	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に貼付けの突起 単筋縄文LR(横)	堆積土中層	5% PL31 黒形式
56	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	単筋縄文LR(縦)	堆積土中層	5% 黒形式
57	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	単筋縄文LR(横) 横位隆帯	堆積土中層	5% 黒形式
58	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	付加条の縄文による引状條成	堆積土中層	5% 黒形式
59	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	[9.6]	長石・石英・赤色粒子・繊維	陶	普通	上げ底状 底面にも縄文施文	堆積土中層	5% 黒形式
60	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤陶	普通	平截管壁による幾何学文	堆積土中層	5% 黒形式
61	縄文土器	深鉢	[22.8]	[16.7]	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	陶	普通	横位の結束縄文	堆積土下層	5% 前期土
62	縄文土器	深鉢	[20.6]	[10.6]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤陶	普通	無文	堆積土下層	5% PL25 前期土
63	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	条痕文	堆積土中層	5% 加曽利E-2式
64	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤陶	普通	縦条状工具による格子目文	堆積土中層	5% 後期前型
65	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい椀	普通	口縁部に縦線文 条痕文	堆積土上層	5% 後期後型
66	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部に押引き文が一巡 単筋縄文LR	堆積土中層	5% 縄文後期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
67	磨石	(11.2)	(5.8)	5.2	[385.0]	安山岩	表・裏・短縁一部に磨り痕	堆積土中層	
68	スレバシ	(7.7)	2.6	1.6	[16.24]	流紋岩(珪質)	上部右側縁部使用痕 下部右・左側縁部調整 一部原摩面を残す	堆積土下層	
69	湖片	(2.7)	(1.9)	0.7	(2.32)	チャート	縦長湖片	堆積土中層	PL34
70	湖片	3.6	2.6	1.0	7.28	黒曜石	二次加工有り	堆積土上層	
71	湖片	2.9	1.8	1.0	3.58	黒曜石	縦長湖片	堆積土中層	

第2号遺物包含層 (第171～173区)

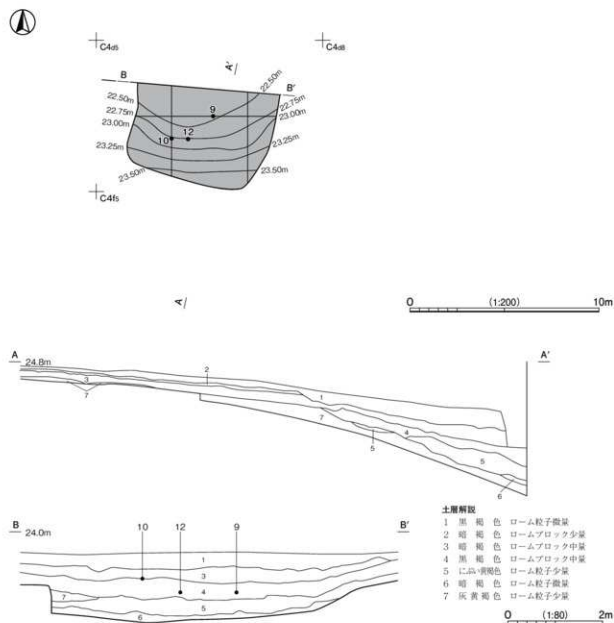
調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部の北側C4d1～C4e0区、標高23～25mほどの台地斜面部に位置している。

確認状況 等高線に直交する土層を確認するためのA-A'ラインの土層ベルトを設置した。また、北側の調査区域境の壁面にB-B'ラインを設定して、遺物包含層の所在を確認するとともに、その堆積状況の調査を行った。表土を約0.5mの深さまで掘削したところ、暗褐色を呈し、遺物を含む包含層の上面を確認した。この褐色土の層は、斜面上であることから、上方では約0.1mで、下方に行くに従い厚くなり、約0.7m堆積している。

調査の方法 包含層調査区域を等高線に直交するA-A'ラインと、また調査区北側のエリア境の壁面をB-B'ラインとして、基本土層を確認した。

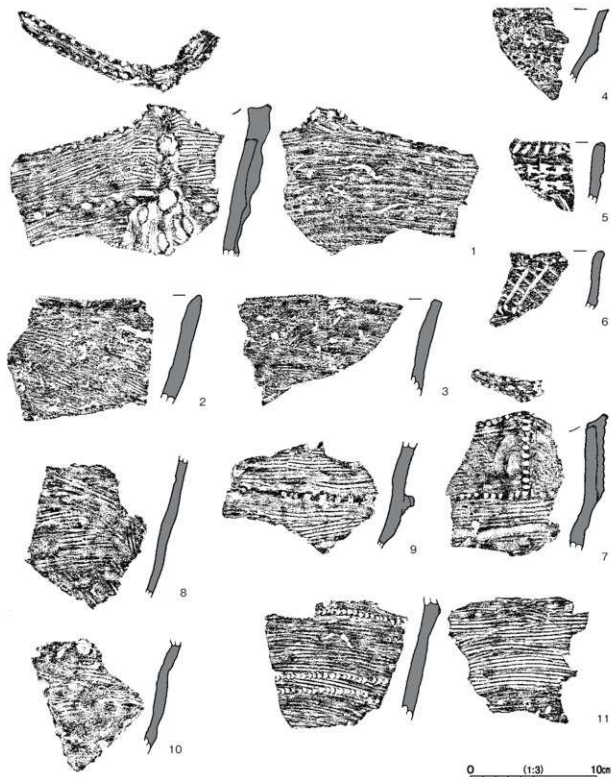
包含層の広がりと堆積状況 遺物の分布域は、南側平坦部から北側台地縁辺に向かって広がっている。北部が調査区域外に延びているため、東西の幅約8m、南北の幅は約5mしか確認できなかった。高低差は約1mで、確認面での傾斜角は約5度である。全体では7層に分層でき、全体の層厚は0.2～1.4mである。第1層は表土層、第3層上面が暗褐色土の包含層上面であり、第7層まで包含層となっている。



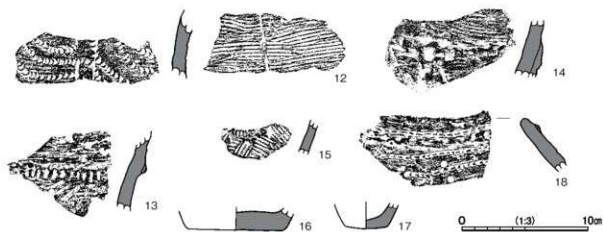
第171図 第2号遺物包含層実測図

遺物出土状況 遺物は、大部分が縄文土器片である。縄文土器片 252 点（深鉢）が出土している。縄文早期の三戸式土器、茅山下層式土器、縄文前期の黒浜式土器、浮島式土器が出土している。

所見 自然堆積による流れ込みや廃棄されたものによって形成されたと考えられる。時期は、縄文時代早期の茅山下層式土器の破片が大半であり、縄文時代早期後葉から前期前半にかけて堆積したと考えられる。



第 172 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第173図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第172・173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(121)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口縁部に台形状突起 突起の頂部から隆帯を垂下 隆帯上に貝殻管圧痕	覆土中	5% PL32 子山下層式
2	縄文土器	深鉢	-	(86)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口唇部丸頭状 外・内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
3	縄文土器	深鉢	-	(77)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口唇部角頭状 外面指頭による横ナデ 内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL32 子山下層式
4	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口唇部内側ぎ状 横位隆帯上に刷み	覆土中	5% 子山下層式
5	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口唇部に丸棒状の工具による算方向の刷み 手載竹管による二条の押引き	覆土中	5% PL32 子山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	外面隆帯に刺突 板状の工具による凹線 沈線を施す	覆土中	5% PL32 子山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(109)	-	長石・石英・ 赤土・ 赤土・ 赤土	灰黄緑	焼	縦・横の隆帯上に丸棒状の工具の刷み 垂下隆帯に沿って弧状の凹線	覆土中	5% PL32 子山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(113)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	外・内面貝殻条痕文を施した後 ナデ	覆土中	5% 子山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(85)	-	長石・石英・ 赤土・ 赤土	にぶい	焼	横位の隆帯に竹筒による刷み 外面貝殻条痕文 内面板状の工具によるナデ	覆土中	5% PL32 子山下層式
10	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英・ 赤土	橙	焼	外・内面貝殻条痕文 器面は凸凹が顕著	覆土中	5% 子山下層式
11	縄文土器	深鉢	-	(98)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	丸棒状の工具による刷み二条の連続刺突 横位隆帯による凹線	覆土中	5% PL32 子山下層式
12	縄文土器	深鉢	-	(50)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	外面竹管による連続刺突 指頭に向面文間に丸棒状の工具の角による手載刷突 内面貝殻条痕文	覆土中	5% PL32 子山下層式
13	縄文土器	深鉢	-	(63)	-	長石・石英・ 赤土	焼	焼	横位の隆帯に丸棒状の工具による刷み 板状の工具による凹線	覆土中	5% 子山下層式
14	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・石英・ 赤土	橙	焼	縦・横の隆帯に丸棒状の工具による刷み 交点に指頭圧痕 角棒状の工具による凹線	覆土中	5% 子山下層式
15	縄文土器	深鉢	-	(27)	-	長石・石英・ 赤土	明赤焼	焼	外面多方向の貝殻条痕文 内面貝殻条痕文	覆土中	5% 子山下層式
16	縄文土器	深鉢	-	(18)	[76]	長石・石英・ 赤土	明赤焼	焼	外面磨成	覆土中	5% 子山下層式
17	縄文土器	深鉢	-	(20)	34	長石・石英・ 赤土	明赤焼	焼	普通 小平底	覆土中	5% 子山下層式
18	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英・ 赤土	にぶい	焼	口唇直下に隆帯 手載竹管による横位の押引き 凹線竹管文を垂下 磨突	覆土中	5% PL32 黒点式

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竅穴建物跡10棟、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竅穴建物跡

第1号竅穴建物跡(第174・175図 PL10)

調査年度 平成30年度

位置 調査区南部のE4e9区、標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が調査区域外のため、東西軸は3.65m、南北軸は2.75mしか確認できなかった。主軸方

向はN-35°-Eの方向あるいは長方形と推測される。壁は高さ22~25cmで、外傾している。

床 残存している北側コーナー部は平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。

炉 2か所。炉1は北東寄りに位置している。長径60cm、短径38cmの楕円形で、深さ8cmの地床炉である。火熱を受けて赤変硬化している。炉2は中央から東寄りに位置している。長径58cm、短径38cmの楕円形で、深さ3cmの地床炉である。第2層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。

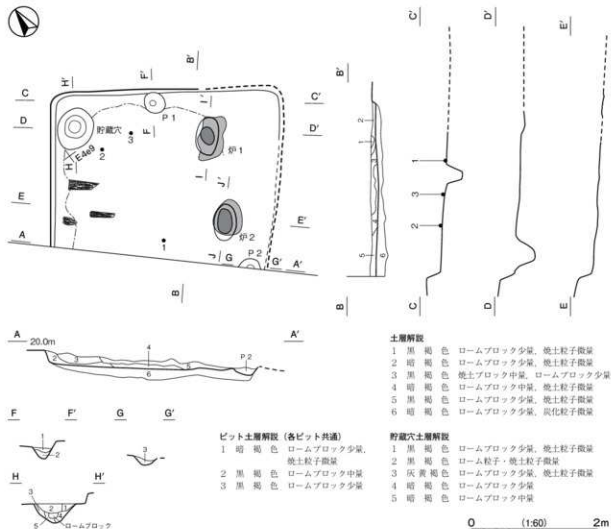
ピット 2か所。P1は深さ20cm、P2は深さ30cmで、配置は変則であるが、支柱穴の可能性もある。第1~3層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴 北コーナー部に位置し、長径66cm、短径56cmの楕円形である。深さは32cm、底面は皿状で、壁は外傾している。5層に分層でき、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

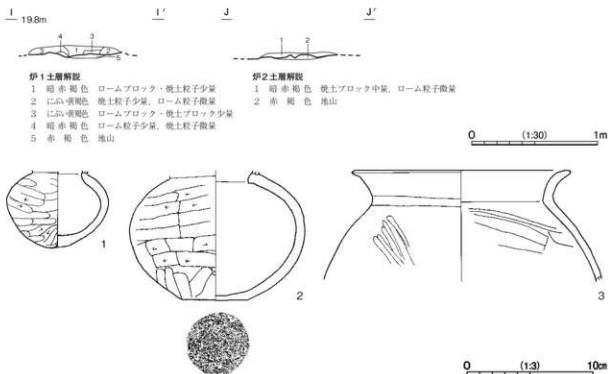
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第6層は貼床の構築土である。

遺物出土状況 土師器片103点(坏3、埴1、高杯14、壺1、甕類83、瓶1)が出土している。多くの遺物は北コーナー部の貯蔵穴付近から出土している。2・3は貯蔵穴の南側、1は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第174図 第1号竪穴建物跡実測図



第175図 第1号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	埴	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位・斜位のへう残り	床面	90%	
2	土師器	壺	-	(10.3)	(4.9)	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位・斜位のへう残り	床面	90%	
3	土師器	壺	16.8	(8.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 内面斜位のナデ	体部外面一部へう残り	床面	20%

第2号竪穴建物跡(第176～178図 PL10)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD3c8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

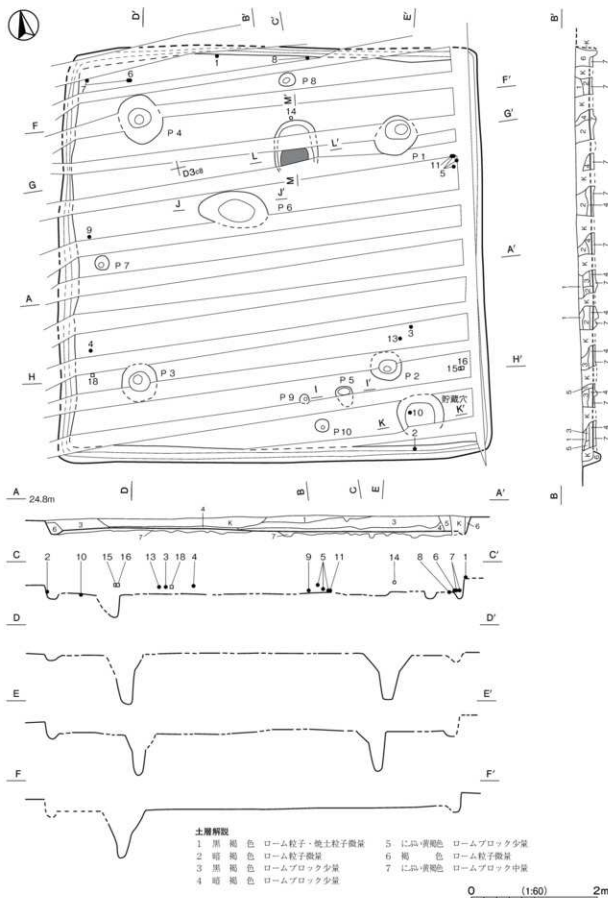
規模と形状 長軸6.75m、短軸6.58mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁は高さ4～26cmで、直立している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が攪乱を受けている部分を除いて、壁下を巡っている。

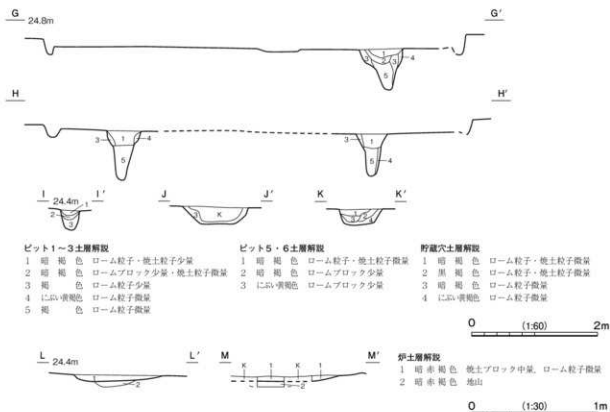
炉 北寄りに位置している。攪乱を受けているため、短径70cm、長径は64cmしか確認できなかった。深さ6cmの地床炉で楕円形と推定できる。第2層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 10か所。P1～P4は深さ60～80cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P7・P8・P10はいずれも深さ10cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P6・P9については、性格不明である。P1～P3の第1・2・5層は柱抜き取り後の覆土。第3・4層は柱の掘方への埋土である。P4・P7～P10の堆積状況は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。攪乱を受けているため、長径74cm、短径は46cmしか確認できなかった。楕円形と推測される。深さ24cm、底面は平坦で、壁は外傾している。4層に分層でき、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。



第176図 第2号竪穴建物跡実測図(1)



第177図 第2号竪穴建物跡実測図(2)

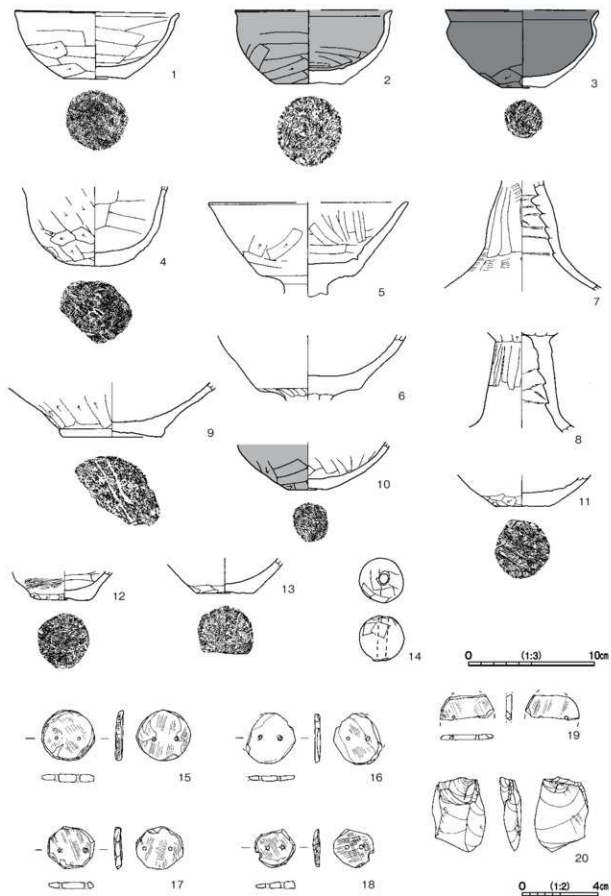
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

遺物出土状況 土師器片385点(坏42, 椀4, 埴44, 高坏21, 甕類274), 土製品2点(土玉), 石製品5点(有孔円板), 剥片3点, が出土している。遺物は南西コーナー部の貯蔵穴付近と各壁際付近から出土している。10は東側の底面から出土している。2は南壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。6～8はいずれも高坏片で, 北側壁下の床面あるいは覆土下層から出土したものである。

所見 時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表(第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	椀	130	5.5	4.8	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	体部外面傾位のヘラ振り 内面斜位のナゲ	覆土上層	80% PL35
2	土師器	椀	[124]	(5.9)	5.4	長石・石英	赤黒	普通	体部外面傾位・斜位のヘラ振り 内面ナゲ 外・内面赤彩	覆土中層	50% PL35
3	土師器	椀	[124]	6.2	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面傾位のナゲ 体部外面傾位のヘラ振り 外・内面黄赤彩	覆土上層	20%
4	土師器	椀	-	(6.3)	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面傾位・斜位のヘラ振り 体部内面ナゲ	覆土上層	30%
5	土師器	高坏	[160]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	におい赤黒	普通	坏部外面傾位のヘラ振り 内面傾位・斜位のナゲ	覆土下・中層	60%
6	土師器	高坏	-	(5.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面傾位のナゲ	覆土下層	20%
7	土師器	高坏	-	(8.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面傾位のヘラナゲ 下位ハケ目調整 内面ナゲ 輪痕	覆土下層	30%
8	土師器	高坏	-	(7.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナゲ 脚部外面傾位のナゲ 輪痕	床面	30%
9	土師器	甕	-	(4.3)	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	体部外面斜位のヘラ振り 底部ヘラ当て 外面赤彩	覆土下層	5%
10	土師器	甕	-	(3.8)	3.0	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	体部外面斜位のヘラ振り 内面斜位のヘラ振り	貯蔵穴覆土上層	5%
11	土師器	甕	-	(2.5)	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面傾位のヘラ振り	床面	10%
12	土師器	甕	-	(2.3)	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面傾位のヘラ振り。一部ヘラ置き 内面ナゲ	覆土中	5%
13	土師器	甕	-	(2.8)	4.5	長石・石英	黒黒	普通	体部外面傾位のヘラナゲ	覆土中層	5%



第178圖 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土玉	3.6	3.6	0.7	41.38	長石・石英・雲母	橙	外面ナデ ヘラ高て取	覆土上層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	有孔円板	2.7	2.9	0.4	5.19	滑石	全面研磨加工 孔2か所 孔径0.18cm	覆土上層	PL37
16	有孔円板	2.8	2.6	0.3	3.52	滑石	全面研磨加工 孔2か所 孔径0.20cm	覆土上層	PL37
17	有孔円板	2.3	2.5	0.3	2.96	滑石	全面研磨加工 孔2か所 孔径0.18cm	覆土中	PL37
18	有孔円板	2.1	2.1	0.4	1.99	滑石	全面研磨加工 孔2か所 孔径0.20cm	覆土上層	PL37
19	有孔円板	(1.4)	(2.8)	(0.3)	(2.06)	滑石	全面研磨加工 孔2か所 孔径0.18cm	覆土中	
20	洞片	4.0	2.8	1.2	11.69	頁岩	縦長洞片	覆土中	

第3号竪穴建物跡 (第179～181図 PL10)

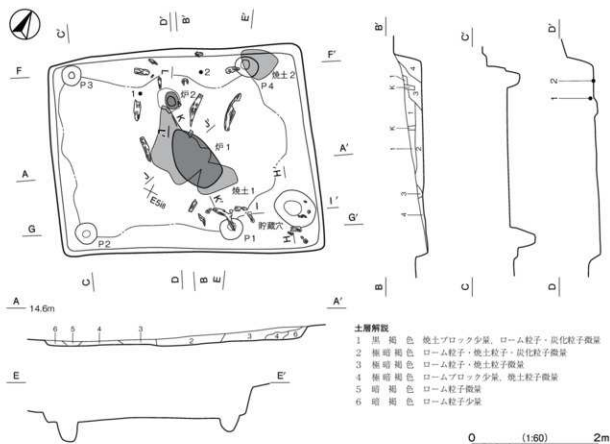
調査年度 平成30年度

位置 調査区南部のE5h8区、標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

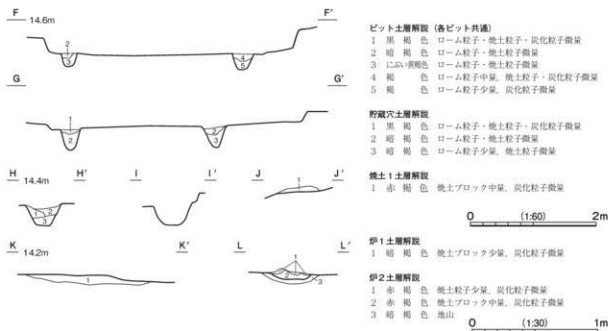
重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.12m、短軸3.30mの長方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁は高さ12～44cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。中央部と北東コーナー部からは炭化材や焼土2か所を確認した。焼土1は中央部に位置し、長径1.2m、短径0.7m、厚さ8cmである。焼土2は北コーナー部付近に位置し、長径0.6m、短径0.4mで、床面に広がっている。



第179図 第3号竪穴建物跡実測図(1)



第180図 第3号竪穴建物跡実測図(2)

炉 2か所。炉1は中央部に位置している。長径100cm、短径62cmの楕円形で、掘り込まない地床炉で、火熱を受けて赤変硬化している。炉2は北西寄りに位置している。長径36cm、短径34cmの不整楕円形で、深さ4cmの地床炉である。第3層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。炉1と炉2の新旧関係は不明である。

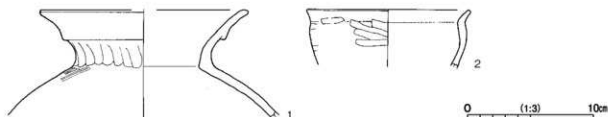
ピット 4か所。P1～P4は深さ20～34cmで、配置から主柱穴である。第1～5層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径66cm、短径52cmの楕円形である。深さは38cm、底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片90点(碗1, 埴15, 壺1, 有段口縁壺1, 甕類72)が出土している。2は北側壁周辺の床面から、1は北側壁周辺の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第181図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表(第181図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	碗(深鉢)	[160]	(87)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 面部外面横位のナデ	覆土下層	10%
2	土師器	小形壺	130	(41)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部外面横位のナデ	床面	20%

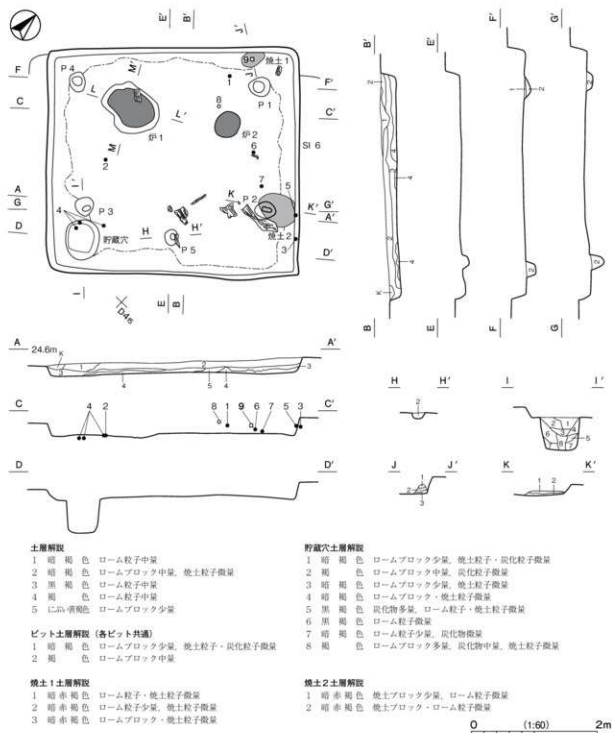
第4号竪穴建物跡 (第182～185図 PL11)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4e4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸400m、短軸368mの方形で、主軸方向はN-35'-Eである。壁は高さ18～28cmで、直立している。



第182図 第4号竪穴建物跡実測図(1)



第183図 第4号竪穴建物跡実測図(2)

床 平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。東側に炭化材や焼土を確認した。焼土1は、長径0.36m、短径0.25m、厚さ15cmである。焼土2は、長径0.65m、短径0.5m、厚さ6cmである。

炉 2か所。炉1は西寄りに位置している。長径96cm、短径74cmの不整楕円形で、深さ4cmの地床炉である。第2層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。炉2は北寄りに位置している。長径44cm、短径36cmの楕円形で、掘り込まない地床炉である。火熱を受けて赤変硬化している。

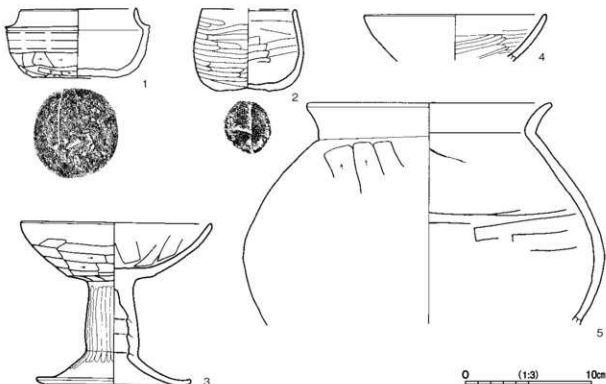
ピット 5か所。P1～P4は深さ15～25cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ10cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。第1・2層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径66cm、短径56cmの楕円形である。深さは58cm、底面は平坦で、壁は直立している。8層に分層でき、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

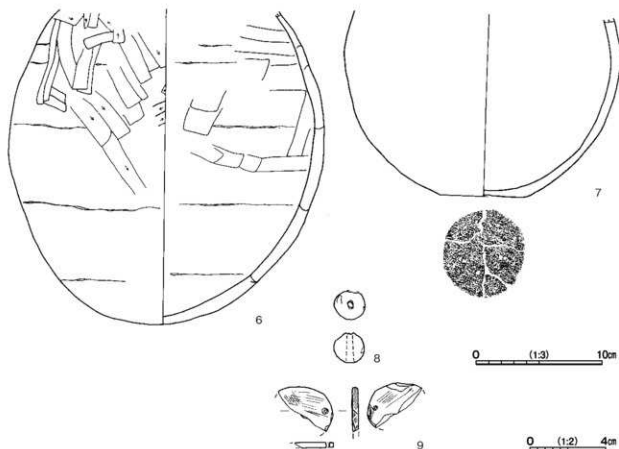
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片229点(坏30, 碗1, 埴19, 高坏14, 甕類165), 須恵器片1点(坏), 土製品1点(土玉), 石製品1点(有孔円板)が出土している。2は中央やや南西寄りの床面から、4は南コーナー部の貯蔵穴とその周辺の覆土下層から出土した破片が接合したもので、7は東側壁周辺の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第184図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第185図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表(第184・185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	灰産器	坏	9.3	5.6	6.5	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ヘラナデ	覆土上層	100% TK73に平行
2	土師器	甗	(72)	6.5	3.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面横位のナデ	床面	70% PL25
3	土師器	高坏	15.0	13.0	12.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	耳部外面横位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ 脚部外面縦位のヘラ磨き	覆土中層	96% PL35
4	土師器	高坏	14.4	(37)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤橙	普通	坏部口縁外・内面ナデ 坏部外・内面ヘラ磨き	床面 覆土下層	20% PL25
5	土師器	甗	18.9	(176)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部外面縦位のヘラ削り後、ナデ 内面横位のヘラ削り後、ナデ	覆土中層	40% PL26
6	土師器	甗	-	(25.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	覆土下層	70% PL36
7	土師器	甗	-	(14.5)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層	20%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	土玉	1.9	2.2	2.4	(12.03)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ ヘラ当て痕	覆土中層	90% PL37

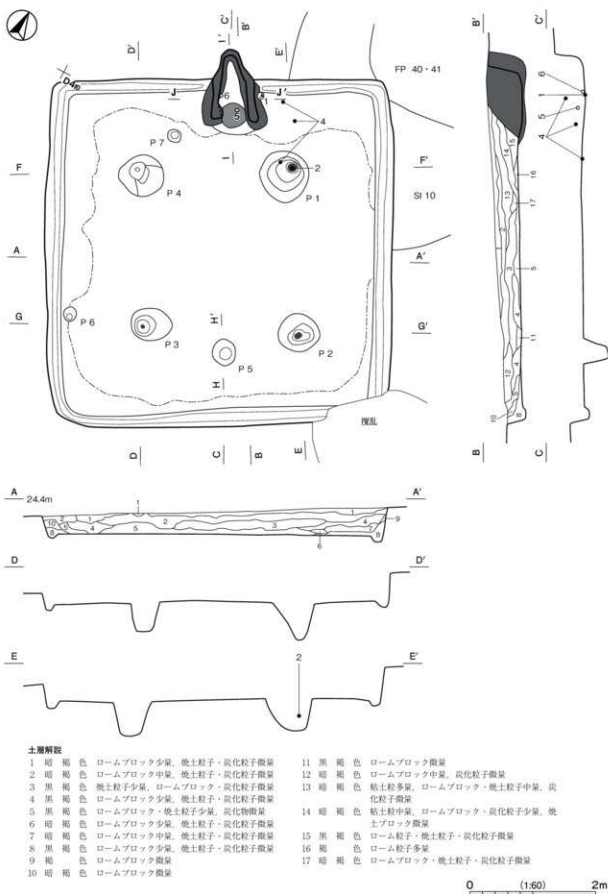
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	有孔円板	(2.4)	(2.9)	0.3	(2.90)	滑石	全面磨削加工 孔1か所 孔径0.18cm	覆土中層	

第5号竪穴建物跡 (186～188図 PL13)

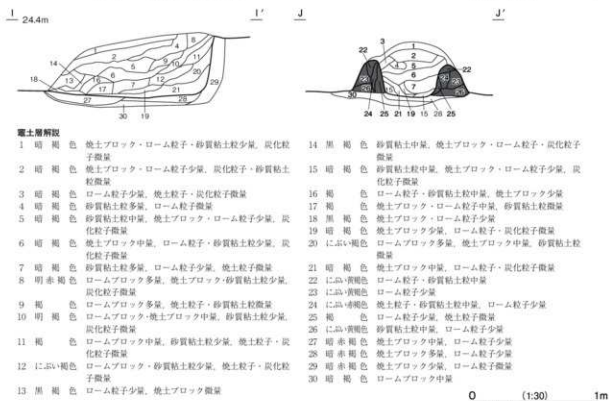
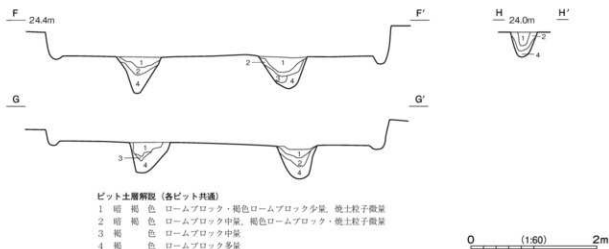
調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD40区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号竪穴建物跡、第40・41号炉穴を掘り込んでいる。



第186図 第5号竪穴建物跡実測図(1)



第 187 図 第 5 号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状 長軸 5.54 m、短軸 5.50 m の方形で、主軸方向は N - 29° - W である。壁は高さ 18 ~ 52 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が攪乱を受けている東コーナー部を除いて、壁下を巡っている。

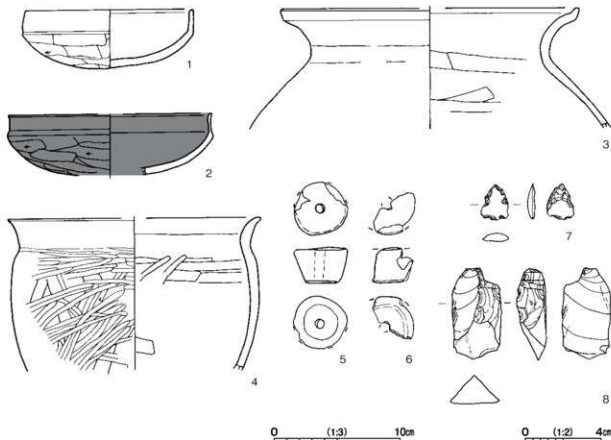
竪 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 136 cm、燃焼部の幅は 38 cm である。燃焼部は床面から 8 cm ほど掘りくぼめられ、第 27 ~ 30 層を埋土して構築されている。袖部は、砂質粘土やロームブロックなどを含む第 22 ~ 26 層を積み上げて構築されている。火床面は第 27 層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50 cm ほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第 19 ~ 21 層は天井部材や内壁の崩落土である。

ピット 7か所。P1～P4は深さ46～60cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ40cmで、配置から入り口施設に伴うピットである。P1～P3の底面から、柱あたりを確認した。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。P6・P7はともに深さ32cmで、性格は不明である。

覆土 17層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片343点(坏52, 埴1, 甕類288, 瓶2), 土製品2点(紡錘車), 石器1点(鉄), 剥片3点(頁岩, 黒曜石, 石英)が出土している。1は甕右袖部付近の床面から出土している。4は甕右袖部付近の覆土中層とP1の覆土上層から出土した破片が接合したものである。2はP1の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第188図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	134	47	-	長石・石英・ 炭粒・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ割り 内面黒色処理。	床面	90%
2	土師器	坏	[160]	(43)	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ 割り・外・内面黒色処理	P1覆土中	40%
3	土師器	甕	[235]	(95)	-	長石・石英・ 炭粒	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 割り	覆土中	20%
4	土師器	小形甕	[198]	(121)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 割り後、斜位のヘラ割り 内面ナデ後、ヘラ割り	底面 覆土中・上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	紡錘車	4.2	2.8	0.7	(52.31)	長石・石英	灰黄褐	一方向からの穿孔。ナデ	甕内	Pl.37
6	紡錘車	[4.8]	2.8	[0.8]	(21.88)	長石・石英	灰褐	ナデ 欠損部あり	甕内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	甌	1.9	1.4	0.4	1.35	頁岩	未成品	覆土中	PL34
8	酒片	4.9	2.7	1.6	17.34	頁岩	微細酒線痕	覆土中	PL34
9	酒片	3.0	2.6	0.7	5.18	石英	使用痕有り	覆土中	PL34 計測のみ
10	酒片	2.1	1.6	1.0	3.09	黒曜石	打面は複数	覆土中	計測のみ

第6号竪穴建物跡 (第189図 PL11)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4e5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物に掘り込まれている。

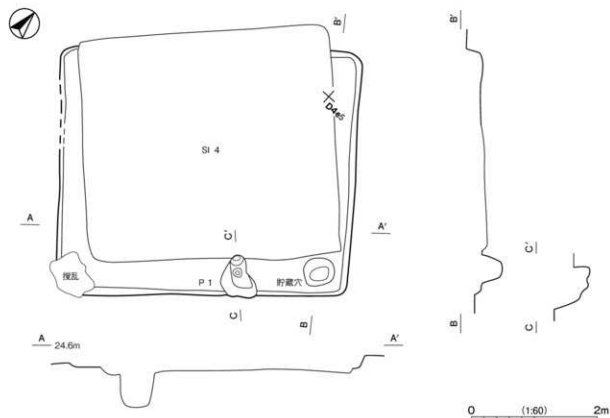
規模と形状 長軸4.70m、短軸3.90mの隅丸長方形で、主軸方向はN-48°-Eである。壁は高さ7~26cmで、直立している。

床 第4号竪穴建物に大部分が掘り込まれているため、状況は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径54cm、短径44cmの楕円形である。深さは34cm、底面は平坦で、壁は外傾している。堆積状況は不明である。

ピット 深さ26cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。堆積状況は不明である。

所見 時期は、重複関係から5世紀前葉と考えられる。

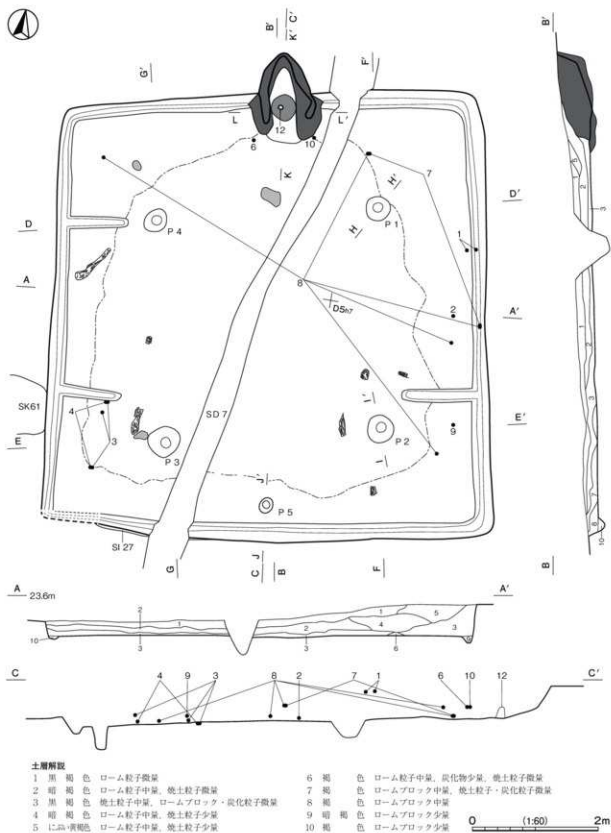


第189図 第6号竪穴建物跡実測図

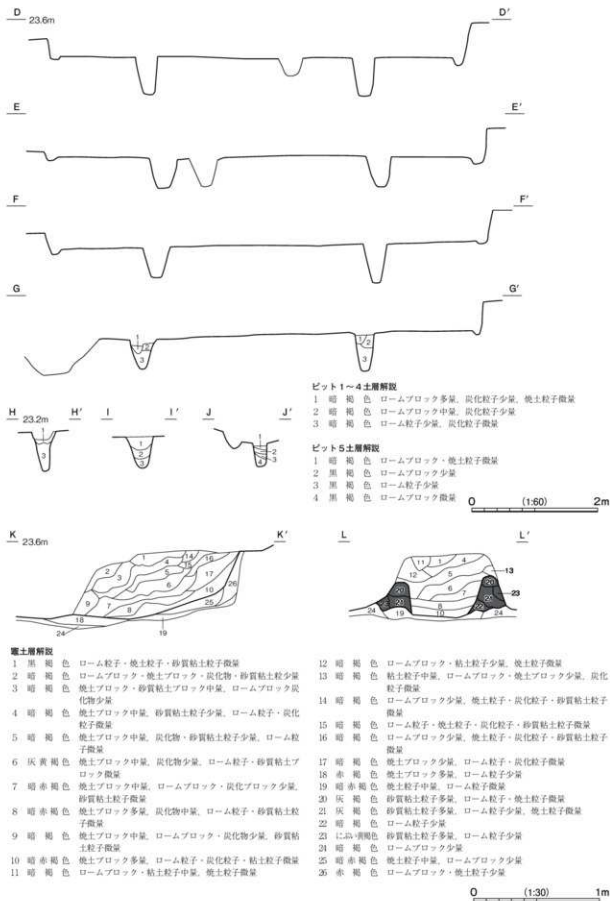
第7号竪穴建物跡 (第190～193図 PL13・14)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5h6区、標高23mの台地平坦部に位置している。



第190図 第7号竪穴建物跡実測図(1)



第191図 第7号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係 第27号竪穴建物跡、第61号土坑を掘り込み、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.06m、短軸6.82mの方形で、主軸方向はN-S'-Wである。壁は高さ8～58cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が、攪乱を受けている南西コーナー部を除いて、壁下を巡っている。根太が、東西の壁から中央に向かって3条配置されていたと考えられる。炭化材が床面から出土している。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは144cm、燃焼部の幅は40cmである。燃焼部は床面から12cmほど掘りくぼめられ、第18・19・24～26層を埋土して構築されている。袖部は、砂質粘土粒子を多量に含む第20～23層を積み上げて構築されている。火床面は第19層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に64cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第7・8・10層は天井部材や内壁の崩落土である。

ピット 5か所。P1～P4は深さ48～62cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで、配置から出入り施設に伴うピットである。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片364点（坏35、高台付坏1、高坏4、壺3、甕類319、甌2）、須恵器1点（甌）、陶器片2点（碗）、磁器片1点（碗）、土製品2点（勾玉、支脚）、石器1点、剥片4点、炭化材が出土している。12は火床面から正位の状態で出土している。6は竈左袖部付近、10は竈右袖部付近の覆土中層から出土している。2は東側壁付近の床面から出土している。3・4は西側壁付近の床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。

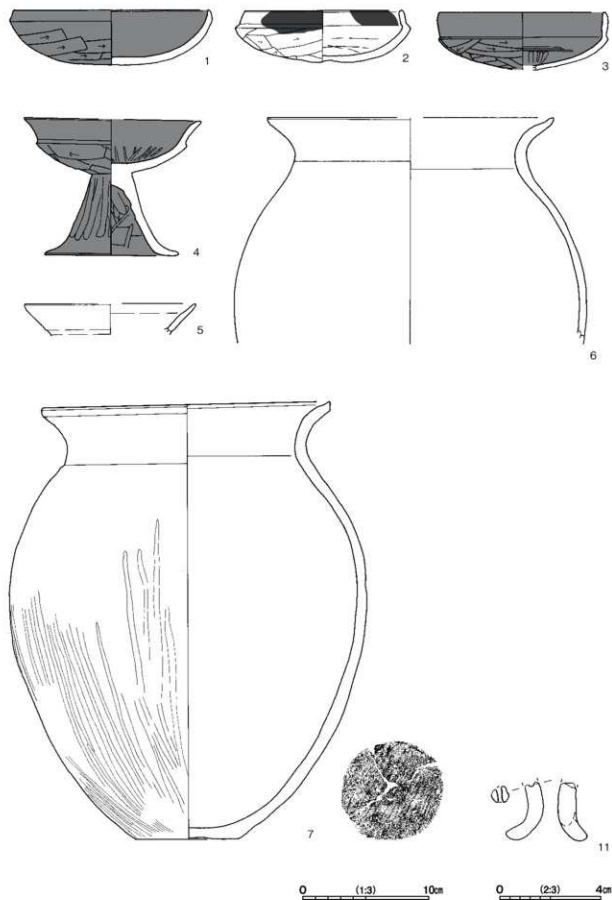
所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。遺存状態の良い炭化材が出土しており、2点について自然科学分析を行った。後述する炭化材の分析で詳細と結果を説明することとする。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第192・193図）

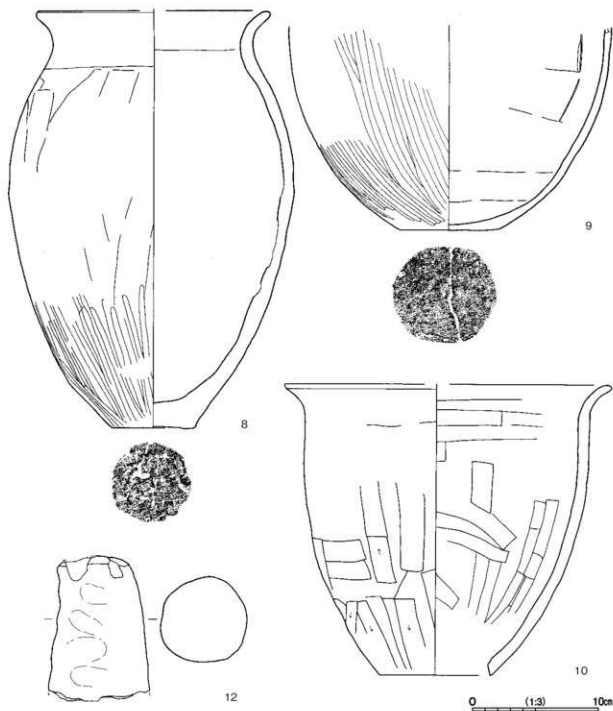
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	坏	155	44	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面傾位のヘラ削り 内面傾位のナゲ外・内面黒色処理	覆土上層	70%
2	土師器	坏	124	42	-	長石・石英・赤色粒子・白磁粉	明赤褐	普通	口縁部外・内面黒付着 体部外面傾位のヘラ削り 内面ナゲ	床面	60%
3	土師器	坏	132	(46)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面傾ナゲ 体部外面傾位のヘラ削り 内面ヘラ磨き 外・内面黒色処理	床面	50% PL35
4	土師器	高坏	(140)	110	104	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面傾位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き 脚部外面傾位のヘラ削り 外・内面黒色処理	床面	80% PL35
5	須恵器	甌	[136]	(19)	-	長石・石英	オリーブ黒	普通	口縁部外・内面クロナゲ	覆土中	5%
6	土師器	甕	(226)	(190)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外・内面傾位のナゲ	覆土中層	20% PL36
7	土師器	甕	228	348	80	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面傾位のヘラ磨き 内面ヘラナゲ	覆土下層	90% PL36
8	土師器	甕	[180]	33.3	64	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面傾位のヘラナゲ 下部傾位のヘラ磨き	覆土下層	40% PL36
9	土師器	甕	-	(162)	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下位に縦位のヘラ磨き 内面ヘラナゲ	覆土中層	30%
10	土師器	甌	[257]	23.1	8.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面傾位のヘラ削り 内面傾位のナゲ	覆土中層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	勾玉	(23)	1.5	0.7	(1.68)	長石・石英	橙	ナゲ調整 孔径0.20x	覆土中	PL37

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	支脚	(11.5)	5.8	(8.0)	(508)	長石・石英・雲母	にぶい褐	指頭痕	竈内	



第 192 图 第 7 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第193図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

炭化材の分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

1 分析方法

炭化材は風乾後、剃刀を用いて木口（横断面）・柃目（放射断面）・板目（接線断面）の各割片を作成する。茅状炭化物も、風乾後、横断面を作成する。双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、鳥地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）

を参考にする。

2 結果

SI 7の炭化材はコナラ亜属クスギ節であった。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のもと複合放射組織とがある。

3 考察

検出される種類をみると、2点はコナラ亜属コナラ節とクスギ節である。明るい林地を好み、二次林を構成する種類である。萌芽による再生が容易なため、林縁、河川沿い、人家の近くなどに多く、里山林の重要な構成要素である。住居構築材や燃料材等として使われたものと思われるが、本調査地点の周辺に生育していた可能性が高く、入手しやすい木材を利用したと考えられる。伊東隆夫・山田昌久(2012)の出土木製品用材データベースによれば、県内の住居跡から検出された炭化材は古墳時代のものが多いが、コナラ節やクスギ節が多く検出されている。

第16号竪穴建物跡 (第194・195図 PL11・12)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5b2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺5.50mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ20～28cmで、直立している。

床 平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。南側にスロープ状の高まりがある。

炉 中央から北寄りに位置している。長径66cm、短径56cmの楕円形で、深さ6cmの地床炉である。第2層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 7か所。P1～P4は深さ60～90cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ46cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ50cm、P7は深さ22cmで性格不明である。P1～P4の第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土、第4層は柱の掘方への埋土である。

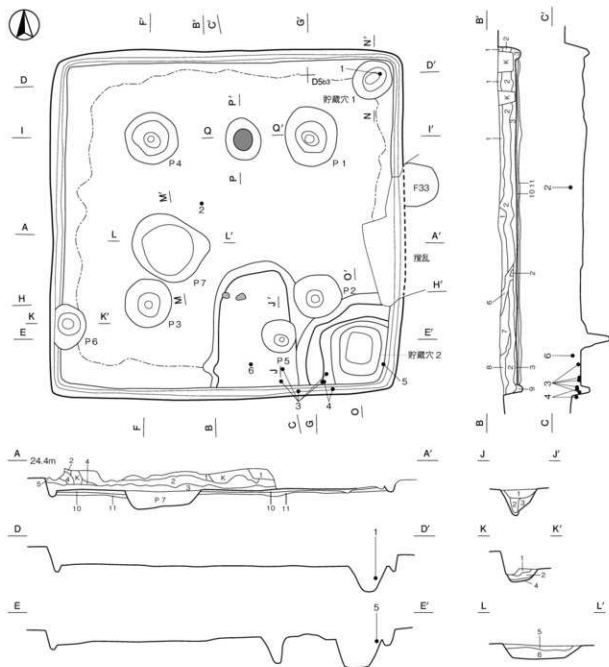
貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置している。長径66cm、短径58cmの楕円形である。深さは44cm、底面は皿状で、壁は外傾している。3層に分層でき、第2層は自然堆積と考えられるが、第3・4層は人為による埋め戻しである。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置している。長軸84cm、短軸66cmの隅丸方形である。深さは46cm、底面は平坦で、壁は外傾している。5層に分層でき、第1・2層は自然堆積と考えられるが、第4～6層は人為による埋め戻しである。外周部に南北幅1.16m、東西幅1.10m、高さ6cmほどの高まりがある。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第10・11層は貼床の構築土である。

遺物出土状況 土師器片182点(坏22、椀3、埴9、高坏29、甕類118、甌1)、磁器片1点(不明)のほか、石器2点(不明)、剥片3点が出土している。1は貯蔵穴1の覆土中層から出土している。3は南側壁付近の

床面及び覆土下層から、4は南側壁付近の覆土中層及び覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



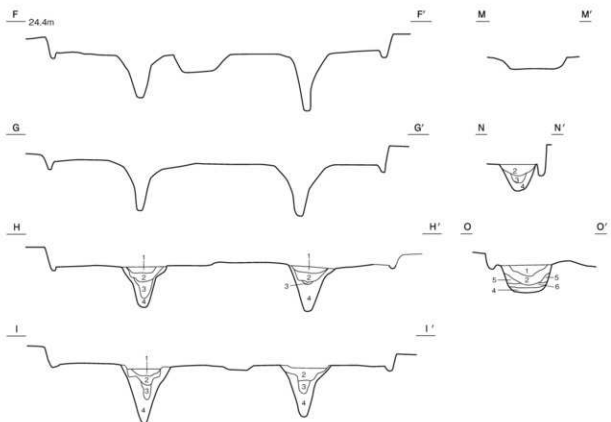
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 黒褐色 炭化物少量、焼土粒子微量
- 7 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量
- 8 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 9 暗褐色 焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量
- 11 褐色 ロームブロック中量

ビット土層解説 (各ビット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第194図 第16号竪穴建物跡実測図



貯蔵穴1・2土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

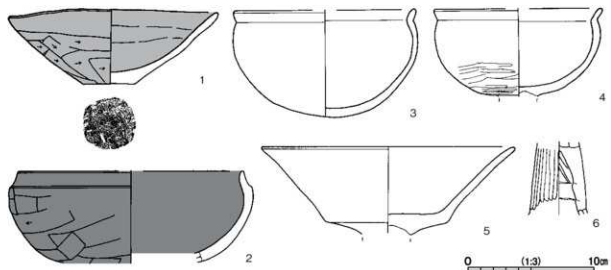
0 (1:50) 2m



炉土層解説

- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 地山 |
| 3 明赤褐色 | 地山 |

0 (1:30) 1m



第195図 第16号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第16号竪穴建物跡出土遺物観察表(第195図)

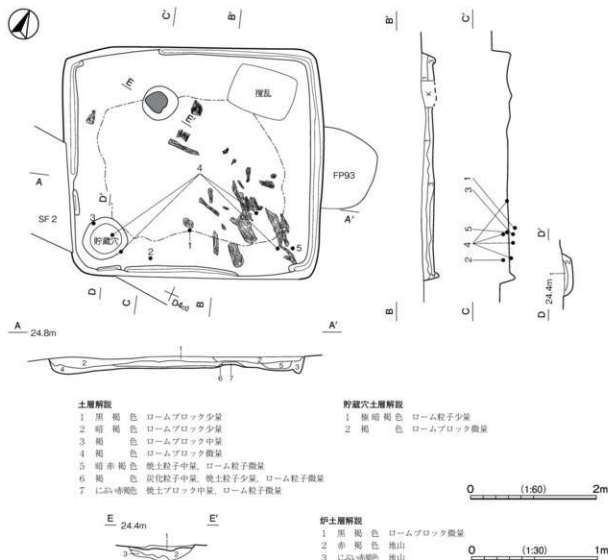
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	16.7	6.0	4.0	灰石・石英	明赤褐色	普通	体部外面下部横位のへら削り 体部内面ナデ 底部内面使用による擦れ 外・内面赤彩	床面	80%
2	土師器	甗	[17.8]	(7.3)	-	灰石・石英・ 赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のへら削り 内面ナデ 外・内面黒色処理	覆土上層	20%
3	土師器	甗	[14.1]	8.7	-	灰石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	床面	50% PL35
4	土師器	高坏	[13.2]	(7.0)	-	灰石・石英	橙	普通	体部口縁外・内面横位のナデ 坏部外面横位・ 斜位のへら削り	覆土上層	50%
5	土師器	高坏	20.0	(7.1)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	坏部外・内面ナデ	覆土上層	60%
6	土師器	高坏	-	(5.8)	-	灰石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面横位のへら削り 脚部内面ナデ 輪轆痕	覆土上層	10%

第19号竪穴建物跡(第196・197図 PL12)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4b9区。標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第93号炉穴を掘り込み、第2号道路に掘り込まれている。



第196図 第19号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.14 m、短軸 3.62 m の長方形で、主軸方向は N - 65° - E である。壁は高さ 18 ~ 28 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部から壁際手前にかけて踏み固められている。壁溝が南コーナー部と南北壁の一部を除く壁下に巡っている。中央部から東側にかけて炭化材が出土している。

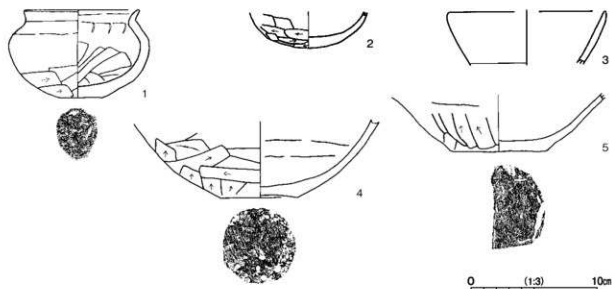
炉 中央から北西寄りに位置している。長径 54 cm、短径 52 cm の円形で、深さ 4 cm の地床炉である。第 2 層上面が炉床面であり、火熱を受けて赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径 68 cm、短径 58 cm の楕円形である。深さは 14 cm、底面は平坦で、壁は外傾している。2 層に分層でき、ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 170 点（坏 7、椀 1、埴 13、高坏 26、甕類 123）が出土している。1 は中央部やや南寄りの床面から、3 は貯蔵穴の覆土中層から出土している。4 は貯蔵穴覆土中層と中央部やや東寄りの床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。5 は南東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。また、遺存状態の良い炭化材が出土しており、3 点について自然科学分析を行った。以下に詳細と結果を述べることとする。



第 197 図 第 19 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 19 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 197 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	椀	9.1	7.0	3.3	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	体部外面ナデ 横位のヘラ振り 体部内面ヘラナデ	床面	95%
2	土師器	埴	-	(29)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面横位のヘラ振り	覆土中層	10%
3	土師器	小形甕	[12.4]	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	貯蔵穴 覆土中層	5%
4	土師器	甕	-	(6.1)	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ振り 体部内面ナデ	床面 覆土下層	10%
5	土師器	甕	-	(4.6)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ振り	覆土下層	5%

炭化材の分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

- 1 分析方法は、SI 7 の所見において記載しています。
- 2 結果

1 はイネ科草本類、2 はコナラ亜属クスギ節、茅状炭化物、3 はコナラ亜属コナラ節であった。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・イネ科草本類 (Gramineae)

断面は直径4.5mm(葉鞘含む)の円柱状である。中心部は中空。茎の周囲が葉鞘に包まれる。小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。タケ類に比べて繊維細胞が薄いため、草本類と思われる。柔組織中は海綿状の粗い細胞からなり、維管束も大きく繊維細胞も薄い。一方茎の周辺の維管束は小型で、繊維細胞の密度が高く、細胞壁も厚い。このように維管束が組織中に散在し、不斉中心柱をなす。このような葉鞘の構造、茎の太さ、繊維細胞の発達状況からイネ科草本類である。イネやヨシなど水辺に生育するイネ科は、葉鞘内に空気を通すための大きな空隙があるものが多いが、今回の試料ではみられない。また、茎径が太いことから、ススキなどの陸上に生育する大型イネ科草本植物ではないかと思われる。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (Quercus subgen. Quercus sect. Cerris) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものとの複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Quercus subgen. Quercus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高程度のものとの複合放射組織とがある。

- 3 考察

検出される種類をみると、イネ科草本類、コナラ亜属クスギ節とコナラ節である。共に明るい林地を好み、二次林を構成する種類である。萌芽による再生が容易なため、林縁、河川沿い、人家の近くなどに多く、里山林の重要な構成要素である。これらは住居構築材や燃料材等として使われたものと思われるが、本調査地点の周辺に生育していた可能性が高く、入手しやすい木材を利用したと考えられる。伊東隆夫・山田昌久(2012)の出土木製品用材データベースによれば、県内の住居跡から検出された炭化材は古墳時代のものが多いが、コナラ節やクスギ節が多く検出されている。また、茅材とみられる炭化物はイネ科の草本類であり、屋根材等の建築資材として利用されていたものと思われる。

第27号竪穴建物跡 (第198・199図 PL14)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD5b6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号竪穴建物、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m、短軸6.17mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。第7号竪穴建物に掘り込まれているため、壁は高さ3~6cmしか確認できず、直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が削平されている南東コーナー部と南側壁の一部を除いて、壁下を巡っている。

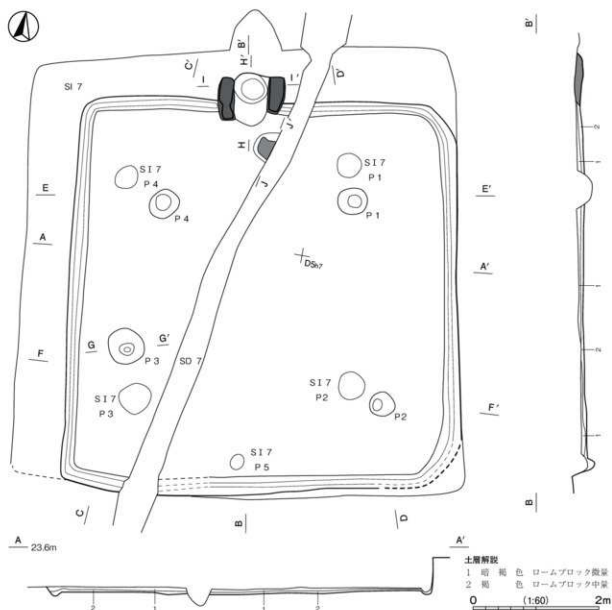
竈 北壁の中央部に付設されている。第7号竪穴建物に掘り込まれているが、掘方の遺存状態からは、焚き口部から煙道部までは30cmで、燃焼部の幅は52cmと推測できる。燃焼部は床面から4cmほど掘りくぼめていと考えられる。堆積状況は不明である。

炉 竈の南側に位置している。第7号溝に掘り込まれているため、長径50cm、短径30cmしか確認できなかった。深さ6cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

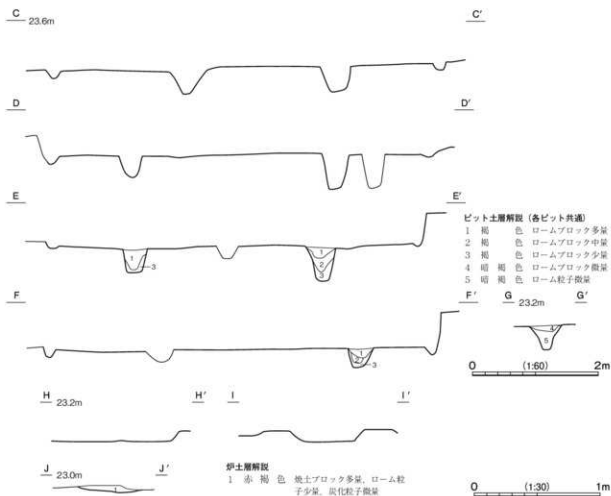
ピット 4か所。P1～P4は深さ34～52cmで、配置から主柱穴である。P1～P4の第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土。第3層は掘方の埋土である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

所見 時期は、重複関係等、第27号竪穴建物の拡張と考えられ、6世紀前葉と考えられる。



第198図 第27号竪穴建物跡実測図(1)



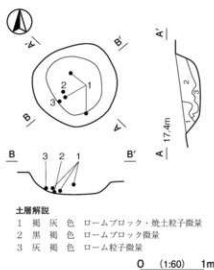
第199図 第27号竪穴建物跡実測図(2)

表8 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	埋高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
								柱穴	出入口	ピット	伊・土層				
1	E 4e9	N-35°-E	[長方形]	[360] × [275]	22-25	粘床 平坦	-	2	-	-	伊2	1人	土師器	5世紀中葉	HG 1→本跡
2	D 3c8	N-12°-E	方形	6.75 × 6.58	4-26	粘床 平坦	北・西 土塼	4	1	5	伊1	1人	土師器、土製品、石製品	5世紀中葉	-
3	E 5b8	N-60°-E	長方形	4.12 × 3.30	12-44	平坦	-	4	-	-	伊2	1人	土師器	5世紀中葉	HG 1→本跡
4	D 4e1	N-35°-E	方形	4.00 × 3.68	18-28	平坦	-	4	1	-	伊2	1人	土師器、須恵器、土製品、石製品	5世紀中葉	SI 6→本跡
5	D 4f0	N-29°-W	方形	5.54 × 5.50	18-52	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	北塼	-	土師器、土製品、石器、酒片	6世紀中葉	SI10、FP90・41 →本跡
6	D 4e5	N-48°-E	長方形	4.70 × 3.90	7-26	-	-	-	-	-	-	-	-	5世紀中葉	本跡→SI 4
7	D 5b6	N-8°-W	方形	7.06 × 6.82	8-58	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	北塼	-	土師器、須恵器、土製品、酒片	6世紀中葉	SE27、SK61→ 本跡→SI 7
16	D 5b2	N-4°-E	方形	5.50 × 5.50	20-28	粘床 平坦	ほぼ 全周	4	1	2	伊1	2人	土師器、磁器、石鏡、酒片	5世紀中葉	F33→本跡
19	D 4b9	N-65°-E	長方形	4.14 × 3.62	18-28	平坦	ほぼ 全周	-	-	-	伊1	1人	土師器	5世紀中葉	FP90→本跡→SP 2
27	D 5b6	N-8°-W	方形	6.20 × 6.17	[3-6]	平坦	-	4	-	-	伊1 北塼	-	-	6世紀中葉	本跡→SI 7・SI 7

(2) 土 坑

第 21 号土坑 (第 200 図)



土層解説

- 1 層 灰色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 層 黒色 ロームブロック微量
- 3 層 灰色 ローム粒子微量

調査年度 平成 30 年度

位置 調査区南部の E 5h2 区、標高 17 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

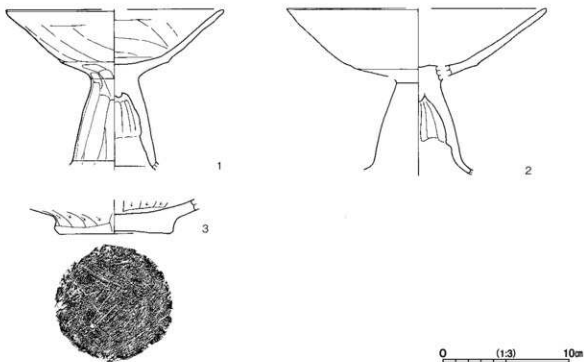
重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.35 m、短径 1.34 m の円形である。底面は皿状であり、壁は高さ 30 cm で緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 8 点 (高坏 7、甕類 1) が出土している。1・3 は底面から出土している。2 は覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



第 200 図 第 21 号土坑・出土遺物実測図

第 21 号土坑出土遺物観察表 (第 200 図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	[17.2]	(128)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	杯足外面斜段のへり取り 内面杯底のハケ目調整ナデ	底面	40%
2	土師器	高坏	[20.5]	(133)	—	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層 覆土中層	40%
3	土師器	甕	—	(27)	8.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面へり取り	底面	10%

第22号土坑 (第201図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区南部のE5h3区、標高16mほどの台地緩斜面部に位置している。

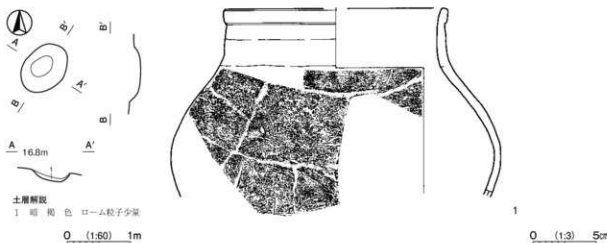
重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.84m、短径0.64mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。底面は皿状で、深さは14cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢、弥生土器片1点(壺)が出土している。1は覆土中から出土している。縄文土器片は、埋め戻し時の混入である。

所見 確認できた部分は土坑の底面付近である。時期は、出土土器から古墳時代初期と考えられる。



第201図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表 (第201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	壺	(172)	(149)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部から下に燃糸文	覆土中	10%, PL36

第44号土坑 (第202図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD4d3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

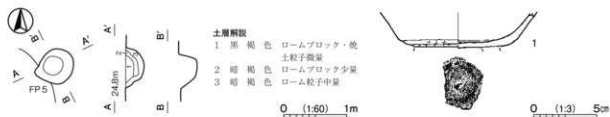
重複関係 第5号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.65m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面は皿状で、壁は高さ29cmで外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片5点(坏4, 高台付坏1)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、周辺の遺構と出土土器から5世紀代と考えられる。



第202図 第44号土坑・出土遺物実測図

第44号土坑出土遺物観察表（第202図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付杯	—	(29)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	外面底部横位の張り	腹土中	40%

表9 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	横面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
21	E 512	—	円形	1.35 × 1.34	30	皿状	縦斜	人為	土師器	HG 1→本跡
22	E 513	N-38°-E	楕円形	0.84 × 0.64	14	皿状	縦斜	人為	縄文土器、弥生土器。	HG 1→本跡
44	D 443	N-58°-E	楕円形	0.65 × 0.54	29	皿状	外傾	人為	土師器	FP 5→本跡

3 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、防御施設としての段切状遺構1か所、土坑2基、溝跡2条を確認した。これらの遺構は、牛久城の外部施設の一部と考えられる。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 段切状遺構

第1号段切状遺構（第203図）

調査年度 平成29年度

位置 調査区南部のF 5b0～F 6c3区、標高10mほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 第1号遺物包含層の南東端を削平するように平坦面を構築している。平坦面上にP 1～P 10が確認されている。

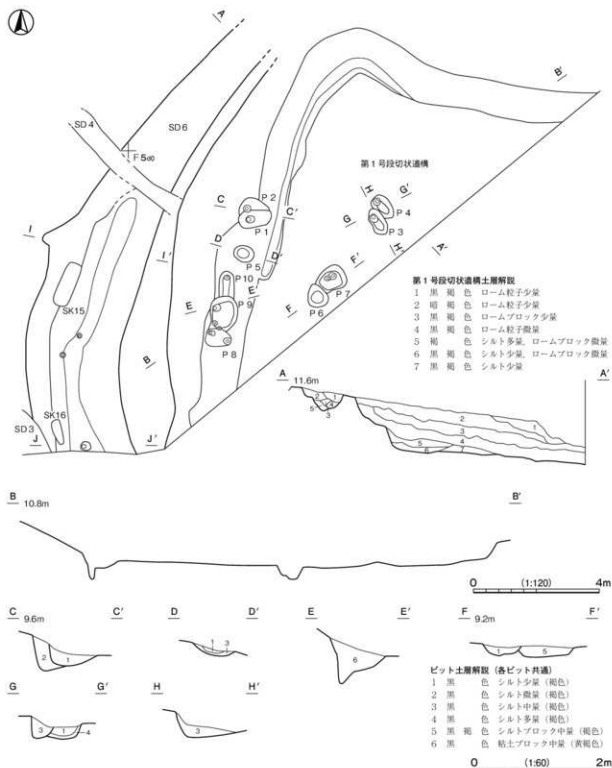
重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

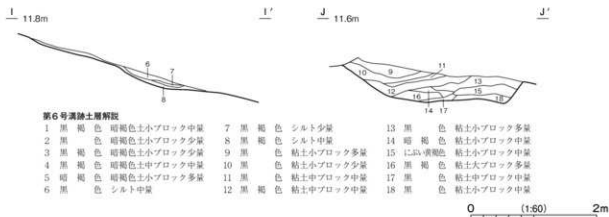
規模と形状 確認された規模は、東西13.7m、南北13.5mである。A-A'土層状況から、確認面から段切り状に深さ約1.68mを掘り込み、その後、緩やかに傾斜し調査区域外に延び、東西9.8m、南北10.2mの平坦面が構築されている。

ピット 10か所。P 1～P 4・P 6・P 7～P 9は深さ14～66cmである。P 2・P 4の組とP 9・P 7の組が第1号包含層を掘り込んでいる。その後、P 1・P 3の組とP 8・P 6の組が、位置をやや南側に移動して同じように掘り込み、調査区域外の谷津方向へ延びている。P 5・P 10は掘り込みが浅く、性格不明である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

所見 時期は、遺構の状況から鎌倉・室町時代と考えられる。第6号溝が本跡の南北軸と平行に構築されており、これらの遺構が防御施設として作られたと考えられる。P5とP10を除くピットは、その規模や配置から橋脚の柱などを据え付けた柱穴の可能性が高い。時期は、16世紀代と考えられる。





第204図 第6号溝跡実測図

(2) 溝跡

第3号溝跡 (第205図・付図)

調査年度 平成29・30年度

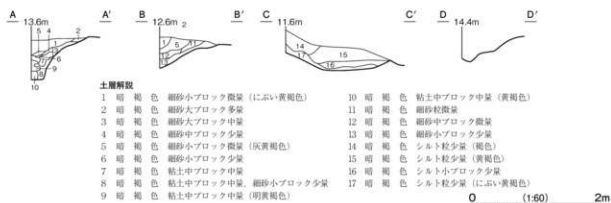
位置 調査区南部のF5b5～F5f9区、標高10mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東端が調査区域外になるため、下幅0.24～0.44m、深さ20～62cm、上幅は0.32～1.48mで、長さは20.96mしか確認できなかった。断面はU字状である。F5b5区からF5f9区へ西側調査区の境界脇を沿うように南東方向(N-128°-E)に直線的に延びている。

覆土 17層に分層できる。粘土ブロックが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

所見 西側の調査区域外には、台地からの斜面を人工的に切って、急な傾斜を形成している様子がうかがえる。それに伴って斜面直下に第3号溝を構築することで、防御施設として用いていたと考えられる。時期は、段切状遺構、第6号溝と同様に防御施設として使用していることから、同じ16世紀代と考えられる。



第205図 第3号溝跡穴実測図

第6号溝跡 (第203・204・206図)

調査年度 平成29年度

位置 調査区南部のF5f9～F5d0区、標高10mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第3・4号溝に掘り込まれている。第15・16号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 遺存している部分が少ないため、下幅0.42～0.92m、深さ16～56cm、上幅は2.40～3.40mで、長さ14.3mである。断面は浅いU字状である。F5e9区から第1号段切状遺構の西側を平行するように北東方向(N-14°-E)にやや曲線的に延びている。ピットが3か所検出されている。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ28～40cmである。性格は不明である。

覆土 18層に分層できる。粘土ブロックが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 陶器片1点(中皿)が出土しているが、牛久城が廃城になった17世紀初頭頃の整地作業時に混入したものである。

所見 段切状遺構の西側を平行するように構築されていることから、第1号段切状遺構と同じような防御施設と推定できる。また、第6号溝が構築された後、さらに第3号溝を構築して防御施設としての機能を維持、強化を図ったことが推定できる。時期は、遺構の状況から16世紀代と考えられる。



第206図 第6号溝跡出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表(第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	中皿	[116]	30	[60]	長石・石英	ロタロ成形 張り出し高台 丸型 鉄絵具	長石釉	瀬戸・美濃	覆土中	20%

表10 鎌倉・室町時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
3	F5e5-F5e9	N-48°-W	直線	(20.96)	0.92-1.86	0.24-0.44	20-62	U字状	外積 磁石	人為	-	SD6→本跡
6	F5e9-F5e0	N-14°-E	やや曲線	(14.32)	2.40-3.40	0.42-0.92	16-56	U字状	磁石	人為	陶器	出1→堀・出3・4 SU3-其と遺物

(3) 土坑

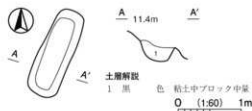
第15号土坑(第207図)

調査年度 平成29年度

位置 調査区南部のF5e9区、標高11mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。第6号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸1.45 m、短軸0.52 mの長方形で、長軸方向はN-23°-Eである。底面は皿状で、壁は高さ22cmで、外傾している。



第207図 第15号土坑実測図

覆土 単一層である。粘土ブロックが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

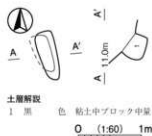
所見 第6号溝内に構築されていることから、同様な防御施設に関わる遺構と推定できるが、詳細は不明である。時期は、16世紀代と考えられる。

第16号土坑 (第208図)

調査年度 平成29年度

位置 調査区南部のF5f9区、標高11 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第6号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。



第208図 第16号土坑実測図

規模と形状 長径0.79 m、短径0.27 mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。底面は平坦で、壁は高さ32cmで、外傾あるいは内彎している。

覆土 単一層である。粘土ブロックが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

所見 第6号溝内に構築されていることから、同様な防御施設に関わる遺構と推定できるが、詳細は不明である。時期は、16世紀代と考えられる。

表11 鎌倉・室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
15	F5e9	N-23°-E	長方形	1.45×0.52	22	皿状	外傾	人為	-	図5-1→土跡SD6と重複
16	F5f9	N-15°-W	楕円形	0.79×0.27	32	皿状	外傾 内彎	人為	-	SD6と重複

4 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、道路跡2か所を確認した。調査区南側斜面部と台地平坦部の中央部で、緩斜面を南北に延びる第1号道路跡と台地を東西に延びる第2号道路跡を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

道路跡

第1号道路跡 (第209・211図・付図 PL22)

調査年度 平成30年度

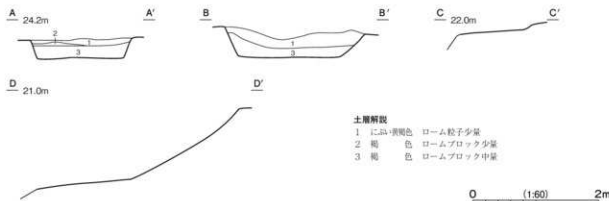
位置 調査区中央部のD3h9～E6i3区、標高24 mの台地傾斜面部に位置している。

規模と形状 調査区中央部台地上のD3h9区から南東方向(N-108°-E)にはほぼ直線的に延びている。北西端、南東端は調査区域外に延びているため、長さは109.44mしか確認できなかった。上幅1.50～4.40m、下幅0.72～1.66mで、深さは30～46cmである。断面は逆台形形で、壁は外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 石製品3点(石剣)、銭貨1点(文久永寶)が出土している。

所見 覆土が踏み固められた形跡が確認できることから、道路跡と考えられる。時期は出土遺物から、江戸時代と考えられる。



第209図 第1号道路跡実測図

第2号道路跡 (第210・212図・付図)

調査年度 平成30年度

位置 調査区中央部のD3a0～D4c0区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 調査区中央部台地上のD3a0から東方向(N-95°-E)にはほぼ直線的に延びている。東西の端は遺存状態が悪いため、長さは約40.0mしか確認できなかった。上幅1.45～1.75m、下幅0.40～0.62mであり、深さは6～14cmである。断面は逆台形形で、壁は緩やかに立ち上がっている。西部で轍状の凹凸が確認できた。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 銭貨1点(文久永寶)が出土している。

所見 覆土が踏み固められた形跡や轍の痕跡が確認できることから、道路跡と考えられる。時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。



第210図 第2号道路跡実測図



第 211 图 第 1 号道路跡出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表(第211図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
1	石罫	(123)	(169)	(217)	(43)	凝灰岩	石層根 型付型。	表土	
2	石罫	357	237	128	172	砂岩	平石 切り出し時の工具跡 記録「享和三〇 四月十日」	表土	
3	石罫	162	406	31.2	37.8	砂岩	基礎石 切り出し時の工具跡	表土	

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
4	文久永寶	273	0.7	0.12	3.49	銅	1863	真文	覆土中	PL37



第212図 第2号道路跡出土遺物実測図

第2号道路跡出土遺物観察表(第212図)

番号	銭種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
1	文久永寶	263	0.7	0.11	2.71	銅	1863	真文	覆土中	PL37

表12 江戸時代道路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
1	D 3b9 ~ E 6a3	N-108°-E	(14)直線	(109.44)	130~(4.8)	072~1.66	30~82	逆台形	内縁直線	人為	石製品、銭貨(文久永寶)
2	D 3a0 ~ D 4c0	N-95°-E	直線	(40.08)	1.65~1.75	0.40~0.62	60~140	逆台形	傾斜	人為	銭貨(文久永寶)

5 時期不明の遺構と遺物

今回の調査では、時期が明確にできなかった炉跡1基、土坑15基、溝跡5条、ピット群2か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 炉跡

第35号炉跡(第213図)

調査年度 平成29年度

位置 調査区南部のE5j0区、標高13mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.52m、短径0.44mの楕円形で、長径方向がN-38°-Eの地床炉である。壁は高さ6cmで、緩やかに立ち上がっている。

燃焼部 長径0.24m、短径0.22mの不整楕円形である。

覆土 2層に分層できる。焼土ブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第3層は、被熱を受けた地山である。



土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中層
- 2 黒褐色 シルト中層、焼土粒子散在
- 3 暗褐色 地山

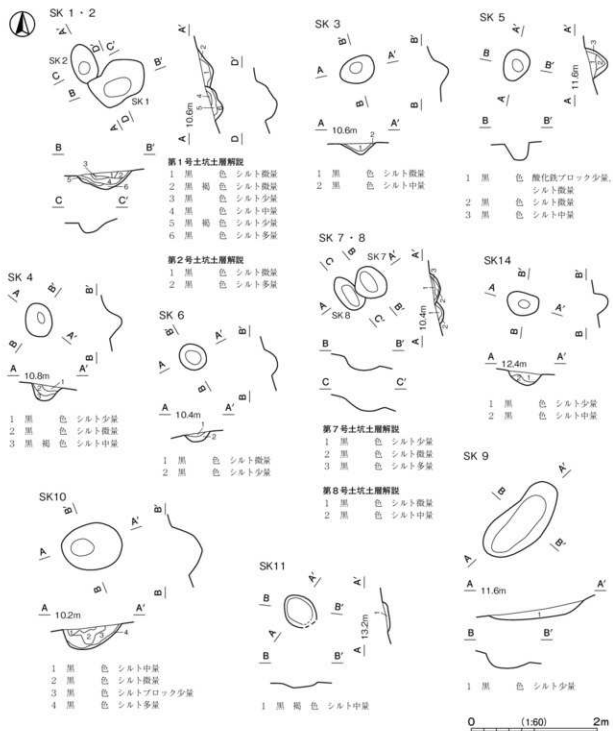
0 (1:60) 1m

第213図 第35号炉跡実測図

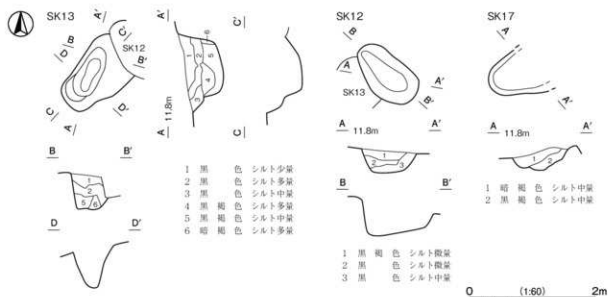
所見 南側の第7・10～13号土坑からは、少量の鉄滓が出土しており関連が考えられる。時期は、周辺遺構との関連から、鎌倉・室町時代以降と考えられるが、詳細は不明である。

(2) 土坑

今回の調査で、時期や性格が不明な土坑15基を確認した。実測図(第214・215図)及び一覧表を記載する。



第214図 時期不明の土坑実測図(1)



第215図 時期不明の土坑実測図(2)

表13 時期不明の土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規		底部	傾	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	F 6b2	N - 55° - E	不整形円形	0.89 × 0.61	25	皿状	外傾 縦斜	人為	-	SK 2, HG 1 →
2	F 6b2	N - 22° - W	[精円形]	(0.60) × 0.38	18	皿状	外傾 縦斜	人為	-	HG 1 → 本跡 → SK 1
3	F 6b2	N - 67° - E	精円形	0.56 × 0.42	22	皿状	外傾 縦斜	自然	土師器	HG 1 → 本跡
4	F 6b1	N - 4° - W	精円形	0.54 × 0.42	23	皿状	外傾 縦斜	自然	-	HG 1 → 本跡
5	F 6a2	N - 20° - E	精円形	0.52 × 0.41	26	皿状	外傾	人為	縄文土器	HG 1 → 本跡
6	F 6c2	N - 51° - W	精円形	0.46 × 0.40	15	皿状	縦斜	自然	縄文土器	HG 1 → 本跡
7	F 6c2	N - 39° - W	精円形	0.55 × 0.49	16	皿状	外傾 縦斜	自然	鉄滓	SK 8, HG 1 → 本跡
8	F 6c2	N - 41° - W	精円形	0.60 × 0.31	13	皿状	縦斜	人為	縄文土器	HG 1 → 本跡 → SK 7
9	F 6a1	N - 45° - E	精円形	1.52 × 0.65	30	平坦	縦斜	自然	縄文土器	HG 1 → 本跡
10	F 6c2	N - 80° - E	精円形	0.96 × 0.73	34	皿状	外傾 縦斜	人為	縄文土器, 鉄滓	HG 1 → 本跡
11	E 5β	N - 13° - W	精円形	0.54 × 0.48	4	平坦	縦斜	人為	鉄滓	HG 1 → 本跡
12	F 5a0	N - 45° - W	精円形	1.15 × 0.65	55	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	土師器, 鉄滓	SK 13, HG 1 → 本跡
13	F 5a0	N - 34° - E	[不整形円形]	(1.24) × 0.80	60	有段	外傾 縦斜	人為	縄文土器, 鉄滓	HG 1 → 本跡 → SK 12
14	F 5a9	N - 76° - W	精円形	0.50 × 0.36	20	皿状	外傾 縦斜	人為	土師器	HG 1 → 本跡
17	F 5b6	-	-	0.78 × (0.68)	32	皿状	外傾 内傾	人為	-	HG 1 → 本跡

(3) 溝跡

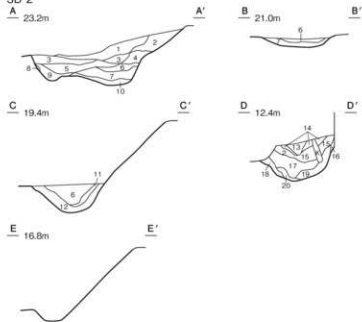
今回の調査で、時期や性格が不明な溝跡5条を確認した。実測図(第214・215図・付図)及び一覽表を記載する。

SD 1

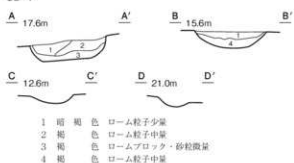


第216図 時期不明の溝跡実測図(1)

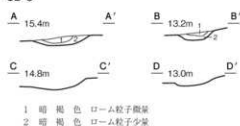
SD 2



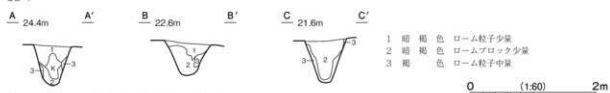
SD 4



SD 5



SD 7



第 217 図 時期不明の溝跡実測図 (2)

表 14 時期不明の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	堀 掘				断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
1	E 6j2 - F 6j4	N = 23° - W N = 56° - W	直線	[5.36]	0.62 - 1.00	0.24 - 0.56	18 - 22	逆台形	硬砂	人為	縄文土器	SD 2, HG 1 → 本跡
2	D 4j4 - F 6j4	N = 74° - W N = 32° - W	曲線	(94.46)	0.88 - 1.92	0.64 - 1.60	48 - 69	U 字状	外堀 硬砂	人為	縄文土器、土師器、陶器、 磁器、石器、鉄器	HG 1 → 本跡 → SD 1, SF 1
4	E 5j2 - F 6j1	N = 8° - W N = 53° - W	直線	[42.62]	0.98 - 1.16	1.80 - 4.00	8 - 60	乱心状	硬砂	人為	縄文土器、土師器	第 1 号段勾状遺構 SD 6, HG 1 → 本跡
5	E 5j6 - E 6j1	N = 125° - E N = 137° - E	直線	24.94	0.46 - 0.94	0.16 - 0.54	12 - 18	直状	硬砂	自然	縄文土器、土師器	SK36, HG 1 → 本跡
7	D 5j7 - E 5j6	N = 10° - E	直線	(30.46)	0.40 - 0.70	0.10 - 0.16	50 - 63	U 字状	外堀	人為	縄文土器、土師器、陶器	SI 7・27, FP92 → 本跡

(4) ビット群

今回の調査で、時期や性格が不明なビット群2か所を確認した。全体の配置図（付図）を掲載し、規模は計測表にて記載する。

第1号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 4 d5	円形	32	31	62	4	D 4 d8	円形	30	28	25	7	D 4 d8	楕円形	55	29	43
2	D 4 d5	円形	32	32	23	5	D 4 d8	楕円形	32	27	33	8	D 4 e7	楕円形	36	30	31
3	D 4 d8	楕円形	30	22	45	6	D 4 d9	楕円形	40	30	20						

第2号ビット群ビット計測表

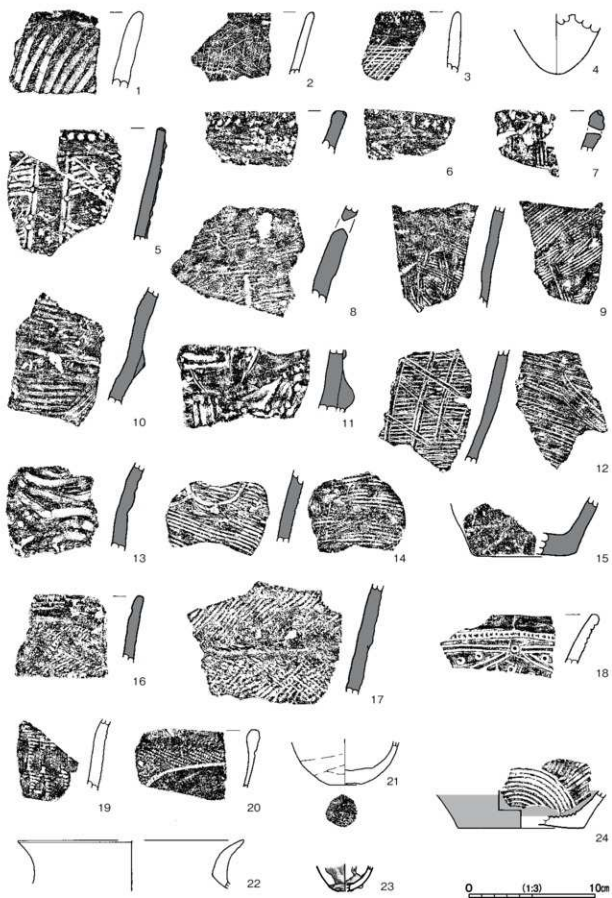
番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 4 f1	楕円形	55	46	32	4	D 3 f0	円形	34	33	29	7	D 4 g2	楕円形	47	42	46
2	D 4 f2	円形	38	37	39	5	D 4 f1	円形	36	33	55	8	D 4 g1	楕円形	33	29	42
3	D 4 f2	円形	35	33	25	6	D 4 g1	円形	35	33	23	9	D 3 g0	円形	35	35	53

(5) 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない遺物については、実測図（第218・219図）及び観測表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表（第218・219図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	備考	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	斜位の太沈線を密に施す		表土	5% PL38 三ツ式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英	明褐色	普通	異方向の集合沈線		表土	5% PL38 三ツ式
3	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・織	にぶい褐色	普通	内側V状口唇 頂部に刻み 横位平行沈線等に斜位の集合沈線を施す		表土	5% PL38 三ツ式
4	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	外面ナゲ調整 尖底土器		表土	5% 三ツ式
5	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇上に丸棒状の工具による刻み 側隆起線による区画内に沈線を交錯 側隆起線の上に刻み		表土	5% PL38 赤山下層式
6	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子・織	にぶい赤褐色	普通	口唇の外・内面に刻み		表土	5% PL38 赤山下層式
7	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子・織	赤褐色	普通	口唇上に棒状の工具による刻み 口縁部に外面から施す円孔文		表土	5% 赤山下層式
8	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面貝殻条痕文 楕円形の補修孔1か所		表土	5% PL38 赤山下層式
9	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面貝殻条痕文		表土	5% PL38 赤山下層式
10	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・赤色粒子・織	橙	普通	横位隆帯の上に刻み 異方向の貝殻条痕文 内面網目		表土	5% PL38 赤山下層式
11	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・赤色粒子・織	赤褐色	普通	赤下・横位隆帯の上に刻み 側隆起線に沿って押引き・割突		表土	5% PL38 赤山下層式
12	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子・織	にぶい橙	普通	半截竹管による斜格子目文		表土	5% PL38 赤山下層式
13	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	指摺による弧状の凹線 内面網目		表土	5% PL38 赤山下層式
14	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子・織	灰褐色	普通	弧状の沈線文 外・内面貝殻条痕文		表土	5% PL38 赤山下層式
15	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	(8.0)	長石・石英	橙	普通	内面貝殻条痕文		表土	5% 赤山下層式
16	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	無筋縄文R（横）		表土	5% PL38 赤山下層式
17	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英	灰褐色	普通	上部無筋縄文L（横） 下部半筋縄文LRを縦横に施す		表土	5% PL38 赤山下層式
18	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	半截竹管による木管文の内外に円形竹管文		表土	5% PL38 赤山下層式
19	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	貝殻条痕 横位の波状貝殻文		表土	5% PL38 赤山下層式
20	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁上に半筋縄文R（横） 口縁部に磨消し		表土	5% PL38 後部焼成



第 218 图 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 219 圖 遺構外出土遺物実測図 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師器	埴	-	(3.4)	25	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ	表土	10%
22	土師器	甕	[17.8]	(3.8)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部外・内面横位のナデ	表土	5%
23	知恵器	取柄	-	(2.0)	-	長石・石英	褐色	普通	刷付着	表土	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
24	陶器	圓鉢	-	(3.0)	[10.0]	長石 暗赤褐	外・内面輪軸 6条の横目。	鉄軸	瀬戸・美濃	表土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
25	瓦葺子	2.1	1.8	0.8	2.12	長石・雲母	橙	役者。	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
26	石月	(5.3)	2.3	0.9	(9.90)	黒曜石	表面風化	表土	高屋山産
27	鎌	3.1	1.9	0.6	(2.61)	黒曜石	無茶蘇	表土	
28	磨石	5.2	4.6	4.5	177.06	石英斑岩	表面磨り面 裏面に火熱痕	表土	
29	凹石	15.3	10.7	6.0	(845)	安山岩	表面中央部から縁にかけて凹み痕(4か所) 裏面中央部に凹み痕(2か所)	表土	
30	紙石	10.3	2.5	2.4	74.14	砂岩	紙面4面	表土	
31	紙石	(8.7)	4.3	1.4	(80.03)	凝灰岩	紙面2面	表土	
32	紙石	6.1	(6.6)	5.2	(284.22)	砂岩	紙面2面 溝状の研磨痕	SDI覆土中	
33	湖片	3.9	2.6	1.2	8.19	チャート	縦長湖片	表土	
34	湖片	3.0	1.3	0.6	(2.52)	チャート	縦長湖片 上・下部に打点	表土	
35	湖片	3.4	3.4	1.4	12.19	チャート	縦長湖片	表土	
36	湖片	4.0	2.0	1.2	9.18	チャート	縦長湖片	表土	
37	湖片	5.7	2.1	1.1	8.46	黒曜石	縦長湖片	表土	高屋山産
38	湖片	3.5	1.3	0.6	2.08	黒曜石	縦長湖片	表土	
39	湖片	4.0	3.6	1.5	17.21	メノウ	二次調整の縦長湖片	表土	
40	湖片	2.0	4.8	0.7	4.93	安山岩	横長湖片	表土	

第4節 総括

1 はじめに

今回の調査で、山王前遺跡は縄文時代、古墳時代、鎌倉・室町時代、江戸時代にかけての複合遺跡であることが明らかとなった。特に、縄文時代早期の竪穴建物跡と炉穴跡が、これまでに県内においてセットで確認できた調査例も少なく、当該期の様相を知る上で貴重な資料と言える。ここでは各時代の様相について調査成果を概観し、総括としたい。

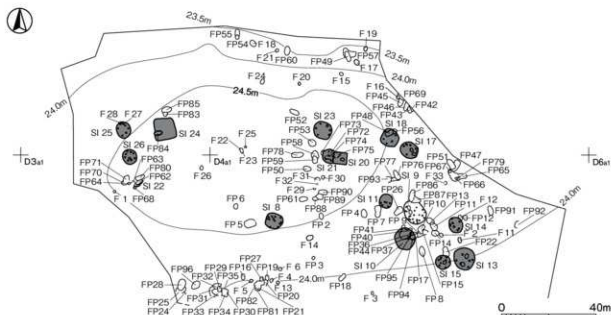
2 各時代の様相

(1) 縄文時代

当該期の遺構は、竪穴建物跡16棟、炉穴129基(燃焼部のみの炉跡34基を含む)、陥し穴1基、土坑102基、遺物包含層2か所を確認した。竪穴建物跡や炉穴跡などの主な遺構は、調査区中央部の台地平坦部及び緩斜面部に位置しており、その多くが標高24～24.5mの間で構築されている。これらの遺構から出土する遺物は、貝殻条痕文系の茅山下層式の深鉢片が大部分を占めているが、竪穴建物跡と炉穴跡が、同時期に存在した早期後葉と前期前葉の集落跡であることが判明した。また、三戸式、田戸下層式、明神裏Ⅲ式、田戸上層式から安行式までの土器片が確認できたことから、この台地上は、早期中葉から後期後葉までの生活の痕跡が認められる。

① 早期の竪穴建物跡について

縄文時代早期の竪穴建物跡は15棟で、前期前半の第9号竪穴建物跡以外が該当する。これらは調査区中央部の平坦部から南部の緩斜面部に配置されている。形状は、円形4棟、楕円形4棟、円形あるいは楕円形と推定されるもの2棟、隅丸方形2棟、不整形円形1棟、不明1棟であり、多様な様相を示している。古段階の茅山下層式土器が多く出土した第18・21号竪穴建物跡は、それぞれの規模は径3.74mと長径3.15m、短径2.65mで、炉を有していない。一方、新段階の茅山下層式土器が多く出土した第

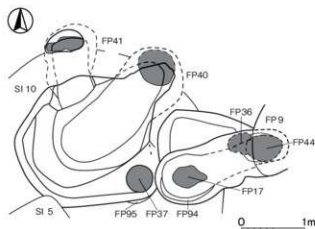


縄文時代早期の竪穴建物・炉穴跡配置図

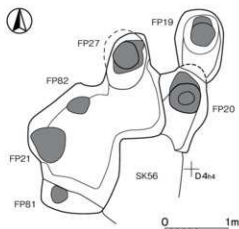
13・17号竪穴建物跡は、それぞれの規模は径4.58mと長径3.85m、短径3.27mの円形又は楕円形で炬を有している。また、第20号竪穴建物跡と第21号竪穴建物跡は重複しており、前者が新しく、新段階の茅山下層式土器が多い。このことから、古段階の茅山下層式土器を伴う竪穴建物跡は炬を有しない傾向が見られ、新段階の茅山下層式土器を伴う竪穴建物跡は炬を有する傾向が見られる。

② 炉穴について

当遺跡の炉穴は、単独のものは少なく、ほぼ同じ場所で作り替えられており、これらの炉穴群はその順番が想定できる。時期は茅山下層式の土器片を伴っていることから、早期後葉のものと考えられる。また、これらの立地を見てみると、竪穴建物の周辺あるいは南部の緩斜面部に構築されている。炉の広がりとその形状は様々であるが、第17・36・37・40・41・44・94・95号炉穴のままとり、第95号炉穴を起点に北側から東側へ曲線状に展開していることがわかる。第19～21・27・81・82号炉穴のままとり、第81号炉穴が作られた後に、北側へ曲線的に移動するように掘り込まれている。燃焼部は北寄りに位置しており、足場と思われるスペースはほぼ同じ場所で新しい炉穴を作り替え、効率的に行っている可能性が見られる。



第17・36・37・40・41・44・94・95号炉穴



第19～21・27・81・82号炉穴

また、第19～21・27・81・82号炉穴や第29～35号炉穴は、調査区中央部の南側に位置しており、燃焼部が北寄りに構築されているものが多い。一方、第42・43・46号炉穴や、第55号炉穴、第60号炉穴は、調査区中央部の北側に位置しており、燃焼部が南寄りに構築されているものが多いことが分かった。このことについて小林謙一氏は、「炉穴の重複の形態は、炉穴が屋外に露出しているため風向きの変化による作り替えが考えられ、その日の風向きが変化する間の時期には、その方向ごとに燃焼部が必要になる。また、遺跡を占有した集団の適応形態によるもの、煙道部の崩壊や人為埋土によって新たに構築するため」¹⁾と述べており、当遺跡の炉穴も、同様なことが考えられる。数基の炉穴がままとりをなすものは、千葉県柏市小山西遺跡A区²⁾や袖ヶ浦市の寒沢遺跡³⁾などでも確認されており、足場を共有する点で共通している。

③ 早期後葉（茅山下層式）の土器について

当遺跡の竪穴建物跡や炉穴跡などの遺構や遺物包含層からは、主に茅山下層式の土器片が多く出土している。その特徴としては、口唇部は内削ぎ状で、刻みを施している。器面外・内面にはアカガイなどの二枚貝による条痕が見られるが、外面に凹線や段、隆帯のある土器片も確認している。底部片は平底で、胎土には繊維を含んでいる。当該期の土器の特徴について、野内秀明氏は、「成立期の茅山下層式は、

縄ガ島台式後半の有段部の屈曲の強まりといった器形上の特徴、文様帯の胴上半部の凝縮化、…（中略）…同時に凹線文という新たな文様要素が採用された段階である。」⁴¹と記している。また、茅山上層式に近いものについては、「…（中略）…凹線文による文様描写の手抜き手法として貝殻条痕文が採用されたもので、次段階の条痕文系と無文系土器の増加へ引き継がれる要素と考えられる。」「第4段階は前段階の器形上の屈曲の弱まりとⅡ帯の無文化など…」⁵¹とも述べており、茅山下層式でも新しい段階では、貝殻条痕文のみの文様や無文化が増加すると指摘している。このことから、前者を古段階の茅山下層式、後者を新段階の茅山下層式とし、以下述べていく。当遺跡の茅山下層式土器は、古段階から新段階のものと考えられる。

茅山下層式（古段階）



・凹線と隆帯

凹線は指頭によって施文されたもので、縄ヶ島台式の無文帯がモチーフになっており、茅山下層式土器でも古段階のものと考えられる。(FP 4-1)



・凹線と刺突

連続する刺突は竹管によるもので、縄ヶ島台式の刺突充填文の名残りと考えられ、茅山下層式土器でも古段階のものと考えられる。(SI18-6)

茅山下層式（新段階）



・貝殻条痕文

当遺跡でもっとも多く出土した文様である。写真は斜方向の文様であるが、縦・横位、格子目などもある。内面にも同様な貝殻条痕文が見られ、茅山下層式土器でも新段階のものと考えられる。(FP40-1)

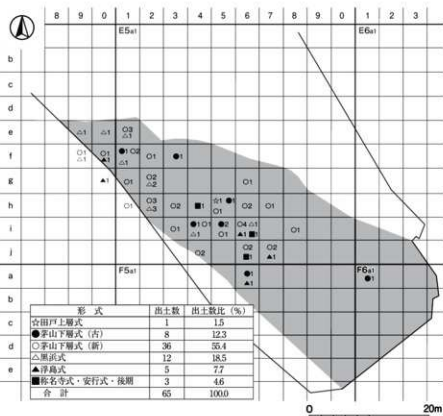


・無文

口唇部は内削ぎで、外面無文の土器片であり、ナア調整を施したような器面である。茅山下層式土器でも新段階のものと考えられる。(FP48-1)

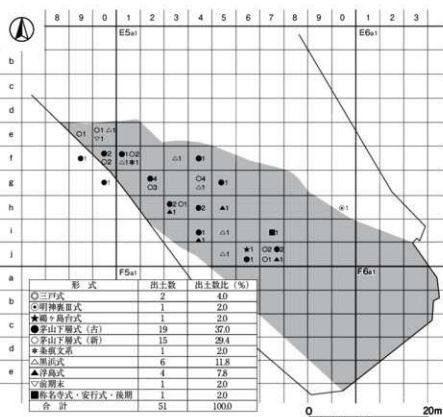
④ 第1号遺物包含層から出土した縄文土器（口縁部片）の出土状況について

調査区南部の緩斜面部に広がる第1号遺物包含層から出土した土器片の総数は、2769点で茅山下層式、黒浜式、浮島式の土器片など、おおむね早期後葉から前期前葉が大半である。また、層位ごとに出土する土器型式や点数に特徴が見られた。以下、検出した口縁部片について、第1号遺物包含層の層位ごとに土器形式の分布状況と出土比を述べることにする。また、茅山下層式の土器については、隆帯や凹線、刺突などが明瞭に施されたものを古段階の茅山下層式土器として、貝殻条痕文のみの文様や無文・浅い文様といった新段階の茅山下層式として、分布状況を分けた。



第1層の出土土器と出土数分布表

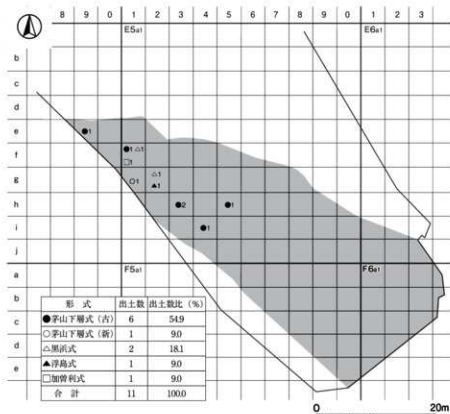
第1層の分布状況では、新段階の茅山下層式の土器片や黒浜式、浮島式などの前期の土器片が目立ち、後期の土器片が微量混じることが分かる。また、標高16.5m付近と13.0m以下を除いては、南北どちら側でも土器片が出土しており、偏りなく投棄されていたか、後世の整地により均されたことが考えられる。



第2層の出土土器と出土数分布表

第2層の分布状況では、三戸式、明神裏Ⅲ式、嶋ヶ島台式の土器片の出現や、押しき、隆帯などの文様をもつ古段階の茅山下層式土器片が増え、新段階の茅山下層式土器片や前期の土器片は減少している。また、第1層と比べ、遺物包含層の北東寄りに確認される遺物の数がやや減少していることがわかる。土器片の投棄や流入が、調査区中央部の緩斜面部や西側の台地上からなされたものと想定できる。

第3層の分布状況では、全体の出土点数が少量である。古段階の茅山下層式土器片が半分を占め、新段階の茅山下層式土器片や前期の土器片は僅かとなっている。また、これまでの層位と比べ、遺物包含層の上部西寄りに多く出土していることから、かなり以前より南側の緩斜面部や西側の台地上から、土器の投棄や流入が起こっていたと考えられる。また、茅山下層式土器で古段階・新段階に分けたことを説明し得る結果となった。



第3層の出土土器と出土数分布表

(2) 古墳時代

当該期の遺構は、竪穴建物跡10棟、土坑3基を確認した。

竪穴建物跡は、調査区南部の第1号遺物包含層上や中央部の台地平坦部に散在している。出土土器からⅠ期からⅢ期に分けられる。以下、それぞれの時期ごとの特徴を記述する。

Ⅰ期は、第2・6号竪穴建物跡の2棟である。調査区中央部に位置し、第2号竪穴建物跡は地床炉で、中央部からやや北寄りに位置している。柱穴は主柱穴が4か所、補助柱穴3か所、出入り口施設のピットが南部に配置されている。不明なピットが中央からやや北寄りと南側に配置されている。また、南東コーナー部には、楕円形の貯蔵穴が配置されている。第6号竪穴建物跡は、第4号竪穴建物に掘り込まれていたため、詳細は不明である。土器は脚部がエンタンス状の膨らみをもつ高坏や口縁部が外反する椀が出土している。

Ⅱ期は、第1・3・4・16・19号竪穴建物跡の5棟で、これらは調査区南部の緩斜面部と台地平坦部に位置し、形状は第1・3・4・19号が長軸約4m、短軸約3mの方形・長方形である。第16号竪穴建物跡は、一辺5.5mの方形である。第1号竪穴建物跡は、地床炉が北部東寄りと中央部東寄りの2か所にあり、柱穴は主柱穴の2か所、北コーナー部には、楕円形の貯蔵穴が配置されている。第3号竪穴建物跡は、地床炉が中央部と北西寄りの2か所にあり、柱穴は主柱穴が4か所、楕円形の貯蔵穴が東コーナー部に配置されている。第4号竪穴建物跡は、地床炉が中央部西寄りと北寄りの2か所にあり、柱穴は主柱穴が4か所、出入り口施設のピットが東壁付近に、隅丸方形の貯蔵穴が南コーナー部に配置されている。第16号竪穴建物跡は、地床炉が中央部北寄りに位置し、柱穴は主柱穴が4か所と性格不明の柱穴が2か所、出入り口施設のピットが南壁付近に配置され、楕円形の貯蔵穴が北東コーナー部に、隅丸方形の貯蔵穴が南東コーナー部にそれぞれ配置されている。第19号竪穴建物跡は、地床炉が中央部北西寄りに位置し、楕

円形の貯蔵穴が南コーナ部に配置されている。土器は、前段階よりやや短脚化し、裾部は坏部に比べて広がりが高くなった高坏などが出土している。

Ⅲ期は、第5・7・27号竪穴建物跡の3棟である。調査区中央部の台地平坦部に位置し、規模は長軸が約5.5～7mの方形である。第5号竪穴建物跡は、竈が北西壁の中央部に付設され、柱穴は主柱穴が4か所、出入り口施設のピットが南東部に配置されている。第7号竪穴建物跡は、竈が北壁の中央部に付設され、柱穴は主柱穴が4か所、出入り口施設のピットが南壁付近に配置されている。第27号竪穴建物跡は、竈が北壁の中央部に付設され、地床炉は竈の南側に配置されている。柱穴は主柱穴が4か所である。土器は、常総型甕の祖形で胴部最大径が上位にあり、やや長胴気味のものなどが出土している。以上のことから、Ⅰ期を5世紀前葉、Ⅱ期を5世紀中葉、Ⅲ期を6世紀の時期にそれぞれ当てはめることができる⁶⁾。

(3) 鎌倉・室町時代

当該期の遺構は、段切状遺構1か所、土坑2基、溝跡2条を確認した。

当時代は、牛久城主の岡見氏と下妻多賀谷氏との激しい抗争があった時代である。今回の調査で、確認した遺構は、第1号段切状遺構、第15・16号土坑、第3・6号溝跡で、牛久城の外郭の防衛施設と考えられる。初めに第1号段切状遺構を構築して、切岸の役割をもつような人工的な急斜面と、南西に延びる橋脚を設けると同時に第3・6号溝を構築し、この区域の防衛機能の維持・強化を図っていたことが想像される。第15・16号土坑の性格や詳細は不明である。牛久城は、元和9年(1623年)の廃城になり、これらの遺構も役目を失ったと考えられる。

(4) 江戸時代

当該期の遺構は、道路跡2条を確認した。

第1・2号道路跡は、調査区南部と中央部にそれぞれ確認され、両遺構からは文久永寶の銭貨が出土している。また、第1号道路跡脇からは、「享和三〇 四月吉日」と記録された石祠が出土しており、19世紀初頭のものである。

3 おわりに

今回の調査によって、縄文時代早期の竪穴建物跡のほか、多数の炉穴・炉跡を確認することができた。特に炉穴は数基が重複して、まとまりを形成しているものを多数確認した。これらの遺構からは、貝殻文系系の茅山下層式土器が多量に出土していることから、竪穴建物と炉穴が同時期に存在したことが判明し、縄文早期の様相を知る貴重な調査成果となった。管見する限り県内における縄文時代早期の竪穴建物跡と炉穴跡がセットで存在している類型が極めて少ないことから、今後の調査事例の増加とともに、新たな情報の蓄積を期待したい。

註

- 1) 小林謙一「縄文早期後葉の南関東における居住活動」『縄文時代』第2号 縄文時代文化研究会 1991年5月
- 2) 小林清隆 城田義友「柏北東地区埋蔵文化財発掘調査報告書12」千葉県教育振興財団調査報告第770集 平成29年11月
- 3) 田中大介 高野浩之「寒沢遺跡(7)寒沢遺跡(8)神納地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査」拙ヶ浦市教育委員会 平成26年1月
- 4) 野内秀明「委文土器群後半期の諸段階 -茅山下層式・茅山上層式土器とその周辺の土器群-」考古論叢神奈川第9集 平成13年2月
- 5) 註4文献に同じ
- 6) a) 櫻村宣行「和泉式土器編年考 -茨城県を中心として-」研究ノート5号 茨城県教育財団 1996年6月
b) 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」研究ノート2号 茨城県教育財団 1993年6月

写 真 図 版

小 馬 様 台 遺 跡
山 王 前 遺 跡



平成29年度 小馬様台遺跡調査区遠景（北方向から）



平成30年度 小馬様台遺跡調査区全景（鉛直）



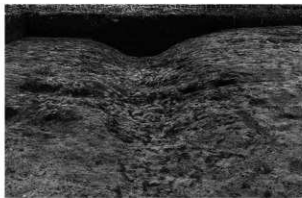
第1号墳



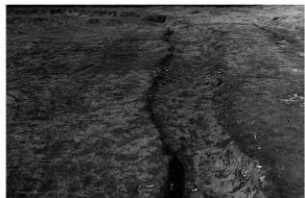
第1号墳遺物出土状況



第1号墳石室掘方



第1号道路跡



第2・3号溝跡



第1号墳,第1号道路跡,遺構外出土遺物

PL4



山王前遺跡調査区遠景（北方向から）



山王前遺跡調査区全景（鉛直）

PL5

第8号豎穴建物跡



第9号豎穴建物跡



第10号豎穴建物跡



PL6



第11号竖穴建物跡



第13号竖穴建物跡



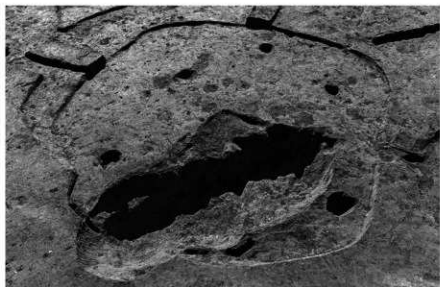
第14号竖穴建物跡



第15号竖穴建物跡



第17号竖穴建物跡



第18号竖穴建物跡

PL8



第20号竖穴建物跡



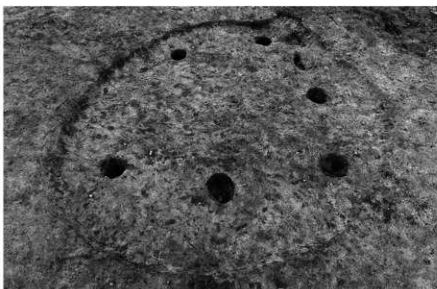
第21号竖穴建物跡



第23号竖穴建物跡



第24号竖穴建物跡



第25号竖穴建物跡



第26号竖穴建物跡

PL10



第1号竖穴建物跡



第2号竖穴建物跡

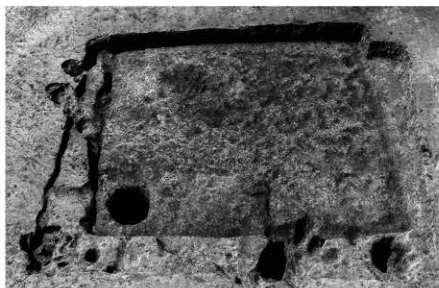


第3号竖穴建物跡

第4号竪穴建物跡
遺物出土状況



第4・6号竪穴建物跡



第16号竪穴建物跡
貯蔵穴遺物出土状況



PL12



第16号竖穴建物跡



第19号竖穴建物跡
遺物出土状況



第19号竖穴建物跡

PL13

第5号豎穴建物跡
竈土層堆積狀況



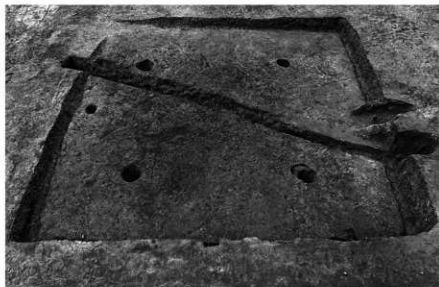
第5号豎穴建物跡



第7号豎穴建物跡
遺物出土狀況



PL14



第7号竖穴建物跡



第27号竖穴建物跡



第9・10号炉穴